

善君に、三女ムラは同鈴木七資
孫良資君に嫁し、三男寅吉君は
妻マサ及子と共に、四男文吉君
は妻と共に、弟文次郎君も亦妻
イク及子女と共に各分家したり
〔現住〕長岡市神田一ノ町

田村頼太郎君

實業家

君は兵庫縣の人にして田村伊
兵衛君の長男なり、明治八年十
月を以て生る、曩に大和興業株
式會社、阿瀬川水力電氣株式會
社各取締役たりしが現に田村銀
行代表、日本羽二重、山陽醬油
團野商店、神戸東山遊園地、山
陽炭礦石灰株式會社取締役、
阪神石材株式會社監査役たり、
家族は令聞くに子長男利之君、
長女利子、二女周子、三女梯子
養從弟茂君あり、叔母みねは兵
庫縣人白瀧鐵太郎方に入家し、
叔父勤兵衛君は其妻うめと共に
子女を伴ひ分家せり

〔現住〕兵庫縣朝來郡生野町
〔電話〕一〇

田村安兵衛君

實業家

君は神奈川縣の人にして田村
安兵衛君の五男なり、文久三年
七月を以て生れ、前名を照之助
と稱せり、吳服商を營み關東銀
行取締役、藤澤倉庫株式會社監
査役たり、家族は令聞うた子長
男幸吉君同妻アサ子、三男常三
郎君、孫ヒロ子同道也君あり、
兄安衛君は妻キンと共に分家し
五男秀君は分家兄安衛君に、七
男勝君は神奈川縣人兼子定吉君
の養子となり、長女チヨ子は東
京府人鈴木安太郎君に嫁せり
〔現住〕神奈川縣高座郡藤澤町

田内三吉君

從三位勳二等陸軍少將

澄宮御養育掛長 閣院宮附
別當兼宮中顧問官 式部官

君は舊高知藩士田内銘吾君の
次男にして分家たり、安政三年
二月を以て生れ、夙に陸軍に志
し陸軍士官學校に學び明治十二

年工兵少尉に任じ隊付一ヶ年の
後參謀本部に入り陸地測量部課
員、海防局員となり爾來臨時砲
臺建築部事務官、工兵會議事務
官、同審査官同議員、砲工學校
教官等の職を奉じ、此間官命を
帯びて印度に航し後又歐洲各國
に官遊せり、明治三十一年東宮
武官となり累進して陸軍少將に



陞り同時に豫備役に入り宮中顧
問官兼東宮侍從となり又侍從と
なり後轉じて閣院宮附別當に任
じ同四年現職のまゝを以て澄宮
崇仁親王殿下の御養育掛長に榮
任し、現に澄宮御養育掛長、閣
院宮附別當兼宮中顧問官、式部
官の職にあり、君資性恪謹にし
て出でては國家の干城となり
入りては雲上の測近に奉仕す以

高橋是清君

從三位勳一等農商務大臣

君は舊仙臺藩士故高橋是忠君
の長男にして、安政元年七月二
十七日を以て生る、君實は舊幕
臣川村某の子にして乳兒の時當
家の養ふ所となり仍て姓とす慶
應年間藩命を奉じ横濱に出て英
學を修め米國に留學せしも維新

の騷擾に際し學資の給與を絶た
れ備さに苦辛を嘗めたるは世人
の知る處なり歸朝後開成學校に
入り後ち大學小教授に任じ尋で
文部省十等出仕となる爾來大阪
英語學校長農商務省調査課長東
京農林學校長等に歴任、明治二
十三年祕露銀山事件に全權委員
となり同地に航し折衝頗る努む
同二十五年日本銀行に入り建築
事務主任となり漸次昇進して同
行副總裁横濱正金銀行頭取を経
て日本銀行總裁に推さる大正二
年山本内閣に入り大藏大臣に親
任せらる原内閣の時再び藏相に
重任す宰相原君の横死後總理大
臣に任じ立憲政友會總裁に推さ
る先是日露の役に財務官として
歐米諸國に差遣せられ又平和克
復後外續處分に功有り男爵を授
けられ大正九年日獨戰役の功
により子爵に陞され次いで貴族
院議員に勅任せらる同十三年の
總選舉に方り分家して一平民と
なり盛岡市より代議士に當選加
藤内閣に列し農商務大臣に任せ

らる令聞しな子は慶應元年九月
の出生にかゝり鹿兒島縣人原田
金左衛門君の長女たり長男是賢
君は明治十年三月を以て生れ後
嗣にして現に子爵たり、二男是
福君は同十四年六月出生、五男
是孝君は同二十六年六月出生に
して各分家し、男是彰君は明治
三十四年の出生たり、三女和喜
子は明治二十四年五月に生れ侯
爵大久保利和君の弟利賢君に嫁
せり猶ほ是利君の長女眞喜子は
養子として高橋家に在り明治四
十二年八月の出生たり
〔現住〕東京市赤坂區表町三ノ十
〔電話〕高輪三二四二

大北火災保險株式會社

本社 東京市麴町區永樂町一丁目
一 番地 郵船ビルサング内
資本金額四百萬圓也

大北火災保險株式會社は創立
以來主として火災保險再保險を
營み來りしも實験の結果、再保
險業の前途甚だ望少きを悟るに
及び、大正十二年度より一般火

災保險元受を開始するに到れり
即ち同年四月臨時株主總會の決
議により本社を東京市に移し、
爾來元受契約に關する内外の施
設計劃を立て各地に亘りて其進
展を促せるも偶九月一日關東大
地震の爲め斯業に空前の大影響
を受け延て同社業務も發展を阻
害せらるゝこと多大なりしも十
月以降舉社一致奮闘努力大に力
めたる結果、其瘡痍を醫して尙
は相當の利益金を後期に繰越し
得たるは寔に賞賛に價すべきな
り尙當社は昨年八月主務官廳へ
認可申請したる運送及海上保險
は九月一日震災の爲め主務省
に於ける書類焼失等により未だ
認可を得るに至らざるも近き將
來に於て認可を得開業の運に至
るべく更に同社の發展隆盛を目
に値すべきなり、今同社營業の
要目を擧ぐれば、不動産の火災
保險としては住宅、店舗、事務
所工場、官公署、社寺、學校、病
院、其他建築中の建物等、動産
の火災保險としては各種の商品

家具、什器、衣類、書籍（書畫
骨董類の申込は目録明細添付の
こと）諸機械、製品、半製品、
仕掛品、原料諸材料等、自動車
電車、汽車、其他の運搬具等なり
なほ同社は其姉妹會社たる内國
通運株式會社々長中野金次郎氏
が社長に常務に中川君あり豫て
實業界に聲明高き機才にして同
社が震災後の整理了したる今
後君の變幻縱横の機智英技流る
るが如き手腕が伸展致し其業務
の羽翼を擴張し業況をして隆盛
斯界を壓するに到らしむべく大
い期待されつゝあり更に同社は
營業所を左の如く擴張設置せし
東京本店
東京市麴町區永樂町一ノ一
〔電話〕牛込五一七八、五四四〇
大阪支店
大阪市東區北久太郎町三ノ三
一 〔電話〕船場園二一六七、二一
一六八
神戸支店
神戸市東川崎町一
〔電話〕元町園一七〇

九州支店

福岡市天神町九五

(電話)一八、七四

小樽支店

小樽市色内町六ノ四〇

(電話)一八〇二、二三八、

仙臺出張所

仙臺市南町通三

(電話)一九、一二一

横濱出張所

横濱市相生町六ノ九五

名古屋出張所

名古屋市西區泥沼町二ノ三

(電話)本局一七六二

京都出張所

京都上京區丸太町通烏丸西入

(電話)四六二四

京城出張所

京城府明治町二ノ四

代理店 全國樞要の地九百八十

五ヶ所にあり、尙會社現在重役

左の如し

取締役社長 中野金次郎

常務取締役 中川銑三郎

取締役 吉村 佐平

同 小畔 四郎

同 合川豊三郎

同 松崎 時勉

同 鷺見 邦司

同 監査役 小林清一郎

同 小幡 鐵介

(本社電話)牛込五一七八、五四

四〇、五四四一、五四四二



龍江義信君

海外興業株式會社專務取締役

君は福井縣の人にして明治七年三月十五日を以て大野郡勝山町に生る、夙に京都文學寮大學部を卒業して後東京帝國大學理科大學に入りて人類學科を特修せり、君資性闊達、豪宕磊落にして慧敏霸氣あり、幼にして大志あり、明治二十九年濠洲に渡

航しニウギニアを探險して具に其風土殖産の事に心を竭し在住八ヶ年、其間木曜島に於ける日本人俱樂部長となり、大に日東男子の威望を揚げたるが後歸朝して日露戰役に際會するや君亦從軍して偉功を建て戦後留まりて茫漠たる滿洲の野に活動すること年あり衆望を擔ひ滿洲青年會々長となり、本派本願寺關東別院の主任となり更に滿洲煉瓦株式會社監査役等の職に就き大連にあること四ヶ年に及び大に其の快腕を發揮する處ありしが後東洋殖産株式會社の創立と共に聘せられて朝鮮に赴任し業務に精勵すること九年偶々大正六年海外興業株式會社の創立に際し同會社を代表し、入りて專務取締役に任じ、爾來社業の發展隆盛を計り今日に到る、別に海南産業株式會社、東印度起業株式會社の各取締役として大に多年の濫蓄を傾注し、海外事業の發達に盡力せられつゝあり、家族は令閨清子(明治二十一年

六月生)長男義知君(明治四十二年生)次男義明君(明治四十四年生)あり(現住)東京市本郷區根津宮永町三五

田村忠太郎君

肥料商

君は福岡縣人渡邊勇吉君の二男にして明治十三年一月を以て生る、田中家の入夫たり、現時九州製肥株式會社の取締役、松延株式會社の代表者にして肥料商をも營めり、令閨ノブ子は同縣人田中常吉君の長女にして其の間に男保次君、光次君、己好君、マサ子、ヒサエ等あり

(現住)福岡縣八女郡福島町(電話)六二番

田中利兵衛君

法衣商

君は京都府人田中利兵衛君の四男にして、萬延元年十一月を以て生る、前名を萬次郎と云へり法衣商を營め、令妻キミ子は同府人金川淺吉君の長女にして

家族は尙男利三郎君巖君女貞子倭子あり二女あさ子は及三女あや子は各分家し兄利七君は其妻子を伴ひて一家をなし、妹夫庄之助君襲名して現當主たり

(現住)京都市下京區東六條中珠數屋町烏丸東入(電話)下二二九

田中數之助君

勳四等 京都農工銀行取締役

君は京都府人原田八六君の二男にして嘉永元年の八月を以て生る、田中藏一君の養子となりて分家せり、曾て丹又波寒天株式會社の監査役に就任す、曩に衆議院議員に選舉せらる、現時京都農工銀行の取締役なり令閨こま子は養父藏一君の長女にして、養嗣子忠雄君には同府人原田太郎助君の長女ヒロ子を迎へ同玄藏君には京都府人中川禎輔君の六女正枝を娶りたり

(現住)京都市上京區釜座通竹屋町南入(電話)上一〇一五

田中長次郎君

實業家

君は福井縣人、田中長次郎君の長男にして明治四年の四月を以て生る、前名を政次郎と呼べり、現に二十五銀行及小濱銀行若狹電燈、雲濱蠶糸、若狹化學工業各株式會社の取締役たり、令妻マツ子は同縣人岡崎久治君の四女にして、養子信藏君には同縣人川村辰之助君の長女コト子を迎へ、其間に孫政次郎君あり

(現住)福井縣遠敷郡小濱町

田中長治君

宮川銀行頭取

君は新潟縣の人田中勝太郎君の長男にして安政六年の三月を以て生れたり、現に宮川銀行の頭取に就任せり、令閨をセヨ子と云ひ新潟縣人田中喜三郎君の妹にして兩人の間に六男四女を有し長男鷹太郎君は愛媛縣士たる室戶元愷君の長女恒子を娶

り又二男讓三郎君は新潟縣の人中澤源次郎君の三女ナカ子を迎へ尙長女及四女は他家に嫁けり

(現住)新潟縣刈羽郡二田村

田中林藏君

茶商

君は神奈川縣士族戸塚吉太郎君の弟たり、明治十四年の一月の生にして先代林藏君の養子となれり、前名を安一と云ふ、現に横濱商業銀行の監査役、横濱油脂工業、松浦メリヤス製針各株式會社の取締役たり尙田中屋と稱して茶商を營む、令妻はま子は神奈川縣人藤江茂右衛門の長男にして其間に三男一女を有せり(現住)横濱市吉田町一ノ二

田中和三郎君

鐵力工業

君は京都府人田中喜右衛門君の二男にして分家せり、安政元年の七月を以て生る、鐵力工業を業とす、家族は三男四女あり

田中勝次郎君

薪炭商

君は栃木縣人田中庄七君の長男にして安政六年の一月を以て生る、現に株式會社宇都宮銀行常務取締役、宇都宮石材軌道、下野電力、下野印刷、下野製紙各株式會社、取締役に任じ尙那須屋と稱し茶及薪炭商を營む、令妻フサ子は同縣人野澤德平君の妹にして兩人の間に五男四女あり長男庄一郎君は同縣人柳豊吉君の長女キク子を娶り長女トヨ子は同縣人和田井民造君の長男角太郎君に嫁ぎ二男耕造君は茨城縣人中澤清八君に養子となれり(現住)栃木縣宇都宮市材木町

田中要太郎君

資産家

君は京都府人田中安三郎君の長男にして明治三年十一月を以て生る、京都府の資産家たり、令閨サキ子は京都府人若山庄造君の長女にして家族は尙母さく子男要夫君、安二君、正己君あり、弟の槌之助君は其妻セツ子及子を伴ひて分家せり〔現住〕京都市下京區泉涌寺門前町

株式 第百銀行

本社 東京市日本橋區高町一
電話大手三五、三六、三七、三九
資本金貳千五百萬圓

當行は今を去る四十七年前、即ち明治十年、西南戦役の際、舊鳥取藩主池田侯爵の盡力により創案せられたるものにして其資本たるや當時の同藩士を以て重なる株主とし資本總額金二十萬圓の拂込をなし其翌十一年六月に第一回國立銀行として創立したるものなり其後明治二十一年八月國立銀行の滿期到來と同時

田中德次郎君

實業家

君は愛知縣人田中嘉七君の二男として明治九年の五月を以て生る、現時日本電氣裝飾及筑紫電氣軌道、九州電燈鐵道、諏訪炭礦、九州産業鐵道、枝光鐵工所各株式會社取締役たり、尙遷化工業、唐津筑港、九州化學工業大正電球、福松商會、九州電氣製鋼、大阪晒粉、坂南家畜各株式會社の監査役として就任す、令閨たか子は同縣人高橋彦次郎君の長女にして兩人の間に三男あり〔現住〕福岡市地行西町

田中德三郎君

田中毛布株式會社取締役

君は愛知縣人田中宇八君の二男にして安政元年四月を以て生る、現在田中毛布株式會社の取締役たり、令閨せい子は岐阜縣人五南永太郎君の長女にして其の間に三男三女あり、長男秀太郎君は天折し長女みる子は愛知縣人高緒菊次郎君に二女ます子は同縣人田中倉吉君に三女あり

ゑは同縣人長谷川貞之助君に夫々嫁き二男正直君は分家し、三男の義博君は東京府人山田瀧三郎君の養子となれり

〔現住〕名古屋市中區南久屋町二ノ六〔電話〕本局一〇三四

田中泰重君

川崎造船所取締役

君は愛媛縣人菊地泰成君の四男にして文久二年九月を以て生る、先代新六君の養子となりたり、田中泰宜君の兄に當り、現時川崎造船所の取締役たり、家族は令閨千代子、男泰一君、其妻起志子あり、尙長女豊子は熊本縣人秋田正雄君の養子に、二女花子は大阪府人榎戸泰介君に嫁し二男泰二君は愛媛縣人菊池泰茹君に三男泰三君は兵庫縣人牧野タツ子の養子となれり

〔現住〕兵庫縣明石市垂水町

田中由十郎君

從四位勳五等 山林技師

君は群馬縣人田中甚平君の弟にして明治二年六月の生なり、分家して一家をなす、明治二十

田中八十吉君

銅鐵商

君は神奈川縣人田中力藏君の弟にして元治元年八月を以て生る、田中岩吉君、同倉吉君の兄にして同利喜藏君の叔父に當れり、横濱市會議員、田中兄弟商會の代表者にして、銅鐵商を業とす令妻キク子との間に三男二女を有す尙長女照子は神奈川縣人吉田英次郎君の許に嫁きたり

〔現住〕横濱市壽町三ノ一二三

〔電話〕長者町三七

田中彌兵衛君

紙商

君は埼玉縣人田中三郎左衛門君の弟にして文久二年二月を以て生る、先代彌兵衛君の養子たり、前名を勘兵衛と云へり、現在田葉屋と稱し紙商を營めり、令妻千代子は田中信齋君の三女にして長男舜作君は東京人保々誠次郎君妹しづ子を娶り長女きん子は千葉縣人米井九一郎君に

七年東京帝國大學農科大學を卒業し、爾來林務官補、林野整理局技師、營林技師兼農商務技師山林技師、林務技師等に歴任す曩に濠洲に出張せり、令閨イソ子は青森縣人高崎國子の母たり

〔現住〕東京市本郷區駒込運動坂町三二七

田中芳雄君

正五位勳四等 工學博士

君は埼玉縣人田中萬君の長男にして明治十四年三月を以て生る、明治三十八年に東京帝國大學工科大学を卒業して米國に留學せり、現在東京帝國大學工科大学教授に任ず、大正八年歐洲に出張せり、令閨晴子は東京士族宮本恒平君の妹にして兩人の間に一男二女を有す尙弟包高君は東京海上保險株式會社員、同寬君は工學士にして三菱礦業研究所技師たり、

〔現住〕東京市本郷區西片町一〇
はの二五號〔電話〕小石川四六六二

田中常德君

實業家

君は東京府士族田中常作君の弟にして萬延元年正月を以て生る、三菱商業學校を卒業し、同校の講師となり、又日本郵船株式會社調度課長となれり、現時麒麟麥酒、福徳生命保險、帝國劇場各株式會社取締役及川崎造船所の監査役たり、令閨きん子は東京士族梅澤定一君の長女にして兩人の間に五男四女あり長男辰三君は大阪府人松本新太郎君の長女慶子を娶り三女とき子は茨城縣人小川東吾の甥龍君に嫁きたり

〔現住〕東京市麴町中六番町二一

高橋隆一君

貴族院議員 島根縣多額納稅者 實業家

君は島根縣の人にして高橋守衛君の長子なり、明治八年十月を以て生る、同地方の名望家にして資産家なり、明治三十七年

以降三等郵便局長に任じ、島根地方森林會議員たること三回、同山林會、明治神宮奉贊會支部等の評議員、日本赤十字社支部商議員、今市稅務署營業稅審查同相續稅審查員となること二回また島根縣産業調查會委員に擧げられ、島根縣農工銀行、籾川銀行、同米倉倉庫株式會社、籾上鐵道株式會社、出雲電機株式會社〔社長〕松江製紙株式會社、關西電氣化學株式會社、東亞蠶糸株式會社等の取締役、島根縣信用組合聯合會監事等となる、大正七年貴族院議員に互選せられ爾來今日に至る、母堂クニ子を首めとして夫人フユ子、長男寬恭君、長女絹子、二女本子、三女朋子あり令妹ヨリ子は、夫國臣君と共に分家し後岡崎運兵衛君の養子となる三男孝治君は島根縣人高橋久次郎君の養子たり

〔現住〕島根縣簸川郡神原村
〔出張所〕東京市四谷區大番町三三光明館方

嫁きたり

〔現住〕東京市外千住町千住中組 一五〇

田中孫三郎君

群馬縣多額納税者

君は群馬縣人田中佐吉君の長男にして嘉永三年の十月を以て生る、群馬縣多額納税者にして農を業とす、令妻ヌイ子は埼玉縣人木暮治作君の妹にして女コウ子に群馬縣人木暮卯一郎の弟只江君を婿養子として迎へ其の間に、四男四女を有す、尙令妹ヨツ子は群馬縣人石川新十郎君に嫁き養子トメ子は同縣人西山九平の長男庄七君に嫁きたり

〔現住〕群馬縣群馬郡箕輪村

田中萬次郎君

實業家

君は埼玉縣人田中佐平次君の長男にして弘化四年の十月を以て生る、現時埼玉縣農工銀行の頭取にして田中芳雄君の叔父に當れり、令閨をゆき子と呼び埼玉

玉縣人小島光雄君の妹にして四男綱君には同縣人内藤平太郎君二女ヤイ子を娶る、令孫康秀君は現戸主にして、同埼玉縣人内藤榮太郎君の孫貞子を迎へて妻とす

〔現住〕埼玉縣入間郡鶴ヶ島村

田中敬信君

製藥業

君は東京府の士族田中勘平君の長男にして慶應三年の八月を以て生る、現時東京セルロイド株式會社の取締役に任じて尙製藥業を營む、令妻いね子は同士族鈴木政孝の長女にして兩人の間に三男六女を有す、父勘平君は母もと子と共に分家し長女の慶子は愛知縣人内瀬三郎君に、二女壽子は東京府人平井重美君に嫁ふゆ子は同府人永岡義道君に各々嫁き、二男の博君は分家せし父勘平君の養子となれり

〔現住〕東京市麴町區富士見町一ノ六

田中原兵衛君

實業家

君は滋賀縣人田中原助君の長男にして慶應三年の四月を以て生る、現在近江貯金銀行専務取締役に任ず、令妻とめ子は同縣人清水善輔君の姪に當り兩人の間に二男三女を有す、妹のみね子は滋賀縣人西村與惣兵衛君の許に嫁きたり

〔現住〕滋賀縣大津市樹形町

田中原太郎君

群馬縣多額納税者

君は埼玉縣人田中爲次郎君の長男にして安政五年の十二月を以て生る、曾て埼玉縣會議員に擧げられたり、埼玉縣多額納税者にして大正七年貴族院議員に互選せらる令閨その子は同縣人長瀬清一郎君の妹にして兩人の間に二男四女を有す、長男義一郎君は埼玉縣人秋間禮佐君の二女盈子を娶り二男悌君は東京人

日比谷任次郎君の長女きぬ子を妻とす、尙長女ふじ子は山口縣士族村田信乃君に三女みつ子は同縣人田中又長男澤一郎君に嫁きたり

〔現住〕埼玉縣北葛飾郡幸松村

田中不二君

從四位勳四等 工學博士

君は佐賀縣士族藤山常一君の弟にして明治十年八月の出生なり、田中家の養子となる、明治三十四年東京帝國大學工學大學を卒業し後同大學助教を経て同教授に任ず、令閨ヨシ子は養父林太郎君の長女にして兩人の間に三男一女あり、養妹トシ子は佐賀縣人養田助之允長男伊太郎君に嫁し養弟弘一君は東京府人相羽安太郎君の養子となれり

〔現住〕東京市小石川區高田豊川町四二

田中文輔君

實業家

君は山梨縣人田中忠兵衛君の

を伴ひて分家し、同半四郎君も亦分家せり

〔現住〕東京市牛込區若松町一〇四

田中榮八郎君

實業家

君は舊川越藩士大川修三君の三男にして文久三年八月の生れなり、先代いね子の養子となる同英太郎君、同平三郎君の弟にして子爵澁澤榮一君の甥に當れり、現時關東酸曹、東洋硝子、磐城採炭、日本フェルト、華川炭礦、南太平洋興業、服部製作所各株式會社社長、樺太汽船株式會社副社長、樺太工業、北海道興業各株式會社専務、九州製紙中央製紙、木曾工業、四日市製紙、東海鋼業、大島製鋼所、日出紡績、緑川電力、東洋護謨、東京金網、日本加工、大瀧鑛山ミカドマツチ、日本コンクリート工業、大日本自動車、龍東材木各株式會社取締役、東京セルロイド、淺野スレート、中島製紙、日支炭礦、帝國蓄電池各株

弟にして分家をなす、嘉永三年十月の生れなり、現に甲府電力株式會社の取締役に就任す、令閨をなか子と呼び兩人の間に三男二女を有す二男文吾君は山梨縣人渡邊幸治郎君の長女たか子を娶り、長女ひで子は同縣人石田民藏長男幾太郎君に嫁き、二女いと子は同府人古屋重雄君の許に嫁きたり

〔現住〕山梨縣縣甲府市山田町

田中弘太郎君

正四位勳一等功四級 陸軍中將

君は京都府人田中道一君の長男にして元治元年九月を以て生る、明治二十年に陸軍砲兵少尉に任じ大正七年陸軍中將に陞任せり其の間砲兵學校教官、砲兵會議々員、東京砲兵工廠製造所長、兵器監部検査官、大阪砲兵工廠々員、陸軍技術審査官兼同議員、陸軍科學研究所長等に歴補せり現に陸軍技術本部々長兼陸軍技術會議々員たり、弟正五郎君あり、同幾三郎君は其子女

式會社監査役等の職にあり、令閨つゑ子との間に三男三女あり長女榮子は東京府人藤田好三郎君に嫁し、二女保子は宮城縣人田邊文索長男文之助君に嫁せり

〔現住〕東京市本郷區根津宮永町三六

田中榮次郎君

倉庫業兼眼鏡物賣大小卸商

君は神奈川縣人遠藤清十郎君の二男にして慶應二年七月を以て生る、前名を又太郎と呼び田中家の入夫たり、現時田中商業銀行、株式會社尾張屋商店の各取締役たり、令妻ヨシ子との間に四男あり、二男又次郎君は東京府人富澤多三郎三女ハナ子を娶りたり

〔現住〕東京市日本橋區横山町三ノ六

田中阿歌麿君

正四位 子爵

當家は先代不二麿より顯る不二麿は舊尾州藩士、維新の際王事に盡力し功あり、參議院議官

伊佛白西各國の特命全權公使、樞密顧問官、司法大臣、條約簽施準備委員、議定官等に歴任す又巴里大博覽會事務副總裁、萬國貨幣會議員たり、明治二十五年に子爵を授けらる、君は不二麿君の長男にして明治二年九月を以て生れたり、同四十二年に襲爵せり、湖沼學の造詣深し、家族は母堂すま子、夫人竹子、男薫君、實君、女不二子等あり

〔現住〕東京市小石川區小石川道端町二ノ四三

田中美輔君

物品販賣業

君は山口縣人田中仁吉君の養父にして分家せり、安政元年の十月を以て生る、現時大日本殖産、關西煉瓦各株式會社の取締役に任じてK商店と稱して物品販賣業を營めり、令閨ムメ子は同縣人淺海八十八君の妹にして兩人の間に一男五女を有す、長女菊野は廣島縣人二宮久米藏君に

嫁きたり (現住) 吳市龜山町

(電話) 園長四三

田中銀之助君

實業家

君は東京府人田中平八君の孫にして明治六年一月を以て生る現在田中銀行、田中鑛業各株式會社の取締役たり、令閨榮子は東京人八田裕二郎君の二女にして家は尙男元八郎君同銀八郎君あり、弟虎之助君は分家し長女久子は東京府人飯島永太郎君の養子となり伯母のマイ子は東京府人杉田幸五郎君の許に嫁きたり (現住) 東京市麻布區市兵衛町一ノ五 (電話) 園長一四六

株式 第一相互貯蓄銀行

本社 東京市京橋區南傳馬町三丁目第一相互貯蓄内 電話銀座五五一三番 總資本額金壹百萬圓

第一相互貯蓄銀行は第一生命保險相互會社の姉妹會社にして大正十一年三月一日 今村繁三

田中省三君

實業家

君は鹿兒島縣人田中善五郎君の弟にして安政五年の正月を以て生る、鹿兒島縣の師範學校を卒業す、曩に日本亞鉛株式會社の取締役大阪市會議員等に擧げられ、また大正四年衆議院議員に當選せり、現時動四等にして五十八銀行、岡崎銀行各取締役神戸海上運送火災保險副社長、田中汽船鑛業、日實石油、大阪アルカリ、大隅鐵道、日本海事業、日華製紙各株式會社取締役、中華毛織株式會社の監查役たり、尙山丸十と稱し船舶業を營めり、養子省吾君は法學士にして田中汽船鑛業の専務取締役日華製紙の取締役に同縣人川井田重助君の女マツエを娶り同養子仁吉君は田中汽船鑛業株式會社の取締役にたり (現住) 大阪市北區金屋町一ノ一七 (電話) 園長三三二九

一に矢野氏の力俣に俟つと謂べきなり、現在の重役左の如し 頭 取 矢野 恒太 專務取締役 後藤徳太郎 取 締 役 石川善太郎 監 査 役 濱口吉兵衛 監 査 役 鈴木 六郎

田中勇太郎君

帝室林野管理局技師

君は長野縣人田中平左衛門君の長男にして明治元年七月を以て生る、明治二十五年東京帝國大學農科大學を卒業す、爾後内務省、農商務省、栃木縣、北海道廳、宮内省御料局等に奉職せり、尙帝室林野管理局主事、木曾支廳長、名古屋支局長内務技師等に歴任す、現時從四位勳三等にして帝室林野管理局技師兼主事、札幌支局長たり、令閨じやうは同縣人矢澤彦五郎君の長女にして其の間に一男三女を有す (現住) 北海道札幌市北一條西五十丁目

田村彰一君

實業家

君は東京府人田村英二君の三男にして明治十一年九月を以て生る、現時機械及金物商を營み田村洋行主たり、尙大島電氣、南洋木材貿易、田村鑛業部各株式會社の社長、コンクリート製造株式會社取締役に任ず、令閨マツエは東京府人吉澤信吉君の長女なり、兩人の間に三男を有し弟の貫一君は分家せり (現住) 東京市麻布區筈町一七〇

田村藤兵衛君

實商

君は東京府の人田中政八君の二男たり、安政五年七月を以て生れ、先代多可の養子となれり現に八十四銀行、東京商船、水産工業各株式會社の取締役、及臺灣拓殖、東京造船所各株式會社の監查役に同江島屋と稱して質業を營む、令妻美起子は同府人田村清助君の長女たり

石川善太郎、服部金太郎、原邦造、故早川千吉郎、濱口吉兵衛

橋本圭三郎、星島謹一郎、大橋新太郎、緒明圭造、小池國三、後藤徳太郎、故和田豊治、相馬半治、内藤久寛、伯爵柳澤保惠矢野恒太、馬越恭平、男爵森村開作、鈴木六郎等によりて資本金額壹百萬圓を以て設立し普通貯金、定期積金を始めとして定期預金、保護預り、債權の取立公共團體又は産業組合の金銭出納事務取扱並に公共團體又は産業組合よりの要求拂預り金等の業務を營めり、而して當行の一般銀行と其目的を異にする點は株主が取るべき利益の大部分を預金者に配當すると云ふにあり即ち其配當の方法としては預金より生ぜし純利益の十分の八は預金者に配當し残る十分の二を以て株主の配當となす、即ち普通利子として四分八厘を附する外更に利益配當も行ふと云ふにあり之の方法たる實に當行獨特の考案に係るものにして我邦に

田中茂君

銅鐵諸機械直輸出商

君は神奈川縣土族田中忠徳君の長男にして嘉永五年七月を以て生る、現時横濱商業會議所議員、東京石川島造船所、金港信託各株式會社の取締役、田中茂商店の代表者にして、銅鐵諸機械直輸入及輸出商たり、令妻をりう子と呼び東京人兒島喜三郎君の長女たり、家族は尙養子昔子君、養子なつ子、亡養子歌之助君長男茂雄君、同長女満子あり長女はま子は其夫清道君と共に子を伴ひて分家せり (現住) 横濱市境町一ノ一

田中新二郎君

實業家

君は京都府人田中兵七君の二男にして明治十八年一月を以て生る、慶應義塾理財科の出身たり、現時關西カーボン京城工業各株式會社の取締役、京都電氣

田中繁造君

實業家

君は千葉縣人田中忠次郎君の長男にして明治二十年の二月を以て生る、現時伊賀耐火煉瓦株式會社長、合資會社津下商店代表者、やま印刷株式會社の監查役たり、令閨千代子は兵庫縣人津下清一君の四女にして其間に男正己君あり、姉きさ子は千葉縣人岡孝本作君に嫁き妹のよう子は同縣人中村知義君に嫁きたり (現住) 大阪市西區立賣堀南通五ノ一三 (電話) 園長北一五一七

鐵道及日東製鋼各株式會社の、監查役たり、令閨富惠子は岐阜縣人大橋莊八君の四男にして男新太郎君、長女俊子、二女道子二男新太郎君あり、令妹はぎのは長野縣人松永直次弟秀三君に嫁き兄國太郎君は神奈川縣人田中新七君の養子となりたり (現住) 京都市上京區河原通廣小路上ル (電話) 上二八八五

〔現住〕東京市京橋區三十間堀町二ノ九 〔電話〕銀座三四六

田村藤四郎君

實業家

君は福島縣人坂藤太郎君の弟にして明治十二年の一月を以て生る、先代猪兎君の養子たり、東京帝國大學法科大學の出身にして、曩に三菱合資會社に勤務せし事あり、現時、臺灣製酒株式會社社長、東洋製糖株式會社常務、大正製糖、大成化學工業各株式會社の取締役に就任す、令聞花技は養父慎三君の二女にして兩人の間に二男二女あり、從妹のゆき子は東京府人八代重夫君の許に嫁きたり

〔現住〕東京市小石川區武島町一四 〔電話〕小石川二四五七

田村忠一君

實業家

君は山口縣の人田村知輔君の長男にして明治十二年二月を以て生る、現に振興銀行の常務、

營口土地建物及營口倉庫汽船各株式會社の取締役たり、岡本權三郎君の二女ナツ子を娶りて妻とす

〔現住〕滿州營口二官街

田中善助君

實業家

君は三重縣人竹内長兵衛君の長男にして安政五年の十月を以て生る、先代善助君の養子たり前名を覺次郎と呼ぶ、現に伊賀上野銀行の取締役、巖倉水電株式會社社長、比奈知川水電株式會社の代表者にして尙伊勢電機株式會社の取締役をも兼ね、令妻をかめのと云ひ二男二女を有す古川儀助君を長女の三喜子の婿養子となせり、長女三喜子は愛知縣人古川勇君の兄儀助君を婿養子として迎へたり

〔現住〕三重縣阿山郡上野町

田中丸清次君

實業家

君は佐賀縣人横尾佐一郎君の

弟にして明治十二年三月を以て生る、田中丸商店代表者、南洋貿易、山玉商事、西部窯業各株式會社の監査役たり尙吳服商を營む、養兄善藏君は現戸主にして、令聞テイ子は養兄善藏君の二女なり、兩人の間に四男三女を有す

〔現住〕佐賀縣小城郡牛津町

田中次郎君

正四位勳三等 日本石油株式會社專務取締役

君は舊肥前小城藩士副島萬九郎君の二男にして明治六年の十月を以て生る、先代義達君の養子となる、明治三十一年東京帝國大學法科大學英法科を卒業す同年文官高等試験に合格す、現信事務官、東京郵便局監理課長兼外國課長、京城郵便局長、遞信局長等に歴任せり、同三十年伊國羅馬府に開かれたる萬國會議及獨逸伯林に於ける無線電信第一萬國會議に參列す、南北支那、中清地方を視察し、又上海海底線架設問題を解決せり、又邦

田中新之助君

實業家

君は長野縣人田中新藏君の長男にして明治八年の一月を以て生れたり、現時長野縣の多額納稅者にして信陽銀行の頭取北信鐵道、信濃電氣、廣野炭礦各株式會社取締役に就任す、令聞とよ子は同縣人小林藤吉君の長女にして男新一君、二男次郎君あり

田中元三郎君

實業家

君は長野縣人田中灌水君の三男にして嘉永元年の十一月を以て生る、現時東京榮銀行、大日本人造肥料株式會社の取締役たり

人森時三郎君の長女節子を娶りたり

〔現住〕兵庫縣武庫郡魚崎町

田村久八君

熊本縣多額納稅者

君は熊本縣人田村仙次郎君の二男にして明治十年十一月を以て生る、現時九州製糖、熊本軌道、御船鐵道各株式會社の取締役及九州製紙株式會社、緑川電力株式會社の各監査役に就任す令聞を竹子とよび其間に四男二女を有す、長女喜美子は熊本縣人山内榮吉君に嫁し四男康四郎君は同縣人玉城重太郎君の養子となれり

〔現住〕熊本市迎町

田村新吉君

貿易商

君は大阪府人田村多兵衛君の二男にして文久三年十二月を以て生る、米國シヨトクワ文學會に入り理文科を卒業す、後加奈陀に航して貿易に従ひ現時歐米及支那に營業所を設く、又日加合同貯蓄銀行を經營す、曩に加

田村順藏君

實業家

君は福岡縣人田村甚吾君の長男にして安政元年十月を以て生る現時川崎銀行頭取、黒木軌道株式會社社長、南筑軌道株式會社の專務取締役たり令聞マサ子は

〔現住〕神戸市榮町通六ノ二三

〔電話〕園元町五〇一

り、令聞きやう子は東京士族石谷纓君の長女にして長男友一郎君は東京府人高橋忠二郎君の五女菊子を娶り長女あさ子は長野縣士族宇川榮次郎長男雄太郎君に、二女ろく子は同二男清君に三女ひさは東京府人上野照道長男直照君に嫁き又二男の讓二君は母方の絶家たる石谷家の再興に努力しつゝあり

〔現住〕東京市本郷區向岡彌生町三 〔電話〕小石川二三七二

田中清藏君

實業家

君は大阪府人田中清七君の三男にして明治九年三月を以て生れたり、現時東洋製糖貿易株式會社、東洋運輸株式會社の各代表者にして尙東洋化學工業、東洋倉庫株式會社の取締役をも兼ね、令聞ツルエは同府人辻田庫之助君の妹にして五男及一女あり

〔現住〕大阪市東區道修町二ノ三

四 〔電話〕土佐堀一一七一

福岡縣人田村武右衛門君の二女にして其の間二男六女あり、長男一郎君は現戸主にして同縣吉岡喜太郎君長女ヒサヲを娶り長女ツル子は同縣人内山官吾君に二女ハル子は同縣人大津山門太郎二男信藏君に三女ヒサ子も六女ヤス子も各々他家に嫁きたり

〔現住〕福岡縣八女郡川崎村

田村謹壽君

大日本紡績株式會社取締役

君は東京府人田村利七君の三男にして明治十七年十月を以て生る、東京帝國大學政治學科を卒業して現時大日本紡績株式會社、及東亞綿糸株式會社の取締役たり、令閨をあさ子と云ひ埼玉縣人橋本喜助君の妹にして其の間一男一女あり、妹高子はお茶の水女學校出身にして東京府人成瀬隆藏君の長男法學士達君に嫁し、弟利福君は其妻光子及子を伴ひて分家をなし、妹盛子は高島家を繼ぎて栃木縣人小林庄太郎の二男清次郎君に入夫と

せり〔現住〕東京市神田區駿河臺北甲賀町八

田村新藏君

石油水油商 埼玉縣多額納稅者

君は埼玉縣人田村小左衛門君の長男にして安政五年の五月を以て生る前名を源太郎と云へり現に埼玉縣多額納稅者にして粕壁銀行頭取、杉戸銀行の取締役たり、尙石油及水油商を營む、令妻とよ子は同縣人奈良次郎兵衛君の長女にして兩人の間に三男四女を有す、長女くに子は其夫富次郎君と共に子女を伴ひて分家し弟重次郎君は其妻さん子と共に子を携へて分家、又三男竹三郎君も分家す、二女のよし子は栃木縣人吉澤兵左君に、三女ちか子は東京府人西岡幾太郎二男孝司君に四女げん子は同府人瀬田元次郎長男醇一君の許に嫁きたり

〔現住〕埼玉縣粕壁町

〔電話〕八〇

田口政五郎君

實業家

君は兵庫縣人卜部八右衛門君の四男にして文久三年正月を以て生る、先代政五郎君の養子たり前名を宗太郎と云ふ、曩に日本木材株式會社の取締役たり、現在二見銀行、明治黨業、江井ヶ島酒造各株式會社社長に任ず令閨とく子との間に三男六女あり長男政太郎君は兵庫縣人藤田五郎君の長女ひで子を娶り、二男武二郎君は同縣人卜部兵吉の四女さく子を妻とす、尙三女かや子は同縣人卜部兵吉二男檜男君に嫁きたり

〔現住〕兵庫縣明石郡魚住村

田内榮三郎君

伊豫織物製造業

君は愛媛縣人田内久治郎君の長男にして元治元年六月を以て生る、現に松山商業銀行、三豊銀行各取締役、商工信託株式會社監督役にして伊豫織物製造業

を營む、令閨をタキヨとよび四男三女あり、妹タマ子は愛媛縣人高橋豊太郎君に、同ツネ子は同縣士族笠置達道君に嫁し長女のヨシ子も同縣士族武田文平君に嫁き三男邦三郎君は同縣人緒方安治郎君の養子となりたり

〔現住〕愛媛縣松山市豊坂町

田野倉常藏君

實業家

君は東京府人島田源兵衛君の二男にして安政五年九月を以て生る、先代淳藏君の養子たり曾て同人社に入り轉じて慶應義塾に學びたり、現時第三十六銀行五日市銀行等の取締役たり、令閨を竹子と呼び東京人小島徳兵衛君の二女にして兩人の間に二男三女あり長男得三君は同府人深津城一君の妻の妹シヅ子を娶り二男誠一君は東京府人最上ミツ子の養子となり三女憲子は同府人土屋留次郎の弟宗治君に養子クニ子は同府人土屋晋治郎長男たる勝太郎君に嫁し同かね子

は同府人島田留十郎長男修一郎君に嫁きたり

〔現住〕東京市外八王子大撞町

田口政次郎君

田口製糸所長

君は長野縣人田口金次郎君の長男にして安政四年三月を以て生る、現時田口製糸所、田口酒造店各合名會社代表者たり、令閨なみ子は同縣人熊谷嘉太郎君の妹にして養嗣子順一郎君を迎へ同縣人松澤鷹三の妹むめを娶りたり、尙男茂治君は長野縣人木下勘治郎の二女千里を娶りたり尙長女ちか江は木下勘次郎長男重義君に二女美知子は同縣人松原源治長男大治君に嫁す

〔現住〕長野縣下伊那郡飯田町

田口源七郎君

實業家

君は岐阜縣人田口源衛門の二男にして明治十五年五月を以て生る、前名を八郎と云へり、現時飛彈産業銀行、飛彈電化工業

各株式會社監査役に就任す、令閨よし子は岐阜縣人中川留次郎君の長女にして兩人の間に俊子光子、文子、綾子、長男源太郎等あり、妹すゑ子は岐阜縣人牧紀一郎長男眞武君に嫁き、弟九郎君は同縣人田近七樓君の養子たるてう子の婿養子となれり、尙叔父久太郎君は同縣人坂本ひで子の入夫となれり

〔現住〕岐阜縣吉城國府村

田口義三郎君

實業家

君は舊一橋藩士田口重親君の長男にして慶應二年九月を以て生る、明治十八年に高等商業學校を卒業し、爾後高田商會に入りて倫敦支店員、及本店支配人となれり、現に勳六等にして帝國貯蓄銀行監査役、高田商會の常務理事、高田鑛業株式會社の専務旭紡績株式會社監査役たり令閨をヨネ子と云ひ東京人菱谷右衛門の長女にして兩人の間に二男四女あり、長女久子は男爵

古市公威四男強哉君に嫁せり

〔現住〕東京市麴町區元園町一ノ八

田口十一郎君

實業家

君は新潟縣人山口平三郎君の六男にして安政五年八月を以て生る、先代半二君の養子たり、曩に新潟縣會議員、脇野町村長三島郡教育會々長、三島農商銀行頭取たり、令閨ツウ子は同縣人安立數衛君三女にして兩人の間に四男四女あり、長男半君は同縣人星野平一郎君の二女セイ子とを娶り、二男道教君は同縣人河内藤三郎君の養子となり、三男佐中君、四男慎二君は分家し長女マキ子は新潟縣人元井八十君に、二女カウ子も同縣人岩本惣三郎長男恒太郎君に嫁き、尙三女のフジ子は同縣人大塚豊三郎長男清一郎君に、四女ミキ子は同縣人倉品定次郎三男廣吉君に各々嫁きたり

〔現住〕新潟縣三島郡脇野村

田口百三君

製糸業

君は岐阜縣人勝野吉兵衛君の四男にして明治元年七月の生れなり、先代仙助君の養子にして前名を百藏と呼べり、現時岡崎商業會議所副會頭、興東公司株式會社代表者、大平洋紡績株式會社取締役及三龍社の代表者にして製絲業を營めり、令閨千代子は長野縣人熊谷平七郎君の三女にして其間四男一女あり

〔現住〕岡崎市上六名町

田丸卓郎君

理學博士

君は巖手縣士族田丸殿君の叔父にして明治五年九月を以て生れたり、明治二十八年帝國大學理科大學を卒業す爾後第五高等學校教授、京都帝國大學理工科大學助教授、東京帝國大學理工科大學助教授、同教授等に歷任せり尙物理學研究の爲め獨逸に留學せり、令閨を從子と云ひ石川

縣人久保百二君の二女にして兩人の間に三男二女あり、妹のフミ子は理學博士坂井英太郎君の許に嫁きたり

〔現住〕東京市本郷區駒込曙町一
一〔電話〕小石川七〇一

田代保之君

實業家

君は熊本縣士族田代岩彦君の長男にして慶應二年二月を以て生る、明治二十九年同縣々會議員に當選し同三十七年多額納税議員に互選せられたり、現時勳四等にして玉名銀行取締役、肥前米券社相談役たり、令閨サエ子は同縣士族廣瀬久門君の姉にして愛國婦人會熊本縣幹事なり、養子和民君は熊本縣士族和田平次君の五男にして長女ツチ子の婿養子たり、尙二女スナ子は熊本縣士族松田一君に、四女イシ子は同縣人岩村武平君に夫々嫁きたり

〔現住〕熊本縣玉名郡橫島村

田代義徳君

醫學博士

君は栃木縣人田部井森平君の三男にして元治元年七月を以て生れたり、先代基徳君の養子となる、明治二十二年帝國大學醫科大學を卒業し爾來東京帝國大學醫學科大學教授に就任す、令閨ハル子との間に三男五女あり、長女キク子は東京府人辻善次郎の長男善之助君に、二女桃子は同府人和田信夫に、三女よね子は同府人山本操一郎養子節民君に夫々嫁きたり

〔現住〕東京市下谷區練堀町六二

田代與三久君

實業家

君は福島縣士族田代與平次君の二男にして明治四年十二月を以て生る、現時福島縣農工銀行奥川水力電氣、國粹美術會各株式會社の取締役たり、令閨テツ子は田代與十郎君の三女にして兩人の間に男與右衛門君、女静

子、キチ子、信子、信良君等の諸子あり

〔現住〕福島縣耶麻郡山都村

田代重右衛門君

實業家

君は岐阜縣人田代重兵衛君の長男にして嘉永六年正月を以て生る、現時大日本紡績株式會社及日本絹毛紡績株式會社の取締役たり、令閨きり子は愛知縣人岩田彌右衛門君の二女にして、長男重三君に大阪府人岩田正一君二女ます江を娶りたり、庶子男金の助君は岐阜縣人田代哲太郎君の母と子に、同四郎君は同縣士族河合重兵衛君の養子となりたり

〔現住〕岐阜縣揖斐郡川合村

田尻惟三君

實業家

君は熊本縣人田尻準次君の長男にして明治八年五月を以て生る、現時東北電化専務、貴金屬工業、東京製鋼、武藏電化各株

式會社取締役、日蘭公司株式會社監査役たり、令閨はな子は滋賀縣人田中源四郎君の長女にして其の間に二男二女あり、姉ジュモは熊本縣人田尻藤平長男涼太君に嫁し、妹久子は三重縣人松宮春一郎君に嫁し、弟茂君は分家せり〔現住〕東京府下日暮里町大字日暮里八二一

田島竹之助君

埼玉縣多額納税者

君は埼玉縣士族田島新之助君の長男にして慶應二年十二月を以て生る、貴族院議員に當選すること二回たり、現に従七位勳三等にして沼商業銀行貯貯金銀行各取締役たり、令閨さわ子は埼玉縣人須田秀實君の長女にして長男太郎君、二男二郎君あり、長女ふき子は伯爵林博太郎君に二女千代子は埼玉縣人内井總之丞養子東一君に嫁し、弟丈太郎君は東京府人石崎政藏養子ろく子の婿養子となりたり

〔現住〕埼玉縣北埼玉郡太田村

田島下學君

實業家

君は高知縣人今西忠晴君の長男にして慶應二年十一月を以て生る、先代傳作君の養子となれり現時土佐農工銀行、土佐林業士佐製肥各株式會社の取締役たり家族は尙男正夫君正文君女潔子庶子英子等あり、二女佐野野は高知縣人西森武之助二男重次君の許に嫁きたり

〔現住〕高知縣高岡市松葉川町

田崎慎治君

神戸高等商業學校教授

君は長崎縣人田崎周三郎君の弟にして分家たり、明治五年三月を以て生る、明治三十四年に東京高等商業學校専政科を卒業し尙英國パーミングハム大學を卒業せり、後商業學研究のため英國及獨逸に留學す、曩に長崎高等商業學校の教授たりし事あり、令閨シゲ子は福島縣人室原重福君の長女にして男慎一君幸

た 之 部

次君三郎君四郎君あり

〔現住〕神戸市宮本通七ノ七

田倉孝雄君

實業家

君は山形縣の人竹内茂之君の弟にして明治五年一月を以て生れたり先代岱州君の養子となる現に安達銀行、二本松銀行各取締役、好雨水電代表者、仙北電氣、東洋電線製造、磐城製氷、郡山カアボン、廣瀬電力、荒雄川電氣、小名濱電氣各株式會社の取締役たり、家族は尙養母クワ子令閨タケ子男秀男君、女多嘉子、同田鶴子等あり

〔現住〕福島縣安達郡二本松町

田中清君

實業家

君は大阪府人田中眞吉君の長男にして明治七年の一月を以て生れたり、現時更池銀行の取締役たり、令妻リツ子は大阪府人齋二治良兵衛君の長女にして其間に一男五女あり弟庸君は大阪

府人杭全太兵衛君の二女シツ子を娶り、姉のリヤウは大阪府人林幸四郎君に妹タカ子は奈良縣人岡松四郎兵衛君に同ミチ子は京都府人柳澤幹雄君に嫁き弟實君は大阪府人石田豫太郎長女ミサヲの婿養子となりたり

〔現住〕大阪市中河内郡布忍村

田中喜介君

關東廳事務官

君は山口縣人田中小太郎君の長男にして明治十二年十二月を以て生れたり、同三十七年東京帝國大學法科大學を卒業して後文官高等試験に合格せり、爾後巖手縣參事官、千葉、奈良各縣事務官、鳥取、大分、岡山、静岡各縣内務部長等に歴任せり令閨キミ子は田中新之助君の長女にして其の間に一男四女あり姉オコトは山口縣人築山源次郎君に同ヲカムは岡山縣人萩原龜夫君に嫁し、弟乙之介君は山梨縣人中村勝次郎君の養子となれり〔現住〕旅順特權地四二官舎

田中源治君

吳服商

君は滋賀縣人田中源治君の長男にして明治十六年七月を以て生る、前名を竹次郎と云へり、吳服商を營む外深谷製材株式會社の取締役たり、令閨りやう子は京都府人井上吉兵衛君の二女にして兩人の間に三男を有す、妹すゑ子は京都府人川村治郎兵衛君の養子となりたり、同はつ子は其夫新左衛門君に従ひて分家せり〔現住〕京都市下京區四條通室町東入〔電話〕園中七七四

田中武兵衛君

銀行重役

君は東京府人田中武兵衛君の長男にして明治十年一月を以て生れたり、前名を正之助と呼べり、曩に土地信託株式會社、木場銀行重役たり、現に麴町銀行の取締役、田中貯蓄銀行の頭取、田中銀行合名會社の代表者たり令閨アイ子は太倉和親君の妹に

して家族は尙母と子、姉いく子妹正代等あり、弟治之助君、信之助君は各分家をなし、同孝之助君は東京府人山田喜助君の養子となり、姪ハツ子は山口縣人日高鹿之助二男法學士たる音熊君の許に嫁きたり〔現住〕東京市麴町區麴町五ノ一四

田中源太郎君

實業家

君は京都府人田中藏一君の長男にして嘉永六年正月を以て生る、曾て第一銀行取締役、北海道拓殖銀行監査役、株式會社京都取引所理事長たりし事あり、尙京都府會議員、衆議院議員、貴族院議員等に選ばれたり、現時京都商業會議所特別議員、商工貯金銀行頭取、龜岡銀行監督京都織物株式會社社長、京都電氣鐵道、帝國製麻各株式會社取締役、京都工商、京阪電氣鐵道、京都電燈各株式會社監査役たり令聞きさ子は京都府人垂水新太郎君の姉にして兩人の間に二男

一女を有し長男一馬君は龜岡銀行の頭取にして京都人内貴甚三郎君三女を娶り、二男二郎君は東京府人松山陽太郎君妹ミネ子を娶りたり、尙長女あい子は京都府人原田太郎助長男縫之助君に、三女ミヨ子は男爵有地藤三郎君に各々嫁きたり〔現住〕京都市南桑田龜岡町

田中文七君

洋鐵商

君は大阪府人廣谷儀兵衛君の四男にして明治十六年の八月を以て生る先代文七君の養子前名を松太郎と呼びたり現時小池海事株式會社社長、田中文商店株式會社代表者、糸崎造船、大阪鐵業各株式會社の取締役、オゾー化学工業、中西木材工業、大阪刷子製造各株式會社の監査役に就任し、尙洋鐵商を營めり、家族は尙養母シゲ子、令妻ヨネ子養子吉太郎君同登龜子等あり〔現住〕大阪市西區北境川町一四四

田中館愛橘君

理學博士

君は巖手縣人田中館稻藏君の長男にして安政三年九月を以て生る、明治十五年東京工學物理學科を卒業し同二十一年英國及獨逸に留學せり爾來東京大學理學部准助教及助教に歴任間もなく帝國大學理科大學教授に任ず現在正三位勳一等にして東京帝國大學名譽教授、帝國學士院會員たり、女美稻子は府立第二高等女學校出身にして岩手縣人下斗米與八郎君三男理學士たる秀三君を婚養子として迎へ女多加子あり、尙弟寅七郎君は其妻ツネ子及び子と共に分家して一家をなせり〔現住〕東京市小石川區小日向臺町二ノ二八〔電話〕小石川二五七〇

田中善立君

衆議院議員

君は愛知縣人田中平八君の二男にして明治七年十一月を以て

生る、東京哲學館を卒業し曾て中等學校の教員たりし事あり、尙東洋大學講師、福建彰化學堂々長をもつとむ、多年支那に在留す、明治四十五年以來代議士に當選する事五回に及ぶ、曩に海軍省副參事官に歴任す、令聞サダ子との間に三女あり、弟の重治君は其妻じやうと共に分家せり〔現住〕神奈川縣鎌倉郡鎌倉町大町

田村駒次郎君

洋鐵物商

君は大阪府人笹部九兵衛君の二男にして慶應二年六月を以て生る、平松徳三郎君の兄に當れり先代キク子の養子となる、田村駒商店の社長、日本共立生命保險、毛斯綸紡織、京都土地建物、東京絹綿紡績、日本絹絲布各株式會社の監査役にして、尙洋鐵物商たり、家族は男駒太郎君、女光子、照子、房子、寛次郎君和子等あり〔現住〕大阪市東區安土町四ノ五

田淵豐吉君

衆議院議員

君は和歌山縣人田淵善兵衛君の四男にして明治十五年二月を以て生る、早稻田大學の政治科を卒業し爾後獨逸國柏林大學及ライプツヒ、ミュンヘン各大學に財政經濟學を修めたり、大正九年以來衆議院議員に擧げらるること二回に及ぶ、兄榮次郎君は現戸主にして家族は尙兄妻壽賀惠甥一郎君あり〔現住〕和歌山縣日高郡御坊町

田澤又右衛門君

藥種商

君は神奈川縣人田澤又右衛門君の三男として明治元年十二月の出生なり、曩に日本安全石油、東洋曹達、東洋染料、東洋商事各株式會社の取締役、日本機械株式會社監査役たり、現時程谷曹達、大日本製業各株式會社取締役、東京硫酸、第一製業各株

式會社監査役及二田商會と稱し藥種商を營めり、令聞キク子は同縣人山口多喜造君の三女にして其間に女あき子あり、福岡縣人野田石藏の長男眞君を婚養子として迎ふ〔現住〕東京市日本橋區伊勢町二六

田宮嘉右衛門君

實業家

君は愛媛縣人田宮伊平君の弟にして明治八年八月の生れなり現時神戸製綱所、播磨採鐵、備後船渠、東城製鐵各株式會社の取締役及び山陽製鐵、脇濱魚類定市場、日沙商會、攝陽信託各株式會社の監査役たり、令聞かね子は兵庫縣人井上たき子の妹にして兩人の間に六男二女あり〔現住〕神戸市下山手通四ノ一四〔電話〕三宮二八五八

田中利七君

刺繡業

君は京都府人田谷庄吉君の長男にして明治七年七月を以て生

先代利七君の死跡を相續す前名を庄之助と云へり、現時刺繡業を營めり、四男五女を有し長女いと子は東京府人長谷川彦二郎に嫁きたり〔現住〕京都市下京區鳥丸七條上ル櫻木町一〇五〔電話〕電下一四九二

田中利喜藏君

鋼鐵船具機械商

君は神奈川縣人田中利喜藏君の二男にして明治三十七年四月を以て生る前名を敬三と云へり現時田中兄弟商店支店主にして鋼鐵船具機械商を營む家族は祖母さく子、母ヨネ子、養兄三藏君姉フミ子、姉壽子、妹昌子尙甥及姪あり、姉のハルエは神奈川縣人村田新次郎君に同ミツ子は東京府人三谷榮元君に、又叔母のエイ子は同府士族橋月信助長男大造君に同シゲ子は神奈川縣人安西徳兵衛二男直藏君に夫々嫁きたり〔現住〕横浜市市中村町一五四九〔電話〕本局六九七

田中太右衛門君

宗榮堂出版業

君は大阪府人田中太右衛門君の長男にして大正三年十月を以て生る前名を太郎と云へり、秋田屋宗榮堂と號して出版業を營む、家族は祖母うた子、母なみ子、妹こう子、同タツ子あり、叔母つぎは大阪府人久保田與市君に同當子は同府人莊保榮三郎君に又タツ子は同府人大塚三郎君に同ふさ子も同府人鷹岡覺之助長男覺次郎君に各々嫁きたり〔現住〕大阪市南區安堂寺橋通四ノ二四二〔電話〕船場二七四

田中太三郎君

伊那銀行取締役

君は長野縣人前澤傳一君の三男にして安政六年の正月を以て生れたり、先代柳作君の養嗣子となる、曩に株式會社南信新聞の取締役たり、現伊那銀行の取締役に就任す、令聞ます子は養祖父柳作君の孫にして男一郎君

同保一君其妻よしゑ、男進治君孫達也君あり、長女章子は長野縣人市瀬明君の許に嫁きたり

田中鶴太郎君

實業家

君は岡山縣人田中孫兵衛君の長男にして嘉永四年四月を以て生る先代金平君の養子たり、現時三石煉瓦株式會社の取締役及深井鐵工所の監査役をつとむ、令妻チク子は兵庫縣人櫻井市兵衛君の長女にして養子常次郎君が現戸主たり、岡山縣人鈴木竹三郎の姪たる喜美子を娶りたり

田中文藏君

三井物産株式會社取締役

君は東京府人田中熊吉君の長男にして明治七年七月を以て生る、中央大學を卒業す、曩に三井物産株式會社庶務課長兼調査課長同文書課長兼人事課長たり現三井物産株式會社の取締役に

就任す、令父熊吉君が現戸にして、妹のフサ子は廣島縣人小林和介君の弟八十八君に嫁し、弟金藏全藏君は分家したり

竹森莊藏君

沙河口共濟株式會社代表者

君は鳥取縣の人竹森菊藏君の長男にして明治十七年一月を以て生る、現に沙河口共濟株式會社の代表者並に共濟信託株式會社の取締役及び沙河口興業株式會社の取締役に等し、令父をよね子と云ひ鳥取縣人若山こう子の女にして兩人の間に長女静子あり、家族としては尙父菊藏君母みよ子、弟壽君其妻さきみ等尙妹さき子甥誠一君同禮二君同謹介君等あり

竹末朗徳君

尼崎共立銀行支配人

君は兵庫縣人竹末朗平君の長男にして慶應元年十二月の生れ

武和三郎君

日本度量衡協會理事

君は舊高田藩士武義一君の三男にして明治四年二月を以て生る、東京府人武辰次郎君の弟にして分家せしなり、曩に鐵道技師となり北海道鐵道建築課長たり後東京工務所を創立し鐵道及び水力電氣の測量設計監督の業

武井覺太郎君

武井製糸所主

君は長野縣人武井覺太郎君の長男にして明治元年九月を以て生れたり前名を寅太郎と云ひ、

竹内明太郎君

鐵山及鐵工業

君は東京府人竹内綱君の長男にして萬延元年二月を以て生る吉田茂君の兄に當り祖父東京府士族竹内吉管君の養子となる、曩に早稲田大學理工科創立經營に關與し亦私立高知工業學校を創立經營に努力す、大正四年以來衆議院議員に當選すること三回たり、現在は勳四等にして茨城無煙炭株式會社取締役會長、竹内鑛業株式會社取締役及び快進社の監査役に就任す、令聞は龜井と云ひ高知縣人山本忠秀君の妹にして兩人の間に三男七女あり、二女麻子は德島縣人江藤半平君長男正平君に、三女芳子は廣島縣人中村寅之助君に夫々嫁きたり

武富時敏君

元通信大臣 大藏大臣

君は佐賀縣人武富良橋君の長

竹内勝藏君

實業家

君は群馬縣人竹内勝造君の長男にして明治十二年八月を以て生る、前名を徳太郎と云へり、曩に上毛産銀行、上毛倉庫株式會社各取締役及び前橋商業會議所議員たり、現時越後電氣、竹内燃織各株式會社の取締役にし、尙横須賀鐵工所の監査役龍興社の代表者たり、令聞モト子は神奈川縣人茂木惣兵衛君の養叔母にして、家族は尙母いわり男英之助君、徹二君、宗雄君、觀君、女滋子、演子等あり

竹内太之助君

土木請負業

君は愛知縣人竹内太兵衛君の二男にして明治十年三月を以て生れ養子となる、現時竹内式コンクリート合資會社の代表者にして土木請負業を營めり、令聞とく子との間に二男四女あり、長女文子は東京府人前田なつ子に庶子女幹枝は愛知縣人竹内太治君に養子となれり

竹内兼吉君

名古屋商業會議所議員

君は愛知縣人具谷兵三郎君の三男にして明治元年七月を以て生る、先代理三郎君の養子たり曩に愛知縣會議員、名古屋市會

武井常助君

製糸業兼糸商

山梨縣多額納稅者

君は山梨縣人笹本政兵衛君の長男にして明治二年八月を以て生れ先代常助君の養子となりたり前名を保兵衛と呼べり、曩に山梨瓦斯株式會社の取締役たりし事あり、現時漸進銀行の取締役にし、製絲業並に絲繭商を營めり、令聞をひて子と云ひ同縣人伊藤彦七君の妹にして兩人の間に四男四女を有せり、尙長女芳子は同縣人小池松太郎君二男

男にして安政二年十二月を以て生る、曾て郡長となり爾後農商務省商工局長及同商務局長、大藏省參事官等になり間もなく内閣書記官長となり、後遞信大臣並に大藏大臣等に漸次歴任せり又議會開設以來引續きて衆議院議員に當選す、令閨をヌイ子と呼び佐賀縣の人石井忠躬君の長女にして其の間に二男一女を有せり尙長女ノ子は福島縣人園部牧一君の弟泰治君に嫁たり

〔現住〕東京市牛込區加賀町二ノ一三

建部 遜 吾 君

文學博士 衆議院議員

君は新潟縣の人明治四年三月を以て生る、建部貞夫君の五男なり、明治二十三年東京物理學校を卒業し同二十九年に東京帝國大學文科大學哲學科を卒業す尙は進んで大學院に入り専ら社會學を學びたり後間もなく社會學を研究の爲に獨國に留學す爾後東京帝國大學文科大學の講師

となり直ちに同教授に歴任す、又明治四十二年再び歐米に遊びて萬國社會學士院の正員となり、並に米國政治社會學士院名譽會員等に擧げられたり、家族は男一君、女文字子、庶子仁彦君、同和義君、同貞幹君等あり

二

瀧田 清 兵 衛 君

新榮銀行頭取

君は兵庫縣人瀧田清兵衛君の長男にして明治十二年五月を以て生る前名を清一と云へり、現時新榮銀行の頭取、豊岡銀行及び、豊岡電氣株式會社、兩丹電氣株式會社の各取締役就任す令閨加壽子は兵庫縣人柴原甚十郎君の長女にして、其間二男一女あり尙弟虎之助君は兵庫縣人上坂左衛門君の二女にして明治二十八年の生れたる靜惠を娶り妹しか子は同縣人西村莊兵衛君に、同千鶴子も同縣人片岡平八

郎君二男都三君に嫁きたり

瀧波 芳 尚 君

大正綿布株式會社取締役

君は和歌山縣人瀧波芳太郎君の長男にして明治二十五年四月を以て生る、現時大正綿布株式會社の取締役、瀧波染料商店の代表者たり、令閨艶子は大阪府人山崎秀四郎君の長女にして家族は尙父芳太郎君、母セサ子、女和子あり、尙叔母やす子及同せい子は共に和歌山縣人瀧液小いと方に入家せり

〔現住〕和歌山縣和歌山市本町

瀧村 竹 男 君

日本羊毛紡績株式會社 取締役社長

君は東京府人瀧村小太郎君の長男にして慶應三年十二月を以て生る、明治二十三年帝國大學工科大學を卒業し間もなく紡績業を視察の爲め歐米に漫遊する

こと三回に及ぶ、曾て大阪紡績株式會社の工部長となれり又帝國大學及び大阪高等工業學校の講師囑託となる、現時日本羊毛紡績株式會社取締役社長及び羊毛紡績株式會社の取締役に就任す、令閨ゆき子は東京府人石井重賢君の長女にして其の間に一男二女あり

〔現住〕大阪市北區中之島六ノ一 一八 〔電話〕土佐堀一四二五

瀧澤 吉 三 郎 君

實業家

君は埼玉縣人瀧澤芳三郎君の弟にして慶應元年一月を以て生る、明治二十三年東京高等商業學校を卒業す、爾後關西石材會社支配人、三越吳服店支配人、三井銀行大阪支店取引係長及支配人代理、住友銀行副支配人、東京支店支配人等に擧げられたり、現時日新護謄、南洋殖産、東京土地、小穴製作所各株式會社の取締役、東京麻絲紡績、東京キヤリコ製織各株式會社の監

査役等右諸會社の重役たり、令閨しま子は東京府人半田庸太郎君の妹にして其の間一男二女あり長女よし子は神奈川縣人橋本富藏君の長男榮藏君の許に嫁きたり

〔現住〕東京市麴町區富士町四ノ一〇

瀧澤 菊 太 郎 君

青山師範學校校長

君は東京府人瀧澤甚平君の長男にして安政元年十月を以て生る、明治十五年東京師範學校中學師範科を卒業し爾後秋田縣及び群馬縣の各師範學校の教諭東京高等師範學校教授兼舎監及び教授となり又佐賀縣、東京市各師範學校長等に歴任したり、家族は尙男三郎君、女なるみ、きよし等あり、二男親雄君は分家をなせり

〔現住〕東京市外雜司ヶ谷旭出

瀧本文 太 郎 君

井原銀行頭取

君は岡山縣人瀧本淺五郎君の

た 之 部

長男にして安政四年九月を以て生る、現時井原銀行の頭取及び岡山縣農工銀行の取締役、井笠鐵道株式會社の取締役等に就任したり、令閨をシゲヨと呼び廣島縣人麻生榮君の妹にして長男深策君は廣島縣人麻生榮君妹カメ子を娶りたり、尙弟源三郎君は其妻萬千代と共に其女を伴ひ同九四郎君は其妻ハナ子と共に子女を伴ひて各分家し同得之君も又分家し弟の弓五郎君は岡山縣人藤原政太郎君の養子となり

〔現住〕岡山縣後月郡井原町

丹 波 波 三 君

藥學博士 東京帝國大學名譽教授

君は兵庫縣人丹波謙藏君の弟にして安政元年一月を以て生れたり、夙に東京大學醫學部の藥學科を卒業し尙獨逸へ留學しエールランゲン府大學に於て裁判化學及製藥化學を修め又ストラスブルグ大學に於て藥物化學を専攻したり、令閨は兵庫縣人柴田

富士松君の姉にして貞子と云ひ兩人の間に四男二女あり養嗣子直太郎君は兵庫縣人木原竹聲君の二女みさを娶り、長男二郎君は東京府人越後保吉君長女せん子を娶り又四男五郎君は三重縣人伊藤六郎君の長女宗子を娶りたり尙三男四郎君は分家し二女トヨ子は東京府人佐々木敏綱君の許に嫁きたり

〔現住〕東京府下巢鴨町上駒込妙義坂下二五三 〔電話〕小石川四四八

丹 下 太 七 君

名古屋株式取引所仲買人

君は愛知縣人丹下圓治君の長男にして慶應二年正月を以て生れたり、現時尾張電氣軌道株式會社取締役、名古屋株式取引所仲買人たり、令閨をしま子と云ひ愛知縣人則竹武兵衛君の長女にして弟喜代治君は其妻たに子を伴ひて分家をなせり

〔現住〕愛知縣名古屋市中區大坂町三ノ四 〔電話〕本局二四九六

檀 野 禮 助 君

日魯漁業株式會社專務取締役

君は長野縣人檀野勝次君の長男にして明治八年八月を以て生れたり、明治三十二年東京帝國大學法科大學を卒業し曾て三井物産株式會社若松出張所長、北海道炭礦汽船株式會社札幌出張所長等たりし事あり、現時東京海運株式會社社長たり、尙中央石灰株式會社監査役及び後志製鐵株式會社の取締役會長に就任す令閨きよ子は兵庫縣人土橋多四郎君の二女にして其の間に二女あり尙弟貞記君は外國語學校露語科の出身にして朝鮮銀行員たり神奈川縣人佐伯藤之助君の姉たるセン子を娶りたり

〔現住〕東京市小石川區茗荷谷八 九 〔電話〕小石川二六一三

圓 琢 磨 君

工學博士

三井合名會社理事

君は福岡縣人諏訪宅之丞君の

三男にして安政五年八月を以て生れたり團尚静君の養子となりて分家す、舊藩主黒田長知侯米國へ留學するに從ひてポストン府工科大学に鑛山業を修めたり尙大阪専門學校教諭となり工科大学に出仕し鑛山局の御用掛等に歴任したり、後再び歐米を巡遊し歸來して三池鑛山に入り鋭意鑛山の改良擴張等に努め三井鑛山株式會社の今日あるに至らしめたり、現時東京商業會議所特別議員、三井合資會社の理事長、北海道炭礦汽船株式會社取締役會長、芝浦製作所及び三井鑛山株式會社各株式會社の取締役、日本工業俱樂部の理事等に就任す、令閨をヨシ子と云ひ子爵金子堅太郎君の妹に當り其の間二男四女あり〔現住〕東京市外千駄ヶ谷町原宿三四四

竹越與三郎君

臨時帝室編輯官長

君は新潟縣人清野仙三郎君の二男にして慶應元年十月を以て

生る、先代藏平君の養子なり、同人社及慶應義塾にて學ぶ、曩に大阪公論、國民新聞、時事新報及二六新報等の記者となり尙雜誌世界の日本の主筆となれり又明治三十一年文部大臣秘書官に任せられ衆議院議員に當選すること數回たり、現時臨時帝室編輯官長の任にあり三又と號して著書頗る多し、令閨竹代は岡山縣人中村興鷹君の姉に當り四男一女あり、長女北見は故文學博士元良勇次郎君の長男工學士信太郎君に嫁きたり〔現住〕東京府下大久保町東大久保一四

武井悌四郎君

神戸市會議員

君は兵庫縣の人竹未朗德君の養子にして明治八年二月を以て生る、同三十一年に東京帝國大學文科大學を卒業し爾後千葉及び新潟、岡山、長崎各縣及び京都府等の各中學校校長並に師範學校長等に歴任したり、現時奏商會及尼崎鑄工所等各株式會社監

査役の職にあり、令閨を愛子とよび養父伊右衛門君の長女にして其の間に五男三女あり〔現住〕兵庫縣神戸市須磨町板宿

竹島茂郎君

東京女子高等師範學校教授

君は三重縣人竹島三吾君の二男にして明治八年四月を以て生る、明治三十五年東京高等師範學校博物學科を卒業し爾後静岡縣立榛原中學校の教諭、東京女子高等師範學校助教諭及び同教諭兼第六臨時教員養成所の教授等に歴任す、令閨をかねよと呼び三重縣人菊山喜藏君の二女にして兩人の間に二男三女あり〔現住〕東京市小石川區原町一八

瀧川龜太郎君

第二高等學校教授

君は島根縣の人瀧川李之丞君の長男にして慶應元年十一月を以て生る、明治二十年に帝國大學文科大學を卒業して現に第二

高等學校の教授たり、令閨をキシイと呼び福島縣人菅野ハマコ君の養母にして家族は尙父李之丞君、母カネ子等あり、妹ハル子及タキ子、ハナ子は他家に嫁きたり〔現住〕仙臺市土樋町

瀧川儀作君

機寸製造業

君は奈良縣人梶尾磯松君の弟にして明治七年十二月を以て生る、兵庫縣人瀧川辨三君の養子分家たり大阪高等商業學校を卒業したり、曩に神戸商業會議所會頭、良燧合資會社長、青島機寸株式會社取締役、南洋護謨拓殖、中外貿易以上各株式會社の監査役等に就任したり、現時は東洋機寸株式會社長及び日本機寸聯合會々長たり、令閨をトよ子と云ひ養父辨三君の長女にして其間男清一君、勝二君、女美津子、壽満子、信子等あり〔自宅〕神戸市須磨町〔事務所〕神戸市下山手通六ノ一七〔電話〕本局九五

瀧精一君

文學博士東京帝國大學教授

君は東京府人畫伯瀧和亭君の長男にして明治六年十二月を以て生る、明治三十年東京帝國大學文科大學を卒業し尙大學院に入りて美學を専攻せり爾後東京帝室博物館の囑託、東京美術學校並に京都帝國大學文科大學、東京帝國大學文科大學の各講師及同助教授等に歴任し又東京御學門所御用掛等を仰付られたり尙歐米にも出張せし事あり〔現住〕東京市外上大崎四四三

武田明君

武田割引銀行頭取

君は垣内義定君の二男にして慶應元年十二月を以て東京府に生る、先代ミエ子の養子たり、中央大學を卒業して商業學校に教鞭をとりたり又十五銀行經營に係る東洋メリヤス株式會社の取締役となれり此間滿洲及韓國北清等を視察す、現在は武田割

引銀行の頭取、東臺銀行の取締役、園池製作所、華川炭礦各株式會社の監査役に就任す、令閨をタマ子と云ひ東京府人間瀬サタ子の妹にして明文也君、養弟武四君あり

武田三枝君

鐵美堂書籍出版及文房具商

君は大阪府人木村友尋君の四男にして明治十二年十月を以て生る、鐘美堂と稱し書籍出版及び文房具商を營み尙東亞鉛筆株式會社長、日本ノート株式會社常務取締役、共同債券株式會社の取締役、日本精版印刷株式會社の監査役等に就任す令閨をカツ子と呼び大阪府人中村由松君の三女にして兩人の間に子なきを以て東京府人花輪虎太郎君の二男研一君を迎へたり尙甥鼎君は廢家したる木村家の再興に努力しつゝあり

〔現住〕大阪府南區監町通三ノ九
〔電話〕園船場一四五四

武村貞一郎君

三井物産株式會社常務取締役

君は東京府人竹村繁一郎君の長男にして明治六年五月を以て生る、明治二十六年東京高等商業學校を卒業して三井物産株式會社に入り曩に神戸支店長及本社機械部長、大阪支店長等に就任したり、現時三井物産株式會社の常務取締役に就任し尙日本機寸製造株式會社の取締役たり、令閨かつ子は兵庫縣人水越成章君の三女にして家族としては男誠一郎君、貞次郎君、繁三郎君、女君子、富美子、さだ子、知恵子等あり〔現住〕東京市外品川町北品川宿三九四

武田秀雄君

三菱造船株式會社社長

君は高知縣人武田左衛門君の長男にして文久二年十一月を以て生る、明治十六年海軍機關學校を卒業し、曩に佛國に留學したり、明治十九年海軍少機關士

に任じ大正二年同中將に陞任す其間海軍省艦政本部出陣、海軍煉炭製造所長兼朝鮮平壤鑛業所長、海軍省教育本部第三部長、海軍機關學校長等に歴補せり、現時豫備海軍機關中將にして日本光學工業株式會社代表者、東北拓殖合資會社の代表者、三菱電機株式會社社長、三菱内燃機株式會社社長等諸會社の重役として奮闘しつゝあり、家族としては母堂孫あり、長女満子は和歌山縣人豊田貞次郎君に嫁きたり〔現住〕東京市小石川區原町一四六〔電話〕小石川六九〇

武内才吉君

貿易業

君は大阪府人武内清助君の二男分家にして安政二年九月を以て生る支那貿易業を營みて號を武齋と稱す、尙現に天神商工銀行、青島製粉及び武齋汽船各株式會社の取締役をも兼ね、令閨をアイ子と云ひ大、阪府人上田定七君の女にして長男吉次君あり

り、現大阪貿易株式會社代表者及び大福紡績株式會社の各監査役にして大阪府人上田マン子の姉たるアイ子を迎へて其の間に二男一女を擧ぐ

〔現住〕大阪市西區江戸堀南通二ノ一〇〔電話〕土佐堀九八三

竹内辰次郎君

實業家

君は岐阜縣人吉田庄七君の弟にして、明治元年三月を以て生れ竹内家の養子となりたり、現時梶永鐵工所、彦島電氣株式會社、馬關製紙株式會社、下關瓦斯株式會社の各取締役をつとむ養父甚平君長女良子との間に女美彌子及さち子あり

〔現住〕下關市大字關後地村

竹内銳彦君

神戸銀行取締役

君は熊本縣人竹内清四郎君の二男にして明治五年六月を以て生る、東京專門學校英語政治科を卒業し爾後三井物産會社に入

りて大阪及神戸京城及本店に勤務す、神戸銀行の取締役にして中島鑛業株式會社の代表者たり令閨をしげ子と云ひ兵庫縣人稻垣清三郎君の長女たり、兩人の間に男勇君、女喜代子、不二子あり

〔現住〕兵庫縣武庫郡住吉村

竹内維彦君

工學博士

久原鑛業株式會社事務取締役

君は愛媛縣人横田維翰君の二男にして明治七年三月を以て生れ先代景房君の養子となる、明治三十二年東京帝國大學工學科大學探鑛冶金科を卒業して曩に藤田組に入り小坂鑛山技師兼精鑛部長となり又、久原鑛業株式會社の調査部長となれり尙會て歐米を視察せし事あり、現在久原本店の理事にして、久原鑛業株式會社事務取締役、山陽鐵道、日本汽船各株式會社取締役、並に久原商事、合同肥料各株式會社の監査役等に就任す、令閨は

よし子と云ひ山口縣人長屋正君の妹にして兩人の間に常彦君、芳子、薫子、敏雄君あり、三女章子は東京府人岩田作兵衛君の養子となりたり〔現住〕東京市麴町區内幸町一ノ三

竹内權兵衛君

元貴族院議員

君は茨城縣人竹内權兵衛君の長男にして明治八年十月を以て生る前名を幸太郎と云へり、大正七年茨城縣多額納稅議員に擧げらる、茨城縣農工銀行監査役茨城大理石株式會社取締役、竹内製紙株式會社取締役に就任す令閨たみ子は茨城縣人栗栖佐兵衛君の長女にして其の間に二男七女あり、弟安之介君は大阪府人河盛又三郎君の養子となれり

〔現住〕茨城縣久慈郡太田町

竹内清次郎君

前橋商業會議所常議員

君は群馬縣の人宮崎源吉君の弟にして文久二年十一月を以て

生る竹内勝藏君の養兄にして分家せしなり、現時群馬銀行取締役、明治商業銀行、上毛物産銀行監査役、利根發電、竹内懔絲各株式會社取締役に就任し、生絲商及び製絲業を營めり

〔現住〕群馬縣前橋市本町

竹之内諭輔君

大洋商船株式會社取締役

君は鹿兒島縣士族竹之内助右衛門君の弟にして慶應元年六月を以て生る、竹之内才次郎君の叔父に當れり、現在竹之内商店取締役に就任す、令閨をフミ子と呼び、同縣人石澤清太郎君の令妹にして其の間に二男六女あり二男可夫君は鹿兒島縣人石澤イセ子の養子となりたり〔現住〕鹿兒島縣鹿兒島市山下町二

竹山正男君

竹山病院長

君は新潟縣人竹山屯君の長男にして明治六年九月を以て生る

明治三十五年東京帝國大學醫科大學を卒業して曩に新潟市會議員たりし事あり、新潟農工銀行新潟貯蓄銀行及び新潟水力電氣新海製紙各株式會社の監査役をつとむ外尙武内病院を設立して其院長たり、令閨ろく子は同縣人松川第四郎君の妹に當り其間に一男四女を有す、令妹をイッ子と云ひ同縣人澤田敬義君の許に嫁きたり〔現住〕新潟縣新潟市上大川前通六番町

武原熊吉君

勳六等東京高等師範學校教授

君は宮城縣の人武原量一君の長男にして明治十八年八月を以て生る、明治四十年東京帝國大學理科大學化學科を卒業す、爾後東北帝國大學農科大學講師同豫科教授兼同助教となりたり尙北海道帝國大學附屬大學豫科教授並に助教となれり、令閨うめ子は宮城縣人島津文左衛門君の長女にして女房子あり、尙妹せい子は、同縣人國井光泰君

た 之 部

に嫁き、同たか子も同縣人目々澤定廣君長男定徳君の許に嫁きたり〔現住〕東京市小石川區大塚窪町東京高等師範學校内

武井守正君

男爵 樞密顧問官

君は舊姫路藩士武井領八君の二男にして天保十三年三月を以て生る、明治二年庶務局判事より民部大録、白石縣權知事、平縣權令、内務、農商務各大書記官、農商務省會計、山林局長及び鳥取縣石見縣の知事等に歴補せり、現時從三位勳二等男爵にして錦雞間祇候、貴族院議員、大正水力電氣株式會社の代表者

明治商業銀行、日本商業銀行、並に帝國海上火災保險、東京火災保險、明治製糖、逗子電燈、帝國シヤンパン、山田崗炭鑛、東京建物、神戸葺谷港灣各株式會社の各取締役にして尙東洋化學株式會社の監査役をもつとむ明治四十年に男爵を授けられたり、令閨ふじ子は住友喜三郎君

の長女にして其間四男六女あり長男は死去し、二男守成君は公爵岩倉具榮君の叔母花子を迎へ尙二女たわ子は其夫鑑造君及子女と共に分家し、三女とし子は神奈川縣人菱田長三郎君に、同六女みづるは同縣人小幡西吉君の許に嫁きたり〔現住〕東京市本郷區湯島三組町五九

武石義夫君

大分縣多額納稅者

君は大分縣武石橋次君の長男にして明治十二年八月を以て生る、曩に共立四日市銀行の取締役に就任す現時は萬田銀行の頭取及び大分銀行、大分貯金銀行大分縣農工銀行の各取締役にして武有汽船株式會社の代表者たり、並に耶馬溪鐵道、日東謨謨大和電爐工業、日本纖維化工各株式會社の取締役として奮闘しつゝあり、令閨カメヲは福岡縣人土岐八郎君長女にして其間五男二女あり、尙姉フナ子は同縣人古賀寛一郎君に嫁き、同アヤ

子は大分縣川谷彦三郎長男敬路君に嫁きたり

〔現住〕大分縣玖珠郡萬年村

武智直道君

實業家

君は千葉縣人林正道君の三男にして明治三年四月を以て生る武智家の養子たり、慶應義塾を卒業し尙布哇ホノル、レオアフ大學に學びたり、會て東京駐劄布哇公使館の書記官及び横濱駐在布哇領事等の事務囑託となり領事の職務に従事し又臺灣製糖株式會社及び巴里石油株式會社の重役となれり、現に臺灣製糖南國産業各株式會社の常務取締役、東京信託株式會社の取締役小田原紡績、日本徵兵保險各株式會社の監査役、北海道水産株式會社の相談役等に就任す、令閨をきく子と呼び東京府人西村貞七君の長女にして、華族女學校の出身なり、兩人の間に長男勝君、長女百合子あり、長男勝君は山口縣人山尾忠治君の妹

にして函館高等女學校出身たる喜代子を娶りたり〔現住〕東京市麻布區市兵衛町二ノ一三

武川又兵衛君

諏訪湖水株式會社社長

君は長野縣人武川又兵衛君の二男にして明治十一年の十月を以て生れたり、現時は諏訪湖水株式會社の社長及び長野農工銀行の監査役をつとむ、令聞は東京府人寺村徳兵衛君の三女にしてとよ路と呼び兩人の間に男貞雄君、潤平君あり、尙兄靜太郎君は分家をなせり

〔現住〕長野縣諏訪郡上諏訪町〔電話〕一七

武岡豐太君

藥業館社長

君は徳島縣の藩士武岡幸之助君の長男にして元治元年七月を以て生れたり、前に神戸中央土地株式會社、南洋興業株式會社、舞子土地株式會社の各重役に就任す、現在株式會社聚樂館の社

武田賢治君

渥美電氣株式會社代表者

君は愛知縣人荒川杏造君の二男にして慶應元年九月を以て生れ武田家の養子となれり、現時渥美電氣株式會社の代表者にして尙豊橋電化工業株式會社、豊橋電氣株式會社、濱田電氣株式會社の各取締役等に就任せり、令聞をふさ子と呼び愛知縣人豊田成章君の四女にして、家族は男正夫君、森夫君、雪夫君、春夫君あり三男國夫君は靜岡縣人花井善吉君の養嗣子となりたり

〔現住〕愛知縣寶飯郡國府町

武田五一君

京都帝國大學教授

君は廣島縣人武田直行君の長男にして明治五年十一月を以て生る、明治三十年東京帝國大學工科大學を卒業し尙大學院に入り研學す、同三十三年圖案研究爲めに英及獨佛各國へ留學せり爾後京都高等工藝學校の教授兼

京都府技師、大藏省臨時建築部の技師等に歷任せり曩に歐米へ差遣せられたり、現時工學博士にして京都帝國大學の教授に就任す、令聞をやす子とよび東京府人阪田貞明君の妹にして家族は尙男直秀君、英吉君、まさ子あり、三男猛夫君は東京府人飯島貞臣君の指定相續人となり、姉マチ子は岐阜縣人佐々木曠君に、妹のロイ子は山口縣人原田信次郎君に夫々嫁きたり

〔現住〕京都市上京町吉田町

武内作平君

衆議院議員 辨護士

君は愛媛縣士族武内清次君の長男にして慶應三年十月を以て生る、東京和佛法律學校を卒業し尙、關西大學、法政大學、日本大學、早稻田大學等に學びたり、後大阪にて辯護士を業し又、堂島取引所を始め各會社の重役たり、現時朝日黨業、ヤマトプロック建材、木津川土地運河各株式會社取締役、大日本

伊達宗經君

男爵 伊達伯爵家分家

當家は中納言伊達政宗の後裔にして伊達伯爵家の分家なり、先代宗教は侯爵伊達邦宗先代宗基の養子となり明治十七年分家して一家を創立し特旨を以て華族に列し男爵を授けられたり、君は其宗教君の長男にして明治三年二月の生れなり、明治四十四年に襲爵す前名を直知と呼べり、令聞益子は伯爵佐野常羽君の姪に當り其の間に一男二女あり、弟良春君は分家し尙妹の幸子は伯爵大木遠吉君に嫁き、亦同正子は東京府人井上文藏君の許に嫁きたり

〔現住〕宮城縣仙臺市元柳町

伊達宗陳君

侯爵 貴族院議員

當家は中納言伊達政宗の長子遠江守秀宗より出づ、秀宗大阪役に父政宗と共に軍に従ひて功あり、將軍秀忠其の忠勤を賞し

武田常三郎君

播州物産株式會社社長

君は兵庫縣の人武内政七君の長男にして明治十三年七月を以て生る、現時播州物産株式會社、東洋工業原料株式會社の各取締役、及び大阪製紙原料株式會社、伊藤鐵工所の各監査役として奮闘しつゝあり、令聞に子は兵庫縣人大西榮次郎君の長女にして家族としては男晴夫君、雅雄君、榮子、文子等あり

〔現住〕兵庫縣加古郡加古川町

武山勘七君

精米業 美濃屋

君は愛知縣人武山勘七君の二男にして明治十一年五月を以て生る前名を賢之助と云へり、美濃屋と稱して精米業を營み、武山商店の代表者たり、令聞に子は靜岡縣人野崎彦右衛門君の令妹にして家族は尙庶子憲太郎君とよ子、とし子、幸左衛門君、宗治君等あり、弟慎一郎君は分家し亦純造君も分家をなせり

〔現住〕愛知縣名古屋市西區菊井町五ノ一七九〔電話〕本局六五六八

武政恭一郎君

實業家

君は埼玉縣の人武政伊三次君の長男にして明治元年七月を以て生る、曾て本庄電氣軌道株式會社の取締役に就任せし事あり現時は深谷銀行、利根發電、利根軌道株式會社、東洋絹絲紡績株式會社、埼玉興業株式會社の

監業、大阪土地建物、岡山電氣軌道、東洋毛絲紡績、花屋敷土地、大阪堂島米穀取引所キヤパレーズバノン各株式會社の監査役等に就任す、衆議院議員に當選すること六回たり、令聞に子は大阪府人中田儀兵衛君の二女にして男新作君あり

〔現住〕大阪市東區北濱町三ノ一 二〔電話〕本局四三〇

武谷廣君

醫學博士九州帝國大學教授

君は福岡縣人田中彌十郎君の弟養子にして明治八年五月を以て生れたり、明治三十五年東京帝國大學醫學科大學を卒業し同三十九年内科學研究の爲獨國に留學せり爾後京都帝國大學福岡醫學科大學助教授となり間もなく同教授に歷任す、令聞長榮は養父水城君の長女にして其の間五男二女あり

〔現住〕福岡縣福岡市藥院町〔電話〕一二二八

伊豫國宇和島十萬石を與ふ故を以て分家し後數世を経て宗城に至る、宗城維新の際國事に斡旋して勳功ありし爲從一位勳一等に叙せらる、間もなく父宗徳其後を繼ぎ明治十七年伯爵を授けられ、明治二十四年祖父宗城の勳功に依り侯爵に陞爵せられたり君は其宗徳君の長男にして萬延元年十二月を以て生る、明治三十八年十一月に襲爵し曩に主獵官に任せられたり、明治二十二年式部官となる、叔父宗敦君は伯爵伊達邦宗先々代慶邦の養子となり後分家して男爵を授けられ其男宗經君當主たり

〔現住〕東京市芝區白金三光町五二

瀧定助君

愛知縣多額納稅者 吳服商

君は愛知縣人瀧定助君の長男にして明治二月正月を以て生る前名を正太郎と云へり、吳服商を營みて瀧定商店と稱す其他名古屋商業會議所議員、名古屋銀

四ノ九〔電話〕本局二〇六

瀧廣三郎君

大平紡績株式會社取締役

君は愛知縣人瀧定助君の弟にして明治九年三月を以て生る、小出庄兵衛君の兄に當れり、現時太平紡績株式會社及び野上機械工業株式會社の取締役等に就任す、令閨まつのは岐阜縣人長尾元太郎君の妹にして兩人の間男憲藏君、潤次郎君、隆朗君女明子、ひろ子等を擧ぐ

〔現住〕愛知縣名古屋市長島町二ノ七〔電話〕本局五九二

瀧川辨三君

機寸製造業 神戸商業會議所特別議員

君は兵庫縣人瀧川清二君の二男にして嘉永四年十一月を以て生る、現時神戸商業會議所商業部委員長の要職に就任する外、日本商業銀行取締役、神戸瓦斯株式會社社長、神戸信託株式會社山陽皮革株式會社、神榮、兵庫

高橋達太郎君

火藥工業株式會社社長 日本導火線株式會社社長

君は長野縣人高橋茂登次君の長子にして明治二年三月二十三

行頭取及名古屋貯蓄銀行の常務取締役、帝國燃絲織物株式會社專務取締役、東海倉庫及福壽生命保險、福壽火災保險並に朝鮮起業、日本車輪製造、一ノ宮倉庫信託東西製作所各株式會社の取締役に於て尙名古屋製陶所の監査役をも兼ね、令閨貞子は滋賀縣人小林吟右衛門君の妹にして家族は尙妹ひさ子あり

瀧信四郎君

名古屋銀行取締役 吳服商

君は愛知縣の人瀧兵右衛門君の四男にして明治元年七月を以て生れたり、現に吳服商を營める外名古屋銀行の取締役、愛知織物株式會社、瀧兵商店各取締役及び日本共立火災保險株式會社の監査役等に就任す、令閨はる子と云ひ滋賀縣人稻本利右衛門君の長女なり

〔現住〕愛知縣名古屋市西區本町

日を以て同縣松本市に生る、夙に郷黨に學を修め、後上京して東京帝國大學法科大學政治學科に入り、研鑽畢め、同二十八年好成绩を以て卒業せり、同年大阪廣海二三郎商店に入り、精勵事務に當り、擧げられて其支配人となり、後組織を改めて廣海商事株式會社となるや取締役に



就任し、爾來會社の主力となり銳意其發展を計り業績益々擧り現に同會社の監査役たり、次いで大正五年日本火藥株式會社の創立に參與し、其專務取締として就任し、爾來會社にありて専ら經營の要職にありしが同十一年任期満了と共に取締役となり同年火藥工業株式會社創設に參與し、之れが社長に就任し、翌

十二年日本導火線株式會社設立と同時に取締役社長となり、爾來各社經營の衝に當り敏腕を揮ひ、今や火藥工業界に於ける重鎮として噴々の名聲あり、夫人雄勝は温順貞淑の稱あり、其間に長男亮介君次男菊夫君あり

〔現住〕東京市四谷區三光町三毛〔電話〕四谷一六一四

大日本製糖株式會社

本社 東京府下砂町大字治兵衛

東京出張所 東京市日本橋彌榮

電話 大手七二八五番

資本金總額金二千七百二十五萬圓

本邦に於ける製糖事業の發達は近年異常なる進歩を示せり、殊に大日本製糖株式會社は其基礎並に事業に於て斯界の重鎮なりとす、會社は明治二十八年資本金三十萬圓を以て設立したるものにして實に東洋に於ける製糖會社の嚆矢なり、爾來星霜を閱みするに從ひ社運遂次進展し

て増資に次ぐに増資を以てし、創業數年ならずして四百萬圓の資本となり、更に明治三十九年十二月日本製糖會社と合併の議成るに及びて、一躍して一千萬圓の巨資を擁して其の施設亦完備して業績愈擧がる、亞いで四十年二月嘉義廳五間廣庄に分工場を設備し同年八月に至りては九州大里製所を買収して、其規模の大なる實に東洋製糖界に於て比倫するものなきに至る、然るに明治四十二年に至り突如青天霹靂の如き天下の耳目を聳立せしめたる不祥事件突發せり、即ち日糖事件なり、當時の社長酒匂博士は責を負ふて自殺するに至り重役亦多く縲繼の辱を被り、社規の紊亂其極に達し流石の大會社も如何にして社運を挽回し得べきか其の危きこと累卵の如かりき、時に本邦財界の元老澁澤子爵は我國財界の爲め之を匡救せんとするの志厚く、實業家中より俊敏の逸材藤山雷太氏を物色して托するに善後の衝

に立たんことを以てす、氏は子爵の懇望に感じて之を諾し、社長に就任するや褒貶相半ばし世論囂々たる間に立ちて、奮闘努力快刀亂麻を斷つる敏腕を揮ひ諸般の整理を斷行し、僅に一年有餘日にして、さしもの多額なる債務償却の途を構じ、剩なへ十六萬圓餘の利益繰越金を見るに至りしことは獨り藤山氏の手腕を激賞するのみならず、財界の美談として永く世人の記憶に存する處なり、今其整理經過を見るに明治四十二年七月始めて新社長の手に委ねられて、整理案の編成せられし當時に於ける會社の負債勘定中年賦其他の方法を以て整理すべき債務總額は實に千四百萬八千九百八十九圓九十二錢と記されたりしに同年下半年末に於ては既に千三百四十六萬七千七百九十九圓七十三錢と云ふ大償還を完ふするに至り、爾來每期利益金及資産整理回收金を以て次第に負債は償却せられ來りて整理着手後十ヶ年

の後に至りて實に千八百二萬五千四圓五十錢といふ巨額なる元利債務は總べて償還し終りて、茲に大日本製糖會社の礎は萬代搖ぎなき根帯を築くに至り、爾來擴張、増資相繼ぎ今や總資本額二千七百二十五萬圓の一大會社となり、大正十二年度の如き實に八十二萬俵の製造高に及び、工場の如きも遠く瓜哇にまで増設し隆盛愈々旺んなりと云ふべし、一度頻死の境に陥りし會社をして今日の盛況に進ましめたるは詢に財界の巨擘藤山雷太社長功績に依るものにして亦同氏を推選したる澁澤子爵の明智は實に財界の巨人たるに背かざるものと謂ふべく、同社の將來は眞に春光洋々たるものありて斯界瞻仰せざるものなし、會社現任の重役以下の如し

- 取締役社長 藤山 雷太
- 常務取締役 伊澤 良立
- 常務取締役 伊吹 震
- 取締役 澤 金雄
- 取締役 鈴木 重臣

- 取締役 金澤冬三郎
- 監査役 星野 錫
- 監査役 指田 義雄
- 監査役 岡村左吉松



高橋松彌君
通信出版

由來信山の地に剛鯁不羈の人多し、佐久間象山、真田幸村等に之を見る、君は明治二十年十二月諏訪湖畔に呱呱の聲を擧ぐ人と成り不撓不屈、快刀亂麻を斷つ概あり、然も誠實事に當る君が信用を博する由所なり、明治四十五年慶應義塾大學理財科を卒業し、有隣生命保險株式會社に入り、實務に従事する事數年、後日本藥化學工業株式會社に聘せられ販賣主任として、

その手腕を發揮す、大正八年父君の喪に會ひ歸郷して、家業に従事す、亡父已喜之助君は少年の頃より刻苦勉勵家名を起し、後酒造業を營み、高天正宗本舖と稱す、又株式會社信州銀行を創立しその取締役に任ず、君はその三男なり、君や國にある事り大正十年更に東上して各種の事業世相を觀察し、常にその感想を雜誌新世界に發表す、君一流の皮肉なる文章、正に骨を刺すものあり、幼年より音楽を好愛し、研究する處極めて深く、殊に筑前琵琶に堪能にして號を東州と云ひ、既に一家をなす、令閨秀子も亦琵琶に巧にして、旭環と號す、東京府人甲斐一君の四女なり、君の母堂をみす子と云ひ、令兄今朝松君は伊那肥料株式會社取締役に任ず、家業を助け、二世已喜之助君は父君の業を繼ぎて酒造業を營み、目下岡谷醸造合資會社代表、株式會社諏訪釀造試驗所取締役、株式會社南信日々新聞社監査役に任ず、令姉總子は同縣人マニユ生命保險會社主事矢島信夫君に嫁す

〔現任〕東京市芝區三田三ノ十三
〔電話〕高輪二三六二

竹屋春光君

從四位勳五等子爵貴族院議員

當家は藤原鎌足の裔日野參議眞夏の後にして廣橋兼俊を祖とす、四世の孫光繼に至りて中絶す、慶長十年廣橋光長之を再興し、後八代を経て光昭に至り、明治十七年子爵を授けられ其孫威光之を襲ぐ、松平義照君の二男にして明治十六年三月六日を以て小石川の松平侯爵邸に生る侯爵松平康莊君の令弟にして子爵松平慶民君の甥なり、夙に學習院に入り四十一年同院高等科を卒業し同年三井物産會社に入り滿洲大連に於ける會社支店詰となり、同年同地に渡航して夙夜店務に執筆し少壯英才の稱内外に高く上下の信任亦厚かりき

子此の劇務の間に奔走して尙且自己の修養を怠らず自ら貴公子たるの風貌を備ふ資性謹直にして小事に拘泥せず閑あれば多聞多見に勉め傍ら實業界の研究に努めしが後同社を辭す、大正元年母方の絶家たる舊京都公卿竹屋家の姓を冒せり、大正五年内閣總理大臣秘書官に任せられ令名あり、同七年互選されて貴族院議員となり爾來今日に至る、夫人を壽満子と稱し公爵山縣伊三郎君の三女にしてその間長女千代子、次女眞佐子、三女美都子の諸子あり

〔現任〕東京市外上大崎町長者丸
二七八〔電話〕高輪一七九二

田中光顯君

正二位爵一等伯爵

君は土佐藩士田中充美君の長子天保十四年九月二十五日の生誕にして幼名を顯助と稱せり慶應三年鷲尾侍從内勅に依り兵を紀州高野山に擧ぐるや君は其參

謀となり功あり、元年に到り兵庫縣權判事となり翌年會計監督司知事を命ぜらる、爾來監督正大藏少丞、戶籍正、戶籍頭等に歴任し從六位に叙せらる、明治四年理事官として歐米各國へ差遣せらる、尋で特命全權大使會計兼務を命ぜられ從五位に叙さる、同九年陸軍會計監督に任じ同十年の西南役には征討軍團會計部長を命ぜられ、後勳功に依り勳三等旭日中綬章を賜はる、翌年陸軍會計監督長に任じ正五位に陞り、同十四年陸軍少將に任ぜられ、參議院議員を兼ね、翌年勳二等に叙せられ、同十七年恩給局長を兼ね從四位に昇り更に元老院議員に任じ、從三位に陞叙せらる、同二十年勳功に依り華族に列し子爵を授けられ會計検査院長を兼任す、同二十二年警視總監に任じ、同二十三年貴族院議員に選ばる、同二十四年之を辭し、翌年更に學習院長に任せられ勳一等瑞寶章を賜ふ、後、從二位に進み宮内次官

圖書頭に任じ尋で宮内大臣となる、同三十二年從二位に叙し、同四十年伯爵に陞り正二位に叙せられ、次で賞勳局議定官となり、後官を辭して閑地に就く、養女てつ子は子爵藤井行徳君に嫁し、養嗣子遜君は群馬縣士族岩神正矣君の令弟にして從四位勳五等を以て東洋コンプレッソ株式會社取締役の任にあり、ル子、春子、光中君、光素君等の數子あり

〔現任〕靜岡縣蒲原町

大日本鹽業株式會社

本社 東京市麹町區丸ノ内三號
二十一號館
電話 大手五一五八 五七一一
資本金四百萬圓

當社は本邦唯一の鹽業會社にして明治三十六年九月九日資本金五萬圓を以て創立され初め商號を日本食鹽コークス株式會社と稱し、本社を神戸市東尻池村に設置し、コークスの製造販賣

を營むを目的とし、鹽の製造及び賣買を副業となしたるが、後定款を改正して、鹽の製造及び賣買製藥等其他の化學工業を營むこととし、明治四十一年二月五日大日本鹽業株式會社と改稱するに至れり、爾來本社を移すこと八回に及び後現在の場所に移轉せり、又明治三十八年十月十日以降増資すること九回に及び現在四百萬圓の巨資を擁するに至る、業務の概要を擧ぐれば明治三十七年二月コークスの製造に着手し、同時に特許餘熱式装置に依り、再製鹽事業を開始し、三十七八年戰役に際し固形食鹽及び粉末味噌を製造して大に好評を博し、三十八年六月鹽專賣法施行せられ、關東州の租借せらるるや卒先利源の調査を爲し、産業發達の目的を以て千瀉地の貸下を仰ぎて鹽田を築造し天日鹽の製造販賣に従事し、爾來業務の發展に伴れて、漸次三大同業者たる東洋製鹽株式會社、滿韓鹽業株式會社、東亞鹽

業株式會社を合併して關東州鹽の製造販賣事業を統一せり、又大正六年十二月臺灣鹽業株式會社を合併し、臺灣鹽の移入販賣事業を繼承し、關東州、臺灣の鹽業は全然會社の一手に收むる處となる、現在の營業科目は、鹽の製造及賣買、製藥並に鹽を原料とする製造工業、殖林其他農業及之れに關聯する附帶事業、運輸及之れに關聯する附帶事業、鹽其多物品の保管寄託及賣買、船舶等並に倉庫業等なるが是れより先明治四十一年七月鹽賣捌規則實施以來、關東州鹽元賣捌人に指定せられ、又後青島鹽、臺灣鹽、元賣捌人の許可を得たり、大正十二年より船舶を自營となし、イーブル丸、高知丸、朝熊丸、遠江丸、運天丸、せいぬ丸、志摩丸、大順丸、孟買丸、大東丸の九艘其噸數五萬六十噸の船舶を所有運用し各地産鹽輸送の圓滿を期すると共に其餘力を以て船舶の賃貸一般貨物の輸送等海運界に活躍し、社

運益々隆盛にして今日の盛況を見るに至れり、現在の重役は下記の如し

- 取締役社長 狩野新次郎
- 取締役 今西林三郎
- 取締役 濱田 正稻
- 取締役 長崎 英造
- 取締役 花井島六郎
- 取締役 加藤左衛門
- 取締役 井田 亦吉
- 取締役 山本節次郎
- 監査役 三輪喜兵衛
- 監査役 工學博士渡邊嘉一



棚橋愛七君
從三位勳二等宮城控訴院長

君は東京府士族棚橋雲真君の三男にして元治元年十月を以て

文官普通懲戒員長を兼ね今日に至る、君は頭腦明晰にして司法部内に於ける明哲として錚々の名あり、現任仙臺市東二番町控訴院官舎内

大日本人造肥料株式會社

本社 東京市麹町區永樂町二ノ七
電話牛込六〇一四 六〇一五
四九九二 六八八〇
資本金總額金貳千貳百四十萬圓

當社は明治二十年二月工學博士高峰讓吉氏主唱の下に濫澤、大倉、安田、増田、淺野氏等我が財界の巨頭の後援を得て、資本金二十五萬圓を以て創立したる東京人造肥料株式會社の後身なり、創立後暫く一進一退の間に在りしが其の後社運の好況に伴ひ、明治二十九年資本金を五十萬圓に増加し、更に同三十二年再度増資して七十五萬圓となす、日露戰役後の需要激増に促されて、三十九年十二月百五十一萬圓に増資して工場を増設し、四十一年三月更に三百萬圓

に増設し、四十一年三月更に三百萬圓に増資し、同年八月北海道人造肥料株式會社及び帝國肥料株式會社を合併し、同時に五度増資を決定して、資本金四百萬圓となし、翌四十二年十二月攝津製油株式會社を買収し、其の翌四十三年七月大阪硫曹株式會社を合併すると同時に、更に六百二十五萬圓に増資を行ひ、同年十月社名を現今の大日本人造肥料株式會社と改稱し、大正二年一月七度増資して千二百五十萬圓となし、同七年九月中國肥料株式會社を合併して、百萬圓を増して、後ち總額三千萬圓の巨資を擁するに至れるが後社内整理改革を行ひ現在の二千二百四十萬圓に減資して堅實なる方針を執れり、會社の事業科目は肥料、硫酸、油脂其他化學工業品の製造、鑛業並に製鍊業及び前記の原料及製品の賣買並に之に關聯する事業を營むものなるが、工場は東京に二ヶ所、大阪に四ヶ所、横濱、函館、下關

七尾に各一ヶ所を有し其販路たる日本全國は勿論南洋、印度、支那、滿洲、朝鮮等にして就中滿洲に於ては會社の人造肥料を以て獨占たるの盛況にあり、又精製硫酸は横濱工場の製造に係り、他の模倣を容さざるものありて、電氣機械業者並に海軍等に盛んに愛用せらる、會社今後發展は隆々旺々なるべきは期して待つ可く、現在の重役以下の如し

- 取締役社長 田中榮八郎
- 專務取締役 二神 駿吉
- 取締役 室田 義文
- 取締役 竹原友三郎
- 取締役 益田 太郎
- 取締役 村井貞之助
- 取締役 山岡 倭
- 取締役 千葉 清
- 取締役 石川 一郎
- 取締役 苦米地義三
- 監査役 松岡 修三
- 監査役 小西喜兵衛
- 監査役 松村 光三

田島達策君

群馬電力株式會社社長

君は群馬縣の人田島長十郎君の二男にして安政五年五月を以て生れたり前名を達作と云へり專修大學を卒業す、現時東武運送倉庫、西上電氣株式會社各取締役及日本運送株式會社相談役三隣合資會社代表者等に就任す會て衆議院議員に擧げられたり家族は令閨やす子、男庄太郎君あり

田淵榮次郎君

實業家

君は廣島縣人田淵善太郎君の長男にして明治二年六月の出生なり、現時日高銀行の監査役、日高川水力電氣、旭セメント株式會社各取締役及び尙田巴紡績株式會社の監査役たり、令閨は池田喜作君の長女カメヨにして其の間に男榮一君、女奈美子等あり、伯母イナ子は其子を伴ひ

て一家をなせり

〔現任〕和歌山縣日高郡御坊町

〔電話〕二一

田中清文君

貴族院議員

君は富山縣人有川甚造君の二男にして明治五年十月を以て生れたり、前名を文次郎と呼び先代清二君の養嗣子たり、東京法學院を卒業す、明治三十六年以降富山縣會議員、同副議長、衆議院議員等に擧げられ、大正七年に貴族院議員に互選せらる、富山縣の多額納稅者にして北陸商業銀行、田中貯金銀行各頭取中越銀行、莊川木材株式會社取締役等をつとむ、令閨ミネ子は同縣人高堂三郎君の長女にして家族は尙養子清雄君あり

田中國重君

陸軍少將

君は鹿兒島縣士族田中國高君の長男にして明治二年十二月を

以て生る、夙に陸軍大學校を卒業す、明治二十七年陸軍騎兵少尉に任じ大正七年陸軍少將に陞任す其間軍馬補充部本部員、騎兵第十聯隊長、參謀本部々員騎兵實施學校教官、米國大使官附武官、騎兵第十六聯隊長侍從武官兼軍事參議院幹事、英國大使館附武官等に歴補せり、家族は尙父國高君、令閨多喜子あり

田中卯三郎君

神戸汽船信託株式會社取締役

君は新潟縣人田中健次衛門君の二男にして明治十二年十月を以て生る、現時神戸汽船信託株式會社取締役たり、令閨の志津榮は奈良縣人正岡久延君の二女にして其間に一男三女を有す、姉イク子は新潟縣人小西六二郎長男六郎君に嫁し、弟政君は同縣人渡邊多四郎君に、同九郎君は同縣人鷲尾庄七君に各養子となれり

〔現住〕神戸市平野五宮町一〇九

〔電話〕本局四一八四

田中宗重君

補綴銀行頭取

君は山梨縣人田中光祿君の長男にして文久二年三月を以て生れたり、現時補綴銀行の頭取たり、令閨チカ子は土屋半兵衛君の長女にして其間に一男二女あり、長男英信君は兵庫縣士族三宅馨君の姪正子を娶り、長女清次子は山梨縣人田中英實長男喜康君に嫁し、又二女まさのは同縣人中込豊松長男勉一君に嫁き弟の喜章君は同縣人中澤賢治君の入夫となりたり

〔現住〕山梨縣中巨摩郡花輪村

田中右橋君

元奈良縣地方裁判所長

君は鹿兒島縣士族末田景春君の二男にして明治八年七月を以て生る先代太郎太君の養子たり明治三十五年東京帝國大學法科大學を卒業し爾來大阪地方裁判所、同區裁判所、同控訴院各判

事大阪地方裁判所部長等に歴補す、令閨をちよ子と云ひ宮城縣人橋本信次郎君の妹にして兩人の間に二男四女あり

〔現住〕奈良縣奈良市大登町

田中德義君

山口銀行東京支店長

君は東京府士族田中德本君の長男にして元治元年十二月を以て生る、現時山口銀行東京支店長たり、家族は令閨ろく子、女俊子、孫芳野、孫滋子等にして三女秀子は岐阜縣人菱田秀子叔父靜治君に嫁き、四女早苗は宮城縣人推川光遠長男恒君の許に嫁きたり

〔現住〕東京市外濫谷町下濫谷六

一九

田中萬逸君

衆議院議員

君は大阪府人田中新造君の長男にして明治十五年九月を以て生る、大阪府立農學校及早稻田大學等に學ぶ、曩に報知新聞記

者となる、皇后の榮、雲上秘録京都御所等の著あり、大正六年以來代議士に當選すること三回に及ぶ、早稻田鑛山株式會社取締役、石切土地建物會社監査役たり、弟新治君は大阪府人神田彌太郎君長女ハル子を娶り、女咲子は東京府人鈴木壽夫君の許に嫁きたり

〔現住〕東京市下谷區上野櫻木町一七五

田中四郎左衛門君

織物問屋

君は東京府人田中四郎左衛門君の男にして、明治十七年十一月を以て生る、前名を鍊之助と云へり、明治四十三年早稻田大學專門部政治經濟部を卒業す、日本絹布紡績株式會社社長、日章信託株式會社取締役會長、日章火災海上保險株式會社專務取締役、關東機械ナット、白木屋呉服店各株式會社の取締役たり尙織物問屋を業とす、令閨千代子は三井養之助君の二女にして其

間に四男あり、妹の泰子は東京府人馬越恭平君二男幸次郎君に嫁きたり

〔現住〕東京市麴町區三番町七

田中盛秀君

豫備陸軍中將

君は鹿兒島縣士族田中盛善君の長男にして慶應二年の八月を以て生る、明治二十年海軍少尉に任せられ大正五年海軍中將に陞仕せらる、其間海軍兵學校の監事、艦隊參謀、海軍艦政本部々員、常磐副長、明石嚴島淺間周防攝津各艦長及佐世保海軍工廠造兵部長、舞鶴、横須賀各海軍工廠長等に歴補せり、令閨豊子は子爵岩下家一君の姉にして兩人の間に三男一女あり、妹のヒロ子は鹿兒島縣人指宿武吉君に嫁きたり

〔現住〕北海道室蘭日本製鋼所宅

田中丸善藏君

實業家

君は佐賀縣人田中丸善藏君の

た 之 部

長男にして明治十四年一月を以て生る、前名を善吉と云へり現在記諸會社の重役たり、田中丸商店代表者、佐世保用達合名會社代表者、南洋貿易、日本油脂南洋殖産、肥前肥料、佐世保魚市場、高砂麥酒、日高造船所、大日本球珠株式會社各取締役、東洋油脂株式會社監査役に就任す令閨をタネ子と云ひ佐賀縣人石川又八君の妹にして兩人の間に六男二女あり

田口重一君

東京式取引所一般取引員

君は立志傳中の人なり、明治五年八月を以て東京日本橋區蠣殼町に生る、君人と爲り豪堅にして秀雋なり、夙に慶應義塾に入りて學びたりしが、幼より蒲柳にして病弱なりし爲め、學半ばにして退學の止むなきに至る生家は當時酒商を營みしを以て君修業の爲めとして某酒問屋に

入り、勤積する事八年に及びり業概ね通せしも志元より斯業に在らず、二十一歳にして斷然此所を捨て、北海道に去り、先づ函館に到り、進んで北海内地を視察し、所謂北海道利を搜りしも、而も君が志を試むべきの地なし即ち在留半歳にして再び東京に歸り、中央財界に活躍せんとせしも、資力あらず、爲めに事を成すを得ず、遂に志を離して横濱の生糸問屋神榮株式會社に入り、支店員となる、而も君の敏捷なる商才は遺憾なく發揮せられて横濱にある三年間にして數千圓を利したり、偶東京商品取引所にて其取引商品中に生絲を加へ、横濱生絲商中より仲買人十名を募るや、君は之に應じて仲買人となりたり、時に年齡漸く二十五歳なりき、然れども東京に於ける生絲取引は盛なりと云ふべからず、君の所期に反し甚しかりしより、三十年横濱市南仲通りに轉じ横濱生絲仲買人として獨立開業し奮闘經

營すること二ヶ年餘に及びたるが、後日露戰爭の起るや、財界大に爲すべきものあるを看取し東京に出で株式仲買人大澤幸次郎氏の店に入り精勵克く同氏を助けて業務の發展を計るあり、而も君の炯眼適中して一舉巨萬の利を得たり、而も君の堅實なる方針を好むや、浮沈定めなき株式界に常住するを可とせず別に確固たる基礎を有せざるべからずとなし、三十九年合資會社電氣商會を買収し、神田鎌倉河岸に事務所を置きて經營に努め後千代田電氣合資會社と改稱せり、同四十年支那に渡り滿洲方面に漫遊し、彼の地の事業界經濟界の事情を視察研究する事二ヶ年餘にして歸朝し、同四十年製紙事業を開始せるが、後轉じて現住所に田口商店を創立し再び輪瀛界に活躍する處あり爾來斯界に信望厚く業務益々發展して今日に至る、其間共同貯金株式會社取締役、相川電燈株式會社監査役、帝國瓦斯電力株式會

社監査役、津屋崎電燈株式會社
 監査役の要職にありしが感ずる
 處あり後辭職せり、君は東京株
 式取引組合委員にして大震災後
 の復興に多大の盡力をなし今や
 同組合の副委員長に擧げられ、
 亦現時市場移轉問題及び限月問
 題等に就いて最も努力し斯界の
 爲めに貢献する處實に甚大なる
 ものあり、従つて君の名聲益々
 斯界に隆々たるものあり、君は
 趣味として園藝、書畫等に造詣
 頗る深し、家族は令閨とみ子を
 首めとして五男一女あり長男太
 一郎君、二男眞二君、三男一雄
 君、四男義一君、五男五郎君、
 女シゲ子あり

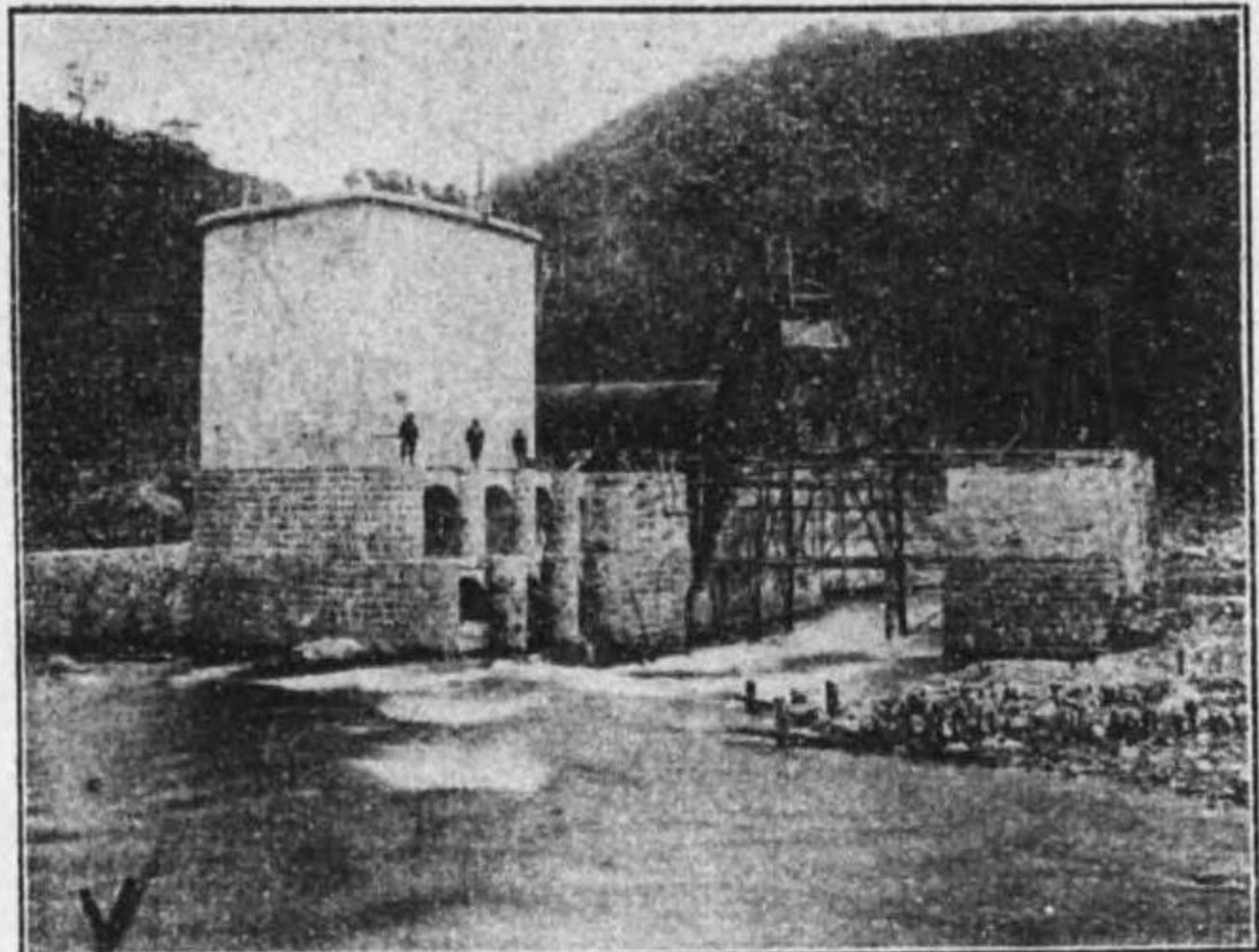
- 〔商店〕東京市日本橋區坂本町一
 二 〔電話〕大手七二二、二三三五
- 五 〔現住〕東京市赤坂區靈南坂
 町一五 〔電話〕芝三八四

高橋秀一郎君

辨慶自動車商會主

曰く時は維金なり、曰く時間
 は眞理を發見す、曰く時間は畢

今日に到る迄完成竣工したる重
 なる工事を擧ぐれば明治四十四
 年鬼怒川水力電氣第一期水力土
 木工事、本社建築工事、翌四十



五年東京四谷見付橋工事、大正
 元年市ヶ谷見付九段坂市區改正
 工事、同二年帝國大學理科大學
 教室工事、同三年鐵橋新架工事

竟萬事を定むと、歐米人は尤も
 時間の觀念に富み、時間を節約
 するの設備に於ては、巨費を投
 じて敢て吝まざるなり、文明の
 利器たる汽車、電車、自動車更
 に飛行機、皆是れ時間を節約す
 るの具にして、其進歩發展の狀
 は殆んど停止する處を知らず、
 今我國に於ける自動車の數は頓



田淵源次郎君

田淵組主

土木建築石材販賣請負業

に激増して都市は勿論僻遠の地
 に到りても之を見ざるなきに至
 りしが、其輸入運轉の先驅たる
 ものを高橋秀一郎君なりとす、
 君は東京の人明治十八年六月二
 八日を以て生る、幼少より敏達
 果敢の資あり、小學教育の終る
 や、機械工學の將來有望なるに
 着目して之に志し、工手學校に
 入り専ら機械工業に關する科目

を専攻し、學識大に擧り、優秀
 の成績を以て卒業せり、時偶々
 我國に初めて自動車の渡來する
 あり、君茲に於てか機到るとな
 し、斯業界に入り、爾來斯界長
 足の發展に伴に、業績亦大に擧
 り遂に辨慶自動車商會を設立致
 したるが時恰も時運に投じたる
 を以て業務益々隆盛に赴き、今
 日の成功を贏ち得るに至れり、
 君の炯眼亦非凡なりと云ふべし
 四男一女あり、家庭頗る圓滿な
 り

- 〔現住〕東京市芝區三田松坂町一
 〔電話〕高輪二四九〇

良なるとの點に於て、彼の兵庫
 の御影の産に優れるは動かすべ
 からざるの定評あり、生家代々
 石材業を營みて其信望郷黨に冠
 絶せり、君幼少にして志を立て
 上京し、十二歳に至り石材業者
 木本氏の徒弟となり恪勤精勵克
 く主家の爲めに盡し、具さに實
 驗を收めて以て他日雄飛の素地
 を作るに勉めたりしが、果然機
 會は到來して、明治三十四年獨
 立以て開業するや、直ちに東都
 の中樞地に在りて、名物の一と
 なる京橋の架橋工事を請負ひ
 擬寶珠附きの曲雅なる純日本式
 を採り石を材料として之を建造
 したるが、その工事堅實鞏固に
 して技術の精巧優美今日の疎造
 濫作の物と日を同うして語るべ
 きに非ず、之れ君が初陣を壯に
 し美にしたる卓異の事業なり、
 後明治三十八年には同郷なる中
 野喜三郎氏經營の中野工業部の
 囑望に應じ入りて其主任を囑托
 され經營の衝に當り専ら同氏を
 補佐して功績頗る大なりき、君

同四年靈岸橋工事、笛吹川第二
 期改修工事、同五年天王寺第三
 小學校増築工事、同七年木津第
 二小學校新築工事、同八年天王
 寺第六小學校新築工事、國技館
 建築工事、難波第八小學校新築
 工事、同九年京濱運河新設工事
 川崎銀行橫濱支店同十年鬼怒川
 水力竹ノ澤第二期水力工事、惠
 美第三小學校増築工事、大阪警
 察部住宅新築工事同十一年鶴橋
 第三小學校新築工事、神戸税關
 上屋新築工事、鬼怒川水力電氣
 第三期工事、同十二年鬼怒川水
 力電氣高德發電所新築工事、川
 崎銀行下屋支店建築工事、千曲
 川橋梁架設附軌道工事等にして
 更に國民崇敬の中心たる明治神
 宮御造營に際し、壯嚴典雅なる
 彼の神宮橋新設工事を拜命し二
 十八萬餘圓の巨資を投じて芽出
 度く竣工せるは君の一代の光榮
 とする所なり田淵組は今や事務
 所を東京、大阪、栃木、長野等
 に設け、専ら君之が總率者とな
 り、加ふるに令弟田淵千萬造君

經營の任に當れり、千萬造君は
 年齒方に二十六歳にして新進氣
 鋭の敏腕を以て令兄を補佐し、
 成績頗る大なるものあり、同組
 の斯界に於ける盛名隆々たるも
 のある眞に故なきにあらざる同組
 は今や事務所を東京市京橋區元
 數寄屋町二丁目八番地に、出張
 所を大阪南區天王寺夕陽丘町五
 九七四番地、栃木縣今市町春日
 丁、長野縣上田市北天神町一九
 一四番に置き旺々なる鵬翼を張
 り業務益々進展の況にあり

- 〔現住〕東京市外千駄ヶ谷町八五
 六 〔電話〕四谷三一二
- 〔事務所電話〕銀座二八六二、二
 〇九八

大安生命保險株式會社

本社 横濱市本町六ノ八四
 東京支社 東京市京橋區南金
 六町一五
 電話 青山四八八〇
 資本金壹百萬圓

社會の進運と共に保險事業は
 益々其必要を感じ、保險會社の

續出するもの殆んど枚擧に遑あ
 らず、各特長を持して相競ふの
 状態なり、然れども一長一短容
 易に其の優劣を判定すべからず
 而も十目の視る處、其基礎の鞏
 固にして信用の最も厚きものに
 大安生命保險會社あり、會社は
 大正三年三月資本金壹百萬圓を
 以て創立せられたるものにして
 創業日尙は淺しと雖も、其施設
 は最も進歩したる方法により、
 相互組織と株式組織とを折衷し
 長を執り短を捨て、一新規軸を
 出して經營に當り、斯界一方の
 雄と認めらる、其保險種類は普
 通、特種の二種にして、何れも
 被保險者に利益する所多く一般
 の會社に比して特長多し、此を
 以て業務逐年隆昌に赴き、本店
 を横濱に置き、支社を東京、大
 阪、九州、横濱等に支社京都、
 東北、廣島、名古屋、札幌、金
 澤等をに設け、其他全國到る處
 樞要地に出張所代理店を配置し
 相呼應して活動し、優秀なる成
 果を收めつゝあり、序に、會社

現在重役左の如し
 取締役社長 木村庫之助
 専務取締役 白井 大翼
 取締役 岩田惣三郎
 取締役 上郎 清助
 取締役 日比野芳太郎
 監査役 大西 良輔
 監査役 岩田常右衛門
 監査役 久賀 六郎
 醫學博士 淺野總一郎
 相談役 渡邊福三郎
 顧問 根津嘉一郎



伊達源一郎君

東方通信社社長

君は島根の人、明治十年三月十五日を以て同縣能義郡井尻村に生る、小學を卒へてより京都に出で、同志社に入りて専ら西

洋史を學び、三十二年卒業と同時
 時に同校助教となりしが、三十四年操觚界に志し、國民新聞社に入りて外交部記者となれり入社後久しく表面に出でず、主として外國新聞雜誌の翻譯に任じ、造詣淺からざるものあり、民友社出版に係る譯書にして君の手に成れるもの甚だ多く、彼の「近世の外交」及び「帝國主義」の如き皆然り、明治三十九年徳富蘇峰君と共に支那各地を歴遊してより、名聲頓に揚り、屢々滿鮮各地を往復し、靈犀なる觀察は鋭利なる論鋒となりて言論界を賑はし、同社の爲めに萬丈の氣焔を吐けり、越えて四十三年歐米各地巡歴の途に上り、専ら新聞事業の視察をなし、翌四十四年歸朝す、即ち同社編輯局長兼理事となり、大に手腕を揮ひて社會を指導し以て操觚界に重きをなすに至りしが、大正四年遂に同社を辭し、國際通信社を起して斯界に貢獻する所尠からず、大正七年讀賣新聞社に入

りてその主筆となる、大正八年講和會議開かるゝや直に佛國巴里に趣き、陽に會議の爲めに盡し、又その透徹せる觀察を報導して洛陽の紙價を高からしめ、同業者間に重きを成せしが、和議成りて後大正九年歸朝し、間もあく同社を辭して自ら東方通信社を起し、目下その社長として奮闘活躍せらる、君は又青年を愛すること深く、常に全國青年團の爲めに盡し、現時日本青年會館理事の職にありて、青年團の爲には最善の努力を惜ま

竹村欽次郎君

日本國債株式會社社長
富士身延鐵道株式會社取締役

君は山形縣の人、古瀬鐵之助君の五男にして、文久三年一月最上郡新庄町に呱呱の聲を擧ぐ長するに及び竹村勝行君の養子となり、同姓を冒す、夙に大志を抱き、上京して明治十九年東京帝國大學法科大學に入り、同二十一年拔群の成績を以て卒業し、直ちに職を奉じて大藏省主税官に任じ、次で同二十六年主

税長となり、各地方に出張して好成績を收め、同三十一年大藏省理財局國庫課長を命せられ令名頗る高し、而も君實業界に望を屬し、同三十二年遂に國庫課長の職を辭し、日本鐵道株式會社に入り會計課長に任じ、間もなく同社經理課長に榮轉せしが辭して、同三十八年小野田セメント製造株式會社に入り推されて同社の取締役に任じ同三十九年三月更に日本興業銀行に入り波佐見金山の會計監督として同四十二年迄勤務す、斯くして君は學界、官界、實業界及鑛山業の全般に、わたる智識を具有し爾來鐵道に、鑛山に、開拓に、或は顧問となり、又は會社の發企人となり學識兼備の紳士として、推獎せらるゝに至る、同十四年富士身延鐵道株式會社を創立し之が取締役に就任す、又大正十二年日本國債株式會社社長に任じ、其蘊蓄を傾けて經營す、社業益々隆盛に趣く、又故ありと云ふべし、尙君は外數會



平久次郎君

帝國公債株式會社常務取締役

社に重役として、日夜忙殺せられつゝあり、明治四十五年選ばれて、衆議院議員たり、令聞を貞子と呼び淑徳の譽高し
 【現住】東京市本郷區西片町一〇
 【電話】小石川一七六六

君は石川縣の人なり、明治十六年八月三十日を以て生る、函館商船學校を卒業す、夙に大志を抱き、航海術研究の爲め、明治三十七年北米桑港に渡航し、刻苦勉勵研鑽する事二ヶ年餘、大に得る處あり、同三十九年歸朝し、四十年海技の免狀を授けられ、船舶職員となりしも、實業界に志し、同四十二年斷然職

大道良太君

東京市電氣局長

を辭し、先づ保險會社に入り具さに斯業の情況を視察し、更に同四十四年、帝國公債株式會社に入社し、精勤努力、大に社業に盡す處あり、現時同社常務取締役に任じ、縦横の快腕を揮ひて社運益隆盛を來す、君の功績亦大なりと云ふべし、君は尙帝國實業株式會社、東海印刷株式會社各常務取締役、千島拓殖株式會社取締役を兼ね、巧妙なる經營の下に異常の成績を收めつゝあり、君は本年五月衆議院議員總選舉に際し、候補の名乗を上げ、政界の巨頭横山勝太郎氏を敵とし、奮戦努力屢敵壘に迫る處ありしも不幸、時利あらず落選の憂目を見るに至る、而も君更に意とせず、捲土重來の策を立て、次回の總選舉を待ちつゝあり、又壯とすべし、令聞との間に三男三女を有し、圓滿なる家庭をなす
 【現住】東京市外西巢鴨町新田七四四
 【電話】小石川七〇四一

君は滋賀縣野州郡守山町の人なり、明治十二年を以て生る、幼にして聰明、夙に大志を抱き京都に遊び、京都帝國大學政治科に入學す、明治三十五年、在學中既に文官高等試驗に合格し同三十六年優等の成績を以て同科を卒業、恩賜の銀時計を拜受す以て如何に君が衆人に優れたるを知るに足らん、卒業後直ちに内務省地方局に入り精勵する處あり、同三十七年内務大臣秘書官となり、同省參事官に任ず次で逓信大臣秘書官に轉じ、同省參事官、書記官等を経て、明治四十一年國有鐵道の實施と同時に、帝國鐵道廳の參事に任じ、爾來同廳の秘書官、理事等を歴補し、大正四年鐵道院理事門司、神戸、東京の各鐵道局長の要職に就き、快刀亂麻を斷つが如き手腕を揮ひ、名局長の令名頗る高し、大正十三年九月八

日推されて東京市電氣局長の榮職を奉じ、銳意同局の善改に腐心しつゝあり、君が快腕、市民の期待に背かざるものあらむ、夫人莊子は貞淑の譽高く長男太郎君は目下東京商等學校に在學中、長女初子、二女巳代子は何れも高等女學校出の才媛にして家庭頗る圓海なりと云ふ

〔現住〕東京市四谷區内藤町一



田中李次郎君

田中商事株式會社社長 東京
理化學器械同業組合長 東京
實業組合聯合會常務理事

凡そ一事を起し、一業を成すに容易ならざるを、幾多の創作、考案、發明、製造等之くとして可ならざるなき才能を發揮

し、刻苦勉勵、惡戰苦闘、業なり名遂げて、國家公益に貢獻する處頗る多く、尙理化學器械業者として本邦に於てその右に出ずる者なしと迄謳はるる田中李次郎君は、資性聰明又頗る研究心に富む、明治三十六年東京丸の内田中合名會社を起し、先づ新進の學者を顧問とし、又自ら歐米に渡り、具さに泰西の文物を視察し、歸來附屬工場を設け、専ら理化學器械輸出入並に製作販賣に従事し業績日に上る即ち大正七年十月組織を變更して田中商事株式會社に改め、爾來社業益々發展し遂に今日の隆盛を見るに至る、一つに君が英才、努力の賜物と云ふべし、明治二十八年の頃、外國品輸入防遏の一助として、顯微鏡の製作を企て、苦心慘澹、遂に獨逸品に優る良品を創作し得て三十年來の宿志初めて酬ひられ、田中式顯微鏡の名中外に高し、又三十五年大森博士が養蠶改良の爲め發見せる「ホルマリン」は微

朝鮮、支那に迄汎布せられ、君が名聲を謳ひつゝありと云ふ、又偉なる哉

〔現住〕東京市赤坂區青山南町六ノ一二七 電話 青山三二九四 四三四六、一〇八五

建築土木 田村事務所

設計監督

一國文化の進展に従ひ、土木建築の事業大に進み、土木建築事業の隆盛は其國興隆の基をなす、土木の業亦重大なる使命を有するものと云ふべし、當田村事務所は神戸市平野町天王谷、田村啓三君の經營に成る、君斯業に造詣深く、而も經營の才に富む、大正十一年五月、先づ事務所を東京市丸の内仲通十五號に創設し縦横の手腕を揮ふ、事業次第に發展するや、大阪、神戸の各地に事務所を開き、専ら建築土木設計監督の業務に従事し、技術の優秀なると、懇切迅速なるとは忽ち斯界に頭角をばはし、顧客の信用頗る厚し、

宜なる哉、開業以來僅々三年既にこの隆盛を見る、一つに君が快腕の然らしむる處とは云へ、亦當所技術者諸君の優秀なる技術に據る處尠からず、所主田村君以下主なる技術者左の如し

所主工學士 田村啓三
建築士 千賀正人
工學士 小林 東

〔所在地〕東京市丸の内仲通十五號館 電話 丸の内六二二一八
〔事務所〕大阪市北區中ノ島二丁目久原鐵業株式會社内 電話 丸の内本局二六〇一二六四
〔事務所〕神戸市古湊通四ノ二五 電話 丸の内本局三九二

高橋本枝君

古河理化學研究所長

君は宮城縣の人なり、明治十年五月を以て、東京市芝區愛宕下町に呱呱の聲を上ぐ、幼にして聰明、衆に優る、長するに及び、電氣工學が將來最も有望有利にして、而も國家を裨益する處大なるべきに思ひを致し、京

都帝國大學工科大學電氣科に入り、研讀勉學日夜怠らず、明治三十四年拔群の成績を以て同大學を卒業す、直ちに古河鐵業會社に聘せられ、入りて學術を實地に應用し、成績頗る上る中途古河商事株式會社に轉じ、信任益々加はり、參事の要職に就き優秀なる技術を揮ひ、精勵する處あり、更に古河電氣工業株式會社に入り、現に古河理化學研究所々長に任じ、多年の蘊蓄を傾けて、業績大に上る、三度その會社を變へたりと雖も、これ皆古河一家の經營する處にしてその各社に勤務して、些の違漏なく、榮轉又榮轉、以て今日の地位を贏ち得たるは、全く君が明晰なる頭腦と、快活なる手腕とに據る處なり、君性質温厚實質、而も亦篤學、常にその研究を怠らず、寢食を忘れて、研鑽に耽けると云ふ、感すべき哉、君夙に易直君の養嗣子となり、高橋姓を冒す、男子三人を有し團樂の家庭をなす

〔現住〕東京市外住原郡大井町一 一九三

株式 高島屋呉服店

本店 京都市下京區丸高辻下ル
因幡堂町電話 五三八番
京都店 京都市下京區丸高辻松原上ル電話代表 二二番
大阪店 大阪市南區長堀橋南詰 電話南代表 三四番
東京店 東京市京橋區南傳馬町一丁目電話 銀座四六五五 五〇〇七 五〇〇八 五〇〇九 五〇一〇
電信署號「タ」又は「タカ」
資本金參百萬圓 拂込済

染色工藝の中心地たる京都に本店を有し、染色の改良と流行の指導とに力め三都に支店を置きて吳服百貨店界の一權威たる高島屋吳服店は、今を距る約百年前、初代飯田新七氏の創立に係り、爾來四代の星霜を閲し、後弘く海外貿易の業務を開始するに至り遂に明治四十二年組織を改めて高島屋飯田合名會社とな

し、同族力を合して之が經營の任に衝り、吳服貿易の二業共に益擴張發展するに従ひ、大正五年十一月高島屋飯田株式會社を創立して専ら海外貿易に關する業務の經營に當らしめ、更に大正八年九月株式會社高島屋吳服店を新設して吳服に關する營業一切を繼承して三都に店舗を有し、特長ある百貨店として隆々發展し今日に至る、本店は京都市下京區丸高辻に在りて全般の店務を總轄し、東京、大阪、京都に三支店を置き、其他各樞要地に出張所を設け、東西相呼應協力營業の進展を計り、今や高島屋なる屋號は、我國に於ける大吳服店の一として都鄙何人も知らざるものなく、堅實なる地盤を築き上げたたり、今同店の營業科目を擧示するに吳服、木綿、洋物、雜貨、貴金屬、時計、洋服、靴、陶磁器、漆器、食料品、文房具並に室内裝飾、和洋家具、敷物、美術工藝品、刺繡工藝品等其他百般の雜貨に亘

れり、又同店の取扱數品は天下に定評ある本場仕込の優良品にして其染色品に優秀なる意匠の技術を有するは勿論更に室内裝飾家具の調達に於ても亦古くより幾多の經驗を得て他に比類なき特長を有し、凡て商品は優良なりとの高評を受け、古くより宮内省及各宮家の御用達を始め陸海軍、諸官衙の御用達を蒙り美術、刺繡、天鵝絨、友仙等美術品の製作には特に卓越せる意匠と技術を有せる工手を配備し頓に盛評ありて海外並に内國の博覽會共通會等に出品して優等賞を受けたること枚擧に遑あらず左れば之に信賴する顧客は常に充滿し、同店の業運益々盛況を呈しつゝあり、因に同店重役下記の如し

取締役社長 飯田政之助
 專務取締役 飯田新太郎
 常務取締役 田中 信吉
 取締役 飯田忠三郎
 取締役 飯田直次郎
 取締役 村松善次郎

取締役 三宅清次郎
 取締役 細原 和一
 監査役 飯田藤次郎
 監査役 服部晋次郎
 監査役 三宅福太郎
 相談役 飯田 新七

高田早苗君
 法學博士早稻田大學名譽學長

君は埼玉縣人高田貢平君の三男にして萬延元年三月を以て生る、明治七年大學豫備門に入り同十五年帝國大學文學部を卒業す、偶々東京專門學校の創設に及んで之が經營に盡力し、語學政治學、財政學、經濟學、審美學、憲法等の講座を擔任して名聲あり、明治三十年外務省通商局長と爲り翌年文部省勅任參事官となり高等學務局長を兼ね、又曾て文部大臣たりし事あり、明治二十三年第一國會開設と共に選出せられて議員となること六回に及び大正四年貴族院議員に勅任せらる、現時正四位勳一等法學博士たり、早稻田大學名譽學長にして同出版部取締役、並に日清印刷株式會社、日清生命保險株式會社の各相談役をも兼ね、令聞をふじ子と云ひ、男爵たる前島彌君の令姉にして家族は尙養子勇雄君、其妻きぬ子養子たつ子、孫梅子等あり

〔現住〕東京市本郷區駒込動坂町二二七 〔電話〕小石川八二六

そ 之 部

十合芳三郎君
十合吳服店代表社員

君は大阪の人秋元善右衛門君の二男にして、明治元年十二月を以て生る、同府十合伊兵衛君の養子となり、夫人きみ子と分家す、現に合名會社十合吳服店の代表社員たり、妻きみ子は養父伊兵衛君の長女にして、三男一女あり、信一君、芳隆君、薫君、ふみ子と云ふ〔現住〕大阪市西區北堀江通五ノ四七 〔電話〕西一〇四五番

十合秀太郎君
洋服商

君は大阪府十合伊兵衛君の長男にして、明治十三年九月を以て生る、夙に洋服商を營み、家業擧る、夫人タキ子は木下樟之助君の長女なり、一女を田鶴子と云ふ、姉きみ子は夫芳三郎君

祖父江久治君
證券買賣業

君は埼玉縣人石坂義雄君の四男にして同泰三君の弟たり。祖父江家に入る、明治二十四年五月を以て生る、證券買賣業を營み永樹商店と稱す、夫人ゆみ子は養父利一郎君の長女なり、一女あり園枝子と云ふ〔現住〕東京市日本衛區南茅場町四八

祖父江利一郎君
食料品商

君は前名を六三郎と呼び、東京市祖父江善量君の長男たり明治五年六月を以て生る、富久屋號の下に食料品店を經營す、夫人しやう子は愛知縣人小笠原歡凡君の養女なり、埼玉縣人石坂

祖父江重兵衛君
愛知物産株式會社社長 吳服商

君は愛知縣の人祖父江重兵衛君の孫にして明治十七年八月を以て生る、前名を萬治郎と云ふ吳服太物商を營み商號を絲重と稱す、現時愛知物産株式會社社長、朝日本管株式會社、服部商店、岐阜絹織物株式會社の取締役たり、夫人しやう子は同縣人加藤彦兵衛君の三女、養妹いと子は同縣人伊藤竹次郎君に、妹しづ子は滋賀縣人北川文男君に嫁す〔現住〕名古屋市中區七間町四ノ五〇 〔電話〕本二一〇〇

會和嘉一郎君
貿易商

君は京都府山田順之進君の二男にして、元治元年八月を以て

會我祐準君
正二位勳一等 子爵

君は舊柳川藩士會我祐興君の二男にして天保十四年十二月を以て生る、會我家は從五位會我祐信君の裔にして世々立花氏に仕ふ、君は初の海軍御用掛に任せられ、兵部大丞、教導團長、士官學校長、征東第四旅團、熊本鎮臺司令長官、參謀本部次長、仙臺鎮臺司令長官等に歴補す、明治十五年陸軍中將に進む、又明宮御養育主任、東宮大夫宮中顧問官たり、四回貴族院議員に選

生る、會和嘉兵衛君の養子となり分家す、現時株式會社會和商店取締役社長たり、愛媛縣人遠田六郎君の長女ステラ子を夫人とす、男英一郎君は現に會和商店取締役たり、外に敬二君、賣三君、勝子、孝子、彌生子の子女あり、英一郎君の夫人は兵頭雅譽君の四女にして花子と云ひ一子あり〔現住〕東京市京橋區銀座二ノ九

ばる、又會て日本鐵道株式會社
々長たり、夫人晟子は男爵華園
眞淳君の伯母にして長男を祐邦
君と云ふ、二女滿子は福岡縣士
族立花銑三郎君に、養女文子は
子爵谷儀一君に、同龍江子は男
爵東三條實敏君に嫁す、
〔現住〕東京市神田區駿河臺鈴木
町一四

會我祐邦君

從四位勳三等 日章火災海上再
保險株式會社取締役

君は子爵會我祐準君の長男に
して明治三年七月を以て生る、
夙に陸軍に入り現時後備陸軍砲
兵大尉なり、曩に第一ベイント
株式會社取締役、亞鉛鑛業株式
會社監査役たり、目下日章火災
海上再保險株式會社取締役、日
本電報通信社監査役たり、夫人
晟子は公爵鷹司信輔君の養姉、
男爵松園信淳君の養伯母にして
男祐文君、準和君、準定君、女清
子、盛子、友子あり〔現住東京
市外大久保町西大久保一四八

會田孝一郎君

正五位勳三等功四級陸軍少將

君は島根縣士族會田清三郎君
の兄にして明治五年十一月を以
て生る、先代美成君の養子とな
り明治二十七年陸軍士官學校、
同三十五年陸軍大學を卒業す、
同二十七年陸軍工兵少尉に任
じ大正七年陸軍少將に進む、軍
事研究の爲め歐米及支那に差遣
されたる事あり、陸軍大學校兵
學教官、參謀本部々員、陸軍技
術審査部議員、參謀本部課長、
近衛工兵大隊長、臺灣軍參謀長
鎮海灣要塞司令官等に歷任す、
夫人八重子は愛媛縣人杉本駿君
の二女にして男嶺一君、洋君、
祐吉君、豊池哉君、女里子、重
子あり
〔現住〕朝鮮慶尙南道

添田増男君

辯護士 特許辯理士

博識宏辯、加ふるに稜々たる
俠骨あり、夙に帝郡法曹界に絶



大の聲望を博し、公私の議員委
員に推され、侃諤の論議、以て
市區政並に社會の發展に貢献す
る頗る大、或は卒先市政革新會

を組織して政界刷新を怒號し、
幾多の腐腸漢をして慚愧戰慄せ
しめ、更に社會の難に赴きては
身を挺して我を忘るゝもの、眞
に男子中の男子たる添田増男君
の如き、眞に當代稀に見るの志
士なりと謂ふべし、君は大分縣
の人添田増平君の三男にして明
治七年七月二十五日を以て直入
郡明治村に生る、夙に雄志あり、
上京して明治三十二年中央大學
に入り法政經濟の學を專攻す、
君幼より俊雋にして頭腦極めて
明晰、加ふるに學に就きて頗る
熱誠なり、三十四年優等の成績

を以て卒業せり、君豫て卒業後
に於ける高等法學專攻の必要を
感じ、學長奥田義人男に建言し
て高等專攻科を設置せしめ三十
五年六法律學校研究會を組織
して君其幹事長に推さる、次で
日本大學特撰校友に推薦せられ
同大學高等專攻科に入り三十七
年首席を以て卒業し同年直に判
檢事試験に登第して司法官試補
に任せられ東京地方裁判所に職
を奉せしも幾許もなく官を辭し
て辯護士特許辯理士となり、民
刑事、特許事件、行政事件に關
し、蘊蓄を傾け、誠實其依囑に
應ずるや豊富なる學殖と超凡の
才幹とは忽ち社會の認むる所と
なり名聲頓に揚りて業務頗る振
ひ、遂に今日の大を爲すに至れ
り、君日本大學校友として母校
に盡す所多く、爾來日本法律學
士會副會長、同大學評議員、財
務部長、基金募集委員、同大學常
置委員、日本學士會第一部長、
大分縣法政學會幹事長に推され
又小石川區會議員等を兼ね、君

亦曾て小石川區の功勞者を掲げ
て論行賞を行はんと發起す、區
會は全會一致して可決し、君其
委員長に擧げらる、君資性温厚
にして着實毫も輕躁の風なく頗
る利慾に恬淡にして些の銜氣な
く加ふるに深淵、博大なる學殖
あり、而も其事務に處する豪宕
明敏、權威に屈せず、人に傲ら
ず、熱誠一度法廷に立つや辯論
縱横銳氣充溢時に熱舌熱火、時
に冷唇氷の如く激すれば案を叩
いて怒號し會て判檢事辯護士試
驗制度改正の事あるや、君奮然
私學の爲に起ち、試験制度改正
期成同盟會の會長に推され、私
學の爲に萬丈の氣焰を吐く、君
亦社會問題に就いては横暴なる
當局者に抗爭するを大に得意と
し殊に彼の日比谷事件、下谷鬼
女房殺事件、本所岩谷辨天本夫
殺事件の辯論に最も熱誠辛辣な
る手腕と雄邁なる快辯を揮ひ、
法曹界の花形役者となりしが就
中鬼女房殺事件に付き法廷に於
て論戰したる時の如き意氣軒昂

態度嚴肅言語莊重修辭整然一代
の論客として窘窮せしめ一世の
耳目を聳動せしめたり、又彼の
大震災の際の如き、君小石川區
内の名士有力者を糾合し、小石
川區聯合救護會を組織して救護
の事業に盡力せしは特筆すべき
事にして、今其組織を見るに區
會、區役所、小石川富坂警察署、
大塚警察署、市會議員、府會議
員、貴衆兩院議員等を以て設立
し、而して委員長一名理事八名
を選び、委員長及區長兩警察署
長は本部にありて總指揮に任じ
重要事項に就ては委員長及び理
事八名を以て決し、更に重大な
る事項に總會を開き其決議を以
て洩漏なく實行せり、當時小石
川區に避難するもの一日約七十
萬を以て算せり、以上は十一月
二十八日を以て廢止し更に小石
川區震災善後會を組織し、委員
として區長警察署長府會議員市
會區會議員方面委員長及本會の
推薦に據るものを以て組織し、
推薦會員五百三十名總て判事、

檢事、其他官公吏、區内在住學
者教育家、區内華族全部其他を
以てし、君其會長に擧げられ副
會長に笠間平右衛門、小石川區
長白鳥徳之助、治安部委員長に
區會議長松井綿吉、副委員長に
區會副議長徳永爲次、社會部委
員長太田菅次郎、副長に區會議
員三輪政一商工部委員長に黒川
傳次郎、都市計畫部委員長に府
會議員杉山金次郎、教育部委員
長に同會雌晴次郎等を以てし、
バラックの建設收容、區内寺院
及學校の解放、生活必需品の配
布等は町會員及青年團を以て之
に當らしめ町會長、住職、校長
各戸の收容者に對しては戸主に
責任を負はしめ、區内通過の罹
災者に對しては各所に炊出しを
爲し、出來得る限り飲食物及衣
服等を給與し、近縣救護品は警
視廳及府市と協議の上震災地全
部に配布し治安維持に就ては町
會、青年團等をして警察の指揮
を受け、窃盜、強盜、放火、殺
人等を未發に防がしめ區内に事

なきを得たり、事業として社會
部に於ては貧民乳兒並に老人病
者の保護、都市計劃部に於ては
市街の整理(復興院と市との計
劃に對する方法)又糧食供給に
就ては區内の特志家より仰ぎ、
米鹽蠟燭、味噌、澤庵、衣類、
薪炭等は總て買上げとし各國又
は各縣よりの寄贈品、寄附金を
以てトタン板、バラック材料を
買入れ罹災者に給與せり、當時
淺草公園にありたる罹災者五萬
人は五日間の斷食にありたるを
庶務係長よりの救助に依り米を
供給せらる、斯の如く君の崇高
なる奉公の精神は幾百萬の避
難者を救護して遺憾なきものあ
り爲めに君は絶大の名譽を博し
たり、今又政界刷新を以て任じ
斯界に鵬翼を張らんとす、君や
尙春秋に富む將來の大成就し割
目すべきなり、夫人とめ子は貞
淑の資、松子、信子の二女あり
〔現住東京市小石川區西江戸川
町三(電話)園小石川三三三〇

會根正命君

實業家

君は愛媛縣士族藤枝恭君の二男にして、先代會根省三君の養子となる、安政五年六月を以て生る、現時加古川製糖株式會社兵庫水産株式會社、神戸木工株式會社、大正信託株式會社、愛媛鐵道株式會社の各取締役にして尚神戸醋酸工業株式會社の監査役たり、家族は夫人ユカ子(得能亞斯登君の長女)養子傳君(城戸龜衛君の三男にして、東京古河銀行大阪支店長たり)女ハル子(傳君の妻)男正實君、女庚子、園子、桃子あり、尙二女多保子は大阪府の人木津榮三郎君に、三女鐵子は兵庫縣人石川清君に嫁し、六女勝子は愛媛縣士族大高五郎君の養女となる

(現住)神戸市湊町三ノ十一 (電話)本八二五

× × × × ×

會根安輔君

從四位 子爵

君は子爵會根荒助君の長男にして、明治十三年十二月を以て生る、嚴父荒助君は舊山口藩士たり、初め軍籍に入りしも、佛國に留學してより轉じて法制局參事官、内閣記録局長、同官報局長、衆議院書記官長、佛國、スペイン等の駐劄特命全權公使司法大臣、農商務大臣、大藏大臣、樞密顧問官、馬政局長官、韓國副統監同統監等に歴任し、又衆議院議員 選ばれ、副議長となる、後勅選せられて貴族院議員となり、日英同盟の功により男爵を授けられ、日露事件の功により子爵に陞さる、君は明治四十三年襲ふて子爵となる、母君テル子は祖父祥藏君の長女、夫人マヌ子は菊池常三郎君の長女なり、長男昌孝君、長女初子、二女君子、三女税子、四女高子、二男寛二君あり、外に弟駒雄君、同冬來君、令妹敏

子あり、弟寛治君は伯爵芳川家に入りて當主たり、同豊三君、又男君は分家す (現住)東京府下澁谷町青山北町七ノ一

會野作太郎君

實業家

君は兵庫縣人廣田嘉兵衛君の二男にして、明治八年一月を以て生る、先代作太郎君の養子たり、現に會根商店代表社員、株式會社京都取引所監査役たり、信託業を營む、夫人ヤヌ子は養父嘉兵衛君の二女にして、作次郎君、喜美子、惠美子、幸子、福子、安子、秋三郎君の諸子あり、弟米三君は瀧川ヤヌ子の養子となる、同安次郎君は分家す (現住)京都市下京區寺町通四條下ル (電話)園下二一

外海鐵次郎君

丸合資會社代表社員

君は慶應二年五月生、滋賀縣人田附甚五郎君の弟にして、先代いか子の養子となる、現時丸

會山親民君

元鐵道省監督局技術課長

君は鹿兒島縣士族會山庸君の長男にして、明治三年三月を以て生る、明治二十八年帝國大學工科大學を卒業し、鐵道技術師、帝國鐵道廳技術師、鐵道院技術師、門司、東部の各鐵道管理局工務課長、鐵道省内務技術師、監督局技術課長等に歴任す、夫人ヒサ子は同縣人湯知精一郎君の三女にして男親重君あり、尙家族に二男親俊君あり、妹とし子は陸軍三等主計正島田鶴之助君に、同しす子は海軍大佐伊集院兼誠

君に嫁す (現住)東京市本郷區駒込運動坂町三七〇 (電話)小石川三七〇五

相馬伊右衛門君

吳服商

君は大阪府人相馬伊右衛門君の二男にして、慶應元年七月を以て生る、營業は吳服商なり、大阪府人谷村弘忠君の長女を以て妻とす、名を梅菊子と云ふ、男賢太郎君(夫人未尾子は廣海惣太郎君の妹)政之助君(夫人ラツ子は谷村伊右衛門君の妹)あり、尙妹をい子は大阪府人小林林之助君に嫁す、賢太郎君に一郎君、とせ子、瑠璃子、金次郎君の諸子あり

(現住)大阪府東區上綿屋町一一五 (電話)園南三七七

相馬市作君

百十三銀行取締役

君は北海道の人竹内長三郎君の二男なり、萬延元年十二月を以て生る、相馬哲平君の養子と

なり分家す、現時株式會社百十三銀行取締役株式會社相馬商店の取締役たり、夫人をクワ子と云ふ、養父哲平君の長女なり、家族に男五一郎君、英二君、女キヨ子、トモ子、養子雄二君、令孫伊久子、陽一君、嘉久子、駿一君、佐和子、泰二君あり (現住)函館市大町 (電話)五四四

相馬半治君

明治製糖株式會社社長

君は愛知縣士族田中庸次郎君の弟にして、明治二年七月を以て生る、同三十八年相馬姓を襲ふ、同二十九年東京高等工業學校を卒業し直ちに米國及び獨逸に留學し、糖業及砂糖學理分析等を研究す、歸朝後東京高等工業學校教授に任じ、臨時臺灣糖務局技師を兼ね、曩に大正製菓株式會社の取締役たり、同三十七年大藏省及臺灣總督府より本邦糖業調査を囑託さる、現時明治製糖株式會社、スマトラ興業株式會社の各社長たり、尙日本

相馬長治郎君

實業家

君は山形縣人相馬國治郎君の長男にして分家す、明治十五年三月を以て生る、現に鶴岡瓦斯株式會社、温州炭礦株式會社、福島鶴岡織物株式會社、人造スレート株式會社の各取締役たり夫人美代野子は川村鐵吉君の三女にして、二男四女を擧ぐ、昇君、誠君、貞井子、操子、義子と云ふ、長女信子は同縣人相馬市太郎君に嫁す (現住)山形縣西田川郡鶴岡町

× × ×

株式會社 左右田銀行

本社 横濱市南仲通壹丁目二番地

東京支店 東京市日本橋區船場町

電話大手二四〇

資本金 五百萬圓

當行は其の創始を遠く明治の初年に發し横濱市に於ける最も古き歴史と信用とを有する業界の權威なり、其起源を尋ぬるに横濱開港當時前頭取左右田金作氏が維新後未だ世運渾沌たるに際し、明治三年兩替店を開き、以て内外の金融に便宜を計りたるを其萌芽とす、爾來商機を見るに敏なる氏は、拮据勉勵克く各種の事業に其の冀足を伸ばし左右田商店の名は漸次横濱商界に重きを爲すに至れり、斯くて横濱市の發展に伴れて左右田氏の事業も亦益々發展し、明治二十八年に至り左右田商店の組織を改めて合資會社となし、資本金參拾萬圓を以て當行を設立するに至れり、當初未だ行運必ずしも盛なりと云を得可からざり

しも、左右田金作氏の信用の絶大なる、其營業方針の宜しきを得て日ならずして隆昌を招徠し、從來貯蓄銀行をも兼營し來りしを、明治三十二年十二月別に獨立して左右田銀行を設立せり、而して當行の經營方針は極めて堅實にして、業務着々擴大し、今や横濱市に於ける第一流の商業機關として、斯界の重望を負ひ、同行の一舉一動は當に同市の財界を左右するに止まらず、索いては本邦經濟界に影響を及ぼすの一大勢力を有するに至れり、昨秋の大震災の打撃は甚大にして之れが損害復舊の見込なく倒産せる會社銀行動からざるものありたるが堅實なる當行の如きは聊かの動搖なく大正十三年度上半期の決算に於て諸預り金高貳千拾八萬貳千參百七拾七拾八錢、諸貸出金高壹千六百九拾壹萬五千六百七拾參圓九拾壹錢之れが純利益額拾壹萬四百拾貳圓八拾貳錢、後期繰越金額拾壹萬四百拾貳圓八拾貳

監査役 左右田良三

相馬永胤君

從五位勳三等 横濱正金銀行取締役 專修大學々長

錢を擧ぐるの好成绩を示せり、以て同行の基礎の堅實、營業方針の確實なるを知るに足るべし支店は横濱市に六箇所、東京市内に四箇所、大阪市内に三箇所更に名古屋、四日市等に各一箇所を設置せり、尙同市に於ける商業機關の雄と稱せらる、株式會社左右田貯蓄銀行は當行の分身にして左右田一家の經營に係るものなり、同行は元左右田銀行營業の一部に屬したりしが貯蓄銀行條例發布と共に其業務を分離して資本金五萬圓を以て株式會社となし明治三十二年十二月創立し爾來頭取左右田喜一郎氏の經營宜しきを得て業務漸次擴張し、資本金を五拾萬圓に増加し遂に今日の盛大を見るに至り、左右田銀行に次いで同地銀行界の一權威なり、今當行現在の重役を擧すれば以下の如し

君は舊彦根藩士相馬右兵次君の長男にして、嘉永三年十一月を以て生る、米國エール大學に遊び法律及經濟學を專攻し、歸朝して司法官となりしも後正金銀行副頭取より頭取に任じ、又子爵田尻北雷、目賀田男等と協り專修學校を創立す、現に横濱正金銀行取締役、日本興業銀行監査役、日清生命保險株式會社の相談役にして、專修大學々長たり、夫人みつ子は東京府士族佐口文六郎君の養母にして、女鈴子に石川自治君の弟又一郎君を迎へて養子となす、尙家族は弟八十吉君(夫人をトク子と云ふ)同正夫君、五女恒子、令孫勝夫君、同菊子、同信夫君、同利夫君、同永夫君、姪秀子、甥邦照君、姪龜代子、同千代子あり、長女アヤ子は東京府士族山

相馬哲平君

貴族院議員 多額納稅者

君は新潟縣人相馬熊次郎君の二男なり、天保四年五月を以て生る、大正七年互選せられて貴族院議員たり、北海道の多額納稅者にして、現時函館貯蓄銀行頭取、百十三銀行、天鹽銀行各取締役、株式會社相馬商店社長たり、夫人キノ子は新潟縣人伊賀喜三郎君の二女にして男堅彌君は相馬商店取締役となり丹後直平君の妹チヨ子を室とす、孫守之助君元治君あり、尙二男省三君は夫人ミス子と、長女クワ子は夫市作君と、養子確郎君は妻トシ子と共に各分家し、二女ムツ子は他へ嫁す

宗 重 望 君

正三位勳四等 伯爵

宗家は左衛門尉重政の後にして二十餘世を経て義和に至る、世々對州嚴原の城主たり、義和の子重政君明治十七年伯爵を授けらる、君は重政君の弟にして子爵黒田廣志君はその從弟たり慶應三年七月を以て生る、明治三十五年爵を襲ふ、夫人尙子は公爵九條道實君の養妹にして、男爵松園信淳君の養叔母なり、令妹綾子は伯爵酒井忠克君の先代忠道君に嫁す

社園池製作所の取締役兼社長たり、夫人京子は陸軍中將長岡外史君の二女にして、男孝安君あり

園田忠雄君

實業家

君は同武彦君の弟にして、男爵園田孝吉君の三男なり、明治二十二年三月を以て生る、東京高等商業學校の出で、現に北海電化工業株式會社、園池製作所島田商會の各取締役たり、夫人操子は學習院女學部出身の才媛にして、男爵福島四郎君の令妹なり、二女あり、名を正子、公子と云ふ

園田武彦君

從五位 園池製作所社長

君は男爵園田孝吉君の二男にして同忠雄君の令兄なり、明治二十年一月を以て生る、嘗て英國グラスゴー高等工業學校に學び卒業して歸朝す、現に株式會

園田武七君

天草銀行取締役

君は熊本縣人園田謙吉君の長男にして、明治二年五月を以て

副島義一君

法學博士 早稻田大學教授

生る、現在株式會社天草銀行の取締役たり、夫人イカ子は同縣人園田福次君の二女にして、男武門君、三雄君、女マス子、養子益子あり、長女セキ子は熊本縣人小林熊太郎君に、令姉タカ子は池崎健八君に、令妹シユン子は松尾種次郎君に、同トキ子は菅原猶次郎君に嫁す、二男正夫君は園田貞彦君、弟彦市君は尾田耕三久君の養子となる

園山伊平君

西濱銀行取締役 園山吳服店代表社員

君は前名を兼平君と云ふ、島根縣人園山伊平君の長男にして明治十二年十月を以て生る、現在株式會社雲州西濱銀行取締役合名會社園山吳服店の代表社員たり、同縣人西本良助君の長女ツル子を迎へて夫人となす、伊兵衛君都子の二子あり、令兄治平君は分家す

副島八十六君

日印紡織株式會社監査役

君は京都の人、副島眞坦君の長男にして、明治八年八月を以て生る、令兄昌訓君の没後家名を繼ぐ、現在日印紡織株式會社監査役、日印協會理事に就任す夫人をたか子と呼び、東京府士族齋藤太郎君の養女なり、長女五十枝子、二女昭子、三女義子

を生む (現住 東京市牛込區喜久井町二)

副島道正君

從三位 伯爵 貴族院議員

舊佐賀藩士、副島種臣君は明治維新の大業に參し、勤王の大義を稱へ明治二年參議に叙せらる、樺太境界交渉の爲め露國へ派遣せられ、外務卿に任じ、爲す所多かりしも、明治六年征韓論に際し西郷隆盛等と意を同じくし共に桂冠せり、後清國に特命全權公使たり、功勞を以て伯爵を授けらる、道正君は種臣君の三男にして、同三十八年襲爵す、明治四年十月を以て生る、二十八年東宮侍從、式部官に任じ、爾後學習院教授、内閣、大禮使等の囑托に歷任す、大正七年擧げられて貴族院議員たり、現に臨時産業調査會臨時委員、日英水電株式會社、東邦火災海上保險株式會社、早川電力株式會社各取締役等に就任す、母堂正子は岐阜縣人松島謙助君の長女

にして、夫人ミネ子は奈良縣人北幾太郎君の二女なり、種忠、種義、種經、種典、種憲、種政種英君及孝子、順子、追子の諸子あり、令姉豊子は子爵勘解由小路資承君に令妹鑑子は男爵周布兼道君に嫁す

(現住 東京市麻布區斧町七九)

添田敬一郎君

從四位勳三等 勞資協理會理事

君は福井縣士族添田良平君の長男にして、明治四年八月を以て生る、同三十一年東京帝國大學法科大學を卒業す、同年文官高等試験に合格し、兵庫縣參事官を初めとし、大分、熊本、山梨滋賀各縣の事務官を経て、埼玉縣、山梨縣、山形縣の各知事に歷任す、夫人てい子は東京府の人小島忠熙君の令妹にして、養子滋君同氏夫人ゆき子あり

(現住 東京市芝區白金三光町三〇一)

添田飛雄太郎君

正七位勳四等 前衆議院議員

君は秋田縣人添田清左衛門君の長男にして、元治元年十一月を以て生る、かつて獨逸チューリッゲン大學に學び、歸朝後秋田縣立中學校長に任せらる、明治四十一年以來衆議院議員に當選すること五回なり

(現住 秋田縣雄勝郡湯澤町)

染谷寛治君

實業家

君は岡山縣の人大道寺耕一君の二男にして、染谷家に入夫となる、明治二年二月を以て生る棉花、花産商を營み染谷商店と云ふ、家族に養嗣子正人君、女まつる子、孫誠一君、三保君、和夫君あり (現住 神戸市北長狹通四ノ五八)

(電話)三宮一四七一

會根二之助君

材木問屋

君は兵庫縣人西山二兵衛君の

つ之部

津原武君

勳四等 辯護士 元代議士

君は先代言行君の養子にして鳥取縣人小林繁君の三男なり、明治元年十月を以て生る、曾て京都府會議員、同議長、京都市辯護士會副會長たり、擧げられて二回衆議院議員となる、辯護士を業とし、株式會社宮津銀行同西山機業場、橋北汽船株式會社、宮津共榮株式會社の各社監査役たり、京都の人松下與三郎君の令妹トク子を夫人とす

(現住 京都府與謝郡宮津町)

津和九右衛門君

家主

君は大阪府人津和庄吉君の二男にして、安政元年五月を以て生る、先代九右衛門の養子となり、前名を政吉君と呼べり、

つ之部

多數の家作を所有す、令閨イト子は大坂府人禰宜吉兵君の二女なり、養子藤三郎君は津和丑松君の二男にして、夫人シダノ子は島田正精君の令姉なり、養子ナツ子は夫淺治郎君と共に分家せり (現住 大阪府南區難波元町二ノ二七五八)

津輕義孝君

伯爵

君は男爵徳川義恕君の二男にして、明治四十年十二月を以て生る、先代英麿君の没後選定せられて相續人となり、大正八年七月伯爵を襲ふ、當津輕家は祖先は藤原秀郷なり、其曾孫秀榮卿兄秀衡卿より津輕の地に封せられ、地名を姓となし光信卿に至る、其女關白近衛尚通公に納れられ政信卿を擧ぐ、これ津輕家中興の祖なり、十數世を経て正二位承昭君、明治十七年伯爵

津輕益男君

從五位 子爵

當津輕家は關白近衛尚道公の末葉津輕越中守信政公の二男信英公の後裔なり、信英公宗家より津輕黒石五千石を分與せられ享和元年新田五千石を合せて一萬石となり諸侯に列す、承叙公黒石藩知事となり、明治十七年子爵を授けられ類橘君に至る、益男君は子爵池田仲誠君の同弟にして、明治二十九年十二月を

以て生る、先代類橘君の養子となり、同四十四年襲爵す、養母妻子は子爵柳澤光邦君の長女にして夫人ハマ子は青森縣人津輕すみの江子の伯母なり

(現住 青森南津輕郡中郷村)

津輕承靖君

男爵

君は先代行雅君の長男にして明治四十三年二月を以て生る、同四十五年襲爵せり、當家は關白鎌足公の末系太政大臣尚道公の後裔津輕爲信公に發し、伯爵津輕義孝君の分家なり、先代行雅君は子爵細川立興君の甥なり、母堂理喜子は伯爵津輕義孝君の養叔母にして令姉當貴子、同弟言忠君あり、父君行雅君は子爵細川立興君方へ入家す

(現住 小石川區茗荷谷町六九)

津田幾次郎君

實業家

君は福岡縣人津田孫右衛門君の三男にして、明治二年十月を

以て生る、海産業を営み屋敷を
和白屋と云ふ、現に博多商業會
議所議員、青島鹽業株式會社專
務取締役たり、夫人ツネ子は福
岡縣人福田惣右衛門君の二女に
して宇兵衛君、健次郎君、敬一
郎君、マツ子、タケ子、エイ子
千代子の諸子あり
〔現住〕福岡縣西方寺別町
〔電話〕長六八〇

津田勝五郎君

實業家 多額納稅者

君は愛媛縣人前上喜市君の七
男にして、安政二年正月を以て
生る、津田家に入夫し、洋鐵商
を營む、大阪府多額納稅者にし
て津田勝五郎商店社長、大阪製
鐵株式會社代表者、朝日製鐵株
式會社、大阪鐵商俱樂部の取締
役、關西鐵工株式會社の監査役
たり、夫人みな子と云ひ、男與
一君は室、ツルヨとの間に勝之
助君、隆造君、宗三郎君、慶子
の三男一女を擧ぐ、與一君の令
妹きく子は夫正厚君と共に分家

〔現住〕大阪市西區立賣堀北通
六ノ二八 〔電話〕長西九〇七

津田董君

實業家

君は靜岡縣人津田六郎君の長
男にして、慶應二年二月を以て
生る、現在株式會社伊豆銀行頭
取、神山電氣株式會社取締役及
三島製氷冷蔵株式會社の取締役
たり、令閨よし子は石渡均之助
君の令妹、男薫君、博君、ふむ子
れん子あり、養子勉造君及その
室ひで子との間にさい子、重世
君、重明君、惠美子、重行君、
幾代子の諸子あり
〔現住〕靜岡縣田方郡江間村

津田常七君

染物 吳服商

君は前名を清次郎と云ふ、京
都の人津田常七君の二男にして
明治九年七月を以て生る、父君
を襲名して常七君と稱す、營業
は染物吳服商なり、元京都商業
會議所議員にして現在株式會社

津田欽一郎君

元東洋海上保險會社大阪支店長

君は佐賀縣人津田峻徳君の長
男にして、明治七年七月を以て
生る、同三十四年東京帝國大學
法科大學政治學科を卒業す、會
社現在東洋海上保險株式會社大
阪支店長たり、母堂をトヨ子と
呼び、祖父算峯君の長女なり、
東京府吉見永建君の二女辰子を
室とす、富美子、美智子の二女
あり外に弟哲二郎君、玄三君現
存す 〔現住〕大阪府東成郡天王寺

津田資郎君

多額納稅者 實業家

君は岡山縣人津田峻吾君の二
男にして、明治十六年一月の出
生なり、岡山縣多額納稅者にし
て、現在、株式會社周陽銀行取
締役、東和汽船株式會社專務取
締役、株式會社津田商會、日本
海運信託株式會社、蘭池礦業株
式會社、日東海上火災保險株式
會社、大連東和汽船株式會社、

錢屋商店監査役たり、妻女ムメ
子は京都府土井ノ子の長女、
清太郎君、せい子、喜二郎君、
達三君、幸四郎君、萬子、壽造
君、種子の諸子あり、長女みね
子は京都府吉岡藤作君に嫁し、
三女定子は同駒井うた子、七男
英三君は分家弟松次郎君に養子
となる、外に弟甚三郎君及その
室美智子あり
〔現住〕京都市下京區松原東洞院
西入 〔電話〕園下三五〇

津田榮太郎君

實業家

君は京都府津人田虎吉君の長
男にして、明治四年四月を以て
生る、移屋と稱し、生絹商を營む
現在京都商業會議所議員、京都
瓦斯株式會社、京都織物株式會
社、西陳縐絲製株式會社、振威
興農株式會社、監査役たり、夫
人ヤナ子は京都府人八木伊兵衛
君の五女なり、男榮一君、禮次
郎君、三郎君、四郎君、五郎君
の諸君及女光子あり、家族は外

に六郎君、九郎君、博造君、禎三
君、憲造君、八重子、艶子あり、
長女アキ子は京都府人八木文次
郎君に嫁し、二女コト子は同八
木寅之助君の養子となる、九男
十郎君は同津田孝三郎君を相續
す 〔現住〕京都市下京區東洞院三
條下ル 〔電話〕中二〇八、二〇九

津田毅一君

正五位勳五等 辯護士
元衆議院議員

君は千葉縣人津田健次郎君の
三男にして、明治元年十二月を
以て生る、津田定右衛門君に養
子となり分家す、英吉利法律學
校、東京專門學校を卒業し、明
治二十六年判檢事登用試験に合
格し、鹿兒島、神戸、姫路の各
區裁判所判事、臺灣總督府檢察
官、桃園、臺南、嘉義各廳長等
に歷任す、曾て衆議院議員に當
選せり、現在中堅炭礦株式會社
日本碓石耐火煉瓦株式會社の各
取締役、大正製絲株式會社の監
査役たり、夫人は養父定右衛門

津村英三郎君

日高銀行頭取

君は和歌山縣人津村佐吉君の
長男にして、明治五年十一月を
以て生る、曾て印南漁業株式會
社取締役たり、現に株式會社日
高銀行頭取、日出紡績株式會社
取締役たり、母堂しま子は木下
平藏君の二女、夫人とみ子は木
下藤兵衛君の二女なり、男俊一
君、弟秀松君、同人妻女久子、
姪道子あり、家族は尙外に三女
澄子、四女美代子、甥秀夫君、
同信夫君あり、長女キミ子は三
重縣人刀稱館正雄君に、同姉し
げ子は和歌山縣人南川親祇君に
嫁し、二女フミ子は同木下藤兵
衛君の養子となる
〔現住〕和歌山縣日高郡御坊町

津村紀陵君

貴族院議員 實業家

君は和歌山縣人津村重兵衛君
の長男にして、文久三年二月を
以て生る、前名を光三郎君と云

ふ、和歌山縣多額納税者なり、大正七年互選せられて貴族院議員となる、曾て商業會議所議員たり、現時、株式會社和歌山倉庫銀行専務取締役、野上輕便鐵道株式會社社長、和歌山水力電氣株式會社常務取締役、高野大師鐵道株式會社取締役たり、夫人タミ子は同縣人福井吉左衛門君の二女にして、男重紀君、令弟重之君あり、令姉コウ子は同縣人桃谷政次郎君に嫁す

津野慶太郎君

從四位勳三等獸醫學博士
東京帝國大學教授

君は福岡縣津野伊平次君の長男にして、文久三年六月の出生なり、明治十九年東京農林學校獸醫學科を卒業し、家畜藥物學衛生學及獸醫行政警察學研究の爲め歐米に留學す、歸朝して母校の助教より教授に又東京帝國大學農科大學助教より教授に進み現に獸醫學博士たり、又

明治二十七年セントルイス獸醫學會に列席の榮を擔へり、母堂カマ子は同縣人西村寸吾君の長女、夫人ツネヨは同伊藤文雄君の令姉なり、富子、松子、梅子道子の諸嬢あり

〔現住〕東京市芝區白金猿町三三
〔電話〕高輪一八五五

津野田是重君

正五位勳三等功四級
豫備陸軍少將 前衆議院議員

君は東京府士族津野田是香君の從弟にして分家す、明治六年一月を以て生る、同三十三年陸軍大學を卒業す、同二十八年陸軍歩兵少尉に任じ、大正八年少將に累進す、軍事研究の爲め佛國に遊びし事あり、參謀本部出仕、同部員、參謀本部附、陸軍大學校兵學教官、兵衛歩兵第三聯隊大隊長、歩兵第六十三聯隊附、奈良聯隊區司令官、歩兵第四十一聯隊長等に歷補す、大正九年奈良縣より逐鹿場裡に打つて出で衆議院議員に當選せり、

夫人を菊政子と呼び、前代議士小坂順造君の令妹なり、長男忠重君の外孝重君、知重君の二子あり〔現住〕東京市外濫谷町中濫谷四五〇

津久居彦七君

綿糸商

君は栃木縣人津久居平藏君の養子となり分家す、安政元年三月を以て生る、本業は綿絲商なり現在下野印刷株式會社、岡島燃絲株式會社の各取締役、山保毛織株式會社の監査役たり、妻女をコウ子と云ひ、養父平藏君の二女なり、孫テル子あり、家族は外に孫英子、同元一君あり、三女ヨネ子は栃木縣人小川始吉君に、孫りう子は同縣人大塚莊亮君に、長男平一郎君は夫人トミ子、長女ハナ子は夫頼三君と弟平吉君は妻女ワカ子と、叔母シモ子は其子女を伴ひ各分家せり〔現住〕栃木縣安蘇郡佐野町〔電話〕二四番

津久間新助君

紙商

君は京都府人津久間與七君の長男にして嘉永元年九月を以て生る、紙商を營む、妻女きさ子は滋賀縣人依田安兵衛君の長女なり、長男杉太郎君の夫人をたね子と云ふ、京都府村川作太郎君の令姉なり、新造君、文字子君、新次君、新三郎君の諸子あり、杉太郎君の令妹きく子は滋賀縣人島崎善吉君を迎へて養子となし善一君、房子の二女を擧ぐ〔現住〕京都市下京區寺町通高辻上ル〔電話〕下一五二〇番

月田藤三郎君

正四位勳三等農學博士
東京市區劃整理局長

君は月田太郎君の長男にして明治三年一月を以て群馬縣北甘樂郡黒川村に生る、明治二十九年七月を以て、東京帝國大學農科大學農學科を卒業し、同年十月農商務省屬兼業講習所技手

坪井九八郎君

正四位勳四等男爵貴族院議員

當家は先代坪井航三君より顯はる、舊山口藩士にして、明治四年海軍大尉に任じ、海軍中將に進む、日清役に功あり、明治二十八年男爵を授けらる、君は航三君の長男にして、明治九年八月を以て生る、同四十三年京都帝國大學法科大學を卒業し、米國視察の途に上る、大正四年農商務省副參政官に任じ、帝國議會に於ける政府委員、米價調節調査會委員を仰付られ、同八年歐洲へ出張「ブラッセル」開催萬國議院商會に參列せり、三回貴族院議員に當選す、曾て臺東製糖株式會社取締役たり、母堂は賀尾子と云ひ東京府人山下義和君の長女なり、令弟浩五郎君、善七郎君、須衛男君、令妹豊子、則子は家にあり、令妹道子は東京府岡見敬一君に、同セイ子は法學博士牧野英一君に、令弟淳四郎君、保六郎君は各



に任じ、同三十年十二月同省管農務局畜事課に轉任、同三十二年五月農商務技師に進任せり、此間農務局農政勤務として、耕地整理法の起草、産業組合法の制定に専ら從事し、兩法の成立を見るに至る、又農會法及肥料取締法の施行に當る三十六年六月農務局農政課長を命ぜられ

同三十九年六月新に耕地整理課の設けらるゝに當り同課長に轉じ同事業の奨励に努力し好成績を擧ぐ大正三年六月畜産課長に轉じ畜産行政及家畜衛生の發達に付き大に努力す、同六年二月臨時産業調査局の新設に依り同局第一第四課長として羊毛調査の事に當り、綿羊飼育奨励の計畫を立て同事業の實施せらる

分家せり。〔現住〕東京市芝區白金三光町二七六

鶴見清左衛門君

實業家

君は栃木縣の人にして鶴見兵三郎君の二男なり、明治元年十二月を以て生る、同二十三年同人社を卒業せり、現時は久下田銀行頭取、眞岡銀行監査役たり家族は合閨ツマ子、長男篤君、二男千秋君あり、長女ツネ子は茨城縣人富村登君に、妹レイ子は栃木縣人林庄平長男敬次君に嫁し、第三三君は分家せり

〔現住〕栃木縣芳賀郡久下田町

塚越正司君

實業家

君は群馬縣の人にして半田多之吉君の二男なり、明治十八年三月を以て生る、先代藤三郎君養子たり、塚越組と稱し金融業を營む傍ら不二株式會社取締役なり、家族合閨ケイ子、長男藤司君、二男龍三君、長女龜子、

三男徳藏君あり。〔現住〕東京市日本橋區蠣殻町二ノ一四



津端道彦君

畫家

君は有名なる劍士津端莊六君の長男にして、明治元年を以て生る、嚴父莊六君は劍道の外に南畫を能くす、君幼より父君に就いて南畫を學び、同十九年東上して、更に南畫の大家福島柳國君の門に入り、丹青を凝らすこと數年に及び出藍の譽あり、君は資性極めて活潑にして名利に淡く、専ら丹青に親しみ常に塵外に自適す、其の大家として今日名望噴々たるものあるは洵に故なきにあらざるなり、君の最も得意とするは住吉派にして

〔現住〕神奈川縣鶴見町宇生麥一四四四

土屋喜之助君

從四位勳三等豫備陸軍少將

君は山梨縣の人にして土屋泰重君の叔父分家なり、慶應元年一月を以て生る、陸軍教導團士官學校に學ぶ、明治二十年工兵少尉に任じ、大正二年陸軍少將に陞任、其間下關要塞參謀長、工兵第五大隊長、鐵道大隊長、同聯隊長、陸地測量部地形課長朝鮮總督府臨時土地調査局書記官等に歴補したり、曩に花の家繪具製造所取締役現東京住宅建築株式會社監査役たり、家族は合閨とり子、男功君、男治男君女龍子、穗枝子あり

〔現住〕東京市四谷區寺町一

津島徳三郎君

名古屋銀行監査役 佐原興業銀行取締役支配人

君は千葉縣人津島宇左衛門君の長男にして、明治二年十二月

襲神職なり、夫人靜子は侯爵久我通久君の女にして女千榮子及姉覺子あり

〔現住〕大阪府東成郡住吉村

津末良介君

勳四等 元衆議院議員 辯護士 特許辯護士

君は大分縣人津末武作君の長男なり、明治九年十二月を以て生る、同三十七年京都帝國大學法科大學を卒業す、曾て大分縣辯護士會會長、大分市參事會員、藤田銀行、大分水力電氣株式會社、大分製氷株式會社の重役たり、現在玖珠山正株式會社社長鶴成金礦株式會社取締役、東京電機合資會社の代表社員となる舉げられて代議士たる事三回、母堂チイ子は大分縣人大野三郎君の長女、夫人ツネ子は同縣人滿部八郎君の令妹なり、男宗一君、圭二君、女光子あり

〔現住〕東京市芝區高輪南町四七

〔電話〕高輪一〇二二番

都筑馨六君

從二位勳一等男爵法學博士 元樞密顧問官

君は舊幕臣都筑侗忠君の長男にして、文久元年二月を以て生る、明治十四年東京帝國大學を卒業し獨逸に留學す、柏林大學に政治學を研究し、歸朝後公使館書記官兼外務省參事官、外務大臣大閣總理大臣各秘書官、内務省法制局參事官、行政裁判所評定官、内務省土木局長兼内務大臣秘書官、圖書頭、文部次官兼文部省圖書局長、樞密院書記官長等に歴任す、明治三十二年貴族院議員に勅選され、同四十年萬國平和會議に際し特命全權大使となり功に依り華族に列し男爵を授けられ、又樞密顧問官たり、男忠春君あり。〔現住〕東京市麻布區飯倉狸穴町二

都志太郎君

銀行家

君は岡山縣人都志一郎君の長

男にして、元治元年九月を以て生る、慶應義塾、同人社の出身なり、現時株式會社倉敷銀行、同第一合同銀行の各取締役なり岡山縣人能勢靜太君の令妹を室とす、名をマツノと云ふ、男基一君、悌二君、女絲子、長子は家にあり、長女久子は同縣人伊原木彌平君に、女さく子は廣島縣人片山泰吉君に、男申吉君、育二君は分家せり

〔現住〕岡山縣都窪郡中州村

堤正義君

從四位勳三等 工學博士 通信技師

君は静岡縣の人にして加茂水穂君の三男、同嚴雄君の令弟にして堤家を繼ぐ、明治七年七月を以て生れ、前名を佐久間と稱す、同三十年東京帝國大學工科大学を卒業し、船舶司檢所司檢官兼通信技師、通信技師兼海事官、神戸海務所長、海軍局技師航路標識管理所技師兼通信技師通信管理局技師兼高等海員審判

官等、歴任し、後從四位勳三等、遞信技師管船局船船課長たり、曩に英國に留學せしことあり、家族は養母豊子、夫人なほ子、長男正幸君、二男正安君、三男信正君、長女花子、四男和正君等あり

〔現住〕東京市牛込區中町二六

坪井卯兵衛君

材木商

君は大阪府人坪井卯兵衛君の長男にして、父君を襲名す、安政元年五月を以て生る、材木商を營み、商號を布卯と云ふ、妻女みゑ子は坪井平兵衛君の令姉にして、女をよみ子と云ひ孫利雄君を生む、令姉いと子はその夫清兵衛君と分家し、二女リツ子は同清兵衛君の養子市松君に嫁し、三女みね子は叔父清兵衛君の家に入る

〔現住〕大阪市東區横堀町五ノ一七
〔電話〕東一四一七



鶴峰 四郎君

正六位 司法省事務官
兼參事官

君は明治十五年一月を以て茨城縣水戸市に生る、明治四十一年七月東京帝國大學法科大學を卒業し、司法官試補となり、横濱地方裁判所詰となる、同四十四年十二月轉じて横濱地方裁判所豫備判事となる、同四十五年五月奈良地方裁判所判事に轉じ大正二年五月横濱區裁判所判事となり間もなく同九月東京區裁判所判事に就任し、同三年三月佛國に留學せり、大正六年二月東京地方裁判所判事を命ぜられ同九年四月混合仲裁裁判所事務官に轉じ、更に同十一年七月東京控訴院判事に累進し、現時司

法省事務官兼參事官たり〔現住〕東京市牛込區神樂町二ノ二〇

坪田十郎君

實業家 前代議士

君は兵庫縣人坪田重吉君の長男にして、慶應三年八月を以て生る、先代十郎君の養子となる前名を英麿君と稱し、養父の名を繼ぐ、明治法律學校の出身なり、神戸市會議員、同議長、縣參事會員等に擧げられ、大正六年以來三回衆議院議員に當選す現在神戸葺合港灣改築株式會社專務取締役、阪神石材合資會社代表社員、阪神水電興業株式會社、神戸海陸運送株式會社、神戸鐵工株式會社、播磨鐵道株式會社、關西活動株式會社、神戸土地建物株式會社の各取締役、神戸中央土地株式會社、播磨造船所の各監査役たり、夫人ヒナ子は大阪府榎下惣助君の長女にして、男一郎君、二郎君あり、長女こよし子は兵庫縣人榎下豊藏君に嫁せり

坪谷善四郎君

東京市會議員
文士 博文館取締役

君は新潟縣人坪谷甚三君の三男にして分家す、文久二年二月を以て生る、東京専門學校を卒業し、博文館に入り、編輯に従事す、號を水哉と云ひ、世界漫遊案内、日本漫遊案内其他の著書多く、輕妙の筆を振へり、現時東京市會議員、株式會社博文館取締役たり、夫人をミネ子と云ひ新潟縣人山崎詰三郎君の長女なり、養子を忠三君と云ふ

壺見嘉吉君

繩匠商

君は兵庫縣人壺見吉次郎君の三男にして、安政二年六月を以て生る、先代庄五郎君の養子となり、繩匠商を業とす、現に神戸青物株式會社取締役たり、同

縣人石田磯太郎君の令姉しか子を迎へて妻女となす、亡長男己之介君の室まさ子、孫福子、チエ子あり、長女ふじ子は同縣人生間なか子の養子となり、養子菊太郎君は其子と共に分家す

〔現住〕神戸市切戸町五五七
〔電話〕本二〇二七

土橋源藏君

諏訪水力電氣株式會社取締役
片倉生命保險會社常任監査役

君は長野縣人土橋善造君の長男にして、明治九年七月を以て生る、慶應義塾の出身なり、酒醬油醸造業を營む、曾て株式會社信州銀行頭取たり、現時諏訪水力電氣會社取締役、片倉生命保險株式會社常任監査役たり、妻女ふみ子は同縣人金井文三郎君の長女にして、男善一郎君、女美篤子、百合子、園枝子、薫子あり、令姉み子を同縣人松井五郎君に、同直枝子は同縣人村上範三君に、令妹あい子は同縣人篠原兼市郎君に嫁し、令姉

ちま子は其夫四郎君と共に分家せり〔現住〕長野縣上諏訪町

土橋哲太郎君

輸出入商

君は北海道土橋藤市君の長男にして、明治十九年二月の出生なり、輸出入商を營み土橋商店と稱す、曾て湯淺貿易株式會社常務取締役、湯淺棉花、湯淺製茶、宇治製粉所、高野製粉所、各株式會社の取締役たり、母堂コウ子は北海道人代島元聖君の長女、妻女はチヨ子と呼び東京府稻葉福四郎君の令姪なり、令妹さく子、弟慶三君は各分家し同泰二君も亦その子を伴ひて分家す

土川宗左衛門君

實業家

君は岐阜縣人土川宗左衛門君の長男なり、明治五年五月を以て生る、現在株式會社飛騨銀行頭取、同濃飛農工銀行監査役、

土川誠一君

岐北輕便鐵道株式會社取締役

君は岐阜縣人土川庄平君の長男にして、安政六年十一月を以て生る、現に岐北輕便鐵道株式會社取締役たり、夫人をつ子は岐阜人高橋鐵太郎君の令姉にして、女はなへ子に同縣人小川定兵衛君の四男政次郎君を迎へて養子とす、孫一君、道子あり、令妹みし子は同縣人木村千代松

君に嫁し、令弟光次郎君は同縣人大平小三郎君に、弟勝次郎君は同縣人鶴岡又四郎君の各養嗣子となれり

土田萬助君

貴族院議員 多額納稅者

君は秋田縣人土田吉次君の長男にして、明治二年正月を以て生る、先代彦七君の養嗣子となる、秋田縣多額納稅者なり、明治三十六年以向秋田縣會議員となり、同議長に擧げらる、秋田縣地方森林會議員、秋田縣育英會評議員、明治神宮奉議會支部副議長及評議員、日本赤十字社支部商議員、帝國農會豫備議員等に任じ、大正七年貴族院議員に當選す、尙株式會社秋田銀行、秋田製紙株式會社監査役、横莊鐵道株式會社取締役たり、養母ヨシ子は同縣人高橋專太郎君の四女なり、夫人をムメヤと云ひ同縣人福井治右衛門君の二女、男莊助君（夫人ヨシ子は薄田太

三郎君の長女、ハル子彦彌君の二子あり。祐吉君夫人ソヤ子は佐々木久之助君の二女（チエ子を生む）孝吉君、鐘吉君、ミツ子、博吉君、鶴吉君、文吉君、テル子、サト子、養弟耕藏君、（夫人チヨ子との間にアイ子、園子、耕一君の三子あり）養弟幸治郎君、養叔父幸太君（夫人トミノ子との間に、キク子あり）の家族を擁す、長女チヨ子子は同縣人土田薫司君に、二女コト子は同縣人安藤忠一郎君に嫁し、令妹ナカ子は夫徳松君に從ひ分家せり。

〔現住〕秋田縣平鹿郡館合村

土谷清太郎君

羽東川電氣株式會社代表

君は兵庫縣人仲常右衛門君の二男にして、元治元年十一月を以て生る、先代善五郎君の養嗣子となる、現時羽東川電氣株式會社、尼ヶ崎石炭株式會社の各代表社員たり、夫人ゆう子は養父善五郎君の長女にして、男賢

治君（婦ひさ子は三重縣人柴橋英吉君の四女なり）武雄君、八重子、四郎君は家にあり、三男省三君は岡山縣野崎良太郎君の養子となり、長女静子は大阪府福岡治三郎君に、二女つや子は兵庫縣人古家憲治君に、養女まさはは茨城縣人石山七郎君に嫁し、同たけ子は兵庫縣人尾崎太三郎君方へ入家す。

〔現住〕兵庫縣有馬郡小野村

土屋富五郎君

豊田式織機株式會社取締役

君は静岡縣人土屋松五郎君の長男にして、明治八年四月を以て生る、現時豊田式織機株式會社取締役、菊井紡織株式會社監査役たり、母堂をいと子と云ふ妻女網手子は同縣人片岡要君の令妹にして、男勉君、女綾子、ゆり子、千恵子、美奈子の諸子あり、尙外に令弟正君（妻女とめ子）同嘉君（妻女ひさ子）姪しづ子、ちづ子あり、令弟藤人君は愛知縣人石川藤人君に養子

となり、令妹よう子は愛知縣人竹内左衛門君に嫁せり

〔現住〕静岡縣濱名郡吉津村

土屋保君

正四位勳二等功四級 後備海軍中將

君は舊幕臣土屋雅春君の二男にして、分家せり、安政六年三月を以て生る、明治十八年海軍少尉に任じ累進して、大正元年海軍中將となる、その間海軍省軍務局課長、人事局第一、第二各課長、軍艦須磨、嚴島、朝日の各艦長、人事局長等に歴補せり、夫人りやう子は東京府鎌田清直君の長女にして、豊次郎君力三郎君、富子、秀子、光子、文子、キシ子の諸子家にあり、二女千代子は福島縣人吉野周太郎君の長男精一君に嫁す

〔現住〕東京市四谷區永住町二

土屋光治君

信濃絹糸紡績株式會社監査役

君は長野縣人土屋勘右衛門君

の二男にして、明治十一年三月を以て生る、現に信濃絹糸紡績株式會社の監査役たり、妻女をりう子と云ふ、同縣人矢岡忠一郎君の養妹にして、男久治君、フサ子、トモ子、テイ子、末子の諸子あり、尙父君勘右衛門君母つね子の外令兄寅太郎君、令弟志之助君（長女よさ子、令妹よね子、從兄市藏君、妻女ヤス子現存す、令甥茂利君、並從弟誠一君も同家族たり、叔母とみ子は同縣人久保田吉郎次君の養子となる。

〔現住〕長野縣小縣郡九子町

土屋康二君

石村問屋 回漕業

君は神奈川縣人土屋大次郎君の長男にして、明治十二年十二月の出生なり、現在石村問屋、回漕業を営み又帝國石材株式會社の取締役たり、母養をセツ子と云ひ、妻女トミ子は神奈川縣箕島正平君の四女なり、男康雄君、文雄君、三千雄君、布子、吉雄君、貞雄君、和子の諸子あり

り、令弟計左衛門君は商學士にして國田安賢男爵の二女富美子を妻とす、尙令弟隆三君は北海道入金子元三郎君に同鐵雄君は武川家の養子となり令妹フク子は東京人府比留間敏君に同カイ子は同柿沼正治郎君に嫁す

〔現住〕神奈川縣足柄下郡岩村



堤友次郎君

松竹キネマ株式會社支那人 執キネマ界の異常なる發展

と共に之れが事業を企つるもの頗る多く、東亞、日活等を其重なるものとして他幾多會社の績成を見るに至れり、而も其間最も大なる基礎と規模を有し、堅實なる發展を示し斯界の中心勢力として國內全土に其の羽翼を張り、世に噴々の聲あるものを

松竹キネマ株式會社となす、而して同社今日所謂キネマ王國の名を擅に爲すに至りし経路には幾多難關紆餘あり、加ふるに當時最も勢力ありし日活に對峙するの困難は亦甚大なるものありき然るに同社の堅實なる營業方針と機に應じて確然其立脚を過らす途に其建設を爲し得たるは實に偉大なる勢力の故なりとせざるべからず、由來キネマ事業は、社會の世相と密接なる關係あるが故に、事業界に於ける最も經營の困難なるもの一なりと目する、而も松竹キネマ會社は敢然此の難事業を完行し、日本キネマ界に一新紀元を作りし功績は蓋し著大なるものにして今や斯界の覇者として天下獨歩の感あらしむは故なきにあらず斯る一大王國を双肩にして經營實務の衝に當れる支配人堤友次郎君の苦心たるや想像の外にして一面不統一なる民衆の時好に投じ、他面亦不規律なる藝術家を統整するの困難は言ふ迄もな

き事なり、米國のフィルムが耳かくしを流行せしめ、カーリングヘーヤアを用ひさせるが如く風教文化に甚大なる反響を與ふるものは即ち映畫なり、映畫が民衆娛樂の隨一たる近來に於て世道人心を左右するの力は事業經營者の掌中にありと云ふも過言にあらず、この重大なる責務に立つ君の如きは單に松竹キネマ會社に限らず、我國家に於ける重要な職分にあるものと言はざる可からず、君の手腕力備共卓拔なるものあるは世既に定評あり今更暇々を要せざるも而も玲瓏璧の如き人格と謹嚴其もの、如き風格とは眞に欽仰掬すべきに非ずや同社は新進の東亞キネマに對して今後如何なる地境に立つや、斯界の刮目する處なるが、君の大なる識見と豊富なる經驗とは將來益々光彩を放ち同社の發展隆盛期して疑はざる處なり、蓋し斯界罕觀の巨腕たりと謂ふべし

〔現住〕東京市赤坂區水川町七

君は新潟縣三條町の名家、堤清七君の長男にして、明治十三年二月十五日を以て生る、幼にして大志あり、年少の頃、故郷をあとに遠く北海道に渡り、水産業者の一小店員となり、一身を水産業に提げ、奮闘努力する事十數年、連年漁法及び加工法の研究改良に勉めたり、而も君雄圖止み難く、單身赤露に入り三年來紛糾せる露國沿海州漁權獲得に成功す、功績偉大なりと云ふべし、由來本邦は魚介海藻等の豊富なる實に世界に冠たりされば古より漁業盛なれ共、技幼稚にして、歐米の夫れに比すべくもあらず、明治四十年日露漁業協約締結後は、遠洋漁業頓に活氣を呈し來り、漁法も亦改良を加へし結果漁獲過剩を來せ

堤清六君

衆議院議員 日魯漁業株式會社社長 鐵詰及水産漁業家 朝鮮京南鐵道株式會社取締役 大和帆船保險株式會社取締役 新潟縣多額納稅者

しも、従来の魚類加工法は長年月の貯蔵に耐へず、此を罐詰にせんには莫大なる費用を要するが故に、涙を飲んで其大半は肥料とするの己むなき情況なりしが、時代の趨勢は食糧問題の解決を急にするに至り、遂に罐詰業にして堤氏の如き有爲の人物を出すに至れり、君が營業範圍は頗る廣く、内地は勿論遠く海外諸國の各市場に及び、世界食糧の平衡圓滑を圖るに至る、オホック沿岸各州島に二十有餘の漁場及加工場を有し、本邦隨一の罐詰業者として、名聲を世界に馳す、誠に國家及漁業水産界に於ける偉大なる功勞者と云はざる可らず、君が進路は宛も順風に帆を上げて大洋を航行するの觀あるも過去二十年來の活動生活を回顧すれば、眞に是れ涙と汗と血との活歴史にして、君が部下店員に對して宛も滋父が子に臨むが如き親愛の態度を取り、その養成に腐心するは過去に於ける辛慘なる生活に自ら涙



土屋倫啓君

君は辯護士として雪冤伸權の大任に當り、合名天下に普し、明治八年十二月十二日、静岡縣駿東郡深良村に生る、亡與三郎君の二男なり、郷里の小學校を卒へ、家兄を助けて農事に努め傍ら漢籍を讀む事數年、後一時

する心の表現とも云ふべく、部下の君に心服して宛も滋母に對するが如きは寧ろ當然とも云ふべきか、徒手空拳よく今日の大をなし、日本水産界の權威者として其の名を擅にす、誠に故ありと云ふべし
〔現住〕東京府下代々木山谷二九
〔電話〕四谷一八五八

小學校に教鞭を執りたるも、感ずる處あり、明治三十三年斷然意を決して上京し、私立小學校に奉職し自給しつつ、明治大學に入り専心法政の學を修め同三十五年七月優秀の成績を以て同校を卒業し、同年十月辯護士齋藤孝治君の事務所に入り、實務に執掌すること數年、更に東京建物株式會社に入社し、累進して今日に至る、此間一日も學事の研究を忽にせず、奮闘努力試験を受くる事數回、大正三年目出度辯護士試験に合格するを得たり、君は明治三十九年以來業務の傍ら万難を排して試験制度改正及帝大特權廢止運動に奔走し、尙大正元年以來試験制度の不統一不權衡を概し、其根本的改正を企て、惡戰苦闘する事數年遂に世論の入るゝ所となり、大正三年遂に其法律案をして貴衆兩議院を通過せしめ、以て學制改革の根本的基礎を定めたるは、健闘の殊功として賞するに足る、君は民刑商事中特に借地

土屋光金君

君は故陸軍大將男爵土屋光春君の長男にして、元治元年十一月の生なり、明治十九年十二月海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ、累進して海軍中將たり、笠置水雷長、吳鎮守府參謀、第三艦隊參謀、馬港要港部參謀長、豊橋、秋津州、春日、相模、鹿島の各艦長、舞鶴海兵團長、横

須賀鎮守府參謀長、舞鶴、吳各水雷隊司令官、第三艦隊、第一水雷戰隊、大湊要港部各司令官及海軍將官會議員に歴任せらる夫人小夜子は東京府高須松一郎君の長女にして、男光一君、光二君、光豊君、登茂子、稻子あり、令弟陸軍少兵中佐齊君は夫人静江子と共に分家す
〔現住〕東京府下大久保町西大久保三九四

土屋峰吉君

君は岐阜縣の人、土屋甲二君の令兄なり、明治六年正月を以て生る、退役陸軍歩兵中尉なり明治三十三年東京帝國大學工科大学を卒業し、土木監督署技師内務技師、福岡縣技師、富山縣技師等に歴任す、長女をちか子と云ひ、同縣人市川武真君の二女なり、幸太郎君、ひろ子、醇治君、健三君、静子、新君、和子の諸子及令妹ひさ子あり
〔現住〕富山市西四十物町

塚原嘉藤君

君は、明治十四年十月二十二日、みすゞ苅るてふ信濃國東筑摩郡日向村に呱呱の聲を擧ぐ、幼にして學才衆に秀で、將來を囑目する、序を逐て郷里に小中學の業を修め、仙臺第二高等學校に入る、夙に法曹界に志を立て、同校卒業後、東京帝國大學法科大学に入り、獨法科に學び同四十二年十一月優秀の成績を以て同科を卒業し、法學士の稱號を得、直ちに辯護士となりて業を開き一般法律事務に従事し又特許辯護士として、特種の才を有す、嘗て郷黨に推されて、衆議院議員に當選し、令名とみに上る、頭腦頗る明晰にして、演譯歸納の能力に富み議論正確にして而も辯論風發、複雑なる事件を處理して、宛然快刀亂麻を斷つが如く、又周密なる數理的頭腦は許特事件を處理して解釋流るゝが如く、而も又事務を

津村重舍君

取るに當りて極めて懇切丁寧を極め、如何に些少の事件なりとも詳細に其因果を探究せざれば止まず、故を以て依頼者の信用厚く、己に名聲の噴々たるあり資性温厚篤實にして、學深く、智博し、君が業務の隆盛を見る又故ありと云ふべし
〔現住〕東京市麴町區有樂町一ノ三
〔電話〕牛込四九二七

て名醫博士が投薬に勝ること萬々ならば又何をか言はんや、君は奈良縣の人山田安民君の次男にして明治四年七月を以て宇陀郡伊那佐村に生る、後出で、津村氏を繼ぐ、郷里の中學校を卒業せる後、二十六年東京に出で東京高等商業學校に入る、偶々賣藥業の有望なるを看取し、家傳の婦人妙藥中將湯を携へ、日本橋區通四丁目一商舖を開き發賣したるが資金の豊ならざるに加へて漢方醫の調合なりとて世人の輕蔑を受け、賣行頗る振はざりしが、君の不屈不撓の精神と得意の廣告術を利用して遂に日本全土に名を廣め、今や日本内地は勿論朝鮮、臺灣、樺本の殖民地は素より支那滿洲方面の外、遠く上海香港新嘉坡布哇南米ブラジルに至る迄輸出せらるるに至れり、同店は製劑工場たる目黒工場の外に津村理化學研究所ありて同所には慶松博士、藤田、津村等の學士、常に改良進歩向上の研究に没頭せられ、

又ツムラ體温計製作の爲めに津村理學士専ら技術の監督に與り體温計の外温熱計、比重計の製作をなし、何れも斯界に優秀の名あり、君が今日斯る成功を贏ち得たる所以のものは素より藥效の確なる點にありと雖も君の百折不屈益々勇を鼓し誠意經營に努力し來たれると、夫人の努力と、更に令弟岩吉氏が創業以來滿腔の熱誠を罩めて活躍せし功とに依らずんばあらず、本店は本建築に等しき假建築なるが設備として母と子の衛生相談部等一切を歐米の式に則り、嶄新有益なる施設なり大阪南區大寶寺町に支店を有し尙輸出機關として上海に東亞公司の支店あり、因に府下荏原郡目黒には有名なる住宅棲碧山莊あり、三千六百有餘坪の廣大なる庭園にして二十五勝あり、自慢の別莊なり、君は斯る大事業を營む傍ら現に東京市會議員、市參事會員區會議員並に東京府農工銀行、日本賣藥株式會社各重役、第一

製藥、江東製藥、株式會社東亞公司等の成績を以て卒業す、夫より東都に上り、農學の研究に身を委ねんとて駒場農學校に入る、十四年首席を以て同校を卒業し農學士の稱號を得、直ちに農商務省に入り、獨逸人フェスカ博士と共に本邦の土性調査及其施設設計等に從事す、二十二年に至り地質局土性課長、地質調査所技師に任せらる、二十九年官命に依り歐米各國の土性及生産地の實況を調査す、其の斯界に貢獻する所尠なからざりしにより、歸來農學博士の學位を受く翌年再び歐洲に航し肥料礦物産地の視察及び肥料製造に付き東奔西走、或時は著名なる工場に入り、或時は孤島に行き、或時は人跡絶へたる深山に至り、苦辛慘憺その研究に没頭する事年餘、三十四年農商務省に肥料礦物調査所の設立せらるるや、君即ちその所長に任せられ、功により正五位勳五等に叙せらる、三十六年肥料調査の終了すると共に、官を辭し専ら肥料礦物調



恒藤規隆君

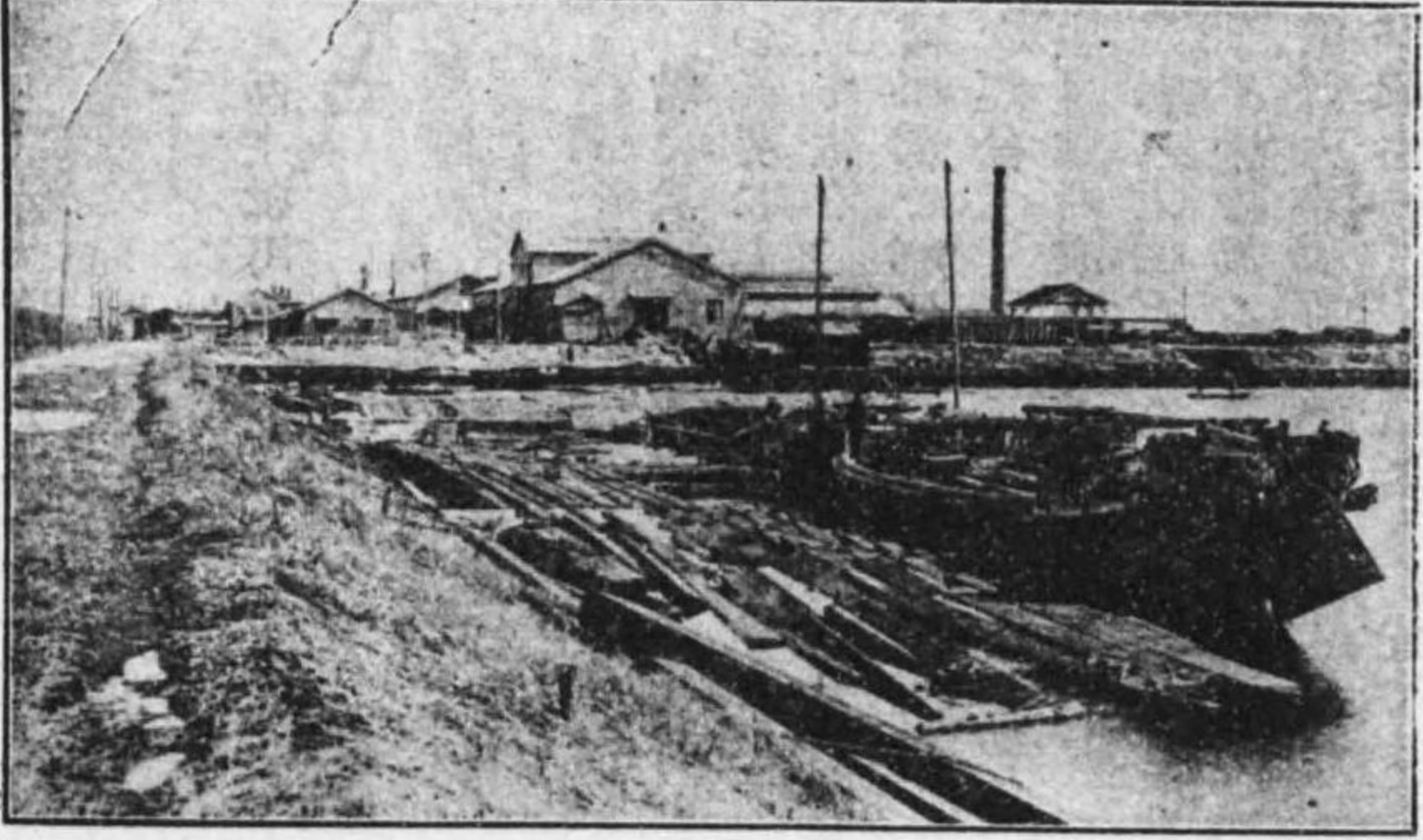
君は安政四年一月十七日を以て大分縣中津に生る、明治八年大阪英語學校に入り、十一年優

常總鐵道會社十五噸無蓋貨車(鐵道省型)五輛、靜岡電氣鐵道會社有蓋電動貨車々體二輛、東京市電氣局無蓋電動貨車々體十輛、東京市電氣局鐵骨四輪電動客車々體四輪電動客車々體六十五輛、靜岡電氣鐵道會社ボギー電動客車々體五輛、靜岡電氣會社四輪電動車々體二輛等を製作し、爾來隆々發展し、今や其信用と高評とは我木工製作界に嶄然一等地を抜くの盛況にあり現在の重役左の如し

鶴見木工株式會社

本社 神奈川縣橋本郡町田村 潮田海岸埋立地 電話鶴見一二六 出張所 東京市麴町區永樂町 一ノ一 東京海上ビルディング 電話牛込五六四七 資本金壹百萬圓

當社は元淺野造船所の附屬木工場として専ら船舶の艦裝に従事し居たりしが其完備せる工場機械の設備は獨り船舶の艦裝のみに極限するの國家的産業上甚だ不經濟なると一面住宅難の叫び喧しき現狀に鑑み一大抱負の下に大正九年九月一日を以て淺野造船所より分離獨立し、更に工場擴張と共に營業科目を増設し、廣く一般の木工作業に従事し、事業の發展に伴れ大正十一年九月より車輛の製作工場を併設し堅實なる發達をなしつゝあり、今同社現在事業の概況を見るに、工場は京濱間樞要の工業地として夙に囑望せらるる、神奈川縣橋本郡町田村潮田海岸の



場、車輛工場、變電所、第一倉庫、第二倉庫、貯水池等あり、工場敷地總數四萬四千五百坪にして従業職工三百九十人を有し

營業科目としては、一、貨客船木工艦裝工事并に材料販賣、一、組立家屋の設計並に建築工事、建築材料販賣、一、事務及家庭用最新式家具什器、一、木材の委託挽並に保管、洋館内部造作工事、一、汽車及び電車之車體製作材料販賣、内外各種木材販賣、一、モートルエンジン及び彫刻モートルエンジン等一般にして其原料は主として針葉樹の米國松、北海松多く日本松、杉、梅等之に次ぎ猶樺、鹽地、榎、樺、朴等の闊葉樹並に櫻、胡桃等の裝飾材等を用ひ、何れも多年の經驗により製材適確、仕上精巧、外觀優美構造堅牢、價格亦低廉無比にして斯界に比肩するものなし、創業以來の木工艦裝船舶數三十一艘に及び又鐵道及電氣軌道用車輛製作に就いては製作事業開始以來、城東電氣軌道會社四輪電動客車々體七輛、京王電氣軌道會社無蓋電動貨車二輛、同上無蓋附隨貨車六輛、玉川電氣軌道會社ボギー電動客車々體二輛、

土山歌次郎君

君は大阪府土山カメ子男に

- 代表取締役社長 淺野總一郎
專務取締役 淺野 八郎
常務取締役 淺野 義夫
取締役 淺野 良三
取締役 綠川 賢策
取締役 金子喜代太
監査役 淺野泰治郎
監査役 鈴木紋次郎

して、明治二十年一月を以て生
る、現在鐵銅諸機械金物商を營
む、母堂カメ子は大阪府土山卯
吉君の令姉、妻女ワイ子は和歌
山縣人西山與太郎君の長女にし
て男繁弘君、女文子あり、尙令
弟和孝君家にあり、令妹レイ子
は大阪府伊勢本長次郎君に、同
アイ子は同大阪府山本彦太郎君
に叔母タネ子は同小田熊之助君
に嫁す〔現住〕大阪市南區難波河
原町二ノ一四六〔電話〕南四〇五
四番

土屋純一君

正五位勳五等
名古屋高等工業學校教授

君は新潟縣の人、土屋準壽計
君の長男にして、明治八年五月
を以て生る、同三十三年帝國大
學工科大學建築科を卒業し、尙
大學院に入り研學す、同四十三
年建築學研究の爲め英佛米等に
留學し、歸朝後奈良縣技師、名
古屋高等工業學校教授に歴任す
現在同教授たり、母堂をコト子

と云ひ、妻女は貴族院議員田所
美治君の令妹にしてミキ子と云
ふ男馨君、女エミ子あり、令姉キ
ミ子は新潟縣人川口廣吉君の養
子となり、同キイ子は同縣人士
屋佐文多君の家籍に入り、同ッ
イ子は分家せり〔現住〕名古屋市
東區主税町二ノ九〔電話〕東一八
〇番

鶴崎平三郎君

醫士 須磨浦療病院主

君は兵庫縣の人、鶴崎辰次君
の長男にして、安政二年九月を
以て生る、明治十六年東京大學
醫學部を卒業し、須磨浦療病院
を經營す、現に株式會社神戸衛
生實驗所取締役たり、夫人は長
崎縣人正林石川君の二女にして
きく子と云ふ、養子範治君は長
崎縣人小代東堂君の二男にして
醫學士なり、東京府人梅津やま
子の長女ゆう子を娶りて妻女と
なし範太郎君、平治郎君、辰三
郎君、滿佐子、文子の諸子を舉
ぐ、令弟兼一君は妻女くめ子と

共に分家す〔現住〕神戸市須磨町
西須磨二六〇〔電話〕須磨七番

樋田清次郎君

京都取引所仲買人

君は京都府の人、樋田喜助君
の長男にして、文久元年十一月
を以て生る、現時京都取引所定
期仲買人たり、妻女ツタ子は同
府人中野吉兵衛君の二女にして
男喜代藏君、豊三郎君、作五郎
君あり、長子サト子は京都府人
辻川平三郎君に嫁し、四男繁四
郎君は同府人井上助七郎君の養
子となる〔現住〕京都市下京區上
珠數屋町間ノ町西入〔電話〕下二
一三二番

鶴見廣太郎君

株式會社古賀銀行取締役

君は佐賀縣の人鶴丸清吉君の
長男なり、安政五年六月を以て
生る、現在株式會社古賀銀行取
締役、株式會社肥前銀行監査役
たり、同縣人江口文三郎君の令
姉ユリ子を娶りて妻女となす、

家族に男保一君(妻女ツル子は
野口惠助君の二女にして、藤子
廣長君の二子を生む)養子善次
君(同縣人西岡亮太郎君の令弟
にして、廣太郎君の女ツネ子を
妻とす、カズ子と呼ぶ一女あり)
あり、長女ミツ子は同縣人服巻
勝光君に婚嫁す
〔現住〕佐賀縣佐賀郡久保田村

鶴見孝太郎君

元衆議院議員 農業

君は山形縣の人井上朔兵衛君
の二男にして、明治五年三月を
以て生る、鶴見來紀君の養子と
なり分家す、本業は農、大正九
年衆議院議員に當選す、勳七等
なり、妻女を久恵子と呼び山形
縣人金子順吉君の長女にして、
男一郎君(妻女は庫惠子と云ひ
同縣人阿部太郎兵衛君の四女ゆ
き子、孝君の二子あり)茂君、
航三君、十藏君、孝五郎君の諸
子を舉ぐ、長女美佐保子は山形
縣人太田藤太郎君に嫁せり
〔現住〕山形縣西田川郡大泉村

ね之部

根岸吉之助君

演伎座經營者

最新の技術を應用して、古羅
馬の宮殿もかくやと思ふばかり
の壯麗なる建築を誇り、然も目
下新國劇澤田と、其の一黨を招
きて、滿都の好劇家の興味の中
心となれるものは、即ち我が演
伎座なり、日々觀客踵を接し、
開場瞬時にして、滿員を告ぐる
の盛況裡にありて、私かに其の
業務の進展に微笑を禁する能は
ざるものは、即ち根岸吉之助君
其人なり、抑根岸家は先代演吉
君より顯はる、人も知る根岸濱
吉君は實に山本、大谷、田村の
諸氏と共に我邦興業界の重鎮と
して、斯業の發展に努力せる人
斯界今日の大をなせる實に四氏
に依る所多し、君は即ち常盤興
業株式會社專務取締役として、
東都興業界に令名高き小泉丑治

君の長男なり、明治二十五年二
月を以て生る、幼にして先代根
岸濱吉君の家を嗣ぐ、天資聰明
明治四十三年茨城縣立土浦中學
校を卒業する頃には既に興業物
經營者としての手腕を過分に供
へたりき、此處に於て直ちに興
業界に入れり、同年三館共通を
以て東都に人氣を博せし根岸興
業部の經營者となり、更に常盤
興業會社の相談役に擧げらる、
天才的の手腕を發揮すべき時こそ
來れり、多年の宿望此處に叶い
て、斯界に於る最も年少なる經
營者として、最も天分に富む青
年として、劃策縱横、新に加ふ
るに新を以てし、其の宣傳に於
て、其の上演物に於て、其の設
備に於て、其の觀客の待遇に於
て、遙かに同業者を抜く事數等
なりき、淺草を云ふ者必ず三館
共通に及ぶ、大正十年常盤興業
株式會社と合併するや君入りて

其の常務取締役に任ず、本年四
月に至り、演伎座の再興を企て
君其の經營主となる、前途實に
洋々たり、今後の發展また、眞
に刮目に價するものあらん、人
若し君に興味はと問はゞ忽ちに
して言はん、野球と、然く野球
を好む、學生の當時キャプツテ
ンとして近隣に名ありき、夫人
を千枝子といふ、内助の功又著
し、一男二女あり、濱吉君、千
賀子、貴美子といふ
〔現住〕東京市淺草區諏訪町十一
〔現住〕東京市赤坂區水川町十七

根津嘉一郎君

東京商業會議所特別議員
東武鐵道株式會社社長

君は山梨縣人根津一秀君の令
弟にして、分家せり、萬延元年
六月を以て生る、曩に東京米穀
取引所理事長たり、現に東京商
業會議所特別議員、日清製粉、
東武鐵道株式會社社長、東京
紡績株式會社取締役會長、高野
大師鐵道株式會社代表、日本化
學工業、東京電氣、京津電氣軌

根本正君

勳三等 元衆議院議員

君は茨城縣人根本金太郎君の
令兄にして分家す、嘉永四年十
月を以て生る、米國ホルマン
州立大學を卒業す、外務省、農
商務省の命により移民地探險及
商工業視察として、南米に渡航
す、曾て水戸瓦斯株式會社監査
役たり、衆議院議員に當選する
事十回なり、夫人をとく子と云
ひ、伊與子、園子の二女あり、
養子を仙太郎君と云ふ〔現住〕東
京市芝區三田四國町一五



根岸澄太郎君

從六位勳六等 東京供託局長

君は長野縣の人にして明治元年松本市に生る、童時既に俊雋の資あり、里閭の間に群越し、將來の刮目大なりき、夙に東都に上り學に就かんとす、偶特別の認可を以て専修學校に入る、刻苦精勵大に螢雪の功を積みしが、天性の穎資忽にして顯れ、明治二十四年七月優秀の成績を以て業を卒ゆ、茲に於てか君大に期する處あり、二十六年十一月職を官に奉じて、司法部内に入り、裁判所書記に任せられ、京橋區裁判所書記に補せらる、尋で翌二十七年三月東京地方裁判所書記に轉補す君職にあるや

根本祐太郎君
實業家
君は福島縣人根本庄次郎君の長男にして、明治四年三月を以て生る、現に郡山信託會社々長郡山銀行、郡山土地建物、川前電氣、大日本紡績、郡山化學工業郡山電爐工業、郡山電氣各株式會社取締役、村田電燈株式會社監査役たり、令閨ツネ子は同縣人大内爲一郎君の二女にして祐一君、セツ子、シン子、サワ子の諸子あり

根本龍四郎君

實業家

君は茨城縣人根本又仙君の四男にして分家す、明治元年十二月を以て生る、前名を瀧四郎と云ふ、現に日立銀行、日本硫酸各株式會社監査役、清水製作所日東製鋼、千代田肥料各株式會社取締役たり、令閨かめ子は同縣人大内均君の三女にして、女節子に同縣人佐藤仙三郎君の五男英夫君を迎へて養子となす

〔現住〕茨城縣多賀郡日立村

根尾宗四郎君

勳八等 實業家

君は石川縣人岩井重兵衛君の長男にして、明治七年三月を以て生る、先代宗四郎君の養子となれり、前名を嘉十郎君と云へり、農業を營む、現に中越銀行木谷黒鉛電化各株式會社取締役たり、令閨マツ子は富山縣人中男ミツ子の令妹にして、行雄君

な之部

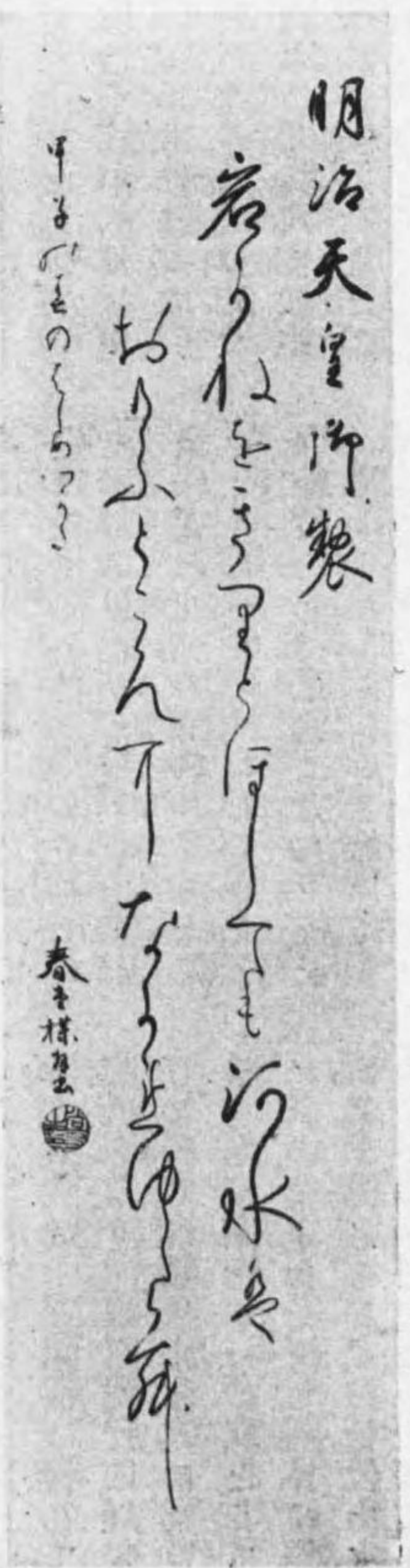


中村春堂君

書家

流麗曲雅行雲流水の如く毫端融和自在些の凝滯踟躕の跡なきものを中村春堂君の筆致となす君は故鸞堂門下の高足にして夙に出藍の譽れあり、現今臨他界に於ける一大權威なり、君は福岡縣京都郡祇郷村の人にして名は梅太郎、字は尙友、中村芳年君の三男なり、明治元年七月を以て生る、家世々地方の豪族として里正の職を襲ぐ父君は經學に通じ惟を垂れて郷黨の子弟を教ゆ君亦其薰染陶冶を享け、幼

より習字を好み、夙に郷黨の囑目を蒐む、資性順良品行方正にして郷黨師友に愛せらる、十七年豊津中學を出で、後中津に至り河野私塾に漢籍を學ぶ、居る事二年大に造詣する處あり、郷に歸りて小學教育に従事す、而も君青雲の志大志難く、永く避邑に朽つるの意なし、偶々同卿の先輩にして、當時の法制局長官たりし末松謙澄子の徳に遭ひ好機逸すべからずとなし、直ちに上京して子の許に寓す、實に明治十九年なり、かくて君は子の幹旋に依りて法典調査會書記を拜命せり、而も之れ固より、一介刀筆の俗吏たらんことを欲



の述懐なり而して君は將來書家を以て世に立たん事を志すと共に己が書家たるべき立脚地には

年には文部省の檢定を通過し、三十四年女子大學校の創設せらるゝや師の推舉により書道の教

授を兼ね、三十五年法典調査會の事務終了と共に専ら書道教授のことに従ひ、其後同大學の他双葉高等女學校、香蘭女學校、青山女學院、佛英和女學校、精華高等女學校等に教鞭を執り、更に寒香書院を起して門生の提撕誘掖に努む門弟三千、實に斯界の雄なり、今や君は雜誌「習字の友」の主幹として書道の鼓吹に努力する外に斯華會監事、日本書道會幹事、書道獎勵會審査員に擧げられ大に斯界の推重を受くるもの偶然にあらず、君風姿典雅にして温顔人を教へて諄々倦まず能く人をして親ましむ、而も内毅然として冒すべからざるの威嚴を具ふ、趣味甚だ多方面にして繪畫和歌を能くし刀劍を愛し陽明學に通ず、閑あれば山嶽に登攀し秀靈の氣に接するを樂しむ、著書甚だ多く御製百首、三體千字文、女子手紙文、大正書翰、新體女子用文其他數十種あり何れも世間噴々の好評あり〔現住〕東京市牛込區市

ケ谷田町二ノ二二

中村直吉君

君は兵庫縣人中村淺五郎君の男にして、明治十三年八月を以て生る、現時神戸米穀株式取引所仲買人、神戸證券株式會社取締役、神戸商事信託株式會社監査役たり、家族は夫人たま子の間に二女あり

〔現住〕神戸市水木通三ノ六四
〔電話〕本局九一〇番

中村房五郎君

君は埼玉縣人中村孫兵衛君の弟にして、慶應元年四月を以て生れ分家す、現時株式會社熊谷銀行、松本米穀製粉株式會社各監査役、秩父鐵道株式會社事務取締役たり、家族は夫人すか子の間に一男道三君あり、養女よし子は東京府士族米山兆二君に嫁せり

〔現住〕埼玉縣大里郡熊谷町

中村彌之祐君

君は島根縣人三上新市郎君の弟にして、明治四年四月を以て生れ先代祐七君の養嗣子となる現時不二商會、姫路電氣化學工業株式會社、姫路水力電氣株式會社、紅屋コークス株式會社各取締役たり、家族は夫人榮枝子の間に二男二女あり〔現住〕兵庫縣姫路市龍野町〔電話〕三〇〇番

成瀬正恭君

君は香川縣人成瀬岩太郎君の三男にして、明治元年五月を以て生れ、年齢漸く十五歳にして慶應義塾に入學し卒業後、同十九年米國に渡航し、市俄古府のブライアント、アンド、ストラットン商業學校に入り翌年拔群の成績を以て卒業し、此年更に紐育府コルネル大學法學部に入り、二十二年卒業してバチエラオプローの稱號を受け進んで大學院に入り、二十三年マスター

オプローの稱號を得て歸朝す、翌二十四年横濱正金銀行に入り同二十八年日本貿易銀行に聘せられて支配人となり、同三十一年株式會社十五銀行に轉じて支配人となり、専ら同行の經營に任じ傍ら帝國倉庫株式會社監査役とし又丁酉銀行頭取として大に其の鬼才を發揮し斯界に鏘々の名を博したり、尙千代田火災保險株式會社取締役、株式會社川崎造船所監査役、東京交換所委員たり、君今や巨大一億萬圓の總資本金を以て銀行界の覇者たる同行の頭取として波瀾瀾湧たる我金融界に於て威名隆々斯界を壓するものあり、君の如きは眞に斯界に於ける至寶と謂ふ可きなり、家族は長男正一君同妻福子、次男正二君、三男俊介君、長女龍子、次女清子、五男岩雄君、六男五郎君、孫光子あり、弟正行君、同正忠君、從弟清治君は各其の妻子と共に分家し、弟正義君も亦分家して東京府人石河幹明君の二女豊子を娶

れり〔現住〕東京市芝區白金三光町四七三〔電話〕高輪二〇、五五九

那波齊治君

君は明治七年九月を以て岐阜縣大垣市に生る、夙に郷里の中等學校を卒へるや上京して東京高等商業學校に入學し明治三十年を以て卒業直ちに滋賀縣立商業學校教諭に任命せらる後轉じて明治三十二年三十四銀行基隆支店支配人に就任し以來同行幹部として在勤すること大正七年に及べり其後日米信託、中島礦業内國通運等の取締役に選任せられたるが大正九年に至る間に前重役を辭任せり大正十二年新法令に依り信託會社の創立を企て神田氏と共に朝日信託株式會社の設立を發起し十三年五月を以て創立いたす君直ちに入社し常務取締役に選任せらる同社は同年五月十四日大藏大臣の免許を受け爾來模範的會社たらんことを期し至勢力を傾注し社業の發展に努められつゝあり家族關係

は實兄工學博士那波光雄君及び長女は熊本縣人農學士橋本驥一君に次女は佐賀市の人谷口鐵工場主谷口清八君に嫁せり

〔現住〕東京市外中野町打越三五

名取和作君

君は長野縣人名取和三郎君の長男にして、明治五年四月を以て生る、慶應義塾卒業後渡米し米國コロンビア大學經濟學科を卒業し、慶應義塾教授となり後實業界に入り、東京電燈株式會社倉庫課長兼營業課長、星製藥株式會社監査役となり、現に日本絹布株式會社、鐘ヶ淵紡績株式會社各取締役、千代田組株式會社監査役たり、家族は夫人フク子との間に四男一女あり

〔現住〕東京市芝區高輪南町六〇
〔電話〕高輪一五一番

名取夏司君

君は長野縣人名取和三郎君の三男にして、明治十年四月を以て生る、同三十八年早稻田大學

政治經濟科を卒業す以來古河合名會社阿仁銅山經理課長、同太良支山主務等を經株式會社益岡商店取締役に、化學鹽業株式會社監査役、旭電化工業株式會社取締役に支配人たり、夫人知か子は山梨縣人小林彦太郎君の長女なり〔現住〕東京市本郷區森川町一

名和長憲君

當家は名和長年の裔にして後數十世を経て長恭に至る、明治十一年名和神社宮司となり同十六年華族に列し同十七年男爵を授けらる君は福岡縣土族友清貞治君の二男にして元治元年二月を以て生る先代長恭君の養子たり、陸軍士官學校、乘馬學校等を卒業し明治二十一年騎兵少尉に任じ大正三年五月陸軍少將に陞任す其の間騎兵第四大隊中隊長、東宮武官、東宮御用掛、皇太子殿下武科御教育掛、陸軍士官學校同騎兵實施學校等の教官騎兵第一聯隊、近衛騎兵聯隊等

の聯隊長に補し日清日露の各戰役に從軍す又被服裝具陣具及携帶糧食改良審査、軍隊内務書改正審査、馬事教令編纂、騎兵操典改正案審査等の委員を命せられたり、現時從三位勳二等功四級貴族院議員たり

名波義三郎君

君は静岡縣人板倉甫十郎君の弟にして、安政五年七月を以て生る、先代佐一郎君の養子となり、現時相良銀行頭取、藤相鐵道株式會社の取締役に、家族は夫人けん子、養子登君、千代子の夫妻あり

名倉周藏君

君は兵庫縣人名倉仁左衛門君の二男にして、明治十年十月を以て生る、現時東京紙紡績株

式會社々長、東洋亞炭工業株式會社、日本給水株式會社各取締役會長、大正土地株式會社、神戸自動車株式會社各取締役、神戸中央土地株式會社、神戸住宅土地經營株式會社各監査役、湊川花屋敷合資會社無限責任社員たり、家族は夫人さと子との間に一男三女あり

〔現住〕神戸市須磨町東須磨

名手由兵衛君

實業家

君は和歌山縣人名手由兵衛君の長男にして、明治四年一月を以て生る、前名を直松と呼ぶ、現時和歌山縣多額納税者にして由良染料株式會社、南海瓦斯株式會社、日本除蟲菊株式會社各取締役、南海晒粉株式會社監査役たり、家族は夫人ヌイとの間に一男四女及び長女晴子の養子峰四郎あり

〔現住〕和歌山縣海草郡黒江町

名出義雄君

實業家

君は和歌山縣人前田慶藏君の三男にして、先代平四郎君の養子なり、明治四年十一月を以て生る、明治法律學校を卒業す、現時南海鐵工株式會社、南海晒粉株式會社、泉陽煉瓦株式會社各取締役、和歌山醋酸株式會社富士染料株式會社各監査役たり家族は夫人ヤスの間に一男哲一郎君あり

〔現住〕和歌山縣那賀郡名手町

名島嘉吉郎君

實業家

君は鳥取縣人名島嘉吉郎君の長男にして、明治十年七月を以て生る、前名を庄三郎と呼ぶ現時鳥取縣多額納税者にして米子銀行、中國貯蓄銀行各取締役たり、家族は夫人奈をとの間に二女あり

〔現住〕鳥取縣西伯郡米子町

那波光雄君

工學博士

君は岐阜縣人那波光儀君の長男にして、明治二年八月を以て生る、同二十六年東京帝國大學工科大學を卒業し、爾來關西鐵道株式會社技師、東京帝國大學工科大學助教授、京都帝國大學理工科大學教授、九州鐵道株式會社技師、帝國鐵道廳技師、鐵道院技師、中津、大分建設事務所長、工務局設計課長兼東京帝國大學工科大學教授等に歴任し現時從四位勳三等鐵道省大臣官房研究所長兼東京帝國大學教授たり

〔現住〕東京府下豊多摩郡澁谷町下澁谷一五〇二

那須太三郎君

朝鮮憲兵隊司令官

君は山形縣人那須太次兵衛君の二男にして、明治七年二月を以て生る、同三十年陸軍士官學校を卒業し、同三十一年陸軍歩

奈良磐松君

實業家

君は秋田縣人奈良茂君の長男明治十二年八月生る、東京專門學校を卒業す、現時秋田縣多額納税者、秋田縣農工銀行、秋田銀行各取締役たり、家族は夫人セイの間に五男一女あり

〔現住〕秋田縣南秋田



夏秋十郎君

從四位勳三等 日本信託銀行 取締役 南洋興發株式會社社長

君は佐賀縣士族金持清一君の十男にして養子なり、大石太郎君の令弟、明治十一年三月を以て佐賀縣神崎郡三田川村に生る同三十六年七月東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し法學士となる、爾後山梨縣視學官、山梨、宮城、三重、千葉の各事務官警部長、千葉、石川廣島各縣内務部長として各府縣に歴任し大正六年十月青島守備軍民政部の勅任事務官に轉任し、大正八年五月退官して直ちに東洋拓殖株式會社理事に任命せられ、大正十二年五月任期満了して自然退辭となり、後株式會社日本信

託銀行取締役、南洋興發株式會社取締役會長なり、君至誠謹直にして酒を嗜まず趣味として常に文藝を好愛せらる、家族は夫人枝子、長女園子あり

〔現住〕東京市牛込區市ヶ砂原町二ノ七

奈良武次君

東宮侍從武官長

君は栃木縣人奈良彦一郎君の二男にして、明治元年四月を以て生れ分家す、陸軍士官學校を卒業し、同二十二年陸軍砲兵少尉に任じ、大正七年陸軍中將に累進す、其間陸軍省軍務局課長由良要塞砲兵聯隊大隊長、鳴門要塞司令官、攻城砲兵司令官附軍務局砲兵課長、陸軍技術本部審査部議員、陸軍省副官同軍務局長等に歴補し、尙軍務研究の爲め獨國駐在二回現時は正四位勳一等功三級陸軍中將東宮侍從武官長たり、家族は夫人ミツ子養子三郎君同夫人梅子あり

〔現住〕東京府下豊多摩郡澁橋町 柏木一六〇

奈良次郎君

山口高等商業學校教授

君は静岡縣人奈良新一郎君の弟にして、明治五年四月を以て生れ分家す、同二十四年私立錦城學校英語科專科を卒業す、曩に山口高等商業學校講師にして大正元年清國に出張を命ぜらる現時山口高等商業學校教授たり家族は夫人たけ子の間に二男四女あり

〔現住〕山口縣山口町

奈良忠行君

東京商科大学教授

君は静岡縣人奈良政和君の三男にして、元治元年一月を以て生る、明治十八年東京大學理學部地質學科を卒業し、福岡中學校教諭、農商務省技師等を歴任し、明治二十七年東京高等商業學校教授に任せられ現時東京商科大学附屬商科專門部主事兼大

内藤濱治君

實業家

君は兵庫縣人内藤濱太郎君の長男にして、明治十年三月を以て生る、東京帝國大學農科大學農藝科を卒業し、兵庫縣立農學校教授同赤穂農學校教諭兼校長等を歴任し、大正九年衆議院議員に當選せり從七位勳六等現時北幡水力電氣株式會社、播州石粉株式會社、吉原製紙株式會社、播州紡績株式會社各取締役中播電氣株式會社監査役たり、家族は夫人ちよ子の間に四男二女あり

〔現住〕兵庫縣加西郡多加野村

内藤虎次郎君

文學博士

君は秋田縣人内藤調一君の二

男にして、慶應二年七月を以て生る、號を湖南と稱す、明治十八年秋田師範學校を卒業し、日本及日本人、大阪朝日新聞、萬朝報の各記者となり、後ち京都帝國大學に聘せられ、現時五位勳四等京都帝國大學教授たり家族は夫人イク子の間に五男二女あり〔現住〕京都市上京區田中野神町二〇番地

内藤正義君

實業家

君は熊本縣人内藤定義君の長男にして、文久三年十月を以て生る、現時肥後農工銀行、肥田銀行各頭取、帝國セメント株式會社代表者たり、家族は夫人ジユキ、長男暉義君同夫人ダク子あり〔現住〕熊本縣飽託郡力合村

内藤利八君

實業家

君は兵庫縣人内藤林藏君の長男にして、安政三年二月を以て生る、曩に衆議院議員に當選す

内藤文治良君

實業家

君は山梨縣人内藤八右衛門君の長男にして、明治二年三月を以て生る、法政大學を卒業す、曩に山梨縣農工銀行支配人、若尾銀行副支配人等に擧げられ、又山梨縣會議員に推さる、現時日本電化株式會社常務取締役、東洋礦泉株式會社取締役、大日本紡織株式會社監査役たり、家族は夫人ひさのとの間に三男六女あり〔現住〕山梨縣甲府市百石町

内藤久寛君

日本石油株式會社社長

君は新潟縣人内藤久之君の長男にして、安政六年七月を以て生る、曾て縣會議員、衆議院議員に擧げらる、歐米各國に渡航する事二回、現時日本石油株式會社取締役社長、新潟鐵工所、越後鐵道株式會社各取締役たり曩に正六位に叙せらる、家族は

る事四回勳四等に叙せらる、現時姫路水力電氣株式會社社長、山崎電燈株式會社、山陽水力電氣株式會社、東播電氣株式會社各取締役たり、家族は夫人いと子の間に三男一郎君、隆三君、鐵四君あり〔現住〕兵庫縣神崎郡川邊村

内藤馬藏君

第六高等學校教授兼生徒監

君は岡山縣人内藤永吉君の二男にして、明治六年十一月を以て生る、同三十二年東京帝國大學文科大學史學科を卒業後大學院に學び、現時正五位勳四等に叙せられ勅任待遇第六高等學校教授兼生徒監たり、家族は夫人峰子との間に二男四女あり〔現住〕岡山市西田町

内藤政舉君

子爵

當家は太職冠鎌足公の曾孫左大臣魚名の男伊豫守藤成の曾孫鎮守府將軍秀卿十二代の孫内藤

る、曩に京都市市長、衆議院議員に選ばる從五位勳四等、現時京都商業會議所特別議員、商工貯金銀行頭取、京都織物株式會社京都瓦斯株式會社各取締役たり家族は夫人ひさ子との間に三男二女あり〔現住〕京都市上京區東洞院押小路南入〔電話〕同上二四

鍋島直虎君

子爵 貴族院議員

當家は藤原鎌足の裔紀伊守鍋島之茂の後なり之茂分れて肥前小城の城主となり九代を経て直亮に至る、君は侯爵鍋島直大君の弟にして、安政三年二月を以て生る、先代直亮君の養子となり、明治十七年子爵を授けらる之れより先き明治二年小城藩知事となり、外務省御用掛、布哇皇室接伴掛等を命せらる、明治二十三年以來貴族院議員に當選すること五回正三位勳二等たり此の間英國に留學せしことあり家族は夫人貴子との間に二男一

夫人サカ子との間に長男鷲郎君同夫人静子あり〔現住〕京都市麻布區材木町三六〔電話〕同上高輪一八八

内藤彦一君

實業家

君は山梨縣人内藤朝政君の長男にして、慶應元年七月を以て生る、内外煙草商を營み、菊水商店と稱す、尙此の外松屋呉服店總支配人、東京染織株式會社社長、日本化工株式會社、極東石油株式會社、日本乳酸株式會社海府礦業株式會社、綿業社各取締役たり、外に東京商業會議所議員に擧げらる、家族は夫人しん子との間に養子長一君丈夫の兩君あり〔現住〕京都市京橋區尾張町二ノ六〔電話〕銀座二七二

内貴甚三郎君

實業家

君は京都府内貴會作君の長男にして、嘉永元年十月を以て生

女あり長男直庸君は從四位主獵官たり〔現住〕京都市牛込區市ヶ谷砂土原町三ノ一八〔電話〕牛込一五九九

當家は舊佐賀藩の一門にして鍋島平左衛門の後なり世々祿二萬石を領し十數世を経て先々代直嵩に至る直嵩維新の際藩主を援けて功あり君其の後を享く君は佐賀藩士鍋島孫六郎君の二男にして養嗣子たり明治二年十二月を以て生る同三十年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる同二十三年陸軍騎兵少尉に任じ大正八年少將に陞り豫備役被仰付其間皇族附武官兼軍事參議官副官、陸軍省軍務局課員等に歴補し現時從三位勳三等功四級貴族院議員たり、家族は夫人滑子との間に二男一女あり〔現住〕東京府下中澁谷七六一〔電話〕青山一七四

當家は代々佐賀藩の國老として龍造寺の一族なり、祖を鍋島平右衛門茂尙となす世々武雄二萬千六百石を食み十數世を経て茂義に至る茂義の長男茂昌其後を繼ぎ明治三十年男爵を授けられ正五位に叙せらる、君は茂昌の長男にして元治元年三月を以て生れ明治四十三年襲爵し從四位勳七等に叙せらる、家族は夫人ヨリヨとの間に二男三女あり〔現住〕佐賀縣杵島郡武雄町

鍋島英昌君

男爵

君は長崎縣人鍋島平左衛門君の二男にして、萬延元年五月を以て生る、明治十七年外務省御用掛となり爾後外務省、交際官試補、外務省書記官明治二十七八年戰役大本營附、英照皇太后崩御に付大喪使事務官、公使館一等書記官、臨時外務省事務從

鍋島桂次郎君

貴族院議員

君は長崎縣人鍋島平左衛門君の二男にして、萬延元年五月を以て生る、明治十七年外務省御用掛となり爾後外務省、交際官試補、外務省書記官明治二十七八年戰役大本營附、英照皇太后崩御に付大喪使事務官、公使館一等書記官、臨時外務省事務從

事統監府書記官、外務省參事官
統監府外務總長、參與官、特命
全權公使等に歴任し、電信符號
改正取調臨時報告等の委員に舉
げられ其の間英米獨白の四國に
在勤す、又海外に差遣はさるゝ
こと數回、白國開催第三回萬國
海法會議及萬國貿易統計會議に
委員として孰も參列せり、大正
五年貴族院議員に勅任せらるゝ
家族は春雄君、滋君の二男あり

〔現住〕東京市麻布區東鳥居坂二
〔電話〕高輪四八一七

成田直一郎君

實業家

君は秋田縣人成田儀八郎君の
長男にして、明治十一年三月を
以て生る、同三十三年東京専門
學校政治科を卒業す、退役陸軍
騎兵中尉にして日露役に從軍す
曩に縣會議員、同參事會員、畜
産組合議員に擧げられ大正九年
衆議院議員に當選す從七位勳六
等現時前山酒造株式會社社長秋
田電氣株式會社、秋田火山灰株

式會社各取締役にして世々農家
たり、家族は夫人ミヤ子の間に
一男二女あり

〔現住〕秋田縣北秋田郡鷹巢町

成田榮信君

衆議院議員

君は愛媛縣人成田國太郎君の
弟にして、明治二年十一月を以
て生る、夙に關西大學、中央大學
に學び水産講習所を卒業す、君
は通信社を經營し、又海南新聞
社取締役にして勳四等に叙せら
る、大正十年には漁業視察の爲
め薩哈哩州に赴けり代議士に當
選すること五回、家族は夫人れ
ん子養子榮一君あり

成子善太郎君

實業家

君は大阪府成子善七君の長男
にして、文久三年十月を以て生
る、酒造業を營み浪花正宗の釀
造元を以て聞ゆ尙は尾崎銀行頭

取、泉州煉瓦株式會社社長たり
家族は夫人ヒロ子、養子善七君
同夫人トキ子あり

〔現住〕大阪府泉南郡尾崎村

成澤伍一郎君

實業家

君は長野縣人小出孝太郎君の
弟にして、明治十四年四月を以
て生れ、先代伍一郎君の養嗣子
となる、前名を惠と呼ぶ、現時
上田銀行、上田農蠶具製造株式
會社、上田瓦斯株式會社各監査
役たり、家族は夫人登喜子の間
に一男あり、養妹多眞は長野縣
人伊藤善夫君に嫁せり

成清信愛君

貴族院議員

君は福岡縣人成清博愛君の長
男にして、明治十九年一月を以
て生る、早稻田大學を卒業し現
時大分縣多額納稅者貴族院議員
兩豐銀行、宇佐參宮鐵道株式會
社各取締役大分セメント株式會

社監査役、成清鑛業株式會社取
締役社長たり、家族は夫人靜子
の間に三男二女あり

〔現住〕東京市麻布區本村町一四
四〔電話〕青山四八一〇

鳴瀧幸恭君

實業家

君は兵庫縣人鳴瀧幸昌君の二
男にして、嘉永二年一月を以て
生る、現時兵庫縣農工銀行頭取
神戸信託株式會社社長、東洋輸
出木材株式會社取締役たり、家
族は夫人まきの間に一男二女あ
り、男秀雄君は夫人良子を娶り
現戸主たり、長女達子は西川文
太郎君に嫁す

直井安次郎君

實業家

君は大阪府直井庄七君の長男
にして、慶應元年十月を以て生
る、綿布商を營む外、關西紡績
株式會社社長、九今綿布株式會
社、大津紡績株式會社、和泉織

布株式會社各取締役、東洋製鋼
株式會社監査役たり、家族は夫
人リウ子の間に四男二女あり

卒業す、現時日本燐寸株式會社
神港汽船株式會社、日本製鐵株
式會社神戸電機製作所各取締役
濟生信託株式會社監査役たり、
家族は夫人きぬ子の間に四男五
女あり

直木政之介君

實業家

君は兵庫縣人神田勝次郎君の
長男にして、嘉永四年一月を以
て生れ、直木家へ入夫す、曾て
内國海運株式會社社長たり、現
時勳六等神戸商業會議所特別議
員、日本燐寸株式會社社長、湊
川土地建物株式會社、阪神石材
株式會社各取締役たり、家族は
夫人かう子の間に六男四女あり

直木三男君

實業家

君は兵庫縣人直木政之介君の
長男にして、工學博士直木倫太
郎君の養弟なり、明治十四年六
月を以て生れ、神戸商業學校を

〔現住〕神戸市中山手通七ノ三一
〔電話〕本局二二三四

直木久兵衛君

實業家

君は兵庫縣人梶鶴之助君の弟
にして、明治四年九月を以て生
れ、先代久兵衛君の養嗣子とな
る、前名を由三郎と呼ぶ、米穀
商を營む、外尼崎共立銀行、帝
國油脂株式會社、滿洲商業株式
會社各取締役日本米穀株式會社
監査役たり

〔現住〕神戸市兵庫島上町五
〔電話〕本局四七一

中辰之助君

實業家

君は大阪府人エミの養子にし
て、明治元年四月を以て生る、

曾て衆議院議員に當選すること
三回現時大阪農工銀行、岸田貯
蓄銀行、大阪商業株式會社、和
泉紡績株式會社各監査役たり、
家族は夫人スミ子の間に一男一
女あり

中井三郎兵衛君

紙商 中井商店

君は京都府人中井三平君の長
男にして、嘉永四年十二月を以
て生る、現時京都織物株式會社
東京印刷株式會社各取締役、京
津電氣軌道株式會社、王子製紙
株式會社各監査役たり、家族は
夫人ツタ子の間に二男二女あり

中居篤次郎君

實業家

君は滋賀縣人中居與平君の長
男にして、明治八年十月を以て
生る、現時日本麻絲株式會社、
日本絹絲株式會社各取締役、阿

波紡績株式會社監査役たり家族
は夫人いと子の間に五女あり

中原淳藏君

工學博士

君は熊本縣人中原左七郎君の
長男にして、安政三年十二月を
以て生る、明治十五年工部大學
を卒業し、機械工學研究の爲め
英獨に留學し、歸朝後熊本縣山
鹿鑛物株式會社社長、第五高等
中學校教授、東京高等工業學校
教授、熊本高等工業學校長、九
州帝國大學工部大學教授等を歴
任し、現時正三位勳二等九州帝
國大學教授たり、家族は夫人ウ
メ子の間に三男七女あり

中濱東一郎君

醫學博士

君は高知藩士中濱萬次郎君の
長男にして、安政四年七月を以
て生る、明治十四年東校醫學部

を卒業し、福岡醫學校教授、岡山、金澤各病院長、内務御用掛内務省技師、東京衛生試験所長等を歴任す、曩に海外へ派遣せらる、現時從五位勳四等内閣恩給局常務顧問醫たり、家族は夫人よし子の間に二男三女あり

中橋徳五郎君

立憲政友本黨領袖

君は舊金澤藩士齋藤宗一君の五男にして、元治元年九月を以て生れ先代はんの養嗣子となる金澤専門學校文學部を卒業し明治十五年東京帝國大學法學部に學び商法を研究す、同十九年卒業して大學院に入り幾許もなく判事候補に任せられ横濱始審裁判所に勤務し後農商務省參事官、法制局參事官となり議院制度取調の爲め歐米を巡歴す、二十九年更に清國に航し郵便制度を視察し歸朝後逡信省監査局長を経て鐵道局長たり、日清戦後

實業界倒産の悲境を來し、大阪商船會社も亦其の渦中に在り君株主等の懇望により官を辭して同社に入り竟に克く同社今日の盛大を致し關西實業界の大立者として信望極めて厚し、一旦後進に道を開くのを以て辭職し政界に乗り出し衆議院議員に當選する事四回先に文部大臣たり政友會分裂するや政友本黨の重鎮として政界に重きをなせり、家族は夫人ゑつ子の間に一男五女あり

中西平兵衛君

綿業 中四商店代表者

君は和歌山縣人中西忠助君の二男にして、萬延元年九月を以て生れ分家す、曩に大阪綿業株式會社社長たり、現時綿業を營み尙ほ天平綿業株式會社代表者、南大阪土地株式會社、三島紡績所、朝鮮棉花株式會社各取締役、市岡土地株式會社、化學精

油株式會社各監査役たり、家族は夫人スマ子養子文五郎君あり

中西龜太郎君

醫學博士

君は靜岡縣人和田彦平君の三男にして、明治元年十一月を以て生れ、先代謙藏君の養嗣子となる、明治二十五年帝國大學醫學科大學を卒業し、大學院に學び醫科大學助手より、同三十四年京都帝國大學教授、醫科大學附屬醫院長等に歴任し、正四位勳三等京都帝國大學名譽教授に進み今日に至る、家族は夫人のふ子の間に二男三女あり

中西重太郎君

實業家

君は和歌山縣人中西重助君の長男にして、明治十九年九月を以て生る、現時中西木材工業株

式會社社長、金陽組泰生木材株式會社各取締役たり、家族は夫人フジ子の間に一男一女あり

中尾芳助君

司法官

君は中尾山助君の二男にして明治五年四月を以て生る、先代治良君の養嗣子となる、明治二十六年獨逸協會法律科を卒業し同三十一年判檢事辯護士試験に合格し司法官候補、東京區裁判所、東京、浦和各地方裁判所、東京控訴院各判事を歴任し、現時正五勳五等大審院判事たり、家族は夫人ロク子の間に五男あり

中尾義三郎君

藥種肥料商

君は大分縣人辛島友八郎君の長男にして、嘉永六年七月を以て生れ先代喜平君の養嗣子とな

り、藥種肥料商を營む、外二十三銀行、大分貯蓄銀行、南洋護謨株式會社、大分紡績株式會社各取締役たり、家族は夫人チヨ子の間に三男五女あり

中岡喜助君

太物足袋卸商

君は和歌山縣人岩崎甚左衛門君の二男にして、天保十四年三月を以て生れ先代善五郎君の養嗣子となる、太物足袋卸商を營む、外合同足袋株式會社代表者正金貯蓄銀行、和歌山瓦斯株式會社、紀陽織布株式會社、東亞ゼラチン株式會社、大阪中央土地株式會社各取締役、廣業組日本除蟲菊株式會社各監査役たり家族は夫人とみへの間に一男二女あり

中川良長君

男爵 貴族院議員

當家は贈太政大臣正一位藤原良門の裔正二位前權中納言甘露

寺愛長の後なり、愛長の七男與長興福寺中五大院を相續して春日神社神勳を仰付らる明治七年廣瀬神社少宮司となり同八年華族に列し同十七年男爵を授けられ同二十三年以來貴族院議員に當選すること數回に及ぶ、君は先代與長君の三男にして明治九年十月を以て生れ大正九年襲爵す、曩に東京電燈株式會社監査役たり現時貴族院議員たり、家族は夫人との間に二男一女あり

中川壯助君

工學博士

君は大阪府人中川頼次君の長男にして、明治六年二月を以て生る、同二十九年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し、東京硫酸株式會社取締役兼技師長たり、現時は東京帝國大學教授にして正五位高等官二等たり家族は夫人キミエ、弟忠三君同夫人靜枝あり

〔現任〕東京市牛込區矢來町九

中川望君

大阪府知事

君は宮城縣人中川操吉君の二男にして明治八年三月を以て生る、同三十四年東京帝國大學法科大學を卒業し、文官高等試験に合格し、福島、兵庫各縣參事官、内務省參事官、同衛生局保健課長、同書記官、地方局市町村課長、埼玉縣事務官同内務部長、内務省地方局府縣課長、神奈川縣内務部長、内務省衛生局長、山口縣知事等を歴任し、現時正四勳二等大阪府知事たり其の間歐米に派遣さる、家族は夫人貞子の間に一男二女あり

中川謙二郎君

東京女子高等師範學校名譽教授

君は京都府人中川岩二君の長男にして、嘉永三年九月を以て生る、東京開成所共立學舎等に學び、東京開成學校製煉科を修業し、縣立新潟學校化學科教員學習院及東京女子師範學校教諭事、東京女子高等師範學校教授兼幹事、東京高等師範學校教授、共立女子職業學校長同理事、文部

中川淺之助君

實業家

君は東京府人中川津平君の長男にして、明治七年二月を以て生る、同三十二年東京高等商業學校を卒業し、大阪商船株式會

省視學官兼東京高等工業學校教授、仙臺高等工業學校長、東京女子高等師範學校長等に歴任し現時從三位勳三等錦鷄間祇候東京女子高等師範學校名譽教授たり、家族は夫人ゆう子の間に一男四女あり〔現住〕東京市本郷區西片町一〇はノ一七號

中川明君

機械鑄造業

君は岐阜縣人細江助太郎君の弟入夫にして、明治十二年六月を以て生る、機械鑄造業を營む外合資會社中川鐵工所代表者、石川板紙株式會社取締役、山澤鐵工所株式會社監査役たり、夫人なをゑあり

〔現住〕大阪市北區西野田兼平町七四九〔電話〕土佐堀二五二八

中川鹿太郎君

實業家

君は愛媛縣人中川鹿太郎君の長男にして、明治八年十月を以て生る、現時宇和島共榮銀行頭

取、南豫製絲株式會社宇和島米穀株式會社各取締役たり、家族は夫人リョ子の間に二女あり

中川喜義君

實業家

君は高知縣人秋田義尚君の二男にして、明治十三年七月を以て生れ、中川恒三養兄分家たり、土佐帆船株式會社取締役たり、現時土佐運輸株式會社、徳島水力電氣株式會社、土佐セメント株式會社、小濱電燈株式會社、愛媛鐵道株式會社各取締役、土佐紙紡績株式會社、白洋商事株式會社、土佐曹達株式會社各監査役たり、家族は夫人佐代子の間に四男一女あり

〔現住〕高知市神形町

中川茂次君

雜貨化粧品直輸入商

君は大阪府人平松忠造君の三男にして、明治四年五月を以て生れ、先代翠君の養嗣子となる

雜貨化粧品直輸入商を本業とし尙ほ日本帽體製造株式會社帝國護謨製造株式會社大阪刷毛製造株式會社各取締役、和泉綿布株式會社高橋製帽株式會社各監査役たり、家族は夫人美旗子の間に三男五女あり

〔現住〕大阪市東區瓦町五ノ六九〔電話〕本局一〇〇九番

中川英彦君

實業家

君は大阪府人中川平七郎君の長男にして、明治九年一月を以て生る、現時關西製鋼株式會社取締役、岸和田煉瓦株式會社監査役たり、家族は夫人セン子の間に三女あり、姉節子は大阪府人江見薫君に嫁せり

〔現住〕大阪府泉南郡岸和田町〔電話〕岸和田三四

中川久任君

伯爵 貴族院議員

當家は清和天皇の皇孫鎮守府將軍源經基三世攝津守源賴光十

二世の裔兵庫頭中川清深の十世瀨兵衛清秀の後なり、清秀初め荒木攝津守村重に屬し天正元年七月單身和田維政を淀川に獲同六年織田信長に參し屢々軍功あり攝津茨木の城主となる後羽柴秀吉に屬し賤ヶ嶽の軍に従ふて戦死す其子右衛門尉秀政家を繼ぎ播州三木の城主となり秀吉に従ふて所々に軍功を樹つ、弟秀成其後を享け豊後國岡に移封して七萬四百四十石を食すそれより十二代を経て現代久任伯に至る、伯は正四位中川久成伯の相續者にして舊廣島藩主淺野長動侯の從弟に當り故淺野懋績君の末男なり明治四年五月を以て生れ幼名を倉吉と稱し明治三十年久成伯の養嗣子となり久任と改むるに至れり伯は學習院の出身にして、國光生命保險株式會社取締役、貴族院議員に互選せらる、事二回現に其の職にあり

〔現住〕東京市麻布區宮村町一〇

〔電話〕高輪四八四二

中川銚吉君

理學博士

君は石川縣人中川富三君の長男にして、明治九年七月を以て生る、同三十一年東京帝國大學理學科大學數學科を卒業し、獨逸に留學し歸朝後第二高等學校教授、東京高等師範學校教授、東京帝國大學理學科大學助教等に歴任し、現時從四位勳三等高等官一等東京帝國大學教授たり、家族は父君富三君母堂きく子夫人秀子あり

〔現住〕東京市外千駄ヶ谷八五六

中上川三郎治君

實業家

君は東京府人中上川彦次郎君の三男にして、明治十九年八月を以て生る、慶應義塾大學理財科を卒業し、歐米各國に留學し具に理財學を研究し歸朝後株式會社千代田組專務取締役、石渡電氣株式會社監査役として活躍

な 之 部

しつゝあり、家族は夫人蝶子の間に一男一女あり

〔現住〕東京市麻布區東町二九

中上川次郎吉君

實業家

當家は先代彦次郎君より顯はる、君は其三男にして明治十七年八月を以て生る慶應義塾大學を卒業し現時日本絹布株式會社取締役電氣化學工業株式會社監査役たり、家族は夫人愛子の間に一男一女あり、尙姉艶子は池田成彬君に、妹アキ子は宮下左右輔君に嫁し、第三郎治君、鐵四郎君、勇五郎君は各分家せり

〔現住〕東京市芝區三田一ノ四一

中田薫君

法學博士

君は東京府人中田直慈君の長男にして、明治十年三月を以て生る、同三十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し、大學院に入り日本法政史を研究し同四十一年法政史研究の爲め英獨

へ留學を命せられ、歸朝後東京帝國大學助教となり、現時從四位勳三等高等官一等東京帝國大學教授たり、家族は夫人榮子長男瑞彦君、弟四郎君あり妹トミ子は三田定則君に嫁し、第三郎君は分家せり

〔現住〕東京市麻布區斧町一四〇

中田錦吉君

實業家

君は秋田縣人中田直哉君の弟分家にて、元治元年十二月を以て生る、明治二十三年帝國大學法科大學を卒業し、爾來別子鑛業所支配人、住友銀行支配人等に就任し現時正六位住友總本店理事、住友銀行、住友鑄鋼所、臨港土地株式會社各取締役たり、家族は二男二女あり

〔現住〕大阪市東區島町一八七〔電話〕東六〇四

中田清兵衛君

書齋商

君は富山縣人密田林藏君の叔

父にして明治九年九月を以て生れ先代清兵衛君の養嗣子となる幼名を徳次郎と呼ぶ家代々書齋商を營む、現時富山縣多額納税者にして十二銀行、金澤貯蓄銀行各頭取、富山縣農工銀行、明治書籍株式會社各取締役、富山電氣株式會社監査役たり、家號を茶の木屋と稱す、家族は夫人キタ子の間に五男五女あり

〔現住〕富山市東四十物町〔電話〕三〇

中谷徳恭君

實業家

君は大阪府人中谷恒七君の長男にして、嘉永四年九月を以て生る、現時大阪運河株式會社社長、東洋アスベスト株式會社、大日本珪瑯株式會社、大阪島舟土地株式會社各取締役、小澤電氣工業株式會社監査役たり、家族は長男謙之亮君其妻女イト子孫二男あり、二男都三郎君は妻桂女を伴ひ、二女ワカは夫君源吾君に従ひ、三男篤二君は妻つ

やを伴ひ各分家せり

〔現住〕大阪市西區春日出町一
〔電話〕土佐堀九七四

中津親義君

實業家

君は熊本縣士族中津嘉傳君の長男にして、明治十五年九月を以て生る、同四十四年京都帝國大學文科大學を卒業し、現時株式會社共益社鐵工所、共益揚水株式會社各社長、九州磚茶株式會社取締役、弘益殖産株式會社監査役、熊本縣立圖書館長たり家族は夫人キマ子との間に四男三女あり、姉幾壽は熊本縣人金澤久君に嫁す

〔現住〕熊本縣市明圓寺町

中津川秀太君

實業家

君は栃木縣人中津川嘉秀君の長男にして、明治元年八月を以て生る、栃木縣衛生、保安各課長、同縣足利、芳賀各郡長等を歴任し、現時從六位勳六等大田原

なる、曾て安田銀行營業部長兼證券課長たり、現時東京商業會議所議員、東京米穀商品取引所理事北海道産業株式會社社長、小田原電氣鐵道株式會社社長、京濱電氣鐵道株式會社、東京穀物信託株式會社、蒲郡臨港線株式會社、日本鉛筆製造株式會社加富登麥酒株式會社各取締役、氣仙水電氣株式會社監査役たり、家族は夫人九二子の間に三男六女あり

病院株式會社取締役、金精川水電氣株式會社監査役、鹽那電氣株式會社支配人たり、家族は夫人ヨシ子の間に四男三女あり長女キツ子は栃木縣人村井恒君に嫁し、弟喜四郎君は妻キシイ同正橋君は妻とらと共に各分家せり

〔現住〕栃木縣那須郡大田原町

中辻源太郎君

實業家

君は滋賀縣人中辻源治郎君の長男にして、明治十二年十月を以て生れ、前名を太一郎と呼ぶ現時二十一銀行、長濱貯金銀行各取締役、伊香銀行監査役、日本ビロード株式會社取締役たり家族は夫人婦美子の間に四女あり

〔現住〕滋賀縣坂田郡六莊村

中根虎四郎君

實業家

君は東京府士族堀江新右衛門君の三男にして、慶應二年七月を以て生れ先代やをの養嗣子と

〔現住〕東京市芝公園第二十二號地

中根與七君

鋼鐵金物商

君は愛知縣人大河内伊平君の長男にして、文久元年一月を以て生れ先代與七君の養嗣子となる、鋼鐵金物商を營む、外岡崎商業會議所議員、岡崎倉庫株式會社社長、岡崎瓦斯株式會社監査役、中根商店代表者たり、曩に岡崎商業會議所君會頭に擧げらる、家族は夫人たね子の間に

三男三女あり
〔現住〕愛知縣岡崎市連尺町
〔電話〕二〇

中根福太郎君

實業家

君は愛知縣人中根權右衛門君の長男にして、萬延元年五月を以て生る、現時大野銀行、蠶絲周旋株式會社各取締役たり、家族は夫人いわの間に五男二女あり、長女ふでは同縣人加藤長次郎長男美市に二女すづは渡邊新次に妹もとは河合千代作君に嫁せり

中根己巳君

男爵

當家は舊越前福井藩士中根雪江より家名を揚ぐ雪江維新の際參與に任じ從四位を贈らる夫より牛介を経て君に至る君は其の長男にして明治二年十月を以て生る、同三十年祖父雪江の勳功に依り男爵を授けらる、同二十五年陸軍士官學校を卒業し歩兵

少尉に任じ同三十二年大尉に累進し現時正四位勳五等退役陸軍歩兵大尉たり、其間岐阜聯隊區副官、歩兵第三十六聯隊中隊長に歴補す家族は夫人芳子の間に五女あり、弟治六君は岐阜縣人馬淵家に入す

〔現住〕愛知縣岡崎市明大寺町

中村半左衛門君

實業家

君は東京府人中村一豊君の長男にして、安政三年十一月を以て生る、現時株式會社多摩農業銀行頭取、日本高速度鋼株式會社、青梅鐵道株式會社監査役たり、家族は夫人ハマの間に三男二女あり

〔現住〕東京府北多摩郡大神村

中村猪三郎君

船具金物商 地主

君は香川縣人中村嘉平君の長男にして、明治十三年二月を以て生る、現時大阪窒素肥料株式會社社長、石橋土地建物株式會社

な之部

社、東亞拓殖澱粉株式會社、豊國ゴム株式會社各取締役、キアパレバノン株式會社、日本綿紡株式會社各監査役、神戸英一番輸入部大阪支配人たり、家族は夫人シウ子の間に五男二女あり

〔現住〕大阪東市成郡天王寺村
〔電話〕南六二五八

中村平左衛門君

實業家

君は愛知縣人市川彦右衛門君の二男にして、慶應二年七月を以て生れ先代平一郎君の養嗣子となる、現時幡豆貯蓄銀行、西尾銀行各取締役、奥津製絲株式會社、平坂電氣株式會社各監査役たり、家族は夫人みね子の間に二男一女あり、長男耕造君は同縣人外山勘一君の妹はな子を娶り、六男を擧げ、二男誠一君は同縣人下郷彌一郎君の養子となり、長女とは子は近藤兼三郎君に嫁せり

〔現住〕愛知縣幡豆郡平坂村

中村寅吉君

實業家

君は滋賀縣人中村彌十郎君の長男にして、明治六年三月を以て生る、同三十三年東京帝國大學法科大學を卒業し法學士たり現時從七位勳六等後備陸軍二等主計にして二十一銀行専務取締役、長濱貯金銀行取締役、株式會社柴田商店監査役たり、家族は夫人さと子の間に四男六女あり

〔現住〕滋賀縣坂田郡長濱町

中村藤吉君

實業家

君は静岡縣人中村讓庵君の長男にして、安政元年七月を以て生る、曩に東海煉瓦株式會社取締役社長たり、現時静岡縣多額納税者にして濱松商業會議所會頭合名會社中村社代表者、濱松貯蓄銀行資産銀行、三十五銀行、日本樂器製造株式會社、日本形染株式會社、帝國製帽株式會社、日本耐火製板株式會社、

濱松鐵道株式會社、清江下駄株式會社、遠州軌道株式會社、新居養魚株式會社各取締役、濱松瓦斯株式會社監査役たり、家族は夫人はな子の間に二男あり

〔現住〕静岡縣濱松市田町

中村富三郎君

米穀商

君は東京府人加藤藤兵衛君の二男にして、文久元年三月を以て生れ先代清藏君の養嗣子となる、米穀商を營む外中加貯蓄銀行、關東工業株式會社、不二興業株式會社各監査役たり、家族は夫人いせ子の間に三男三女あり

〔現住〕東京市深川區大住町四

中村治兵衛君

吳服太物商

君は巖手縣人長岡半兵衛君の六男にして、嘉永四年六月を以て生れ先代治郎兵衛君の養嗣子となる、曩に貴族院議員に當選す、又盛岡市會議員、同參事會員に推される現時勳四等巖手縣多

額納税者にして盛岡銀行取締役
巖手銀行監査役、盛岡電氣株式
會社取締役たり、家族は長男省
三妻ハナ子二男常助妻富子あり
〔現住〕岩手縣盛岡市新穀町五
〔電話〕二二番六五番

中村忠吉君

實業家

君は大分縣人中村利吉君の長
男にして、明治十二年八月を以
て生る、現時青蕙銀行取締役、
大分銀行、國東鐵道株式會社各
監査役たり、夫人シヨヲは同縣
人二階堂十吉君の二女にして、
妹タキ子は夫君松雄君に從ひ子
女と共に分家せり
〔現住〕大分縣速見郡杵築町

中村忠七君

實業家

君は靜岡縣人中村惣七君の二
男にして、安政四年七月を以て
生れ分家す、現時濱松市會議長
濱松商業會議所副會頭、濱松鐵
道株式會社專務取締役、帝國製

帽株式會社、大日本軌道株式會
社、遠州軌道株式會社各取締役
日本樂器製造株式會社、濱松信
託株式會社各監査役たり、家族
は夫人うめ子の間に一男八女あ
り〔現住〕靜岡縣濱松市速尺町

中村長吉君

銀行家

君は靜岡縣人中村孫六君の長
男にして、嘉永五年三月を以て
生る、現時福田銀行、福田貯蓄
銀行各頭取たり、家族は夫人や
すの間に三男二女あり長男純一
君は同縣人岩間善次郎妹つぎを
娶り、長女ことは杉井榮雄君に
二女もとは寺田祐一君に嫁し、
二男正君は石津松太郎君の養子
となり三男賢三君は山内たね長
女豊子に婿養子となれり
〔現住〕靜岡縣磐田郡於保村

中村利藤太君

實業家

君は熊本縣人中村純平君の長
男にして、明治元年四月を以て

生る、現時株式會社天草銀行、
熊本縣酒造研究所、天草商船株
式會社各取締役、天草製絲株式
會社監査役たり、家族は夫人タ
メヨの間に一男一女あり、弟彦
次郎君は同縣人山田保君に、同
治三郎君は益田壽三郎君に同末
彦君は猪股穂三君に各養子とな
れり〔現住〕熊本縣天草郡木戸村

中村利三郎君

實業家

君は北海道人中村與四兵衛君
の弟にして、安政六年四月を以
て生れ分家して一戸をたつ、現
時戸出物産株式會社專務取締役
定山溪温泉株式會社、日本物産
株式會社各取締役、大阪造酢株
式會社監査役たり、家族は夫人
こと子養子敬二郎君あり
〔現住〕北海道小樽市相生町二ノ
一九

中村與右衛門君

醬油問屋

君は愛知縣人中村清兵衛君の

三男にして、安政三年八月を以
て生れ先代治郎太君の養嗣子と
なる、家代々佐野屋と號し醬油
商を營む、又株式會社金城銀行
取締役たり、家族は夫人すゞ子
の間に一男四女あり、長男轍太
郎君妻しげ子を娶り、孫二男二
女を擧げ、長女ちやうは其夫萬
次郎君に從ひ分家し、三女いね
子は同縣人小出庄兵衛君に、四
女らい子は同縣人瀧定助君の弟
六郎君に嫁せり
〔現住〕名古屋市東區萱屋町一ノ
二五〔電話〕東三九二

中村米治郎君

中村式織機製造業

君は愛知縣人森重次郎君の長
男にして、明治六年三月を以て
生れ先代米次郎君の養嗣子とな
る、曾て株式會社服部商店、中
原織物商店代表社員たり、現時
中村式織機製造業を營み、尙ほ
名古屋織機製造株式會社代表者
名古屋製布株式會社取締役、森
織布株式會社監査役たり、家族

は夫人たみ子、養弟延太郎同妻
女はる子あり
〔現住〕名古屋市東區新出來町三
ノ二〇〔電話〕東四三二

中村芳三郎君

合資會社中村麻糸商會代表者

君は滋賀縣人中村治郎兵衛君
の三男にして、明治元年八月を
以て生れ、先代照の養嗣子とな
る、曩に縣會議員村長等に推さ
る、現時合資會社中村麻糸商會
代表社員、近江蚊帳株式會社專
務取締役、江州商事株式會社取
締役たり、家族は夫人みち子の
間に四男一女あり
〔現住〕滋賀縣神崎郡五峯村

奈藏正人君

麻布電氣工業所主

君は山口縣の人にして明治十
七年六月十四日を以て生る、幼
時より英才の資あり、夙に郷賢
に學修するや、志を決して東上
し、京橋工手學校電工科に入り
精勵究學、大に努力し、明治四



十一年第三十回の卒業生となる
後直ちに大藏省專賣局に入り、
電氣部技手を拜命せり、君官職
にあるや勤勉、大に誠實を以て
上長の信認ありたるが明治四十
五年、職を辭して實業界に投じ
直ちに現住所に於て麻布電機工
業所を獨立開業し、電氣諸機械
器具の製造販賣並に電燈電力工

事等の請負事業を營み、多年の
經驗と之に加ふるに博大なる蘊
蓄とを傾倒して優良品の製作工
事請負に努力せし結果今や斯界
に多大の信望を博し、民間諸會
社個人は勿論、久原系統の諸會
社並に東京市電氣局、逓信省、
大藏省專賣局等に信用あり、從
つて同方面に於ける注文常に殺
倒するの盛況にして遂次事業を

擴張し、現時は社員三名、職工
二十名、分工場職工十五名あり
何れも孜々業務に勵みつゝあり
君は資性俊雋にして堅忍不拔且
て其事業に對つて難易澁滞した
ることなし、微より起ちて今日
の地位に立つ蓋し稀世の器局た
りと云ふべし、趣味として義太
夫を好み、頗る堪能なりと又酒
煙草は君唯一の嗜好なり、夫人
理子は内助の稱あり、その間長
女富子(十四歳)あり東京女學館
在學中なり
〔現住〕東京市麻布區新堀町四
〔電話〕高輪三二二二、七四一八

中島欽三君

熊本高等工業學校教授

君は兵庫縣人中島敏之介氏の
令弟にして明治十二年七月を以
て生る、東京帝國大學理科大學
地質學科を卒業し進んで大學院
に學ぶ、爾來第二高等學校教授
兼仙臺高等工業學校教授、九州
帝國大學工科大学講師等を歴任
し、現時從四位勳五等勳任待遇

仲忠太郎君

米穀商

君は大坂府人八尾村忠次郎君
の二男にして明治八年十二月を
以て生れ先代辯藏氏の養嗣子と
なる、明治二十七年京都商業學
校を卒業し内外棉株式會社に入
り、又大阪に於て棉花業及び有
價證券現物業を經營す現時米穀
商を營む外、内外印刷株式會社

々長、神戸取引信託株式會社、神戸信託團、合同土地株式會社、共同商事株式會社各取締役、神戸取引所仲買人たり、家族は夫人マ子との間に四男三女あり、妹なかは大阪府人八代麻三郎に嫁せり

〔現住〕神戸市中山手通五ノ四
〔電話〕本局二二七八番

仲田傳之助君

實業家

君は愛媛縣人仲田傳之助君の長男にして明治四年五月を以て生る、前名を傳之丞と呼ぶ、現時株式會社松山貯蓄銀行頭取、愛媛縣農工銀行、仲田銀行各代表社員、松山紡績株式會社、伊豫電氣鐵道株式會社、各取締役たり、家族は夫人サト子との間に五男二女あり、弟久太郎は其妻ライと分家し、同盛三郎も分家し、長女梅代は香川縣人大西行禮に妹エイは東京府人井口第二郎君に、同シゲは香川縣人多賀義三郎君に嫁せり

〔現住〕愛媛縣松山市府中町

永井伊助君

實業家

君は石川縣人永井伊右衛門氏の長男にして明治三年四月を以て生る、現時株式會社三榮銀行代表者小松商業銀行取締役たり、家族は夫人音羽の間に四男あり、四男正男は石川縣人船岡久太郎の養子となり、妹みかは石川縣人園山武平君に、同ちかは同縣人加登三郎に嫁せり

〔現住〕石川縣能美郡小松町
〔電話〕一七番

永井篤三郎君

實業家

君は群馬縣人永井京藏氏の長男にして明治十一年十二月を以て生る、現時株式會社阪東電機商會代表者、上野銀行、上毛燃絲株式會社、前橋製作所、カネイ製絲株式會社、前橋織物株式會社各取締役たり、家族は夫人周子との間に五男あり、姉はな子

は同縣人中島伊之藏弟德藏君に嫁し、弟瑜三郎、欣三郎は各分家せり〔現住〕群馬縣前橋市本町

永井柳太郎君

衆議院議員 外務省參事官

君は東京府士族永井登氏の長男にして明治十四年四月金澤市に生る、早稻田大學卒業後英國に渡航しオックスフォード大學及びマンチェスターカレッジの兩校に學び、歸朝後早稻田大學教授となり又雜誌新日本の主筆たり、君又當代一流の雄辯家にして曾て早稻田大學の雄辯會々長として都下の青年學生渴仰の標的となり今や議政壇上の第一人者となり彼の天才的雄辯、風貌、態度、宛ら故大隈侯を忍ばしめ小大隈の異名さへあり、現時衆議院議員、外務省參事官たり、夫人を次代と云ひ一男一女あり、妹鑄代は福岡縣人末永惣太郎君に、同操は奈良縣人三直人君に嫁せり

〔現住〕東京府下戸塚一〇六五

〔電話〕牛込二七四三番

永井外吉君

實業家

君は石川縣士族永井孝一君の二男にして明治二十二年十月を以て生る、永井柳太郎氏とは從弟なり、現時東京護謄株式會社常務取締役、大日本護謄株式會社、太平護謄株式會社、千ヶ瀧遊園地株式會社各取締役たり、家族は母堂ツヤ子、夫人ふさ子長女美代子、二女和代子あり、姉かおりは鹿兒島縣人三原重俊に嫁す〔現住〕東京府豊多摩郡落合村一三九

永井作次君

法學士 辯護士

君は宮崎縣士族永井實尙氏の長男にして明治四年十一月を以て生る、法政大學を卒業す、曾て檢事たり、又鹿兒島市會議員に擧げらる、電氣工業瓦斯株式會社相談役たり、家族は夫人テル子、長男元君、二男保君、長

女喜代子、養女節子あり、尙養女静子は同縣人判事押川東太に嫁せり〔現住〕鹿兒島縣鹿兒島市山之口町

永井繁君

門司稅關長

君は故大審院判事永井岩之丞君の五男にして明治十六年六月を以て生れ分家して一家をなす明治四十年東京帝國大學法科大學を卒業し法學士の稱號を得、爾來稅務監督官、理財局書記官、大藏省參事官、稅關事務官、大藏書記官、外務書記官、函館稅關長等を歴任し、現時正五位勳四等門司稅關長たり、家族は夫人トヨ、長男基君、二男省君、長女惠美子あり

〔現住〕門司市東港町稅關官舎

永井潜君

醫學博士東京帝國大學教授

君は東京府人永井敬介君の二男にして明治九年十一月を以て生る、明治三十五年東京帝國大

學醫科大學を卒業し、翌年生理學研究の爲め獨、英、佛各國に留學せらる歸朝後東京帝國大學醫學科大學助教に任ぜられ現時從四位勳三等東京帝國大學教授たり、家族は夫人花江の間に二男二女あり

永原伸雄君

三菱造船株式會社常務取締役

君は岡山縣士族永原玄吉君の二男にして明治五年五月を以て生る、明治二十五年東京高等商業學校を卒業し、三菱造船株式會社に入り、同神戸造船所副社長兼總務部長を経て、現時三菱造船株式會社常務取締役たり、尙は三菱内燃機株式會社、三菱電機株式會社各監査役たり、家族は夫人浪子との間に三男四女あり

〔現住〕東京市赤坂區青山南町一丁目

永留小太郎君

株式會社川崎造船所取締役

君は東京府士族永留謙藏君の長男にして明治八年八月を以て生る、同三十九年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し、實業界に志し、現時株式會社川崎造船所、川崎汽船株式會社、旭石油株式會社各取締役たり、家族は夫人美子の間に四男一女あり

〔現住〕神戸市石井村字清水上ノ山八ノ三地上〔電話〕本局二四六九

永田秀次郎君

貴族院議員

君は兵庫縣士族永田實太郎君の長男にして明治九年七月を以て生る、第三高等學校法學部を卒業し、明治三十二年判檢事登用試験に及第し、司法官試補、四日市區裁判所詰となり、爾後兵庫縣洲本中學校長、大分縣視學官、大分、石川、熊本、岩手福岡等諸縣の事務官、内務省書

記官、福岡縣事務官、同内務部長、京都府警察部長、大禮使事務官二回、三重縣知事、内務省警保局長等に歴任し、後藤子爵東京市々長の下に高級助役として市政の刷新に全力を傾倒し、大正十二年後藤市長辭するや推されて市長となり、貢獻甚大なるものあり翌十三年九月辭職す現時正四位勳三等貴族院議員たり、其間臨時治水調査會委員、社會事業調査會臨時委員たり、家族は夫人いそ子、長男亮一あり弟兵三郎は其妻子と共に分家せり〔現住〕東京市小石川區雜司ヶ谷八三〔電話〕牛込二〇七

永田新之允君

衆議院議員 實業之日本社編輯長同理事

君は山口縣の人なり、明治四年同縣玖珂郡に生れ、立志傳中の人として世の推賞を擅にせる人なり、實業之日本社長増田義一君の再び政界に立つ可く郷里新潟より馬を逐鹿場裡に立つる

や君また之に策應して久し振りに郷里山口縣の一角より出馬致し、社長と共に當選の祝杯を擧ぐるの光榮を擔へり、實業之日本社より二人の代議士を出せしことは單に同社のみに限らず雜誌界の誇りとすべきにあらずや君は幼時、名古屋に出で、名古屋扶桑新聞に入り活版職工とな



りたり、是れ即ち君の今日ある出發點なりき、後久しく新聞記者として操觚界に活躍する處ありしが、君天性伶俐、敏敏の才あり、讀賣新聞社に入るや忽ちにして編輯長の重責に就き、後明治三十七年實業之日本社に入りて編輯長、理事となり今日に至る全く増田社長の下に至誠奉じて縦横の才腕を發揮せり、操

近隣の美む所たり

〔現住〕東京市京橋區丸屋町四
〔電話〕銀座一二五〇

中原恒吉君

有價證券買賣業

君は鳥取縣の人にして明治十四年を以て生る、夙に郷校に學業を了し更に鳥取中學に學び、業を終ふるや、直に實業に従事せり、明治三十四年志を立て東京に上り、大いに實業界に活動する所ありしが同四十年轉じて株式界に投じ、關谷商店に入りて精勵事務に熟達し、後大正元年より東株仲買人鈴木常助商店に移り大に其の才腕を發揮する處ありしが同七年四月現在地に獨立して有價證券買賣業を開始し、東京現物組合員として漸次信用を博し、營業又頗る順調に發展し今や基礎並に其信望共に斯界に噴々たるものあり、君性極めて謹直にして言行又共に誠實を以て、斯界稀に見る器局あり以て君の營業振りの堅實なる

名川侃市君

正六位 辯護士

君は廣島縣人にして明治十六年を以て同縣高田郡坂村に生る幼にして穎悟、既に幼兒の間に頭角を現す、夙に志を立て郷校を卒業するや笈を負ふて東都に出て明治法律學校に入學し切蹉琢磨大に精勵する處あり明治三十六年優秀の成績を以て同校を卒業し、翌三十七年身を官海に投じて司法官試補となり、同三十

九年判事に任せられ前橋地方裁判所、千葉地方裁判所等に勤務す、此間約一ケ年有餘にして東京地方裁判所に轉じ、大正二年同裁判所部長に累進して令名あり、大正六年感ずる所あり榮職を辭して野に下り現場所に辯護士を開業せり、然るに君が秋官時代の名聲を傳へ聞いて事件を依頼するもの日に踵を接し、開業して未だ日尙淺きに拘らず既に信望を博し斯界に指を屈せらるゝに到れり、君人と爲り温厚堅實頭腦明晰にして理論井然一糸亂れず、而も事に當りて熱心懇切以て人に接し克く内外に應酬して裁斷流るゝが如し、眞に帝都辯護士界の白眉と云ふべし君尙ほ春秋に富む、宜しく自重して以て光彩を放つべし、趣味として園藝を好み、殊に菊を愛すと、君や敢て湖明の故智に學ぶに非ずとするも忙中閑を偷んで此の風流あるは又優に雅人たるに非ずや、夫人の外に子女五人あり、家庭極めて圓滿にして

を知るに足るべし、家族は子女有らず家庭頗る圓滿なり

〔現住〕東京市麴町區上二番町七
〔事務所〕麴町區丸ノ内ビルデン
グ七階 〔電話〕牛込六八九〇

永田善三郎君

衆議院議員大連關東報社長

政界の老将、實業界の耆宿波多野承五郎君と中遠、靜岡縣第八區の逐鹿場裡に於て戦火を交へ首尾よく大勝を博し、一躍政界に名を擧げ、議政界に送られたる君は靜岡縣の人にして明治十八年六月を以て周知郡久努西村に生る、夙に大志あり早稻田大學に入り政治經濟を學ぶ、君頭腦明晰俊敏の資あり、加ふるに大志を抱く、日夜孜々學に力む、明治四十二年好成绩を以て卒業せり、後臺灣に航し、操觚界に投じ臺灣新聞社に入り筆を執る、幾許もなく辭めて、滿洲に往き、滿洲新聞社に入り、縦横の活躍掾大の筆を以て滿洲の表裏に翱翔す、大正二年聘せられ

て大連汽船株式會社天津支店長となり、實務に就いて經營宜しきを得、忽ちにして斯界に名聲を博す、後大連關東報社を創立して其社長となり爾來今日に至る、別に大連漢字新聞社に關係あり、既に君は當選の榮冠を手にし、議政壇上得意の地境に立つ、亦旺んなりと云ふべし、君人と爲り豪放にして快濶、聊も小些事に拘泥せず、器局頗る大なり、政界に於ける君の活躍必ずや大に期待すべきものあり、前途尙春秋あり、雄圖を立て、鵬翼を張る偉なりと謂ふべし、夫人を菊子と稱し、その間に長男恒君、長女みどり、次女あづま等の諸子あり

〔現住〕東京市牛込區市ヶ谷加賀町一ノ八 〔電話〕牛込三九二八

中山成太郎君

法學士 辯護士

君は東京府の人にして明治四年八月九日を以て生る、幼にして穎悟、秀才の名あり、學順を

逐ふて進み、後東京帝國大學法科大學獨法科に入り、精勵研磨大に斯學の要諦を究むる處あり明治二十八年好成绩を以て卒業し、職を官途に奉じ司法省、農商務省、臺灣總督府、文部省、大藏省等に歴任し、更に昇りて大藏省書記官、統監附書記官、朝鮮總督府參事官等に任じ、精勵恪謹以て、令名ありしが、大正九年官を退きて辯護士を開業し爾來今日に到る、君資性極めて謹直にして而も頭腦明晰事に當りて眞摯、熱誠以て人に當りて懇切よく内外に應酬して決裁流るゝが如きものあり、斯界稀に見る逸才なり、長男義一君あり、大正十三年四月東大法學部獨法科を卒業し、現に横濱正金銀行社員たり

永富雄吉君

實業家

君は舊花房藩士永富謙八氏の

長男にして明治元年五月を以て生る、東京高等商業學校を卒業するや海外に遊學し白耳義國安土府商業大學を卒業す歸朝後東京高等商業學校講師、日本郵船株式會社會計課助役、同課長等を歴任し同社内外の信望厚く進んで副社長たりしが今は閑地にあり時運を待ちつゝあり家族は夫人ミチ子の間に二男六女あり長女喜彌子は千葉縣人柴垣長君に、二女綾子は岡山縣人赤枝猛君に、妹せい子は法學博士村瀬春雄君に嫁し、六女靜子は東京府人諸葛小彌太の養女となれり

中島武君

實業家

君は栃木縣人中島儀三郎君の長男にして明治十三年三月を以て生る、現時日米護謨工業株式會社、北陸銑鐵株式會社、中央屑物市場株式會社各監査役たり、家族は夫人りよの間に、三男

三女あり、妹サクは同縣人和賀井操に、ラクは清水芳次郎に、アイは茨城縣人増淵庄三郎君に、マサは野口雅夫君に嫁せり
〔現住〕栃木縣下都賀郡家中村



中川銑三郎君

大北火災保險株式會社
常務取締役

保險界に入りて以來年を閲すること三十有餘年、終始一貫保險事務に携り、保險界の白眉と稱せらるゝものに現大北火災保險株式會社常務取締役中川銑三郎君あり、君は新潟縣士族中川文藏君の三男にして元治元年九月二十二日を以て長岡市に生れ、後分家して一家を創立せり、夙に學に篤く、郷黨に學を修むる

や上京して中央大學に入り、研鑽蓄大に收めて明治二十三年好成绩を以て卒業し、二十八年帝國海上運送保險株式會社に入社し爾來恪勤精勵十年一月の如く保險事業に従事し保險事業の發達、社運の隆盛に専ら盡瘁し大正十三年五月同社の監査役に就任するや辭職せり、次いで大正十三年九月に至るや大北火災保險株式會社常務取締役に就任し、今日に至る、君は資性謹直重厚にして其初め身を保險界に投するや専心一意終始一貫、保險事業に没頭して曾て他業に志を移したることなし、今日保險界の重鎮として斯界に名聲噴々たるものある眞に故なきにあらざる、趣味として旅行又は野外散策を好まるゝが殊に讀書は君の最も多數の時間を費す趣味にして閑あれば必ず古今東西の書を繕き會て倦む處なしと、夫人初子との間に嗣子幸夫君あり
〔現住〕東京市牛込區市ヶ谷臺町三
〔電話〕四谷四二四三

永岡彌兵衛君

繪管問屋

君は愛知縣人永岡彌兵衛君の長男にして明治二十年三月を以て生る、前名を悦太郎と呼び亡父の後を襲名す家代々北山商店と稱し塗箸問屋を營み傍ら株式會社近藤紡績所專務取締役、名古屋紡績株式會社、松阪紡績株式會社、共同紡績株式會社、榮組運送店、一誠社各取締役たり家族は夫人かね子の間に三男二女あり、妹さくは同縣人加藤常友に嫁し、弟利三良は東京府人岩崎新太郎長女千代子の婿養子となる〔現住〕名古屋市西區傳馬町二ノ八〔電話〕本局九八六

永田仁助君

實業家

君は大阪府人永田仁左衛門氏の長男にして文久三年三月を以て生る人と爲り聰明にして篤實なり明治二十一年三十二國立銀行と第五國立銀行と合併し浪速銀行の創立せらるゝや常務取締

永田達之助君

大阪株式取引所仲買人

君は大阪府人佐滿長三郎氏の三男にして明治十二年九月を以て生れ、先代安兵衛氏の養嗣子となる、現時大阪株式取引所仲買人、北濱信託株式會社、大阪證券信託株式會社各監査役たり家族は夫人サダ子、養子みさをあり、義弟親次は大阪府人油野鶴之助の養子となる〔現住〕大阪市東區北濱二〔電話〕本局二二四

永田藤兵衛君

實業家

君は奈良縣人永田藤平君の長男にして明治四年一月を以て生る、前名を泰藏と呼ぶ奈良縣多額納税者にして株式會社吉野銀行頭取、洞川電氣株式會社社長吉野鐵道株式會社取締役、五十八銀行監査役たり、家族は夫人良子の間に七男三女あり
〔現住〕奈良縣吉野郡下市町

永田保之助君

實業家

君は京都府人永田伊助君の長男にして慶應三年三月を以て生る、現時株式會社經國銀行監査役、川越鐵道株式會社取締役たり、家族は夫人かね子の間に二男三女あり、弟甚之助は妻トヨ子及子を伴ひ父伊助母ぬいと共に分家せり
〔現住〕埼玉縣入間郡川越町

永田章君

實業家

君は兵庫縣士族永田現平君の三男にして慶應二年三月を以て生る、現時神戸汽船信託株式會社代表社員、門司汽船株式會社篠栗炭礦株式會社、日東海上火災保險株式會社各取締役神戸海上運送火災保險株式會社監査役たり、家族は養子田鶴あり
〔現住〕神戸市中山手通七ノ一
〔電話〕本局六八二

永田三十郎君

船舶諸機械製造業

君は大阪府人永田三十郎君の二男にして明治十八年六月を以て生る、前名を常次郎と呼ぶ、家世々造船業を營み屋號を兵庫屋と稱し、元祿二年の創業にして九代連綿として先代三十郎に至る、君祖業を繼承して今日に至る尙ほ大阪商業會議所議員、木津川土地建物株式會社取締役社長、東大阪土地建物株式會社化學精油株式會社、日衆商會、

難波重太郎君

直輸入業 株式會社浪速商會專務取締役

君は香川縣の人にして明治十二年十一月十二日を以て生る、君幼にして穎悟、明治三十三年郷里香川縣立中學校を卒業するや直に岡山に遊學し、同地の第六高等學校大學豫科工科に入學す感ずる處あり同三十六年九月笈を負ふて東都に上り早稻田大學商科に入り、螢雪の功を積むこと五年、四十年六月卒業せり學窓を出づると共に、直に京都高島屋飯田合資會社東京支店に入社し、實務に従ふ、四十四年轉じて合資會社東洋商會に入り大正元年同社を退き、獨立して合資會社浪速商會を經營す、當時は先帝崩御の際に當り、一般經濟界は沈衰の状態なりしが、君は是等の難局に處して過らず過去數年の實地經驗と學窓に於て取得したる智識とを傾け拮据勤勉、専心業務の發展に盡力し

たり、幾何もなく歐洲戦亂の勃發に際會し、海外貿易の杜絶は物價の昂騰を來たし、物價の高昂は一般經濟界の好況を齎らすに到り、君の事業は日を逐ふて殷賑となり恰も順風に帆を揚ぐるの概あり、遂に同八年十二月組織を改めて株式會社となす、主として毛織物類、機械類等の直輸出入を營む、資本金壹百萬圓、特約店を桑港、紐育、シドニー、青島、哈爾濱、倫敦、ブラットフォード、巴里、ブエノスアイレス等に有し、業況隆々頗る斯界の注目を惹く、君學才手腕並立して卓抜なり同社の前途頗る多望なり、君は校寮の時代より常に快活を好み、今日尙野球、庭球其他野外運動の趣味を樂む、更に君亦一日も修養の念を怠らず閑あれば必ず書を繕きて餘念なし、君亦偉なる哉、家族は令閨を首めとして子女五人あり家庭極めて圓滿なり

〔事務所〕東京市日本橋區吳服町
〔現任〕東京市麻布區新龍土町六



中野金次郎君

内國通運株式會社專務取締役社長
大北火災保險株式會社社長
門司商船株式會社社長

我國の運送業界に覇を唱ふるものは内國通運株式會社を以て其の最なるものなりとす同社の資本金五百萬圓は必ずしも大を以て稱するに足らざるも其事業の全國的にして鐵道網に沿ふて整然たる運輸系統を有するは獨り内國通運と稱するも敢て過言に非らざるべし同社は久しき以前より社内の一統を欠き紛糾に次ぐに紛糾を重ね惹いては其經營上に於ても種々なる風評ありきたるに昨十二年三上豊夷君社長となり君專務取締役の重責に

就き常務取締役に小畔四郎君及び通運の創立者吉村君の令弟吉村佐平君、營業部長に小幡鐵平君、取締役に近海郵船會社社長島村君、日本郵船取締役の石井君、野田俊作君、常務監査役に松崎時勉君監査役に後藤國彦君及合川豊三郎君等一騎當千の士が轉任するや爰に陣容面目を一新し業蹟大いに期待さるべきものあり、君は福岡縣の人にして中野用七君の長男なり明治十五年筑前若松市に生る、郷里の小學校を卒業するや間もなく門司鐵道局の前身たる九州鐵道株式會社に入社せり後君の叔父たる秋田又太郎君の經營に關する巴組肥後又海運業門司支店に入社し君は巴組肥後又門司支店の主任に選ばれたり時に君年僅僅かに二十四才なりき嚴格を以て知られし叔父と君との間には一切親戚關係はなく君は全く一使人として待遇されたるが君は營々孜孜として事業の發展に盡力せり大正五年門司支店を秋田君より

繼承するや君は直ちに之を合資會社に變更し敏才を振ひ盛なる活躍を試みたり此間君は筑前の木屋瀬炭礦豊前の樺島炭礦を経營し異常なる機才を發揮して事業の隆昌を計りき、君の才知の英敏なる終に選ばれて門司市會議員となり商業會議所議員となり北九州に於ける實業界に名聲を擧ぐるに至れり君今や九州の一偶より中央に發展し驥足を伸ばし茲に大飛躍を試みつゝあり君は頭腦明敏にして機略に富む而も其の一面に於て緻密細微なる事務的手腕あり曾て大正三年の交、廣島縣多額納稅者たる八田君の經營に關する八田銀行の破綻に類せるや君懇請されて其の整理の任に當り終に其の難關を突破したる事ありき亦君が内國通運會社に於ける功績たる單に内部整理並に海陸運輸上の聯合を關りしに止らず資本金一千萬圓の近海郵船と提携して海港に於ける支店には海運に經驗ある社員を配し設備の完全を期せ

り此の海陸提携たるや實に一大革命にして我が通運史上に一新機軸を劃せるものと云ふべく之れ實に君の非凡なる一事を示せるもの爲めに君は十三年度春期株式總會に於て満場一致を以て社長に推薦されたるも蓋し當然なるべし、昨秋大震災に際し君は北海道巡視中なりしが一度凶報を耳にするや直ちに帝都に歸來し寢食を忘れて活躍せり物資輸送の遲速は以て帝都三百萬市民の生死を制するものにして物情惚々として戒嚴令下にあり一切の輸送は擧げて陸海軍に依りて行はれたり而も震災救護局の内閣直屬の下に置かるゝや、君選ばれて震災事務局に囑託せられ物資の配給輸送は軍隊より内國通運會社に移さるゝに到れり君の得意や思ふべく君の活動たるや實に疾風迅雷のなりき此功績たる眞に帝都救濟の殊勳者中の第一人者なりと云ふも強ち過言にあらざるべし近時巷間に喧傳せらるゝ小運送問題は實に君

の提案に依るものなりと云ふ、最近又馬政調査會委員を囑託さる、宜なるかな君は小運送問題に關聯して鞍馬につき深甚なる注意を怠らずと將來の馬政調査會の成績期して俟つべきものあり君前記會社重役たる他關門士地株式會社取締役、關門汽船株式會社監査役、増田ビルブローカ銀行、帝國製氷株式會社の取締役たり、君尙春秋に富む將來の發展期大にして俟つべきものあり、家族夫人しな子長男敏義君あり弟新五郎君同妻ケエ子及子女と共に分家せり

〔現任〕門司市棧橋通り
〔電話〕四二四五

中村佐平治君

蠶種製造業

君は福島縣人中村佐平治氏の長男にして明治十五年四月を以て生る、前名を佐太郎と呼ぶ、現時蠶種製造販賣を營み傍ら第一銀行、梁川紡績株式會社、梁川信託株式會社各取締役たり

家族夫人スゞの間に二女あり、弟林兵衛は妻女カネと一家をなし、妹サヨ子は同縣人齋藤三郎君に嫁し、弟孝助は分家し、同善四郎は同縣人中村タヨ子の養子となれり〔現任〕福島縣伊達郡梁川町〔電話〕七

君は東京府士族中村愿氏の長男にして萬延元年十一月を以て生る、明治十五年工部大學校を卒業し、同二十五年建築學研究の爲め歐米各國に留學を命せられ、歸朝するや、皇居造營出仕工科大學助教授、東京帝國大學教授等を歴任し、現時正三位勳一等東京帝國大學名譽教授、臨時議院建築局顧問たり、尙ほ曩に震災取調の爲め印度米國に差遣せらるゝ、家族は夫人きく子の間に五男一女あり

〔現任〕東京市小石川區原町一三
〔電話〕小石川六八七番

君は神奈川縣人増田嘉兵衛君の二男にして増田増藏氏の弟なり、明治三年十月を以て生れ先代初太郎氏の養嗣子となる、横濱商業學校を卒業す、明治三十八年歐米各國を視察す、曾て増田合名會社代表者、増田精粉所大正金屬品製作所各社長、増田貿易株式會社代表者、横濱生命保險株式會社、横濱豆粕製造株式會社、松尾鑛業株式會社、日本カーボン株式會社、大正製作株式會社、東京菓子株式會社、東海鑛業株式會社、日之出セメント株式會社、武藏電氣鐵道株式會社、大平興業株式會社各取締役、馬來護謨公司、日本原毛株式會社、珠瑯鐵器株式會社、南進公司厚昌鑛業株式會社、東西製作所各監査役たり、君は横濱に於ける重鎮にして政界、實業家に信用厚し、家族は夫人あり子の間に二男九女あり

中村房次郎君

實業家

〔現住〕横浜市老松町二ノ二八



直木倫太郎君

復興局長官兼技監

君は明治九年十二月を以て兵庫縣に生る、幼にして英才、郷閭に好評あり、夙に郷里に學修し、順を逐ふて學事を勵み、後上東して東京帝國大學工科大學に入學し、銳意研鑽土木學を修め明治三十二年七月を以て卒業せり、職を官に奉じ東京市河港課長、下水課長、土木課長の要職を経て大藏省に入り大藏省臨時建築部土木課長となり更に内務技師、東京帝國大學工科大學講師、大阪市港灣部長兼都市計劃部長に歴任し、命せられて歐米各國へ出張すること二回に及び

〔現住〕大阪市南區天王寺北山町五四六三〔電話〕南三九二三

中村幸之助君

東京高等工業學校教授

君は宮城縣人中村善吉君の弟にして明治五年六月を以て生れ分家して一戸をたつ、明治三十一年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し、電力輸送事項研究の爲め大学院に學び電氣機械製造法研究の爲め英、獨、瑞米各國に留學を命せらる、歸朝後東京工業學校教授、東京高等工業學校教授兼特詳局審査官等を歴任し、現時從四位勳三等高等官二等東京高等工業學校教授たり、家族は夫人ハマ子の間に四男四女あり

中村圓一郎君

貴族議員

君は靜岡縣人中村圓藏氏の長男にして慶應三年六月を以て生

會社、富士川製紙株式會社、吹田製紙株式會社各社長、東洋製紙株式會社專務取締役、日本精版印刷株式會社、東洋白煉瓦株式會社、旭鐵工所株式會社各取締役たり家族は長男權治郎君長女はな子、二女梅子、養子久左衛門あり

〔現住〕兵庫縣兵庫住吉村〔電話〕御影六四八

中村孝吉君

實業家

君は東京府人中村英三郎氏の長男にして明治八年一月を以て生る、明治三十年洋紙店博進社創業に際し入社爾來大阪支店長に擧げられ又大日本鉛筆株式會社監査役たり、現時博進社常務取締役、株式會社東京商會、文運堂各監査役たり、家族は夫人次子の間に三男あり、弟は光次は分家し、妹すまは太橋新太郎君に、同ときは永井當清に同いゆは坪谷善四郎郎養子忠三に嫁せり

更に英國倫敦に開催せられたる都市計劃會議に參列し、又支那へ出張を命せられたることあり大正三年兼て提出しありたる論文により工學博士の學位を受く君は精勵恪勤是等の要職に従ひ大に功あり、現に復興局長、兼技監、臨時大都市制度調査會臨時委員、特別都市計劃委員、補償審査會委員等の要務に就き博大なる蘊蓄を傾注せられつゝあり、君の趣味は讀書にして、從つて博學多識當代稀有の偉才たり、家族は夫人隆子との間に長男義君、次男博君、次女善代子三男暎君、五男惇君、四女素枝六男正君、七男力君、九男平君等なり

〔現住〕東京市牛込區市ヶ谷河田町一九〔電話〕牛込五九三三五

中村爲三郎君

實業家

君は兵庫縣人中村勝次郎氏の令兄にして慶應元年七月を以て生れ分家す、現時日本金鋼株式

る、曾て靜岡縣會議員に當選す又巴里萬國博覽會靜岡出品監督横濱稅務監督局相續稅審查委員に擧げらる事二回綠綬褒章を賜はる、大正七年貴族院議員に互選せられ今日に至る尙現時靜岡縣多額納稅者、遠陽銀行頭取、東遠電氣株式會社社長、靜岡農工銀行、三十五銀行、日本紅茶株式會社、日英水電株式會社、藤相鐵道株式會社、靜岡薄茶株式會社、東京電業株式會社、東遠製茶株式會社、中村製茶部各取締役たり家族は夫人さく子の間に三男五女あり

〔現住〕靜岡縣榛原郡吉田村〔電話〕靜津三二番

中村再造君

實業家

君は福岡縣人中村重助君の弟にして安政二年十月を以て生れ分家す、現時京城商業會議所常議員京城銀行頭取、朝鮮酒造株式會社、三南殖産株式會社、滿洲殖産株式會社各社長、京城水

産物市場株式會社、温陽温泉株式會社各取締役、木浦棉業株式會社監査役たり、家族は夫人イセ子の間に二男二女あり、長女ミネ子は福岡縣人小野道衛君に嫁せり

〔現住〕朝鮮京城市本町

中村喜兵衛君

實業家

君は山形縣人中村喜兵衛君の長男にして明治九年四月を以て生る現時山形商業會議所議員、山形商業銀行、山形瓦斯株式會社、最上電氣株式會社、山形酒造株式會社各取締役たり、家族は夫人ユウの間に四男五女あり

〔現住〕山形市十日町〔電話〕一三

中村三之丞君

海運業

君は福井縣人中村三之丞君の長男にして嘉永五年九月を以て生る海運業を營む傍ら日海興業株式會社取締役、日本海上保險株式會社監査役にして福井縣多

額納稅者たり、家族は夫人しう子、長男俊藏君同妻女豊子の間に孫一男三女あり、二男健藏は同縣人鈴木上明に四男寛三郎は同縣人田中かすに各養子となり三男健藏は分家し二女さくは同縣人飯田廣助に嫁せり

〔現住〕福井縣南條郡河野村

中村喜三郎君

實業家

君は靜岡縣人中村富藏君の三男にして明治十二年一月を以て生る、現時東興業株式會社社長東京澱粉精製株式會社、東京工作所各取締役たり、家族は夫人すゑの間に二女あり、兄喜平弟芳太郎は別に一家をなし弟一作は靜岡縣人山田半造長女かとの養子となる〔電話〕東京市京橋區新富町三ノ八

中村七平君

海軍用達内類商

君は長崎縣人木村常太郎君の長男にして明治四年三月を以て

生る、中村商會と稱し海軍用達肉類商を營み傍ら佐世保市會議員大東畜産株式會社取締役兼長崎支店長、帝國畜産貿易株式會社取締役たり、家族は夫人トケ子の間に二男英男君、秀儀君あり〔現住〕佐世保市元町〔電話〕二三六

中村純一郎君

實業家

君は岡山縣人中村瀨三郎君の長男にして明治十一年九月を以て生る、曩に茶屋町銀行、興國無盡株式會社、岡山製紙株式會社各取締役たり、現時第一合同銀行、茶屋町紙布株式會社、岡山製作所、岡山商事株式會社各取締役、妹尾銀行、撫川銀行、正織株式會社各監査役たり、家族は夫人壽野の間に三男一女あり、弟與助、宇一は共に分家し妹琴は同縣人中村秀次郎長男一治君に嫁せり

〔現住〕岡山縣都窪郡帶江村

中村修一君

實業家

君は廣島縣人中村彌三郎君の長男にして慶應元年七月を以て生る。現時横河倉庫運送株式會社社長、三次貯蓄銀行、廣島電氣工業株式會社各取締役、太田川製鐵株式會社監査役たり、夫人アキ子の間に六男五女あり長男憲吉は妻シツ子を娶り、三男三之助は同縣人香川ヤエ子に、六男益太郎は同縣人松本惣市に各養子となれり

〔現住〕廣島縣雙三郡布野村

中村重次郎君

實業家

君は兵庫縣人中村重次郎君の長男にして慶應元年十一月を以て生れ、前名を榮太郎と呼ぶ現時淡路産業株式會社、攝陽商船株式會社各取締役、兵庫縣農工銀行農工月報社株式會社各監査役たり、家族は妻トミ子弟繁松同妻はま子妹しげ子あり

中内久太郎君

實業家

君は高知縣人中内重吉君の長男にして慶應三年四月を以て生る。現時高知商業會議所議員、土佐紙製造株式會社取締役社長、三和汽船株式會社取締役たり、家族は夫人丑衛の間に三男一女ある外養子鹿吉朝吉の二氏あり

〔現住〕高知縣吾川郡伊野町

中野寅吉君

衆議院議員

君は福島縣人小林辰四郎君の弟にして明治十二年四月を以て生れ中野寅次郎氏の養子分家となる。早稻田大學法科を卒業し鑛山業を營む曩に北海道廳臺灣總督府朝鮮總督府警視廳等の各警部に歴任す大正九年衆議院議員に當選し今日に至る尙ほ日本電氣工業株式會社常務取締役たり、家族は夫人セツ子の間に一男二女あり

〔現住〕兵庫縣津名郡洲本町
〔電話〕洲本一〇

中村進午君

法學博士

君は新潟縣士族中村弼君の弟にして明治三年七月を以て生れ分家す、明治二十七年帝國大學法科大學獨法科を卒業し尙進んで大學院に學ぶ學習院教授、東京高等商業學校教授等を歴任し現時從四位勳三等東京商科大学教授兼附屬商業專門部教授たり其の間國際法及外交史研究の爲め英佛獨各國に留學命せらる、家族は五男一女あり

〔現住〕東京府豊多摩郡代々幡町代々木南山谷二九九

中村清藏君

米穀味噌商及倉庫業

君は東京府人中村彌七君の長男にして萬延元年十二月を以て生る、前名を平次郎と呼ぶ上清と稱し米穀味噌商及倉庫業を營む曩に中加貯蓄銀行取締役會長

〔現住〕東京市下谷區谷中清水町五
〔電話〕小石川六九四三



中島守利君

衆議院議員 東京府會議員

愛黨の精神に燃え、政友會の熱血兒を以て黨の内外に囑望隆んなるもの君の如きものなし、君は東京府の人中島藤左衛門君の長子にして明治十年十月を以て府下南葛飾郡新宿町に生る、生家は代々里幸にして夙に素封家を以て聞え、嚴父は同地の戸長、町長、郵便局長となりて令名ありたり、君夙に普通學を修め、明治二十五年家を繼ぎ郵便局長となる、在職三年、年齡十九歳にして北越木材株式會社を創立し、専務取締役に擧げられ

な之部

金城貯蓄銀行、明治商業銀行、大日本製糖株式會社各取締役たり、現時勳五等株式會社倉庫銀行頭取、日本護謄株式會社取締役會長、不二興業株式會社、小穴製作所各取締役、帝國海上運送火災保險株式會社監査役たり、家族は夫人せいとの間に二男三女あり

〔現住〕東京市深川區材木町一八

中村清二君

理學博士

君は東京府人中村留二君の弟にして明治二年九月を以て生れ分家す、明治二十五年東京帝國大學理科大學物理科を卒業し尙ほ進んで大學院に入り電氣及輻射研究を爲す、同三十六年結晶學研究のため獨逸に留學を命せらる、歸朝後第一高等學校教授東京帝國大學理科大學助教授等歴任し、現時從四位勳二等東京帝國大學教授たり、家族は夫人まさこの間に二男二女あり

〔現住〕東京市小石川指ヶ谷五七

疫事務に貢献する處あり、多年自治政及び公共事業に盡瘁し、日露事件の功により勳七等に叙せらる、又現に新宿郵便局長、同町長、東京府會議員同參事會會員、郡會議員同副議長、府教育會會員、農會議員の公職にあり君人となり豪宕不羈事に當りて熱誠なり、殊に其愛黨の誠心の旺んるに至りては未だ同黨内君の右に出づるものなし、君今や同黨屈指の代議士として黨の内外に重望あり、眞に宜なりと云ふべし、夫人を幸子と稱し、敏子、壽々子、利一君の諸子あり、家庭極めて圓滿なり

〔現住〕東京府南葛飾郡新宿三〇四

〔事務所〕東京市麴町區有樂町二ノ一報知社ビルディング内
〔電話〕牛込二一九

中川小十郎君

從四位勳四等臺灣銀行頭取

君は京都府士族中川祿左衛門君の長子なり、慶應二年一月を以て生れ、先代中川武平太君の

養子となり、家を繼ぎて姓を習せり、君幼にして聰明穎悟、里閭に群越せり、夙に學に志し、研々孜々學事に精勵し、後帝國大學法科大學に入り、最高の學を究め明治二十六年を以て卒業せり職を官に奉じ、諸職を経て文部大臣秘書官となり文部省參事官を兼ね、更に京都帝國大學書記官、文部書記官兼文部大臣秘書官となり、尋で内閣總理大臣秘書官兼内務書記官に任じ、轉じて樞太廳事務官となり、眞摯事務に服し、信望高かりしが後官を辭して實業界に投じ後臺灣銀行に入り頭取に任じ、爾來今日に至る、君は資性謹厚重行實業界に見る人格者なり、其今日臺灣銀行にありて植民地金融の中樞を握る眞に適所にありと謂ふべし、夫人を好榮と稱し草木左内君の二女にして内助の稱れあり、一男幹太君は分家せり〔現住〕東京市麴町區富士見町五ノ一三〔電話〕牛込四六九五

中野忠太郎君

實業家

君は新潟縣人中野貫一君の長男にして文久二年三月を以て生れ信吾、冬松兩氏の兄たり、現時新潟商業銀行、小須貯蓄銀行中野興業株式會社各取締役、新潟鐵工所株式會社監査役たり、家族は長男孝次君、長女シン子二女ヒデ子、三女テル子あり

〔現住〕新潟縣中蒲原郡津町

中野貫一君

實業家

君は新潟縣人中野次郎左衛門氏の長男にして弘化四年九月を以て生る會て朝日實學館に學び衆議院議員に選舉せらる縣下に於ける屈指の資産家にして現時勳四等中央石油株式會社長、中野興業株式會社取締役、日本石油株式會社、新潟水力電氣株式會社各監査役たり、家族は五男六女あり

〔現住〕新潟縣中蒲原郡津町

中野喜三郎君

土木建築請負業

君は香川縣人中野忠次郎君の二男にして安政六年九月を以て生る前名を慶吉と呼ぶ土木建築請負業を營み同業者間の長老として重きをなせり尙ほ傍ら勿來軌道株式會社々長赤井炭礦株式會社、帝國石材株式會社、中野炭礦株式會社代表者たり、家族は男喜咲君同妻はな子、養子與吉君、同妻シンあり、養女貞子は東京府人香川康三君に嫁せり

〔現住〕東京府下淀橋町柏木

中野欽九郎君

土木建築請負業

君は舊福井藩士東郷晴霞君の六男にして男爵郷安君の叔父たり文久三年十一月を以て生れ東京府人中野又治郎君の養兄にして分家す會て海運業を營む明治二十一年亡兄工學士太田六郎と共に太田工業事務所を創設し土木建築請負業に従事す、現時

金原銀行、東京酒水工業株式會社各取締役、太田工業事務所主たり、家族は夫人アヤ子の間に五男一女あり

〔現住〕東京市赤坂區氷川町五一

中野實君

實業家

君は福岡縣人中野龍淵君の長男にして安政元年七月を以て生る、現時博多株式取引所理事長小樽漁港株式會社、九州電燈鐵道株式會社、株式會社松尾工場太宰府軌道株式會社、出羽石油株式會社、朝鮮輕便鐵道株式會社各取締役、東亞化學工業株式會社監査役たり、家族は夫人トミ子、長男辰造君同妻サヲ子、尙ほ一男六女あり

〔現住〕福岡市西藏人町〔電話〕三三八

中野信吾君

實業家

君は新潟縣人中野貫一氏の二男にして慶應元年一月を以て生れ分家して一家をたつ、現時中

央製油株式會社專務取締役、株式會社沼垂銀行、壽津運轉倉庫株式會社、長岡鐵道株式會社、中野興業株式會社、寺泊海陸運輸株式會社、葡萄嶺山株式會社長岡倉庫運轉株式會社、中津川水電株式會社、山岸商會株式會社各取締役、栃尾鐵道株式會社監査役たり、家族は夫人チエ子養子信一氏あり

〔現住〕新潟縣長岡市東坂之上町

中野正剛君

衆議院議員

君は東京府人中野泰次郎氏の長男にして明治十九年二月を以て生る、早稻田大學教授政治經濟科を卒業し東京朝日新聞記者となり大正九年福岡市より衆議院議員に當選せられ續いて二回今日に至る、又大正八年歐州各國を視察す尙ほ東方時論社々長兼主筆、雜誌我觀を經營す、夫人たみ子は文學博士三宅雄二郎氏の長女にして、克明君、雄志の二男あり

〔現住〕東京府下千駄ヶ谷原宿一九八〔電話〕青山六三六

中埜半六君

實業家

君は愛知縣人盛田久左衛門君の二男にして明治二十二年十二月を以て生れ先代半六氏の養嗣子となる、前名を萬二と呼ぶ現時株式會社中華銀行理事、中埜貯蓄銀行取締役、名古屋印刷株式會社監査役たり、家族は夫人はる子長女節子あり

〔現住〕愛知縣知多郡半田町

中埜半左衛門君

實業家

君は愛知縣人中埜半左衛門君の長男にして嘉永三年十一月を以て生る、現時半田倉庫株式會社取締役會長、中埜銀行、中埜貯蓄銀行各株式會社取締役たり家族は夫人ちる子、長男俊三君同妻加壽子、次男操平君、五女ひで子あり、長女くに子は同縣人盛田友吉君に、二女なる子は

な之部

石川錦一郎君に、三女きぬ子は堀田孝一郎君に、四女てい子は下郷寛二郎に嫁せり

〔現住〕愛知縣知多郡半田町

中埜良吉君

實業家

君は愛知縣人盛田太助君の五男にして明治四年十月を以て生れ、中埜又左衛門祖母なみ子養子分家となる、現時知多商業會議所會頭、中埜貯蓄銀行常務取締役、龜甲富醬油株式會社常務取締役、中埜銀行、半田倉庫株式會社、中埜酒店、加富登麥酒株式會社各取締役、尾三農工銀行、半田製氷株式會社各監査役たり、家族は夫人はつこの間に五男三女あり

〔現住〕愛知縣知多郡半田町

中埜又右衛門君

實業家

君は愛知縣人中埜又左衛門君の二男にして明治二十一年十一月を以て生る前名を幸造と呼ぶ

現時中埜貯蓄銀行取締役頭取、中埜銀行取締役、半田倉庫株式會社、龜甲富醬油株式會社各監査役たり、家族は母とう子、弟三造君、妹紀佐子あり

〔現住〕愛知縣知多郡半田町

中山平次郎君

醫學博士

君は福岡縣士族中山德輝君の二男にして明治四年六月を以て生る、明治三十三年東京帝國大學醫學科大學を卒業す、爾來京都帝國大學福岡醫學科大學等の教授に歴任し、現時從四位勳三等九州帝國大學教授兼學生監たり、曩に病理學解剖學研究の爲め獨塊へ留學を命せらる、家族は兄醫學博士森彦、妹小春あり

〔現住〕福岡縣福岡市荒戸四番町

中山太一君

中山太陽堂主

君は山口縣豐浦郡中山小三郎君の長男にして明治十四年十一月を以て生る、今や君は化粧品

製造界の覇者となり幾多無數の化粧品を簇出するや終始其之改善を圖り世の嗜好を趁ひ益々其の販路を擴張し特に中山太陽堂クラブ洗粉の名聲隆々たるものなり又君は皇室中心主義の主唱者にして何業たりとも常に皇室國家と云ふ念を保ち發展すべきものたりとの實行者にして今日斯界の信用蓋し偶然の結果にあらざるべし、中山化學研究所、中山化學工業各經營主にして常に斯業の研究改善を計りつゝあり、夫人ひる子あり

〔現住〕大阪府南區水崎町八九〇

中南定太郎君

レーベン クレーン錠

卓犖なる敏腕を有し、實業界就中藥業界に活躍しつゝあるもの之を中南定太郎君となす、君の名聲は、レーベン、クレーン錠セキドミンの諸藥によりて旺んなり、君は明治十一年十二月を

以て、奈良縣添上郡柳生村に生る、天性氣宇瀾大幼より大阪に出で、大阪城南商業學校に學ぶ年齒漸く十七才にして而も同學に冠たり、學業亦優等の成績を以て出づ、間もなく松田銀行に入りて其事務を執る 素志始めて實驗に逢着し事務の裁理流るるが如く些も滯滞なかりき幾許



もなくして支配人に昇身し行務益々擧る、尋で東和酒造會社に轉じ同社重役谷與君の信任する處となり社業の發展に參加し其衰運を挽回す後君功成り名遂げ勇退の志固く遂に閑地に就く、後奈良貯蓄銀行に入りしが、偶親戚山田安民君の業務擴張に際し黙し難く起ちて同君の東京支店主任となり、賣藥業に従事し

中山爲三郎君

衣類商

君は千葉縣人安田平八君の三男にして慶應三年九月を以て生れ先代サクの養嗣子となる衣類商を營む傍ら東京市場建物株式會社、兩龍炭礦株式會社各取締役北海礦業株式會社、兩龍炭礦鐵道株式會社各監査役たり、夫人ふじ子あり

〔現住〕東京市神田東龍閑町

中山信實君

男爵

當家は多治比古王の裔北條家の臣中山勘解由家範の後なり家範の二男信吉水戸藩の附家老となり夫よれり十三代信實に至る代々松岡二萬五千石を領す、君は信實の長男にして子爵青木信光氏の兄、慶應元年四月を以て生る幼名を弓若又は信瑞と呼ぶ明治十七年男爵を授けらるる家族は夫人千代子の間に五男一女あり〔現住〕茨城縣多賀郡松岡村

中山權治郎君

器具發表紙類商

君は岡山縣人中山正次郎君の二男にして明治十四年八月を以て生れ分家し別に一家をたつ、現時養蠶具發表紙類を營む傍ら林野木材株式會社代表者美作木材株式會社取締役たり、家族は夫人むめよの間に七男二女あり

〔現住〕岡山縣英田郡林野町

中山佐一郎君

實業家

君は栃木縣人中山藤左衛門君の長男にして安政二年四月を以て生る、現時株式會社都賀銀行頭取下野興業銀行、鹿沼商業銀行各取締役たり、家族は夫人セイ子の間に二男三女あり、長男藤一郎君は妻アツ子を娶り、都賀銀行の常務取締役にして二男昇平君は妻ヒロ子及子女を伴ひ分家せり

〔現住〕栃木縣上都賀郡南押原村

永田貞治郎

永田貞治郎君

通信出版業

孝子の門より忠臣は出ずとかや、古來美濃の國は養老の瀧の名によりて顯はる、君は岐阜縣の人永田徳三郎君の二男にして相續人たり、明治二十年七月を以て生る、養老の瀧の流をくみてか父母に仕へて孝なる、誠に世の龜鑑と云ふべし、日夜奮闘日も之れ足らざる中に於て常に父母を顧みその安否を問ふ、常人の及ばざる所なり、縣立中學校を卒業し、上京以來苦學獨行今日の大をなす、曾て本日本醬油株式會社に入り技師たり、後獨立して經木眞田製造業を營む又北海道に渡りて諸種の事業を

て販路の開拓をなし大に業績を擧げたり、四十年自ら藥草園を作り特に珍奇の藥草約百種を下山博士より交付せられ、藥草の栽培より製藥に至るまで理想的の設備を爲し、亦藥學上の研鑽に至らざるなく、遂に大日本化學研究所主として理想的賣藥の製造に努力し大に斯界に貢獻し邦家の爲め功績尠からず世評噴々たり、君更に現時は東京市會議員の要職にあり、又千住銀行監査役、東京賣藥同業組合副組長株式會社日本化粧品商會社長として、旺に活動しつゝあり君趣味として謠曲、園藝に極めて堪能なり、家族は令閨節子、二男通文君、三男敬治君、(長男歿)二女禎子、三女育子(長女結婚)等あり〔現住〕東京市京橋區弓町二二〔電話〕東京橋三〇八〔直通電話〕青山三一八二〔大阪支店〕大阪市東區安土町二丁目堺筋〔電話〕日本局三〇〇七〔大阪工場〕大阪市東區東平野町一丁目角〔電話〕國南四三〇八

視察し、内地に歸へりて米穀、茶商を開始す、大正元年新聞通信社に入り、日支親善を計る爲め東亞經濟通信社を起し、又東京タイムス社を創立して其經營に任ず、大正九年末より徳川賴倫侯、樞密院顧問官平沼騏一郎諸士の後援の下に山陵崇敬會を起しその主幹となり、大阪に於ける御陵參拜團と東西相呼應して大に敬神の念を啓發せんと畫策する處ありしが、不幸昨年の大震災に相遇し、中絶の止むなきに至る、君は常に一個の不動心を持ち、事に當りて勇往邁進常に郷黨の先輩、後輩を歴訪してその親交を計るに努力す、現に通信出版業を營む、母堂をあい子と云ふ、令閨やす子は茨城縣人高柳昇三郎君の令妹にして正治君、幸治郎君、たみ子、はる子の諸子あり、令弟茂吉君は東京朝日通信社に、同猶作君は森永製菓販賣株式會社に勤務、令妹たまきは岐阜縣人足立勝太郎君に、同八重子は群馬縣人岡

中村啓次郎君

勸四等衆議院議員
辯護士北海礦業株式會社社長

田秀治君に、同じづ子は岡山縣人杉政敏君に嫁す同まさ子は家内にあり〔現住〕東京市麴町區内幸町一ノ六〔電話〕銀座四三九四

政友本黨の一勢力として政界に高名ある君は和歌山縣士族吉川定之進君の次男にして慶應三年十月を以て和歌山市に生れ、先代中村宗兵衛君の養子となり後を嗣ぐ、幼時より英才を以て郷閭の刮目たりしが、夙に大志あり、東上して英吉利法律學校に入り切磋琢磨、學事に精勵し成績大に見るべきものあり、明治二十三年卒業せり、後辯護士となり、臺灣に航し、同地に於て其事務を開設し、熱誠事務に鞅掌し、難訴よく快刀亂麻を斷つが如く、忽ちにして令名を博し、後斯界の推す處となり臺灣辯護士會會長となる、君又更に日刊臺灣民報を創立し同地操觚

業者の中心勢力とし益々翔翔活躍し、今や其他各種新聞の牛耳を執れり、而も君の事業的才腕は歩一歩と發揮され北海礦業株式會社社長、日本果物株式會社臺灣爆竹花火株式會社、亞鉛電解特許權株式會社各取締役、臺灣炭礦、大氣堂各株式會社監査役等となり、同地實業界に於ける重鎮として聲評噴々たるものあり、郷里和歌山縣第一區より選舉されて衆議院議員たること三回現在に至る、政友本黨の相談役とし黨内の信望頗る厚く、今や我政界の一勢力として盛名益々高きものあり、君人と爲り豪快にして襟度頗る大なり、其の政界にある常に少壯派を糾合して事を敢行す、而も人と交りて厚く、後進を愛する事亦頗る親切なり、今日政界に於ける一中心勢力たる宜なりと云ふべし夫人チカ子との間に男啓一郎君養子精明君あり

〔現住〕東京市麻布區櫻田町五八
〔電話〕高輪五四二六

中山佐市君

實業家

君は千葉縣人中山三九郎君の二男にして元治元年九月を以て生れ分家して一家をなす家代々富豪にして農を業とす、君密に大志を抱き郷里の中學校を卒業するや直ちに上京し高等中學校に入りしも途中感ずる所あり英吉利法律學校に轉じ専ら英國法律の研究を爲す卒業後大藏省銀行局御用掛となり當時發表せられたる銀行に關する諸條例の如きは多く氏の立案に成りしものなりと云ふ後ち官を辭し實業界に投せんとし先づ大阪に赴き阪神の地に在りて親して商業上の研究を爲しつゝありしが明治三十年東京府農工銀行設立せらるゝに當り之れが支配人となり明治四十五年推されて頭取に累進し又別に明治二十九年農工貯蓄銀行を設立し是が專務取締役たり後ち兩銀行を辭し現時東日本興業株式會社北海道採炭株式會

社各代表者、日本ベニ一紡績株式會社、門司興業株式會社各取締役、横濱電氣鐵道株式會社、横濱土地株式會社、東京藥品株式會社各監査役たり、曩に郷里より衆議院議員に當選せられたり、家族は夫人けい子の間に五男四女あり、長女まつ子は福岡縣人福岡豊吉君に嫁し、三男市五郎君は千葉縣人根本林平君の養子となれり

〔現住〕東京市麻布區今井町三五

中山普君

實業家

君は長崎縣士族中山新君の長男にして明治七年四月を以て生る、現時神戸棧橋株式會社常務取締役、日本水電株式會社、帝國油脂株式會社、東洋運輸株式會社、尼崎土地株式會社各取締役、天龍木材株式會社監査役たり、家族は夫人セキ子の間に二男一女あり、妹ミネは長崎縣人久保留太郎長男靜馬君に嫁せり

〔現住〕兵庫縣兵庫本山村

中山弘一君

實業家

君は兵庫縣人中山駒三郎君の弟にして明治十三年九月を以て生れ分家す、現時市之川鑛業所代表者日本亞鉛株式會社取締役日本白煙炭礦株式會社、大阪工業株式會社各監査役たり家族は夫人キミ子の間に四男三女あり

〔現住〕大阪市東區宰相山町一六〇

中山秀三郎君

工學博士

君は愛知縣人中山善之進君の二男にして元治元年十二月を以て生る、明治二十一年東京帝國大學工學士工學科を卒業し同二十九年伊佛英各國へ留學を命ぜらる、曩に帝國大學工學大學助教授、遞信省技師、遞信省電氣局水力課長心得等を歴任し、現時從三位勳二等東京帝國大學教授たり、家族は夫人よし

子の間に四男五女あり、長男久雄君は工學士たり

〔現住〕東京市本郷區駒込西片町一〇はノ一七號

中山說太郎君

實業家

君は岡山縣人中山才一郎君の長男にして明治七年八月を以て生る、現時函館商業會議所特別議員、久原鑛業株式會社、日魯漁業株式會社、日本汽船株式會社、國際汽船株式會社、山陰電氣株式會社各取締役、下松銀行、樺太物産株式會社、大阪海上火災保險株式會社各監査役たり、家族は夫人千代子の間に二男五女あり、妹松代は岡山縣人守屋元三郎に嫁し、養子雅子は分家す

〔現住〕大阪市北區堂島濱通二ノ六

中小路與平治君

實業家

君は滋賀縣人中小路貞章氏の

長男にして明治元年八月を以て生る、前名を貞治郎と呼ぶ京都府立龜岡中學校及滋賀縣立商業學校に學ぶ曩に郡會議員、同議長、衆議院議員に擧げらる又曾て八幡鑛物合資會社社長、蒲生銀行取締役たり、現時勳四等大津商業會議所會頭、滋賀縣農工銀行頭取たり、家族は夫人てつ子、養子徳治郎同妻はる子あり妹さくは大阪府人山本藤治郎に嫁せり

〔現住〕滋賀縣大津市坂本町

中澤岩太君

工學博士

君は東京府士族中澤七平君の長男にして安政五年三月を以て生る、明治十二年東京帝國大學化學科を卒業し、同十六年製造化學研修の爲め獨逸に留學命ぜらる、又明治三十三年佛國に差遣せらる、東京帝國大學教授、東京帝國大學工學教授兼特許局審査官、御料局技師、帝國大學工科大學々長、京都高等工藝學

校長兼京都帝國大學理工科大學教授等に歴任し、現時正三位勳一等京都帝國大學、京都高等工藝學校各名譽教授たり、家族は夫人楠猪子の間に三男四女あり

〔現住〕京都市上京區塔之段櫻木町四五三

中澤義一君

實業家

君は長野縣人山本喜作氏の長男にして明治十九年十一月を以て生れ、中澤家に入夫す、現時金線炭酸瓦斯株式會社社長、中澤保全株式會社代表者、臺灣拓殖株式會社、札幌木材株式會社、金線飲料株式會社、中澤商事株式會社各取締役たり、家族は夫人ふき子の間に二男、女あり

〔現住〕東京市京橋區新佃島東町一ノ三

中澤彦吉君

實業家

君は福島縣人白井遠平氏の四男にして明治十年十一月を以て

生れ先代彦吉氏の養嗣子となる前名を時三と呼ぶ、酒醬油卸商を營む、外中澤商事株式會社、帝國酒造株式會社社長、中澤保全株式會社代表者興業貯蓄銀行頭取、八十四銀行、臺灣拓殖株式會社、臺灣地所建物株式會社、基隆地所建物株式會社、東洋化學工業株式會社、極東製藥株式會社、水産工業株式會社、東洋麻絲紡績株式會社、帝國蓄電池株式會社、札幌木材株式會社、電氣製作株式會社各取締役、東海商事株式會社、東京砂利株式會社各監査役たり、家族は夫人きん子の間に一男五女あり、長女玉子は東京府人中澤福三郎の跡を相續し、養子ふき子は分家し、山本義一を入夫とせり

〔現住〕東京市京橋區南新堀町一ノ四

中北伊助君

業種商

君は愛知縣人八神幸助氏の養弟にして明治十年十月を以て生

れ中北善七氏の養嗣子となる、家代々業種商を營み家號を井筒屋と稱す、尙ほ東海製茶株式會社取締役合名會社中北商店代表者たり、家族は夫人しげ子の間に長男増太郎君、二男敏次郎君、長女ゆき子、二女翠子、三女とさき子あり

〔現住〕名古屋市東區京町九〇

中溝徳太郎君

男爵

君は舊佐賀藩士中溝孝稱君の長男にして安政四年十二月を以て生る、明治十四年海軍少尉に任じ同四十年中將に昇任現時正四位勳二等功三級後備海軍中將たり其の間八重山、千代田、秋津洲各艦副長、愛宕艦長、舞鶴水雷團長、舞鶴、吳各鎮守府參謀長、海軍省軍務局長、海軍將官會議々員等に歴補す、明治四十年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる又同四十年貴族院議員に互選せられたり、夫人をカ

メ子と呼ぶ

〔現住〕東京府荏原郡大崎町下大崎八一〔電話〕高輪八五番

中島伊平君

染絹太織問屋

君は埼玉縣人向山小平次君の令弟にして慶應元年九月を以て生れ、明治二十二年群馬縣人中島伊平氏の養嗣子となり、同二十四年家督を相続す、幼名を米次郎と呼び養家を續いで今の名に改む、家代々染絹太物の問屋なり、君家業を嗣で實務に従事し月夜勉めて止まず爲めに家運愈々繁盛となり是に於て君更に實業界に雄飛せんと欲し、株式會社高崎銀行に入りて頭取の椅子に倚り獨特の辣腕を揮ひ其の發展を劃し又別に東都に於ける株式會社帝國商業銀行の監査役として精力を傾注す、現時東京商業會議所議員、高崎銀行、東上鐵道株式會社、日清貿易株式會社、日本セメント株式會社、加富登麥酒株式會社、日本纖維

あり家族は夫人保の間に七男一女あり〔現住〕東京府豊多摩郡代々幡代々木初臺六三三〔電話〕四谷二七三四

中島德太郎君

實業家

君は石川縣人廣村次郎兵衛君の五男にして慶應二年一月を以て生れ、先代甚吉氏の養嗣子となる和洋紙商及び金融業を營む傍ら金澤商業會議所議員株式會社米谷銀行、石川縣農業株式會社、加賀製紙株式會社、温泉電軌株式會社各取締役、石川縣多額納税者たり、家族は夫人しげ子養子與四郎君同妻美津子あり〔現住〕石川縣金澤市十間町

中島德松君

實業家

君は福岡縣人中島熊之助君の叔父にして明治八年六月を以て生れ分家す、現時中島鑛業株式會社代表社員、神戸銀行、海老津炭鑛株式會社各取締役たり

中島一治君

鐵工業

君は大阪府人中島一治君の長男にして明治五年十月を以て生る、前名を政治郎と呼び、父没後襲名して今の名に改む、鐵工業を營み、中島三工所と稱す、尙ほ大阪港土地株式會社、市岡沿岸土地株式會社、朝鮮鑛業株式會社、大阪電氣工業株式會社各取締役たり、家族は夫人らくの間に一男二女あり、妹キンは大阪府人中島市右衛門に嫁せり〔現住〕大阪市西區九條町二ノ六七〔電話〕西二一四九

中島平太郎君

實業家

君は高知縣人中島市平君の長男にして明治三年一月を以て生

家族は夫人とめ子長男淳吉君、長女ノブエ養子博君あり

〔現住〕福岡縣嘉穂郡穂波村



中村歡扇嬢

女優 株式會社神田劇場重役

花の御江戸にはあらねども、東京日本橋に中村歌扇嬢生る、誠女優の出現に應はしからずや、その生ひ立ちの如何に花々しかりしかは亦想像するに難からず、一度嬢の舞臺に立つや、滿場恍惚として我を忘れ只その入神の藝術に酔ふその魅力ある演出法と、その大膽なる表現とは、豊艶なる肉體、圓熟せる技術と相俟つて、觀客を



惱殺せしんば止まざる者あり、誠近世稀に見る處にして、彼の女團州久米八以來の名女優として其名を海内に謳はる、亦故ありと云ふべし、嬢は青江俊藏君の長女にして、明治二十二年八月の出生なり、九段高等小學校を出ず、幼にして、聰明、舞踊に天才の技能を有し、齡十二既に小供芝居を組織して其座頭となり、淺草に出演し、滿都の觀客を驚嘆せしむ、爾來八ヶ年の長年月を淺草に出演して、その技を磨く、明治四十一年、十九歳の時エムパター會社及日本活動株式會社に入り舊劇活動寫眞の撮影をなす、これ本邦に於ける舊劇映畫の初めなりとす、明治四十四年、苦心研究の結果連鎖劇なるものを創始し、東京

長瀬祐三郎君

花王石鹼本舖 合資會社

長瀬商會代表社員

本邦に於て、最も純良なる石鹼として、加ふるに最も古き歴史を有するものは、日本橋馬喰町二丁目、長瀬商會の發賣にかゝる花王石鹼なり、先代長瀬富郎君深く我が國の石鹼に信頼すべき品質の物乏しきを慨し、明治二十三年此の花王石鹼を發賣し、爾來その品質の純良と、忠實なる商法とを以て、廣く一般の信用と歡迎とを博し、以て今日に至りしなり、抑々花王石鹼は純良なること、並に廉價なる事、即ちその徳用なる事を標榜して立つものなり、品質優良ならば即ち價格之に従つて高きを例とす、然るに花王石鹼は此の普通せる法則に反して、品質非常に優良なるに比較し、價格頗る廉なるを以て、その特徴となす、由來石鹼に稍もすれば化粧品として贅澤視され易く、然も

顧客に於てはその品質の識別稍々困難なるを以て、美麗なる包装を以て、祖悪なる物を、非常なる高價を以て發賣する向極めて多し、然るに花王石鹼の如きは、眞に實用的なる事を以て、主たる目的となすものにして、日常各家庭に用ひて、最も經濟的にして、然かも最も徳用なる石鹼なり、然らば何故に價格廉なるやと云はば、云ふ迄もなく大量生産なること、即ち工場を生産率の多き事、販賣高多き事資金の回轉速かなる事等、換言すればその販賣高大なるによる花王石鹼は終始一貫、民衆的の石鹼なる事は否むべくもあらず本石鹼は嚴密なる化學的試験の下に、最も精選せる原料を以て衛生上に最深の意を注ぎ、皮膚を健全にし、以て豪も人工を加へざる、自然の儘なる色澤の發揮に努む、此に於て、廣く一般民衆の稱讚と信頼とを得、需要逐日増加して已まず、帝國大學病院、赤十字病院、慈惠病院及

び陸海軍諸官省より多大の用命を蒙るに至る、尙ほ長瀬商會は花王石鹼の外花王粉石鹼、花王水石鹼等を製造販賣す、此等の石鹼又前記花王石鹼と凡てに於て異なるなきは敢て贅言を要せず然らば同石鹼をして今日の大をなさしめたる要素の一として缺くべからざる、廣告術は如何、如何に完備せる商品と雖も、廣告は又最も必要とする所、然もその廣告をなすに當つて、徒らに自信もなき商品に對し、針小棒大の廣告をなすが如き例又少きに非るも、斯くの如きは甚しく商業道徳を無視せるのみならず、商略として又最善の方法に當り、極めて眞摯なる態度を以て、自家商品に對し、自信し得る限りに於て、極めて忠實に廣告せざるべからず、即ち花王石鹼の廣告は此處に立脚し、徒らに針小棒大、以て世人の好奇心若しくは弱點に付け入る如き文字の並列をなさず、例へば化學

的試験法を示し、如何に其の品質の優良なるかを知らしめ、或はその品質の純良なること、各所に厚き信用を博しつゝあること等、實例を以て示し、其價格の極めて廉なる所以を告げ、顧客をして、眞に商品に信頼を置き、安んじて使用し得らるゝが如き法を取れる、又當商會從來の廣告を見て知るべきなり、而して君は次の如く云ふ、凡て自家の商品を益々多く販賣せんと思はば、須らく同業者の増加を希望するものなり、其の商品に對し、他に競争者なく、已一人聲を大にして、その物品の純良なること及び斯くの如く純良なる品を常に使用すべきなりと廣告するも、民衆は易々として之を信するものに非ず、然るに同業者の數多く、新聞並に雜誌上に於ける廣告激甚にして、以て純良なるもの、使用を奨むるは只一個の推奨よりも効果頗る大なるなり、即ち石鹼は、衛生上より見るも、優良なる品質の物

を用ふべしとして、茲に夫等多くの品質と比較し、其の内、最も品質の純良なるものを愛用するに至る、終極に於て、品質優良なるもの勝利を得、従つて需要を増すに至ると、如何に君が自家製造品の品質優良なる事、並に價格廉價なる事に強き自信を有するか、以て知るべきなり而して同商會の營業振を見んに同商會は卸専門にして小賣は爲さず、特別賣出しの如きもせず顧客に對しては、絶対に平等に親切丁寧を旨とし、其處に表すべからざる、尊い奉仕の觀念の現れを望み得、同商會の店員は普通高等小學卒業程度、即ち十六歳より用ふ、その採用法は即ち、豫め履歷書を見、當人に直接面會對話し、その商人としての適不適を見極め、その結果一年間を見習期間となし、之が經過と共に店員と成るなり、年限は七ヶ年にして、給料制度たり店主たる君は即ち人も許し、我も許す人格高潔の士にして、店

員を一時的使用人と見るが如き毫もなく、當人の人格並に手腕により、逐次有用の地位につかひむ、凡てを眞心を以て貫くを店員に對する第一の訓戒となす依つてもつて店員よく和合夫々己の分を盡して、怠るなし、尙ほ同商會は大震災當時、本郷區駒込富士前町なる君の邸宅を以て假店舗とし災後奮闘的努力を續けたりしが、本年三月十五日に至り、燒跡に本舗、倉庫共二百餘坪、二階建の宏壯なる店を建て、爾來營業部員四十五人孜孜として、復興に力を盡しつゝあり、更に南葛飾郡吾嬬町なる工場は幸ひ、難を免れしを以て、その製造能力は毫も減することなく、敷地一萬坪、建坪五千坪の大工場に、社員、職工計四百五十名、大震災後の増加せる反動需要に應ずべく、日夜懸命に製造に従事しつゝありさればその販賣高は震災前よりも遙かに増し、依然として石鹼界に動かすべからざる優等の地

位を占む、同商會は資本金實に二百萬圓、重役として、先代富郎君の令弟にして、代表社員たる君、同業務執行社員たる長瀬常一君並に先代の女婿にして、理事の秋元直君あり、先代令兄と共に此の事業に従事して寢食を共にし、令兄を補佐すること頗る甚大、先代富郎君の没後は君専ら本舗にありて、科學的販賣策を講じ、常一君は工場の支配人としてその組織的經營法を講ず、長瀬商會の今日ある、寔に兩氏の努力勉勵、與つて力ありしなり

科大學を卒業し尙進んで大學院に入り民法を専攻す、爾來京都帝國大學法科大學助教、同教授、同大學部長等を歴任し、現時從四位勳三等京都帝國大學教授たり、其の間民法研究の爲め獨、佛兩國に留學を命せられ、又歐米各國に出張命せられたり家族は夫人鶴卷の間に二男二女あり〔現住〕京都市上京區淨土寺西田町〔電話〕上一〇四八

に嫁せり

中島久萬吉君

男爵 貴族院議員 古河電氣工業株式會社社長

當家は先代從三位勳一等男爵中島信行君より顯る信行は舊高知藩士にして文久慶應年間坂本龍馬の海援隊參謀となり國事に奔走し後ち板垣伯等と自由黨を組織す、國會開設に當り衆議院議員に擧げられ其の議長となり又伊太利全權公使に任せらる、君は其の長男にして明治六年七月を以て生る、東京高等商業學校を卒業後政界實業界に雄飛し貴族院議員に當選する事二回曩に總理大臣秘書官に任せらる又明治四十三年議院建築準備委員會委員、軍需評議會評議員、臨時產業調查會、社會事業調查會米穀委員會委員、臨時財政經濟調查會臨時委員仰付らる、又實業界にありては古河電氣工業株式會社、日新護謄株式會社、横

中島玉吉君

法學博士 京都帝國法學部教授

君は群馬縣人中島又三郎君の二男にして明治八年一月を以て生れ先代幸太郎君の養嗣子となる明治三十三年東京帝國大學法

中島宇三郎君

實業家

君は群馬縣人小林傳次郎君の令弟にして明治元年十月を以て生れ、先代利三郎君の養嗣子となる現時株式會社大間々銀行頭取、日本合鐵金株式會社取締役株式會社上野銀行、研電社、足尾鐵道株式會社、渡良瀬興業株式會社各監查役たり、家族は夫人テイ子の間に二男五女あり、長男彌一郎は其妻あさを伴ひ分家し、二男英之助も分家し、長女ミキ子は東京府人曾根豊三君

濱電線株式會社、足尾鐵道株式會社各社長東京古河銀行、東洋製鐵株式會社、中日實業株式會社、東洋運鐵株式會社、東京護謨株式會社、萬歲生命保險株式會社、日本運送株式會社各取締役たり、尙ほ多年の功勞により正四位勳四等に叙せらる、家族は夫人八千子の間に五男二女あり〔現住〕東京市牛込區市ヶ谷藥王寺町四三〔電話〕牛込七〇六五



中出久藏君
大正製糖株式會社社長

君は明治七年十二月を以て神奈川縣鎌倉郡戸塚町に生る、二十八年十二月慶應義塾を出で、三井工業部に入り前橋紡績所に赴任し、後新町紡績所に轉す、

三十五年紡績會社の大合同に際し三井物産會社へ歸任したり、時に日本精製糖會社は海外糖價暴落の影響を受け巨額の損失を招き破綻焦眉の急を告ぐるに當り、債權者の筆頭たる三井物産は其業務を監督する爲め社員を派遣する事となり、君は其選に當りて入社し商務を監督す、是ぞ君が手腕を發揮すべき試金石たりしと同時に、實に糖業者として今日ある第一歩たりしなり幾何もなくして功成り前途又何の憂慮すべきものなきに至りしが、此の間に於ける君の手腕は會社幹部の認むる所となり其請に依り引續き社務を執掌す、君即ち勵精事に當り輸入品の防遏と、販路の開拓とに苦慮し、或は朝鮮に、或は支那に各地を視察して精糖輸出の方法を講じ、社礎漸く堅く、遂日隆昌の勢を馴致せり、明治四十年大阪に在りし日本製糖會社を合併して、大日本製糖會社と改稱し、更に司の大里製糖所を買収して覇

を糖界に稱せしが、四十二年一月所謂日糖事件の勃發となり、紊亂紛擾其極に達し危機切迫到底解散の他なかるべしと傳へられしが、藤山雷太氏入りて整理の局に當るや、君は堅忍自重、商務の樞機に參與し、悠然其間に處して舉措を誤らず、頽勢を挽回して整理の實を挙げしむるを得たり、爾來反撥的に社運の興隆を見しが、君の機才は歐洲大戰に際會して遺憾なく發揮せられ、畫策縱橫、遂に日糖の基礎を磐石の上に置くを得、大正七年十二月同社の取締役に列せり、八年十一月東西有力の糖商に推されて、新たに資本金七百萬圓を以て、本邦唯一の精製糖會社たる、大正製糖株式會社を創立し、自ら其社長として専心銳意、業務の發展に努力し、電勉日も尙ほ足らずとなし、由來精製糖の經營は、頗る難事と稱せらる、蓋し粗製糖には幾多政府の保護あるを以て、唯其農事的施設に成功すれば即ち足り、

農事的施設は主として天候の良否に係ればなり、爰を以て皆粗製糖に走り、僅に精製糖を兼營するに過ぎず、君や然らず多年糖界にありて得たる實務の才は世間の難事とする精製糖の經營に向へり、果然、九年三月に起れる恐慌は、經濟界の大旋風となり破産倒産相踵ぐの慘狀を呈し、糖界亦十一年一月迄三年に渉り不況を持続せる間に新會社たる大正製糖は、創立以來毎期配當を繼續し社運頓に上り基礎愈々鞏固に、今や先進諸會社と比肩するに至りしもの一に君君の措置宜しきを得たるに因る、君は大正製糖會社社長たる外、東京米穀商品取引所理事、日本倉庫會社取締役、硫黃島拓殖製糖會社相談役たり、前途の活躍蓋し刮目すべきものあらん〔現住〕東京市四谷區北伊賀町二五番地〔電話〕四谷三五七九番



永橋至剛君
帝國電燈株式會社取締役
玉川水道株式會社取締役
小樽漁網株式會社取締役
太平洋火災保險株式會社取締役

君の先考は京都一條家の家臣なり、故ありて土佐に赴き止まり住せり、後維新の際に及び、郷土中の名族を以て知らる、君は高知藩士永橋清來君の長子にして元治元年十二月を以て生れ前名を志津馬と稱す、幡多郡伊豆田村の人なり、十歳にして父君を失ひ、十六歳にして中村町中學明導會に入り、更に熊本濟々堂に學ぶ、後名儒木戸明、森澤膽氏等當時國粹派の大家より指導を受く、由來明導會は故谷干城、宮崎嘉道、小野道一諸氏

の創規に屬し、自由民權説に傾抗して、國粹保存の大義を主唱し、穩健着實の思想を以て後進誘掖に盡す所あり、當時君は同志と共に谷子一派の指揮の下に専心自由黨の退治に力を致したるも其志を果さず、危地を脱して九州に走り、豊後竹田の人入田龍吾氏の三省舎に入り、漢籍法律を學ぶ、中途軍人を志せしも耳の病を得て止む、明治二十五年上京して大藏省屬となり、同二十七年辭して鐵道局に入る後日本鐵道株式會社に入り、更に轉じて、北海道鐵道株式會社創立に従事し、其總務部長、營業部長に任ず、鐵道國有と共に鐵道界を去り、大夕張炭礦株式會社、其他數會社の重役を勤め目下上記の會社經營に従事しつゝあり、現在の家族は夫人圓子長男剛一郎君、二男櫻郎君、三女英子、四女壽美子、三男鐵郎君五女富美子にして團樂の家庭をなす〔現住〕東京市外品川町北品川御宿殿山七七八〔電話〕高輪一

○五二
株式會社 中井銀行
東京市日本橋區金吹町一番地
電話大手八八八
資本金五百萬圓
京都復興の局に面して僅々一年有餘ヶ月を出でずして一大壯麗なる建築をなし、着々業績を擧げつゝある中井銀行は明治十六年の創立にして中井新右衛門君の經營する所なり、抑中井家は舊幕時代に於て既に金融業を營み、其信用頗る厚かりしが、後銀行條例に遵ひ、當行を設立したるものなり、凡そ銀行業の尤も重要となすべきは信用なりとなす、其資本金の多寡の如きは寧ろ第二の問題なり、中井銀行の如き、單に其資本金を以て之を見るに於ては所謂大銀行の列に入るに能はず、而も其信用の厚きと營業方針の堅實なるとに見る時は優々帝都の大銀行と比肩して聊も遜色なし、明治三十年に至り合名組織となし、

全額拂込資本金百萬圓の資本金を擁し當主中井新右衛門君業務擔當社員となり其創設の素志を體し質實穩健の營業方針を以て終始一貫し來たりたるが大正元年に誠北銀行を亦大正二年には日本通商銀行を併合し、業務益々發展擴張す、尋で大正九年七月に至り株式組織に改めの中井銀行と稱し、資本金五百萬圓を以て益々堅實主義を實行し、本社を日本橋區金吹町に置き市内各所の支店を初めとして浦和、川口忍、岩槻、粕壁、越ヶ谷、杉戸千住等の各地に支店を設け、其の他全國二千五百餘ヶ所の爲替取引先を有し、今や其基礎信用共に斯界有數の大銀行として噴々の聲評を博せり、現在の重役下記の如し
頭 取 中井新右衛門
専務取締役 田口 忠藏
取締役 中井 永一
取締役 中井 平五郎
取締役 中井 音次郎



中川重助君

製糖業

古來酒、醬油等の輸送、運搬に當りては、凡て從來の木製樽を以てするは世人の熟知する處なり、然るに製樽の業たる、非常困難にして、價格又從つて廉ならず、されば近頃之等容器の改良を高唱する者あるも、酒醬油等の品質保有的上に於て、又輸送の上より見るも、在來の樽を用ゆるを最も可なりと信じ専心斯業の研究に、没頭する中川重助君は、茨城縣の人なり、明治三十一年三月新治郡藤澤村字坂田に呱呱の聲を擧ぐ、現戸主榮三郎君の令孫にして、安之助君の二男なり、幼にして英邁

士浦町立總學院を卒業し、又新治郡農事講習所を出ず、大正十年參月野田醬油株式會社に入り同十二年二月製糖工場に勤務す入社以來主として徒弟教養の任に當る、夙に製糖業の有望事業なる事を觀破し、各醸造家の贊同を得て、大正十年三月製糖工場を起し、最初徒弟四十名を募入す、事業次第に隆盛に趣き、同十一年更に四十名を、同十二年十名を、同十三年五十名の從第を募集して、製糖業に従事せしむ、同年の製糖高實に二十餘萬樽に及ぶ、驚くべき盛況と云ふべし、如斯事業の發展を見しは君が奮闘努力の賜物にして又その手腕の卓越せるのみならず君の信用を徳望の如何に高きかを立證するに足る、君はこの間にありて、深く宗祖日蓮上人の教を奉じ、朝夕御題目を怠らず確固たる信仰の下に事業を經營す、されば幼年勞働者の衛生、並に教養方面にも意を注ぎ、常に改善の方法を講じつゝあり、

これ又君が性來徳行の然らしむる處ならむ、かゝる激務の内にありて、又風流の道を忘れず、一竿の竹に釣魚の樂を托す、加之に養蠶に多大の趣味を有し、研究する所深しと云ふ

〔現住〕千葉縣東葛飾郡堅田町

中島安兵衛君

大阪三品取引所仲買人

君は奈良縣人森本彦五郎君の四男にして安政元年五月を以て生れ先代安兵衛の養嗣子となる質業を營み、大阪三品取引所仲買人、内外絨綿布輸出合名會社代表社員たり、家族は夫人クン子、長男政之助君同妻雪江子、五男慶三郎君あり、四男萬次郎君は分家し、二女かい子は大阪府人小林宗之助君に嫁せり

〔現住〕大阪市東區内淡路町一ノ六七〔電話〕東三五二七番

ら之部

ラサ島燐礦株式會社

本社東京市丸の内仲通り五號館
電話牛込六二八二
支店大阪府西成郡神島町
資本金七百五十萬圓

軌近農業の進歩に従ひ、最も必要を感じつゝあるは燐酸肥料なり、これが原料たる燐礦石の輸入は、實に驚くべき多大の數字を示し、而も年々歳々其額を増加せんとするの傾向あり、此時に當りて之れが天與の寶庫たるラサ島に燐礦石大産地を發見し盛んに採掘して以て、需要に供し、その輸入を防止すべく、大なる貢獻を國家に提げつゝあるものは農學博士恒藤規隆氏なり博士は夙に斯學の大家として世に定評あり、我農業界に貢獻しつゝあるの甚大なる、世人の等しく敬仰する所、ラサ島燐礦株式會社の如きも、博士が専心

經營に任ずる處にして其資本金は今や七百五十萬圓なり、同社は創立日向淺きに拘らず、日を逐ふて業務の發展著しきものあり、ラサ島は、元渺乎たる絶海の孤島にして、去る明治二十五年我が海門艦の探險を経て、漸く世人の耳朶に觸れ、後三十三年に至り始めて本邦の所屬となりしも、由來無人島なり、三十九年玉置某、航して始めて此に農業を試みしが、前途に望みなしとて遺棄したり、然るに燐礦石の世界に著名なる燐礦産地大洋島及びクリスマス等の夫れと、殆んど相如けるものたるを發見し、四十三年十一月に至りて、決然合資會社を組織して、自ら其社長となり、燐礦採掘の業を起し、尋で大正二年五月に至り組織を變更して株式會社とし、爾來發展擴張して現在の資本七百五十萬圓と爲すに至れり

監查役 鈴木 由郎

賴尊淵之助君

類轉鑛業所長

從來本邦に於ける過燐酸石灰製造の原料たる燐礦は全然之を輸入に仰ぎ、毎年一千數百萬圓に及ぶ巨額の費を支拂ひつゝありしを、ラサ島に同種の採掘事業を經營するに至りしは、實に本邦の一大慶事にして其經營たる恒藤博士の國家に對する貢獻實に甚大なるものなり、序に當社大正十三年上期決算の概況を見るに金七百五十萬圓を以て資本金償却に充て、更に純利益十六萬四千一百五十四圓七十八錢を擧げ、全額之を後期繰越金となし、基礎の堅實事業の發展を計り、現在の重役氏名左の如し

- 取締役社長 恒藤 規隆
- 常務取締役 小野 義夫
- 取締役 伊丹彌太郎
- 取締役 九鬼 紋七
- 取締役 深川喜次郎
- 取締役 志村 素義
- 取締役 谷井鋼三郎
- 取締役 堀 四郎
- 取締役 大井 卜新
- 監査役 堀谷左治郎
- 監査役 新居田直太郎

君は長崎縣人類尊三四郎君の長男にして明治八年三月を以て生る、同三十六年東京帝國大學工科大學探鑛冶金學科を卒業し會て松島炭礦株式會社取締役兼坑長、長崎電燈株式會社、磐城鑛業株式會社、磯原炭礦株式會社各取締役たりしが現時は君自ら賴尊鑛業所を起して其の所長となり又南海鑛業株式會社社長大日本炭礦株式會社專務、松島炭礦株式會社、龜浦炭礦株式會社、川北電氣企業株式會社、大島炭礦株式會社各取締役として炭礦業に活躍し、我國炭礦業者の權威として令名夙に高し、夫人すゑ子は大阪府人加藤享君の令妹にして、其の間に三男一女あり、長男を隼太君、二男を謙吉君、三男を旗之助君と云ひ、長女を敏子といふ〔現住〕東京市芝區車町三五〔現住〕高輪九四四

欄木松次郎君

欄木商會主 東盛銀行取締役

君は本籍を東京府に有すれども尾張國熱田町の出身にして、萬延元年二月を以て生る、君今より四十年前雄志を抱き、赤手東京に出て神田富松町に小舗を設けて鐵業細工を業とせり、後間もなくヘレスと稱する打出し機械を發明し引續き各種の發明事業に成功す、明治二十八年小石川區西丸町に一大工場を建設して、事業着々發展し業務益々繁榮せり、君の發明品は甚だ多くして、如意軸、筆鞘、筆立、ランギベン、組ベン、器械及びスプリング、耐久ペン、ランギ鋭筆削等其他數種あり、孰れも特許を得、品質優良、形彩高尚價格の低廉なること遙かに舶來品に過ぎ大に海内の好評を博せり、君又株式會社東盛銀行に取締役として敏腕を揮ひつゝあり令閨をたを子と云ひ、東京府人小林吉兵衛君の令妹なり

〔現住〕東京市小石川區西丸町三〇
〔電話〕小石川四六八

頼俊直君

竹原銀行取締役頭取
本ノ江汽船株式會社相談役

君は我國幕末の勤王家として大文豪たる頼山陽先生の曾孫にして、父君を廉次郎君と云ひ、其嫡男なり、文久三年四月を以て生る曾て町會議員に擧げられ明治二十七年選出せられて衆議院議員となりしが感ずる所あり同三十年斷乎として政治界を去り、製鹽を業とし、尙株式會社竹原銀行を創立し之が頭取となり、又本ノ江汽船株式會社相談役となりて、實業界の重鎮を以て目ざる、令閨米子は羽田庄左衛門君の長女にして、男猷太郎君、薰二君、女悌子、初枝子、トク子、和子、延枝等の數子あり、

〔現住〕廣島縣賀茂郡竹原町

む 之 部

村上文策君

東京株式取引所仲買人

君は静岡縣の人にして加藤品太郎君の二男なり、明治二十八年一月を以て生る、先代太三郎君の養子たり、慶應義塾大學部理財科を卒業せり現時東京株式取引所一般取引員なり商號を入丸と稱し斯界に信用あり、業蹟大に見るべきものあり、名實共に益々發展せり、家族は養母のみあり、養兄濱吉君は其妻とを伴ひ分家し、姉隆子は東京府の人村上賢二君に嫁せり

村井四郎君

勸四等農商務省貿易通譯課長

君は明治二十一年十一月二十八日を以て三重縣名賀郡比奈和村字瀧之原に生る、夙に郷里の

武藤嘉門君

衆議院議員

君は岐阜縣人辻次助君の二男にして、明治三十年十月に生る、先代いし子の養子なり、曩に岐阜米穀取引所理事長、同商業會議所特別議員となる、酒造業を營み現時は鶴沼銀行、日本絹紬各取締役、東海鋼業株式會社の監査役たり、代議士に當選する事二回、令閨とみ子との間に嘉一君、節子、克子あり、養子しな子は其夫人恒三郎君と共に子を伴ひ、同芳江子は其夫君秀吉君と共に各分家せり

武藤虎太君

第四高等學校長

業に盡し、郡上製糸團長及諸實業團公共團會長、委員組合長等に推舉せらる、又衆議院議員に選ばる、曩に八幡水方電氣株式會社取締役たり、現時は百二十八銀行の頭取、濃飛銀行の取締役をなす、令閨さい子との間に互郎君、ふみ子、うた子、多喜子、喜美子あり、多喜子は三重縣人、伊藤勝藏君に嫁せり

武藤互三君

岐阜縣多額納稅者

君は岐阜縣人關谷貫三君の弟にして、慶應二年正月を以て生る、先代喜一郎の養子なり、明治三十三年東京專門學校に法律英文學を兼修す、製絲、山林事

君は舊熊本藩士武藤一忠君の長男にして、慶應三年七月を以て生る、明治二十八年帝國大學文科大學を卒業す、第二高等學校長兼教授を経て今日に至る、正四位勳三等なり、令閨カキワは同縣士族紫藤猛君の妹にして其間に三男一女あり、弟棟次君は其夫人タツ子並に子女を伴ひて分家せり

〔現住〕金澤市仙石町

武藤喜一郎君

陸軍獸醫學校長

君は静岡縣人武藤三十郎君の弟にして分家せり、明治元年五月に生る、同二十五年帝國大學農科大學獸醫科を卒業す、三等獸醫に任じ、大正七年獸醫監に陞し、近衛師團獸醫部々員兼獸醫學校教官、衛生材料廠員、陸軍士官學校教官、第二師團獸醫部長等に歴補し今日に至る、現時は前記の外陸軍獸醫監たり、獸醫學博士、醫學博士にして從四位勳二等功四級なり、曩に歐米に差遣せらる、令聞ます子は同縣人榎木孫三郎君の三女なり

〔現住〕東京市赤坂區青山町六ノ一〇八

武藤信義君

參謀本部次長

君は東京府人武藤喜八君の弟にして、明治元年七月を以て生る、同二十六年歩兵少尉に任じ大正八年陸軍中將に昇る、其間

參謀本部出仕、同部員、陸軍大學校教官、近衛師團參謀、外國駐在武官、露國近衛步兵第四聯隊長、歩兵第二十旅團長、參謀本部附、同總務部長、第三師團長等を歴補して今日に至る、日露戰役の功により功三級金鷄勳章を賜ふ、現時は正四位勳一等功二級なり、令聞能婦子は静岡縣士族戸倉能利君の長女にして其間に正子、みさを子の二女あり

〔現住〕東京府下豊多摩郡代々幡代々木宮ヶ谷一五一

武藤山治君

衆議院議員 鐵道紡績株式會社社長

君は岐阜縣人佐久間國三郎君の長男にして、慶應三年三月を以て生る、先代松右衛門君の養子となる、明治十七年慶應義塾を卒業し、後米國に遊ぶ、三井銀行員、鐘淵紡績株式會社神戸支店支配人となり後社長となる、紡績界の重鎮たり、大正九年鎌田労働大使に隨ひ、資本家代表として渡米す、明治四十三

年には紡績業に盡瘁したる功を以て藍綬褒章を賜はれり、大阪府第四區選出の代議士なり、現時前記の外實業同志會長、神戸商業會議所特別議員たり、令聞チセ子は京都府士族福原節介君の女にして其間に二男三女あり長女蝶子は東京府人中上川三郎治君に、二女二三子は大坂府人八木與三郎長男幸吉君に嫁せり

〔現住〕兵庫縣武庫郡住吉村
〔電話〕住吉三六二

武藤金吉君

衆議院議員

君は群馬縣人武藤房吉君の長男にして、慶應元年五月上野國山田郡林泊村に生る、英吉利法律學校卒業後實業新聞、上野新聞各社長たり、代議士に當選する事七回、曾て歐米及支那、南洋を漫遊す、現在群馬縣農工銀行、帝國蠶、山保毛織各株式會社の取締役、豊時計製作所の監査役たり、夫人ミツ子は京都府人石留寅次郎君の姉なり、妹イセ子は群馬縣人丸山信逸君に、

同タジ子は同縣人増田與一郎君に同タル子は東京府人神保清吉君に同トメ子は群馬縣岡部音吉君に嫁せり

〔現住〕東京市芝區南佐久間町二ノ一六
〔電話〕高輪六三七〇

武藤茂平君

福島縣多額納稅者

君は福岡縣人武藤茂平君の長男にして、前名を一郎と稱せり明治五年三月を以て生る、曩に株式會社川俣ホタル、川俣委託株式會社各取締役たり、現時は川俣銀行の頭取、川俣電氣株式會社の取締役たり、夫人ゆき子は愛知縣士族安齋成君の姉にして其間に一男三女あり、長女セツ子は福島縣人佐藤傳三郎君に二女ヨネ子は宮城縣人渡邊貞一君に嫁し、弟二郎君は其妻フサ子と共に子女を伴ひ分家し、甥保藏君も亦分家し、姉フク子は分家弟二郎君の家籍に入り、弟三郎君は福島縣人齋藤平重郎君の養子となれり

〔現住〕福島縣伊達郡川俣町

武藤助右衛門君

實業家

君は岐阜縣人西部市兵衛君の二男にして、安政六年二月に生る、先代助右衛門の養子なり、前名を虎と稱せり、當家は君に至る十九代の舊家にして大和國住人千牛院行信を始祖とし代々刀劍工を以て世に知らる、先代より銅鐵商に轉じ、現時鑛山業及電氣事業を兼營す、尙美濃銀行取締、美濃電化、板取川電氣東濃電化社長、大井電氣、尾北電氣、美濃電氣軌道、中央窯業原料各取締役、八幡産業監査、關反物相談役、武藤商店代表たり、家族は養母美津子、男行之助君同夫人はま子にして、長女かね子は岐阜縣人今井芳太郎君に嫁し、二女つね子は同縣人酒井清七君の養子となれり

〔現住〕岐阜縣美濃町
〔電話〕一〇

武藤盛勝君

仙臺高等工業學校教授

君は宮城縣人武藤謙平君の長男にして、明治十年九月を以て生る、同三十六年京都帝國大學理工科大學を卒業す、曩に函館電燈、函館船渠各株式會社、島津家山ヶ野金山各技師、第二高等學校教授、東北帝國工學專門部教授たり、令聞コト子との間に、盛男君外六女あり、五女ナツ子は宮城縣人我妻一馬君の養子となれり

〔現住〕仙臺市南六軒町

牟田龜太郎君

佐世保鎮守府參謀長

君は佐賀縣士族牟田守常君の長男にして、明治八年二月を以て生る、同二十九年海軍兵學校を卒業す、海軍少尉に任じ大正五年海軍大佐に在じ、又海軍少將に陞任せり、曩に筑摩艦長、旅順要港部參謀長、佐世保鎮守府人事長、金剛艦長たり、令聞

松實子は佐賀縣人林學士八戸道雄君の妹にして、其間に守邦君鶴子竹子雪子龍雄君あり

〔現住〕佐世保海軍官舎

牟田萬次郎君

實業家

君は佐賀縣士族牟田治太郎君の長男にして、萬延元年十一月を以て生る、曩に西海日報を發行し、後佐賀、博多、若松各取引所理事長、肥前板紙、博多窯業各株式會社取締役たり、現在は九州板紙、祐徳軌道、渡鐵工所各取締役、厚生社監査役をなす夫人マキ子は同縣士族最所新作君の長女にして其間に耕藏君、チヨ子、松枝子、キミ子あり、耕藏君は夫人シヲ子を娶り、他の三女も各他に嫁せり

〔現住〕佐賀市松原町
〔電話〕五五

武者小路公共君

大使官參事官

當家は藤原鎌足の後從四位侍從公種の裔なり、公種分家して

室孝吉君

十五銀行秘書課長

君は新潟縣人室十一郎君の長男にして、明治十六年八月を以て生る、早稻田大學を卒業し、現時十五銀行の秘書課長たり、

夫人幾子は長野縣人士族川瀬競君の二女にして其間に長女波津子あり、祖父孝次郎君は祖母トモ子と共に分家し、妹ミチ長は高知縣人中脇定君に、同イエ子は埼玉縣人大橋完一君に同トメ子は新潟縣人長大次郎長男誠次君に、叔母テイ子は同縣人、丸山岩太郎君の養子となり、弟佛次君は分家祖父孝次郎君の家督を相續せり

〔現住〕東京市牛込區南板町五
〔電話〕番町三二〇〇

室橋五郎君

北海道瓦斯株式會社取締役

君は新潟縣人士族室橋十郎君の二男にして、元治元年正月に生る、現在北海道瓦斯株式會社の取締役たり、夫人なみ子は埼玉縣人福永智壽君の二女にして其の間にマツエ子、テツ子、誠君勝君、收君、壽々代、甲子男君梅子、幸子あり、長女マツエは東京府人二階堂省三君に、二女テツ子は静岡縣人志良以桂平君

長男環君に嫁せり

〔現住〕札幌市北一條東四丁目

室原甚太郎君

小國銀行取締役

君は熊本縣人北里惟喜君長男にして、喜永六年三月を以て生る、先代養之允君の養子なり、現時は小國銀行取締役たり、令聞イネ子は分家祖父野省吾君の妹にして其間に一男四女あり長男正嘉君は夫人ムツ子を娶り長女イヨ子は熊本縣人士族佐藤若雄君に、三女トシ子は同縣人橋本林君に、四女シメ子は同縣人士族松崎恒人君に、五女シユウは同縣人松崎喜義君に嫁せり

〔現住〕熊本縣阿蘇郡那小國村

室田義文君

貴族院議員

君は舊水戸藩士室田平人君の二男にして分家せり、弘化四年九月を以て生る、明治四年外務權少録に任じ、爾後領事(ホノル、在勤)外務權少書記官、同

書記官(前後二回)領事、外務省會計局長、總領事兼任外交事務官、辨理公使兼任總領事、特命全權公使等に歴任し、帝國議會に於ける政府委員、山口縣防疫評議員、米價調節調査委員に擧げらる、又曾て御用有之清國へ差遣されたり、明治三十四年貴族院議員に勅任せらる、尙内國貯金銀行頭取、日本徵兵保險社長、北海道瓦斯取締、蓬萊生命保險、三共、鐘淵紡績、大日本人造肥料、日本コンクリート工業、第一火災海上再保險、富士製鋼各監査役たり、從四位勳二等にして、錦鶏間祇候を被仰付、二男二女あり

高岡銀行各取締、高岡打綿株式會社々長、高岡米穀取引所理事たり、家族は夫人ます子、養子さき子、孫才一郎、同君夫人貞子あり、孫綾子は富山縣人高堂亮吉君に、同つね子は同縣菅野與三郎君に嫁せり

〔現住〕高岡小馬出町

室木助七郎君

中尾銀行頭取

君は石川縣室木助右衛門君の長男にして、文久二年三月に生る、現時中尾銀行の頭取たり、夫人とき子との間に二男三女あり、長男正太郎君は夫人みよ子を娶りて、四男を擧げ、長女千代子は石川縣人花野吉定君に、二女邦子は同縣人鶴野甚平君に三女友子は富山縣人川島憲一君に嫁し、二男卯吉郎君は石川縣人南聰孝長女國子に、弟助松君は同縣人古川喜左門君三女ゆき子に同庄太郎君は同縣濱出大助君長女た、子に各婿養子となれり

〔現住〕石川縣鳳至郡南北村

向井哲吉君

退役海軍造兵少佐

君は東京府士族向井三吉君の長男にして、元治元年二月を以て生る、海軍技術學生として獨國に留學し、明治二十五年海軍少技士に任じ、海軍造兵少佐に陞る、其間機關學校教官、佐世保海軍兵器工場主管、横須賀海軍工廠造兵科武庫主任等に歴補し現時は正五位勳三等にして製鐵所技師、銑鐵部長たり、家族は母メイ子外令聞いく子との間に三男三女あり

〔現住〕八幡製鐵所官舎

向井藤左衛門君

會社重役

君は鹿兒島縣人向井藤右衛門君の長男にして、明治八年十二月を以て生る、現在鹿兒島縣林業肝屬電氣、萬瀬水力電氣、九州工業、鹿兒島商事、各取締役たり、令聞訓子は同縣士族、有村松雄君の姉にして其間に重成君

文字あり、姉ナカ子は鹿兒島縣人今井友吉男に嫁せり

〔現住〕鹿兒島市樋ノ口町

向井又吉君

旭川倉庫株式會社監査役

君は山梨縣人向井又左衛門君の二男にして、明治十六年十二月を以て生る、醫師を業とす、令聞ちよ子は千葉縣士族下村充君の姪にして其間に進君、美津子、信子、博君あり、甥五郎君は山梨縣人井上義元君に、同英俊君は同縣人向井茂作君に各養子となれり

〔現住〕旭川市二條通十一丁目
〔電話〕八〇四

向坊盛一郎君

大連汽船株式會社監査役

君は福岡縣人向坊次八君の二男にして、明治十七年八月を以て生る、現在大連汽船株式會社監査役たり、夫人つま子は東京府士族森野光精君の妹にして其間に隆君、鈴子あり、妹マサヨ

は福岡縣人渡邊次一郎君に嫁せり

〔現住〕大連乃木町

向山均君

男爵 海軍造兵大尉

當家は先代慎吉より顯はる、慎吉明治十四年海軍少尉に任じ同三十八年海軍中將に陞任す、其間大和、高雄、秋津洲、淺間敷島各艦長、英國公使館附、舞鶴、佐世保各海軍工廠長、竹敷要港部司令官等に歴補す、特旨を以て華族に列し、男爵を授けらる、君は慎吉君の長男にして明治二十四年十二月を以て生れ

同四十二年襲爵、同三年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し、同五年海軍造兵大尉に陞り、英佛駐在被仰付、夫人光子は岡山縣士族、島村久君の三女にして、其間に金雄君あり

〔現住〕東京市牛込區辨天町七二

宗像十郎君

製鐵所技師兼通信技師

君は熊本縣人宗像健固君の三

男にして、明治二年七月を以て生る、同二十九年帝國大學探鑛冶金科を卒業す、曩に製鐵所技師に任せらる、現時製鐵所技師兼通信技師監査課長兼研究課長たり、正五位勳四等なり、令聞ツネヨとの間に勝太郎君外八女あり、八女清子は福岡縣人中垣ツル子の養子となり、姪フクエは山口縣人大石源治君に嫁せり

〔現住〕八幡製鐵所官舎

陸奥廣吉君

伯爵

當家は先代陸奥完光より家名を揚ぐ、宗光は舊和歌山藩士外國局御用掛、神奈川縣權令、租稅頭、特命全權公使、農商務大臣、外務大臣等に歴任し子爵を授けられ日清役、馬關條約訂結の功に依り伯爵に陞さる、君は宗光の長男にして明治二年三月を以て生る、同三十年襲爵、英國に留學し、倫敦法學院を卒業す、同二十八年外交官及領事官試験に合格し、外務省翻譯官、

領事兼日英博覽會事務官、特命全權公使等に歴任す、令閨イソ子は英國人トシメンシヤの長女にして其間に陽之助君あり、

〔現住〕神奈川県鎌倉町由比ヶ濱

村井啓太郎君

會社重役

君は福岡縣士族村井林次君の長男にして、明治八年十二月を以て生る、同三十一年東京帝國大學法科大學を卒業し、現時は營口水道電氣株式會社社長、南滿鐵株式會社取締役、大連油脂工業株式會社社長たり、夫人すみ子は東京府人首藤諄君の二女なり、姉ひさ子は福岡縣士族富澤豊象君に姉さだ子は同縣士族八幡清十郎君に嫁せり

〔現住〕大連市兒玉町

村井勸兵衛君

第九十銀行取締役

君は若手縣人村井勸兵衛君の長男にして、明治十年十二月を以て生る、前名を保太郎と稱せ

しが後父君の名を襲名せり、夫人イツ子は同縣人池野七太郎君の長男にして、其間に保之助君セツ子、ツネ子、政太郎君あり妹ヤマ子は其夫君勸次郎君と共に子女を伴ひ叔父金平君は其夫人キン子と共に女を伴ひ同茂八君は其夫人サメ子と共に子女を伴ひ養叔父文治君は其夫人チカ子と共に子女を伴ひ各分家し、叔母サメ子は若手縣人森謙藏君に嫁せり

〔現住〕盛岡村木町

村井貞之助君

實業家

君は和歌山縣人坂田幸三郎君の弟にして、明治三年七月を以て生る、京都同志社を卒業後米國エール大學に學ぶ、卒業後村井兄弟商會に入る、曩にゼグランドホテル、リミテッド帝國ジヤパン株式會社各取締役たりしが現時は、村井銀行常務、村井貯蓄銀行取締役、大平生命保險、大平火災海上保險各社長、大日本人造肥料、帝國製糸各取締役

高等演藝場、村井貿易、京阪電氣鐵道、村井鑛業、都ホテル各監査役たり、夫人ミツ子は、東京人村井吉兵衛君の養妹にして長女加壽榮子あり、養子四郎君と加壽榮子との間に淳子、隆一君あり

〔現住〕東京府豊多摩郡澁谷町下澁谷七五五

村井吉兵衛君

村井銀行社長

君は京都府人村井彌兵衛君の二男にして、同彌市郎君の叔父なり、元治元年正月を以て生る先代伯父吉兵衛君の養子なり、曩に村井商會を創立して煙草製造業に従事し後村井銀行を設立し社長となる、現時尙村井貯蓄銀行取締役、村井貿易、村井鑛業各社長、帝國ホテル、帝國製糸南國産業等各取締役、寶田石油、東亞製粉、帝國劇場、臺灣製糖東亞興業各監査役、村井汽船合名會社代表たり、令閨薰子は子衛日野西光善君の五女なり、養

妹ミツ子は分家し、和歌山縣人坂田貞之助君を、同ムメ子も分家し岡山縣人寺坂源助四男眞雄君を、同キミ子も分家し男爵眞木平一郎第五郎君を各入夫とし孫正子は東京府華族三島彌吉君の養子となれり

〔現住〕東京市麴町區永田町二ノ二八

村井五郎君

實業家

君は男爵眞木平一郎君の弟にして、明治十七年二月を以て生る、同四十一年早稲田大學商科を卒業す、現時村井銀行常務取締役、大平生命保險、日章火災海上再保險各取締役、明治貿易株式會社の監査役たり、令閨キミ子は東京府人村井吉兵衛君の養妹にして、其間に一郎君、悦子春枝子あり

〔現住〕東京府豊多摩郡澁谷町下澁谷七四五

村井眞雄君

實業家

君は京都府人寺坂源一君の四男にして、文久三年十一月を以て生る、東京府人村井吉兵衛君の養妹ムメ子の家に入れり現時村井銀行取締役、村井貯蓄銀行監査、村井鑛業副社長、日本鋼鐵株式會社相談役たり、夫人との間に富之助君、八千代子あり八千代子は大阪府人杉田宗右衛門三男正三郎君に嫁せり

〔現住〕東京市芝區南佐久間町二ノ五

村彦兵衛君

小松電氣株式會社取締役

君は石川縣人村彦左衛門君の長男にして、同宅次郎君の令兄たり、明治二年四月を以て生る現時前記の外日本群青株式會社の取締役たり、元加州銀行の取締役をなせり、夫人とく子との間に秀太郎君、千代子、武夫君米子、何祝子、良雄君あり、尙

外に庶子男健二君、三郎君あり母堂ミツ子は分家し、四男良雄君は其養子となり、妹りさ子は石川縣人田雄元太郎君に同なか子は同縣人丹羽他一郎君に、同フシ子は同縣人織部次右衛門君に嫁せり

〔現住〕金澤市博勢町

村岡恒利君

豫備海軍中將

君は京都府士族村岡恒徳君の四男にして、慶應三年七月を以て生る、前名を留乙と稱せり、明治十八年砲兵少尉に任じ、大正四年陸軍中將に陞る、其間陸軍士官學校副官、同教官、下關佐世保各要塞參謀、臺灣總督府陸軍幕僚參謀、東京灣要塞參謀横須賀鎮守府參謀、佐世保要塞砲兵大隊長、重砲第一聯隊長、陸軍技術審査官、大阪砲兵工廠提理等に歴補し現在從三位勳二等功三級なり、令閨てい子は東京府十族木子幸三郎君の令姉なり、家族に尙養子廣勝君あり、

同アサ子は茨城縣人野口正義君に嫁せり

〔現住〕京都府葛野郡松尾村

村岡範爲馳君

京都帝國大學名譽教授

君は鳥取縣士族村岡秀造君の長男にして、嘉永六年十月を以て生る、明治八年文部省に出仕し、師範學科取調の爲め獨逸に差遣ストラスブルグ大學に學ぶ爾來文部省御用掛、東京大學教授、第一高等學校教授、第三高等學校教授、京都帝國大學理工科大學教授、女子高等師範學校教諭兼教頭、東京音樂校長兼高等師範學校教授等に歴任し今日に至る理學博士にして正三位勳二等なり、歐洲に差遣せらるゝ事二回、令閨ひさのは愛媛縣士族佐々木善次郎君の姉にして其間に二男五女あり、長男次男共各令閨を迎へ、長女菊子は岡山縣人松本雋君に、五女治子は大阪人足田輝雄君に、四女輝子は同府人西尾貞次郎君に嫁し、

三女梅子は東京府士族松本收君の養子となれり

〔現住〕津市下部田町通

村上敬次郎君

男爵 後備海軍主計中將 貴族院議員

君は廣島縣士族堀尾笑石君の二男にして嘉永六年九月を以て先る、先代邦裕君の養子なり、海軍省書記官、海軍省經理局長海軍大臣秘書官、同官房主事、海軍省經理局第一課長、吳鎮守府監督部長等に歴補し現時は正三位勳一等功二級、明治四十二年貴族院議員に勅選せらる明治四十年には特旨を以て華族に列し男爵を授けられたり、令閨ツル子との間に隆吉君、圭彦君、喜久雄君、マサヨあり

〔現住〕東京市小石川區小日向茗荷谷町五七

村上半太郎君

伊豫農業銀行頭取

君は愛媛縣人村上久太郎君の

長男にして、明治八年八月を以て生る、現在伊豫農業銀行、愛媛貯蓄銀行各頭取、松山紡績株式會社監査役たり、夫人たけよは同縣人田村昌八郎君の妹にして其間に温太郎君、審三郎君、壽子、平四郎君、東吾君、爽子達子、宏君、シヅヨあり、長女シヅヨは愛知縣人原郷三君に嫁せり〔現住〕愛媛縣温泉郡桓生村

村上喜代次君

東京府多額納税者

君は東京府人村上喜代次君の長男にして、明治十一年二月を以て生る、前名を喜元と稱せり銅鐵商を營み、現時は村上喜代次商店の取締役たり、家族は養子喜一郎君同吉子、長女茂登子あり、母堂あか子は分家し、弟喜久次君も亦分家し、妹久利子は東京府人村上柯吉君に、同じくやは同府人上柳道之助君に嫁せり

〔現住〕東京市京橋區本八丁堀五ノ三二〔電話〕京橋七二二六

村上賢二君

東京株式取引所仲買人

君は静岡縣人袴田金藏君の二男にして、明治十六年十月を以て生る、先代喜次郎君の養子なり、入丸商店と稱し、東京株式取引所仲買人たり、尙硯藻土工業日本歸鐵、東興業各取締役たり夫人隆子は東京府人村上文策君の姉にして、養子慶三郎君は東京府人岩田辰五郎君の四男なり

〔現住〕東京市日本橋區坂本町言

村上關藏君

會社重役

君は廣島縣人村上定八君の五男にして、分家せり、明治二年十一月を以て生る、現時神戸貿易相包株式會社社長、港川土地建物、神戸中央土地各取締、兵衛官、神戸製材、舞子土地各監査役たり、夫人あさ子は兵庫縣人平井精二君の姉にして其間に貞雄君、長女静子あり

〔現住〕神戸市楠町五ノ三四

〔電話〕本局一六二六

村上先君

日鮮鐵業株式會社社長

君は舊仙臺藩士伊藤武左衛門君の二君にして、文久三年正月に生る、岩手縣人村上大藏君に養子となり分家せり、夙に英漢國學を修む、札幌支廳長、臺灣總督府淡水辨務署長、同土地調查局事務官、鹽水港臺南支廳長等に歴任し、現在は正六位勳六等にして臺灣證券交換所、日鮮鐵業、大正活映各社長、日本物産證券顧問、大日本製パン株式會社相談役たり、明治四十一年には代議士に當選す、詩文に長じ李門と號す、望子夫人亦望山女史と號し、南畫をよくす、夫人との間に功子あり

〔住居〕東京市四谷區霞岳町一六

村上恭一君

樞密院議長秘書官

君は鳥取縣士族村上謙君の長

男にして、明治十六年八月を以て生る、同四十年東京帝國大學法科大學を卒業す、文官高等試験に合格し、逓信事務官兼同逓信書記官、逓信管理局事務官、同參事官、逓信大臣秘書官、高等捕獲密檢所事務官等に歴任し現在は樞密院書記官兼行政裁判所評定官、樞密院議長秘書官たり、曩に英領香港へ出張、又逓信事業研究の爲、佛國へ留學せり、令聞たか子は千葉縣人川名正吉郎君の二女にして、其間に成一君、慎二君、汎子、達三君あり、姉潔子は長崎縣人門野吉次君に妹静子は東京府人向後治左衛門長男順一郎君に、同絢子は同府人根岸光吉君に嫁せり

〔現住〕東京市赤坂區青山南町五ノ二八

村上專精君

文學博士

君は兵庫縣人廣崎宗鏡君の長男にして、嘉永四年四月を以て生る、先々代界雄君の養子なり

夙に播磨國結城義尊に學び、後京都に出で、佛敎を修む、曹洞宗大學林及哲學館講師大谷派本願寺設立の中學校長、東京帝國大學文科大學講師等に歴任、現在は東京帝國大學教授、帝國學士院會員たり、令聞つる代は養父界雄君の長女にして其間に一男二女あり、長男龍英君は夫人はる子との間に四女あり、水戸高等學校の教授たり、長女ふじゑは京都府人永沼鶴郎君に、二女ふみ子は東京府人小幡重一君に嫁せり

〔現住〕東京市小石川區林町三一

〔電話〕小石川三二一

村田寅之助君

熊本逓信局長

君は愛知縣人村田菊次郎君の弟にして、明治十一年二月に生る、同三十六年東京帝國大學法科大學を卒業す、鐵道書記、逓信事務官、鹿兒島郵便局長、逓信管理局書記官、長野逓信管理局長、逓信書記官、逓信管理局

村田一郎君

實業家

君は鹿兒島縣人林甚左衛門君の二男にして、安政四年九月に生れ、先代一郎兵衛の養子となり、明治二十年富士製紙株式會社の創立に與り社長となる、現在臺灣纖維株式會社取締役會長、帝國石膏、東北板紙、京濱電力、田川炭礦各取締、日本製紙顧問、東京高等工業學校、正則中學校各評議員たり、令聞す

〔現住〕熊本市辛島町練兵町

村田不二三君

辯護士

太郎君に、五女艶子は東京府人太保進君に嫁せり

〔現住〕東京市芝區公園二四號ノ一

村田綱太郎君

男爵正五位勳四等

君は男爵村田經芳君の長男にして、文久二年八月を以て生る、大正十年襲爵す、當家は先代經芳より家名を揚ぐ、經芳は鹿兒島藩士村田蘭齋君の長男にして夙に洋式兵學を研究、英國士官に就き鐵砲射的術を修む、明治二年陸軍大尉に任じ、同二十三年陸軍少將に累進、貴族院議員に勅選せらる、同二十九年特に華族に列し男爵を授けらる、曩に彈藥盒の改良を成就し、又村田式單發銃、同連發銃を發明せり

〔現住〕東京市麴町區三番町一三

〔電話〕九段九七一

村田與治兵衛君

酒田商業會議所會頭

君は山形縣人五十嵐傳七君の二男にして、同榮一君の令兄た

村田重義君

地主

君は神奈川縣人村田十郎左衛門の長男にして、明治八年十月を以て生る、同三十四年東京帝國大學工科大学機械工學科を卒業す、日露戰役の際野戰鐵道工場班長、野戰鐵道車輛長となる後鐵道技師、横濱市囑託技師等歷任す、令閨米子は公爵大山柏君の從姉にして其間に重金君、義夫君、清君、正子あり

〔現住〕横濱市南太田町一七五五
〔電話〕本局四一六〇

村田信乃君

陸軍少將

君は山口縣士族村田義信君の長男にして、明治八年七月を以て生る、同三十四年陸軍大學校を卒業、同二十八年陸軍歩兵少尉に任じ、大正七年陸軍少將に昇進す、其間歩兵第三十八聯隊長、第十六師團參謀長、朝鮮總督府御用掛、歩兵第二十六旅團

長に歷補し今日に至る、正五位勳三等功五級なり、令閨ふじ子は埼玉縣人田中福太郎君の長女にして其間に長女静枝子あり、姪ヒデ子は岐阜人幸村喜八郎君弟銀六君に嫁せり

村田素一郎君

九州製鋼株式會社取締役
兼支配人

君は長野縣人村田敬次郎君の長男にして、明治六年十月を以て生る、同三十二年東京帝國大學採礦冶金學科を卒業す、農商務省製鐵所技師、統監府技師、朝鮮總督府農商工部礦務課長等歷任し今日に至る、曾て歐米に出張す、夫人せい子は茨城縣人士族酒井嘉親君の五女にして、其間に巖君、重雄君、いづ子、元子、三郎君、美代子、静子、五百子、四郎君あり、妹まつ江は長野縣人高地千代松長男茂一君に、同ゆき子は同縣人寺島織之助長男順司君に嫁せり

〔現住〕小倉市堺町

村山平三郎君

實業家

君は東京府人村山辰五郎君の長男にして、嘉永五年五月を以て生る、現時、狭山商業銀行、青梅商業銀行各頭取、吉原紡績株式會社取締役たり、家族は長男平助君、同夫人、三男辰三郎君、同夫人外、祐次郎君、キク子、令孫三人あり、二男清吉君は東京府人新井伊兵衛君の養子となり、長女アサ子は埼玉縣人森田平吉長男筆五郎君に、二女サダ子は同縣人森田鶴三郎君に、妹モト子は東京府人栗原シゲ子養子縫太郎君に嫁せり

〔現住〕東京府西多摩郡箱根ヶ崎

村山龍平君

朝日新聞社長

君は故國學者村山守雄の長男にして、嘉永三年四月を以て生る、明治十二年芝川又右衛門、木村平八等と共に大阪朝日新聞

を創立し、尋いで東京朝日新聞東京公論、大阪公論、國會新聞を發刊す、曩に大阪市參事會員衆議院議員に擧げらる、大正四年十一月勳三等に叙せらる、令閨マサ子は京都府人小林卓藏君の長女にして、其間に於藤子あり、養子長舉君は子爵岡部長職君の三男なり

村山市太郎君

酒造業

君は長崎縣人村山二三郎君の二男にして、安政四年正月に生る、先代仙次郎の養子なり、酒造業を營み、佐世保銀行の取締役たり、夫人サダ子との間に二男、五女あり、長男義一君は福岡縣人菊竹文逸君の長女ハツ子を娶りて一女を擧ぐ、長女ミツ子は其夫君甚十郎君及子を携へて分家し、二女チヲ子は長崎縣人橋口喜久三郎君の養子となり三女ツギ子は同縣人澤山政太郎

君に、四女久須子は福岡縣人菊竹清君に嫁せり

〔現住〕長崎縣東彼杵郡早岐町
〔電話〕四〇

村山禹太郎君

柿崎銀行取締役

君は新潟縣人村山重兵衛君の長男にして、慶應三年七月を以て生る、現時柿崎銀行取締役たり、令閨トニ子は同縣人長谷川菊太君の三女にして、其間に四男五女あり、長男太郎君は夫人ヨク子を娶りて一男一女を擧げ長女ヒデ子は新潟縣人八木平助君に、二女ケン子は同縣人茂居文次郎君に、三女エツ子は同縣人近藤潤次郎君に嫁し、弟政治君は茂居藤作君二女マチ子の婿養子となれり

〔現住〕新潟縣中頸城米山村

村山喜一郎君

村金商店事務

君は秋田縣人村山金十郎君の長男にして、明治五年八月を以

て生る、現時株式會社村金商店の専務取締役たり、七男三女あり、長男金之助君は夫人ヒサ子を娶り、長女タイ子は、養子兵吉君を迎へ、妹ヨシ子は其夫君淺吉君に從ひ子女と共に、同サダ子は其夫君秀三郎君に從ひ子を携へ各分家し、弟金治君も夫人ツヨ子及子女を伴ひ、同禮治君も亦各分家し、妹ハル子は秋田縣人三浦政五郎君に同タカ子は同縣大橋茂三郎君に嫁せり

〔現住〕秋田縣南秋田郡土崎港町

村山太助君

肥料砂糖商

君は栃木縣人村山太十郎君の長男にして、嘉永五年十一月を以て生る、肥料砂糖商を營む、肥料砂糖商を營み、宮都宮銀行下野興業銀行、日本麻絲各監査役たり、夫人カネ子は同縣人篠原與治君の長女なり、亡弟太平の長男貞吉君を養子となし埼玉縣人綱田惣七郎君の長女でん子を娶りて、其間に二男二女あり、妹カク子は其夫君元三郎君に從ひ分家せり

〔現住〕宇都宮市杉原町

村山金平君

宇都宮商業會議所議員

君は栃木縣人高橋彌次平君の弟にして、明治元年二月を以て生る先代金平君の養子にして前名を直次郎と稱せり、戸室屋と稱し肥料商を營む、尙前記の外下野銀行、宇都宮銀行の監査役下野電力、關東化粧煉瓦下野倉庫各取締役たり、曩に衆議院議員に當選す、令閨しん子は茨城縣人小林半藏君の妹にして、養子國四郎君は栃木縣人青木スカ子の叔父なり、國四郎君と信夫夫人との間に三男一女あり、養祖父榮助君は分家し、妹ツル子は栃木縣人村山喜代吉君の養子となれり

〔現住〕宇都宮市大工町

村松力太郎君

金谷銀行事務

君は静岡縣人村松作右衛門君

〔現住〕静岡縣原郡金谷町

村松龜一郎君

辯護士

君は宮城縣人村松固四郎君の長男にして、嘉永六年正月に生る、明治八年東京法律學舎に學ぶ、嘗て宮城縣會議員、同副議長、同議長、仙臺市會議長、仙臺市會議長等に擧げられ、日本織布株式會社監査役たり、明治二十五年以來衆議院議員に當選すること八回なり夫人よね子は青森縣人楠美冬次郎君の妹にして

其間に五女あり、長女あい子は佐賀縣人小林武男長男翼君に、二女かねよは宮城縣人古川力君に嫁し、養子保壽君は分家せり

長男、同長之助君の令兄なり、明治十一年二月を以て生る、前名を鐵之助と稱せり、村松合資會社の代表にして貴金屬製造業を營む、家族は鐵三君、まつ子ヲツ子、ムラ子、マサ子、弟長次郎君、長治君あり、弟萬四郎君は其妻子を伴ひ、同萬六君も其夫人萬子と共に子を伴ひ各分家し、妹クノ子弟萬七郎君、同十一郎君、同末君も亦分家せり

村松舜祐君

盛岡高等農林校長

君は靜岡縣平民村松茂十郎君の長男にして、明治十四年四月を以て生る、同三十八年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し大學院に入る、大正四年農藝化學研究のため米國に留學せり、曩に靜岡縣立農學校教諭たり、現時從五位勳六等なり、令聞しま子との間に毅君、はま子波子、與正君、良治君あり、妹きの子は靜岡縣人小栗信吉君に嫁し、叔父隆次君は其夫人しも子並に子女を伴ひて分家せり

村松萬三郎君

貴金屬製造業

君は東京府人村松萬三郎君の

君は靜岡縣人村松仙藏君の二男にして分家せり、慶應二年三月に生る、興業銀行、芙蓉製紙株式會社の取締役たり、夫人かつのは山梨縣人中村季候君の長女にして其間に三男五女あり、長男弘君は夫人まち子との間に一正君あり、三男徳次君は靜岡縣人佐野佐十君の養子となり長女せつ子は同縣、鐘田繁太郎君の

村松嘉十郎君

今泉製紙株式會社取締役

君は靜岡縣人村松仙藏君の二男にして分家せり、慶應二年三月に生る、興業銀行、芙蓉製紙株式會社の取締役たり、夫人かつのは山梨縣人中村季候君の長女にして其間に三男五女あり、長男弘君は夫人まち子との間に一正君あり、三男徳次君は靜岡縣人佐野佐十君の養子となり長女せつ子は同縣、鐘田繁太郎君の

長男眞吾君に嫁せり

村越藤三郎君

國府津銀行頭取

君は神奈川縣人村越藤八君の長男にして、明治四年正月を以て生る、現在國府津銀行の頭取たり、家族は母堂ナヲ子外夫人ナカ子との間に信夫君、八千代智恵子、芳江子、正夫君、敏夫君、英雄君あり、弟常治君は分家し、妹キク子は神奈川縣人中津川澤吉君に嫁せり

村澤舍廣君

富士タオル株式會社取締役

君は富山縣土族村澤重廣君の長男にして、明治十一年十一月を以て生る、前名を錦一郎と稱せり、現時廣貫堂富士タオル株式會社の取締役たり、家族は母堂ヨキ子、子息錦郎君、咲枝子姪富子、弟二郎君、三郎君あり妹シゲノは富山縣人三ツ塚兼太

郎長男良之助君に嫁し弟四郎君は同縣人山崎祐次郎君に、叔父銀次郎君は同縣人關野善次郎君に各養子となれり

村島彌太郎君

大島銀行監査役

君は和歌山縣人村島富吉君の長男にして、明治十五年七月に生る、現時大島銀行、紀和商業株式會社の取締役たり、令聞きの子は和歌山縣土族村尾保夫君の養女にして其間に孫一郎君、しげ子、久枝子あり、姉あきえは和歌山縣人稻田豊三郎君に、同たまのは三重縣人前田民次郎君に、妹とめ子は同縣人清川榮藏三男豊助君に嫁せり

村瀨九郎右衛門君

實業家

君は愛知縣人村瀨九郎右衛門君の長男にして、慶應元年六月を以て生れ、前名を鐵太郎君と

稱せり、現時村瀨銀行、村瀨貯蓄銀行各頭取、幼銀行、村瀨殖産株式會社各取締役たり、夫人やゑ子は同縣人山田清三郎君の長女にして其間にたか子あり、養子陸藏君は滋賀縣人本庄民藏君の弟にして夫人たか子との間に美喜子、知恵子、裕君、博君あり

〔現住〕愛知縣丹羽郡布袋町

村瀨文八君

魚島商

君は愛知縣人村瀨文藏君の三男にして分家せり安政五年四月を以て生る、前名を謙吉といへり、魚島商を營む、令聞てつ子との間に四男五女あり、長男金次郎君は夫人つね子を迎へて三男を擧げ、長女かく子は養子定一君を迎へ、長女すゞ子は愛知縣士族鬼頭庄太郎君に、二女ぎん子は同縣小久保清吉君二男吉次郎君に、四女きん子は東京府人乙部弘道七男魁君に嫁し、三男文治郎君四男文七君は其夫人

きみ子及子と共に、三女たつ子は其夫君管太郎君に従ひ各分家せり

〔現住〕名古屋南區大瀨子茶屋町一三五〇〔電話〕本局一〇八五

村瀨孝文君

辯護士

君は岐阜縣人村瀨一三九君の長男にして、元治元年四月を以て生る、初め醫學を専攻し、後法律を修む、辯護士及判檢事試験に合格す、判事に在せられ名古屋控訴院部長、徳島地方裁判所長に歴補し、現時は尾張銀行天津養魚各取締役たり、夫人をうめ子と呼び、其間に三女あり長女たか子は頼治君を養子に迎へて賀吉君あり、二女つる子は岐阜縣士族榎本景雄君に嫁せり

〔現住〕名古屋市中區南武平町二

〔電話〕本局二七三九

村瀨周輔君

愛知縣多額納稅者

君は愛知縣人村瀨甚兵衛君の

長男にして、安政四年七月に生る、株式仲買業を營み、現時名古屋商業會議所議員、村瀨信托不老園土地株式會社社長、霞ヶ浦土地専務、尾西鐵道常務、名港土地、中央製材、木曾川物産各取締役、名古屋電氣鐵道監査役たり、夫人をけい子と呼び四男一女あり、二男庸二郎君は經濟學士なり、長女ちよ子は愛知縣人村瀨竹次郎君に、養子れい子は三重縣人小林武次郎君に嫁せり

〔現住〕名古屋市中區南吳服町一ノ二〔電話〕本局二三八、六〇九、一四一四

村木正憲君

大阪機械工作所取締役社長

君は岡山縣土族進藤收吾君の三男にして、明治元年四月に生る、先代義正の養子なり、前名を宇三郎と稱せり、明治二十四年東京帝國大學法科大學を卒業す、佐賀、栃木各縣收稅長、司稅官、遞信書記官兼參事官、大阪郵便電信局長、郵便爲替貯金

管理局長、名古屋郵便局長等に歴任、又宇治川電氣株式會社常務取締役、備後船渠株式會社社長、日本兵機株式會社取締役社長たり現時は前記の外大阪鐵工所取締役、大阪住宅經營、日本輕鐵工業各監査役たり、令聞繁喜子は高知縣土族横山直陽君の二女にして、其間に二男四女あり、長男正毅君は富美子夫人を娶り長女庸子は朝鮮總督府醫官醫學士相原眞一君に嫁せり

〔現住〕大阪市東區十二軒町一九

〔電話〕南六六〇一

村木雅美君

男爵 貴族院議員

君は高知縣土族村木保次君の長男にして、安政三年十月を以て生る、明治十二年陸軍砲兵中尉に任じ、同三十九年陸軍中將に陞任す、其間東京鎮臺野砲兵第一支隊第二中隊見習、陸軍士官學校教官、大阪砲兵工廠御用掛、同廠副提理、同廠附、陸軍大臣秘書官心得、陸軍省副官心

得軍事參議官、附屬事務取扱兼勤、兼砲兵官議々員、同御用掛兼勤、日清戦役大本營御用掛兼勤、砲兵第一方面本署長、軍務局砲兵課長、東官武官、武官長日露戦役大本營附、兼東宮大夫兼侍從武官、竹田宮宮務監督等に歴任し、臨時博覽會評議員、陸軍省乘馬委員長、明治二十七八年戦役統計編纂委員長等に擧げらる、外國貴賓の待伴員たること數回、日清戦役に従事す、又貞愛親王殿下に隨行歐洲へ、皇太子殿下に供奉韓國へ孰も差遣はさる、現に東久邇宮宮務監督、軍需評議會評議員、馬政委員會委員たり、大正元年貴族院議員に勅任せらる、明治四十年には特に華族に列し男爵を授けらる、從三位勳一等功四級なり養子雅枝君は高知縣人村木繁枝君の三男にして同夫人フク子は東京府人宇都宮太郎君の長女なり

村木甚三郎君

君は北海道人村木林之助君の二男にして、嘉永元年三月を以て生る、土木請負業を營む、養子喜三郎君に、キミ子夫人を娶りて、其間に六男あり

村木維夫君

君は岩手縣士族村木泰久君の二男にして、明治七年七月を以て生る、前名を榮三郎と稱せり明治三十四年東京帝國大學文化大學哲學科を卒業す、曩に第四第七各高等學校教授に歴任し今日に至る、從五位勳四等なり、令閨フミ子は岩手縣士族堀合徳彌君の三女にして其間に三男二女あり

紫安新九郎君

君は滋賀縣人邦田七兵衛君の長男にして、嘉永六年九月を以て生る、曾て大津商業會議所の特別議員たり、夫人あい子は同縣人久松英三郎君の養姉なり、夫人との間に五男二女あり、長女惠美子、四女福子は共に滋賀

の二男にして、明治六年八月を以て生る、紫安通機君の養兄にして分家せり、明治三十三年東京專門學校政治科を卒業す、曩に雜誌二十世紀、鎮西日報各主事、萬朝報記者、大阪市商工課長、大阪市南區長、大藏省副參政官、出羽石油株式會社取締役たり、明治四十五年以來代議士に當選四回に及ぶ、現時は大阪水産、城東土地各取締、攝津煉瓦株式會社の監査役たり、令閨を彌壽子と呼び岡山縣人眞野竹太郎君の二女なり

邑田彌平君

君は東京府人邑田彌平君の長男にして、文久三年正月に生れ前名を兼次郎と稱せり、製茶業を營む、夫人みつ子は同府人長谷川仙太郎君の妹にして其間に一男五女あり、長女みね子は東京府人岩田敦淳君に、三女ノブ子は同府人中村繁君に、妹ふじ子は同府人西澤金次郎君に、同やる子は同府人石井市太郎君に同かつ子は茨城縣人稻葉平馬君に、同保子は東京府人渡邊仲藏君に嫁せり

郵田六之助君

君は滋賀縣人邦田七兵衛君の長男にして、嘉永六年九月を以て生る、曾て大津商業會議所の特別議員たり、夫人あい子は同縣人久松英三郎君の養姉なり、夫人との間に五男二女あり、長女惠美子、四女福子は共に滋賀

村野常右衛門君

君は東京府人先代村野常右衛門君の長男にして、安政六年七

月を以て生れ、明治元年十一月家督を嗣ぐ、同十三年戸長となり、爾來村會議員、縣會議員、同常置委員等に選ばれ、三十一年以來衆議院議員に當選する事八回、現に勅選貴族院議員にして尙横濱倉庫株式會社社長、横濱新港倉庫株式會社の取締役たり、令閨をそね子と呼び其間に一男四女あり、長女テル子は東京府人鈴木國三郎君に、三女悦子は同府人内藤道輔君に嫁せり

村居鐵次郎君

君は北海道人村木林之助君の二男にして、嘉永元年三月を以て生る、土木請負業を營む、養子喜三郎君に、キミ子夫人を娶りて、其間に六男あり



心を危ふする者多き中に、君の如く、責任の念強く、社會奉仕の念に富み、自治の念に強く、一度蒲田町の助役となりては、専ら町長を授けて、一町の發展並に改善に盡して業績著しく、多年溝渠の氾濫に苦しみ、道路の不備に悩み、災火の危険に恐れ戦き、盜難の頻發に泣く町民をして、其の苦難より免れしめ

村瀬末一君

君は岐阜縣人村瀬與平君の二男にして明治十五年一月を以て生る、名古屋セメント株式會社代表社員、東海曹達株式會社取締役及び木曾電氣興業株式會社の支配人たり、夫人つな子は静岡縣人田桐孝太郎君の令妹にして養姉タネ子は京都府人森春三君に嫁せり

〔現住〕名古屋市西區車之町四ノ三
〔電話〕本局四五三〇

村瀬善三郎君

村瀬銀行取締役

君は愛知縣人酒井惟弼君の令弟にして明治二年十二月を以て生る、先代善三郎君の養子にして前名を八郎と稱す、株式會社村瀬銀行の取締役を初として名古屋商事株式會社監査役、株式會社村瀬貯蓄銀行取締役たり、夫人やす子は愛知縣人服部利一郎君の令姉にして其の間に一男三女あり、長男を治郎君と云ひ二女をはな子、三女をさだ子といふ、長女うたのは愛知縣人岩田常七君の二男悦次郎君に嫁せり
〔現住〕愛知縣丹羽郡布袋町

村瀬淳一郎君

名古屋株式取引所監査役

君は愛知縣人村瀬周輔君の長男にして明治二十五年五月を以て生る、名古屋株式取引所監査役、村瀬信託株式會社取締役たり

り夫人光子は子爵堤雄長君の長女なり
〔現住〕名古屋市中西區南吳服町一ノ二
〔電話〕本局三七七二

村瀬正敬君

松山商業銀行事務取締役

君は愛媛縣人村瀬恭敬君の長男にして明治二年二月を以て生る、現時株式會社松山商業銀行事務取締役、株式會社三豊銀行取締役、愛媛鐵道株式會社、商工信託株式會社、伊豫製糸株式會社、松山土地建物株式會社各取締役、伊豫電氣鐵道株式會社の監査役たり、夫人キヅ子は同縣人森彌三郎君の長女にして其の間二男二女ありて長男を敬二君、二男を正健君と云ひ、二女をシズ子といふ、長女カス子は愛媛縣人清水四郎君に嫁せり
〔現住〕松山二番町

村島理平君

奈良女子高等師範學校教授

君は岡山縣人村島治雄君の長男にして明治三年十月を以て生る

る、同三十一年高等師範學校英語專修科を卒業し京都府尋常中學校教諭となり次いで同府立第一中學校教諭となり現時は奈良女子高等師範學校教授兼生徒監たり、夫人常子は岡山縣人平松讓吉君の三女にして四男一女あり、二男を寛君と云ひ三男を穰君、四男を武夫君といふ、長女眞壽子は長野縣人金井眞澄君に嫁し、令妹竹野は京都府人安原直藏君の令弟長吉君に嫁せり
〔現住〕奈良市油坂町

村岸和兵衛君

鹿兒島地方專賣局長

君は滋賀縣人村岸宇平君の長男にして明治九年十月を以て生る、同三十五年東京帝國大學法科大學を卒業し、同四十一年文官高等試驗に合格せり、爾來煙草專賣局長、同事務官補、專賣局主事、專賣局參事、水戸專賣支局長等を歴任し、現時鹿兒島地方專賣局長たり、勳功により特に從五位勳四等に叙せらる、夫人光子は愛媛縣人奥西虎吉君

村越八郎君

海軍大佐 海軍艦政本部 總務部長

君は新潟縣人村越賢一郎君の令弟にして明治九年九月を以て生る、同三十二年海軍兵學校を卒業し、同三十四年海軍少尉に任じ大正七年海軍大佐に累進せり、其の間吳海軍工廠副官、安藝副官、第一艦隊、聯合艦隊各副官、海軍省艦政局各員、海軍省艦政本部第二課長等を歴補して現時海軍艦政本部總務部長たり、曾て造兵造船監督官として英國に出張せし事二回に及べり勳功により從五位勳三等功五級に叙せらる、夫人壽賀子は新潟縣人山本庄太郎君の三女なり
〔現住〕東京市麻布區永坂町七〇

う之部

上田虎次君

實業家

君は高知縣の人にして上田虎次君の長男なり、明治八年四月を以て生る、前名を昌作と稱せり、現時高知商業會議所常議員土佐農工銀行監査役、高知瓦斯阿波電氣軌道、廣島製材、四國鐵工所、日本礦泉、高知製材、三和汽船各株式會社取締役たり家族は夫人庫子、長男藤十郎君二男藤兵衛君、三男藤三君、五男昌稔君、六男奎六君あり、長女澄子は高知縣士族島村祐三養子涉君に、二女幸子は同田所可敬長男薫君に、四男素夫君は同前田喜君に、七男晴一君は同荻谷楠鹿君の養子となり、弟榮三君及養弟信二郎君は各分家し甥豊一君は其父信次郎君の家籍に入り

に入りたり

〔現住〕高知縣吾川郡伊野町

宇井孝三君

有隣生命保險株式會社 事務取締役

君は明治十四年七月を以て千葉縣匝瑳郡野田村に生る、夙に郷に學を修め、後上京して一ツ橋東京高等商業學校を卒業し、神國生命保險株式會社取締役兼支配人たり又北海道探炭株式會社取締役たりしことあり現時有隣生命保險株式會社事務取締役、圖們鐵道株式會社取締役たり、家族は令閨久良子との間に長男孝君、二男滋君、長女都代子、次女康子あり

〔現住〕東京市赤坂區青山高樹町
〔電話〕青山三九二

上田忠三郎君

實業家

君は京都府人田中平兵衛君の三男にして、慶應元年二月を以て生る、先代むめの養子たり、現時千日土地建物、阪南土地建物各株式會社取締役、朝日實業株式會社監査役たり、家族は令閨フサ子、庶子女信子あり、養子アイは分家せり

〔現住〕大阪府南區難波新地三番町一三
〔電話〕南一四〇

植村澄三郎君

大日本麥酒株式會社事務取締役

君は舊幕臣植村原十郎君の長男にして、文久二年十月を以て江戸に生れ、明治維新の際、嚴君に從つて遠江國横須賀に移り住せり、君幼より聰明にして學に就き、また甚だ雄志あり、明治十二年上京して職を官に奉じ開拓使の吏員となり後大藏省に勤務し更に農商務省に轉じ、明治二十年遞信省に入り累進して

遞信管理局次長の榮職に進む、同二十二年官を辭して實業界に身を投じ、北海道炭礦鐵道株式會社に取締役として其效績を挙げ、亦北海道炭礦汽船株式會社監査役となりて専心職務に盡せり、又曾て東洋硝子株式會社及び日本人造肥料株式會社に各取締役として熱心其經營の事に從ひ何れも良好なる成績を挙げたり、君は今や我が中央實業界に於て蔚然たる勢力を有する重鎮なり、數多の會社に重役として縦横に其敏腕を揮ひて、名聲もとより世に高けれど、殊に其特意の技倆を發揮したるには大日本麥酒株式會社の常務取締役として、會社開業の當初に於て施設經營其の宜敷を得て第一期の決算に於て既に一割五分の配當をなし實業界を喫驚せしめたるにあり、之より先君濫澤子爵の知遇を受けて、其推挽によりて子爵の監督に係る札幌麥酒株式會社に入つて事務取締役となり熱誠を披瀝して創業に努め拮据

勉勵したる爲め稍もすれば其維持困難を告げんとする状況なりしを救ひ着々として其効果を擧げ、社運頓に隆盛を呈するに到れり、之れ今日日本麥酒株式會社の前身なり、君今や會社の重鎮たり、其卓抜なる手腕を發揮して社業の發展に盡力し世の多くの期待を擅にしつゝあり、現時前記會社重役たる他十勝開墾株式會社社長、明治製糖、日本醋酸製造、東京菓子、スマトラ興業、城東電氣軌道、三共、電氣化學工業各株式會社取締役たり大正五年北海道開拓の功により勅定の綠綬章を受く、家族は夫人珠子との間に長男甲子郎君、同妻淑子、二男泰三君あり、長女梅子は東京府人荒井誠一郎君に嫁せり、〔現住〕東京市赤坂區青山表町四ノ四〔電話〕青一四一〇

上埜安太郎君

正五位勳三等 衆議院議員
高岡市長

君は慶應元年十二月を以て富



山縣西礪波郡西五位村に生る、上野平次君の長男なり、君夙に政治に興味を持ち、將來政治家を以て立たんことを欲し、普通教育を修了し、更に私塾に入りて學ぶ處あり、明治二十年の交より政黨に關係し、同二十五年縣會議員に當選し續いて副議長に推さる、同三十一年再び縣會

議員に選ばれ二十八歳にして縣會議長となる、同三十二年三月より農商務省の命により地方森林會議員に任ず、同三十五年第七回衆議院議員に當選してより今日に至る實に九回の多きに及びり以て君が同地方に人望の多きかを知るに足る同三十九年四月、三十七八年の役の功により勳四等に叙せられ旭日小綬章を

授けらる、同四十三年生産調査會委員を命せらる、大正元年韓國併合紀念章を受く、同五年四月、大正三四年の役の功により勳三等に叙せられ瑞寶章を賜はる、同八年多年衆議院議員の職に就きて勳功尠からざる旨を以て旭日中綬章を賜はる、同八年道路會議員を命せらる、同九年十二月を以て司法省參事官に任せられ、高等官二等に叙さる、同九年大正四年乃至五年の事件の功により金杯を賜ふ、同十年正五位に叙せらる、同九年國勢調査紀念章を受く同十一年十二月司法省所管政府委員仰付らる大正十一年九月現高岡市長に就任せり、實業界に於ける君の事業は合資會社北越組を起し、土木請負業を營み亦北陸公論、越中新報、北陸政報の社長たり、其他東洋漁業會社を起し捕鯨事業に従事せしことあり、君富豪の家に生れ穎才を受けて地方開發の志を達し、更に中央議政壇上に雄姿を現はし政治實業兩界

植村俊三君

正六位勳四等 醫學博士
陸軍二等軍醫正

君は愛知縣の人にして植村玄秀君の長男なり、明治九年九月を以て生る、同三十年東京帝國大學醫科大學を卒業し、現時朝鮮總督府醫院醫官外科長たり、家族は母こと子、令閨タカ子、養子高政君、養子春子あり、弟尙清君は妻常盤と共に分家せり〔現住〕朝鮮京城西大門町官舎

植村金吾君

實業家

君は東京府士族植村澄三郎君弟にして分家なり、慶應三年九

右近和作君

實業家

君は福井縣人八十島五郎右衛門君の三男にして、明治九年三月を以て生る、右近權左衛門君の養兄なり、明治三十四年早稲田大學英語政治科を卒業し、現在百三十銀行の取締、日本海上保險株式會社の常務、日海興業大阪工商、右近商事、大東海上火災保險會社各取締役たり、曾て米國に留學す、令閨たま子との間に勇太郎君、隆太郎君、初子芳夫君、秀夫君、茂子あり

〔現住〕兵庫縣武庫郡住吉村
〔電話〕御影二二三

右近末穗君

中華電業株式會社取締役

君は佐賀縣士族右近生行君の長男にして、明治十七年一月を以て生る、同四十二年東京高等商業學校を卒業す、曾て臺灣銀行、九江支店長たり、現時前記の外中日實業、上海營業所長兼

支配人たり、令閨フミ子との間に太郎君、長女ハツエ子、二女ヒナコ子、三女喜久子あり

〔現住〕支那上海北四川路一七一

宇治庄兵衛君

實業家

君は大阪府人大島利三郎君の二男にして安政五年十二月を以て生る、先代庄兵衛君の養子にして前名を金次郎と稱せり、現在日本金屬製品、大神中央土地各株式會社の監査役、宇治商店の代表たり、令閨ムメ子との間に四男三女あり、長女リヤウ子は分家して大阪府人藤井常三郎弟孝之助君を迎へ、二男藤三郎君は大阪府人大島利之助君の養子となり、二女圓子は同府人淺本信次郎長男徳三君に嫁せり

〔現住〕大阪府南區久左衛門町三六〇〔電話〕南五五二七

右近權左衛門君

實業家

君は福井縣人右近權左衛門君

の長男にして、明治二十二年十一月を以て生る、前名を義太郎と稱せり、慶應義塾を卒業し、現時は日海興業、日本海上保險各取締社長、朝鮮電氣株式會社の取締役たり、代々海運業を營む、夫人政子は石川縣人時國甫太郎君の長女にして其間に保太郎君、富久子、保雄君あり、姉たま子は、夫和作君と共に、兄福太郎君は其夫人とき子と共に各子女を伴ひ分家し、妹スエ子は栃木縣人植竹龍三郎君に嫁せり〔現住〕大阪府西區西堀北通五ノ一四〔電話〕園新町三九九

宇田友四郎君

實業家

君は高知縣人宇田長藏君の二男にして分家せり、萬延元年三月を以て生る、現時高知商業會議所特別會員、白洋汽船、土佐セメント各株式會社長、土佐電氣鐵道、土佐紙絲紡績、高知製紙所、土佐曹達、土佐電化工業各取締役、大東漁業、幡多水力

宇川雄太郎君

三十八銀行事務取締役

君は長野縣士族宇川榮次郎君の長男にして、明治五年八月を以て生る、同三十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業す曩に浪速銀行主事、同神戸支店長三十八銀行取締役兼神戸支店長たり、令閨あさ子は東京府人田中元三郎君の長女にして、其間に彰君、敏子あり、姉しづ子は長野縣人赤羽萬次郎君に、妹稚子は同縣士族矢澤正雄長男米三郎君に、同清子は同縣士族順則二男克美君に嫁せり

〔現住〕兵庫縣武庫郡住吉村

〔電話〕御影七一九

電氣各監査役たり、夫人兼子は同縣人松本彦吉君の妹にして、其間に喜代子、嘉代子あり、養子耕一君は大阪府人六田義二君の弟なり

〔現住〕高知市東唐人町

宇土兵藏君

正三位勳三等功五級
海軍王計少將

君は長野縣人宇土豊太郎君の弟にして、明治五年二月を以て生る、專修學校を卒業す、海軍少主計に任じ、大正四年海軍主計大佐に陞る、其間海軍經理學校教官兼監事、海軍省經理局第二課長に歴補し現在は尙海軍探炭課長たり、曩に日露戰役の功により功五級金鵄勳章を賜ふ、令聞きみ子は東京府士族佐野直助君の長女にして、其間に雄一君、ミチ子あり、兄智太君は長崎縣人廣瀬ヨイ子の養子となり弟眞君は同縣人小田ハル子の入夫となり、甥大五郎君は其叔父廣瀬智太君の養子となり、妹ツ

ク子は同縣人隈部俊平長男嘉太郎君に、姪サヤ子は同縣人出田四郎君に、同キミ子は同縣人本田三治君に、同ツル子は同縣人森清二君に、同ハル子は同縣人岩永脈君に嫁せり

〔現住〕福岡縣糟屋郡須惠村
海軍探炭所官舎

宇尾野藤八君

第四銀行取締役

君は新潟縣人宇尾友太郎君の長男にして、文久二年二月を以て生る、高等商業學校を卒業す曩に新發田倉庫株式會社監査役たり、現時第四銀行取締役、新潟貯蓄銀行の監査役たり、夫人キユノとの間に三男四女あり、長男潔君は同縣人伊藤淳一郎君の長女シン子を娶り、長女キシイは、新潟縣人小林貫一郎長男謙以智君に嫁し、妹トイ子は其夫君順次郎君に從ひ子と共に分家せり

〔現住〕新潟縣北蒲原郡水原町

宇田川繁次郎君

東京米穀取引所仲買人

君は東京府人宇田川勘右衛門君の長男にして、明治十一年十一月を以て生る、現時東京米穀取引所仲買人たり、令聞タヨ子は千葉縣人中村勝五郎君の妹にして其間に三男三女あり、妹キヨ子は東京府人安藤昌一君に嫁せり〔現住〕東京市日本橋區蠣殼町一ノ三

宇津權右衛門君

栃木縣多額納稅者

君は栃木縣人宇津權右衛門君の二男にして、明治十一年三月を以て生る、前名を廣藏君と稱せり、現時は寶積寺銀行取締役下野新聞社監査役たり、夫人まさ子は埼玉縣人高鹿正夫君の伯母にして其間に三女あり、姉イト子は栃木縣人平石六郎君に、同スイ子は茨城縣人田邊利兵衛君に、妹タマ子は栃木縣人津久井新一郎養子保君に嫁せり

〔現住〕栃木縣鹽谷郡北高根澤村

宇多良溫君

勸業債券月報社取締役

君は東京府士族宇多良由君の長男にして、嘉永五年二月を以て生る、現時株式會社勸業債券月報社の取締役たり、夫人たつ子は茨城縣士族杉村武敏君の三女にして其間に良一君、健三君五郎君、進君、きよ子あり、長女きよ子は東京府士族小島成治君に嫁し、二男進君は同府士族白崎安邦君の養嗣子となれり

〔現住〕東京市牛込區矢來町三

〔電話〕番町二〇四一

宇野朗君

東京帝國大學名譽教授

君は静岡縣人宇野陶君の長男にして、嘉永三年十月を以て生る明治九年東京醫學學校醫學部を卒業す、後東京大學助教、同教授兼醫科大學第一醫院長心得及第二醫院長、東京帝國大學醫科大學教授兼同大學附屬病院院長等

宇佐川一正君

男爵從三位勳二等功二級
貴族院議員

君は舊山口藩士藤村太郎右衛門君の四男にして、嘉永二年十一月を以て生れ、先代久平君の養子なり、戸山學校教則を卒業す、諸職を経て明治七年陸軍少尉に任じ、爾後累進して現官に至る、其間熊本鎮臺歩兵第二十二大隊第四中隊、同第十四聯隊第二大隊第三中隊、兼集成隊第四中隊、歩兵第十七聯隊等の隊附熊本鎮臺、第十四聯隊第一大隊、歩兵第二十四聯隊第一大隊、歩兵第一旅團、近衛歩兵第一旅團、監軍部等の副官歩兵第一旅團、第一師團、近衛師團等の參謀、日清戰役第一軍參謀副長、第十師團參謀長、第二師管軍法會會議判士長、軍事參議官所屬事務取扱、師團特命檢閱使屬員、勳功調査委員書記官、近衛師團司令部附、朝鮮京城公使館附、軍務局長、歩兵第二十旅團長、軍事參議院幹事長、日露戰役大本營

に於ける陸軍大臣隨員、兼東京衛戍總督部御用掛、東洋拓殖株式會社總裁等に歴任し、シヤム皇太子來航に付接伴員、東洋拓殖株式會社、韓國銀行等の設立委員及陸軍に關する各種の委員長、委員に擧げられ、臺灣、鹿兒島、日清等の各戰役に從事す又朝鮮國及清國に差遣されたる事各二回、貴族院議員に當選する事二回なり、日露役の功により男爵を授けらる、令聞タネ子は養父久平君の長女なり、三女スミ子は山口縣士族齋藏義夫君に、庶子女千代子は東京府人村岡春治君に、同松子は兵庫縣人吉坂丙吉君に各養子となれり

〔現住〕東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町新田八七〇

〔電話〕四谷五〇四

宇佐見與作君

會社重役

君は静岡縣人宇佐美勘左衛門君の長男にして文久三年十一月を以て生る、現時蒲原銀行頭取

宇都宮金之丞君

運送業

君は東京府人宇都宮金之丞君の長男にして、明治三十三年一月を以て生れ、前名を桂吉郎君と稱せり、運送業を營み尙大正板硝子、京濱運河、輸出水産各社長、秋田木工代表、日本製銅東海保險、鹿兒島紡績、大德汽船、帝國蓄電池、富士生命、相模鐵道、ボルネオ護謨各取締、大日本自動車、東海工業各監査

〔現住〕東京市本郷區弓町一ノ一
四〔電話〕小石川二三六九

宇野清左衛門君

勳四等青森縣多額納稅者

君は青森縣人佐々木茂左衛門君の二男にして、嘉永二年五月を以て生る、先代清左衛門君の養子にして前名を清次郎と稱す曩に貴族院議員に選ばる、又青森縣農工銀行頭取、尾上銀行の取締役たり、三男一女あり、長男勇作君は青森縣農工銀行の取締役をなし、二男要三郎君は從六位勳六等、法學士にして判事をなし、いづれも各夫人を娶りて數人の子女を擧げ、長女みよ子は其夫善造君に從ひ子と共に分家せり

〔現住〕青森縣南津輕郡六郷村

旭製紙株式會社の代表たり、夫
人をつる子と呼び、同縣人小林
林平君の妹にして其間に正雄君
外六女あり、長女ふさは養子
秀哉君との間に數人の子女を舉
げ、二女りん子は静岡縣人草谷
榮十郎君に、三女ひさは同縣
人佐野鐵藏君に、五女千代松君
は同縣人井出保二郎君に、六女
浪子は東京府人栗本謙吾君に嫁
し、弟太作君は其夫人つね子と
共に妹まさ子は其夫君十松君と
共に各分家せり

〔現住〕静岡縣庵原郡蒲原町

宇宿行輔君

正四位勳二等功三級
豫備陸軍中將

君は鹿兒島縣士族宇宿榮之丞
君の長男にして、文久二年三月
を以て生る、明治十五年陸軍士
官學校を卒業し、同二十四年陸
軍大學校を卒業す、同十五年陸
軍少尉に任じ大正四年陸軍中將
に陞る、其間第五第二各師團參
謀、留守第二師團參謀長、歩兵

第三十聯隊長、第十八師團參謀
長、歩兵第十四聯隊長、第十三
旅團長、東京灣要塞司令官等歴
補し今日に至る、令閨クマ子は
鹿兒島縣士族椎原哲養君の妹に
して三男一女あり、二女愛子は
男爵片岡恒太郎君に嫁せり
〔現住〕東京府豊多摩郡代々幡町
代々木山谷三〇八

宇野美苗君

從四位勳四等朝鮮總督府判事

君は福井縣士族宇野美里君の
長男にして、萬延元年五月を以
て生る、現時朝鮮總督府判事に
して京城地方法院開城支廳判事
たり、令閨眞弓子は石川縣士族
宮川貞彦君の三女にして其間に
實君、昇君、外一男一女あり、
長女千穎子は東京高等師範學校
名譽教授後藤牧太二男慶二君に
三女照子は東京府人工學士村瀬
花之亮君に嫁し、弟叔藏君は三
宅家を冒せり
〔現住〕朝鮮開城官舎

宇野哲人君

正五位勳五等文學博士

君は熊本縣士族宇都丈九郎君
四男にして、明治八年十一月を
以て生る、同三十三年東京帝國
大學文科大學漢文科を卒業し、
後大學院に入る、東京高等師範
學校教授、東京帝國大學文科大
學助教兼東京高等師範學校教
授等歴任し今日に至る、尙清獨
兩國に留學せり、令閨ひで子は
東京府士族三宅正信君の長女な
り、夫人との間に四男二女あり
兄正魁君は東京府士族服部正澄
君に、同彌市君は熊本市士族愛
甲義貴君に各養子となり、姉夏
生子は同縣士族貫角次君に、姪
ヨシ子は同縣士族中山政雄君に
嫁せり〔現住〕東京市小石川區竹
早町八二

宇垣一成君

從三位勳一等功四級陸軍大臣

君は岡山縣人宇垣十七八君の
弟にして、明治元年六月を以て

鵜飼久吉君

日本殖産株式會社取締役社長

君は愛知縣人鵜飼桂治郎君の
長男にして、明治九年一月を以
て生る、現時日本殖産株式會社
取締役社長たり、六男五女あり
長女つる子は愛知縣人牧野光太
郎君に、二女のふ子は愛知縣人
松浦榮太郎君に、三女まどう子は

同縣人古居來三郎二男秀雄君に
嫁し、弟芳三郎君は分家せり
〔現住〕東京市下谷區下谷町一ノ
一〇

鵜野金平君

播磨製紙株式會社取締役

君は兵庫縣人鵜野金平君の長
男にして、明治十三年十月を以
て生る、前名を榮君と稱せり、
現時播磨製紙株式會社取締役た
り、三男一女あり、弟利一君は
其夫人かつとと共に子を伴ひて
分家し、同武雄君は岡山縣人片
山利三郎君の養子となり、同繁
君は同縣人中山雅子の入夫とな
り、妹うた子は兵庫縣人赤木甚
大夫長男一雄君に嫁せり
〔現住〕兵庫縣神崎郡粟賀村

鵜澤宇八君

勳四等元衆議院議員

君は千葉縣人鵜澤彌右衛門君
の長男にして、慶應三年五月を
以て生る、東京専門學校、慶應
義塾等に學ぶ、曩に千葉縣會議

員房總三鱗社長に擧げられ又代
議士に當選する事四回なり、現
時化學工業、東海市場、杉浦メ
リヤス、製針各株式會社の監査
役にして、回漕業を營む、令閨
まさ子は同縣人八木重四郎君の
長女にして、其間に辰雄君あり
辰雄君は岩手縣人棚瀬小吉郎君
の長女みよしを娶りて其間に一
男一女あり、家族は尙亡長男剛
明君、夫人しち子及其遺兒二女
あり、弟大助君は千葉縣人根本
かた子の婿養子となれり
〔現住〕東京市芝區日蔭町一ノ一
〔電話〕新橋三六八八

鵜澤總明君

勳四等法學博士前代議士

君は千葉縣人鵜澤己之松君の
長男にして、明治五年八月を以
て生る、同三十二年東京帝國大
學法科大學を卒業す、曩に立教
大學、青山學院、慶應義塾大學
明治大學各講師たり、現時明治
大學の理事にして辯護士をなす
明治四十一年以來衆議院議員に

當選する事六回なり、家族は夫
人いち子、晋君、千恵子、總子
明子、昌和君あり、長女重子は
東京府人梅岡平七君に嫁せり
〔現住〕東京府豊多摩郡千駄ヶ谷
四五六〔電話〕青山四七〇

内池三十郎君

實業家

君は福島縣人内池三十郎君の
長男にして、安政元年十二月を
以て生る、曩に福島精練製絲、
福島三器商會各株式會社取締役
たり、現時は第七銀行頭取、
百七貯蓄銀行取締役、福島銀行
監査役、福島羽二重、福島土地
福島紡績、福島誠壹、東華生命
保險、信達軌道各取締役、臺東
製糖、日本油肥工業各監査役た
り、令閨サキ子は同縣人武藤民
作君二女にして、其間に五男二
女あり、四男五郎君はいわ子夫
人との間に孝一郎君あり、二男
小兵衛君は福島縣人西谷ギン子
の養子となり、三男活三君は其
夫人滿佐恵子及女を伴ひて分家

内田徳郎君

東京石川島造船所取締役

君は兵庫縣士族内田敏夫君の
弟にして分家せり、明治四年二
月を以て生る、同二十九年帝國
大學工科大学を卒業し、現時は
東京石川島造船所取締役兼支配
人、月島鐵工所取締役たり、夫
人エツ子は京都府人司馬ノブ子
の長女にして其間に誠一君、晋
次君、徳三君、艶子あり、姉あ
い子は兵庫縣士族丹羽馨兒父信
雄君に嫁せり
〔現住〕東京市麴町區上六番町四
一〔電話〕九段二六三

内田正君

退役陸軍軍醫正

君は静岡縣人儒醫内田貞二君

以て生る、先代直義君の養子なり、現在明姫電氣株式會社副社長、東洋輸出木材、神戸醋酸工業、日本黒鉛工業株式會社各取締役たり、夫人ヤサ子は長崎縣士族山崎忍之助君の長女にして其間に治子、敏子あり、敏子は奈良縣人森岡萬平二男二朗君に嫁せり

〔現住〕神戸市中山手通六ノ一
〔電話〕三宮二六三三

内野省三郎君

九十九銀行頭取

君は長崎縣士族引地造君の二男にして、文久三年十一月を以て生る、現時九十九銀行の頭取たり、夫人タキ子は養父春樹君の長女にして其間に二男二女あり、長男徳三君は長崎縣士族鮎川甚五衛門君の妹ツタ子を娶りて其間に省吾君を挙げ、長女ヨシ子は同縣士族大曲恒介君に、養妹ハエ子は同縣士族氏田善次君に、同カネ子は同縣士族川谷兵藏長男傳君に嫁せり

〔現住〕長崎縣北松浦郡平戸村

内野五郎三君

實業家

君は千葉縣人滑川藤兵衛君の弟にして、明治六年三月を以て生る、先代喜助君の養子なり、現時東京殖産銀行取締役、鐘ヶ淵製紙株式會社社長、凸版印刷、東京蓄音器、太平生命保險、明治製菓、武藏野鐵道、日本漁業權太養孤、日本ゴム工業各取締役たり、夫人コト子は養父喜助君の長女にして其間に晋君、暎二君、謙君、恂君、よね子、さく子、さく子、奈美子あり、長女よね子は石川縣士族中村靜嘉長男忽君に、二女さく子は東京府人塚原周造長男周吾君に嫁せり〔現住〕東京市日本橋區蠣殻町一ノ四

内野信一君

實業家

君は富山縣人内野兼次郎君の長男にして、明治七年十二月を

以て生る、先代信一君の養子なり、前名を良太郎と稱せり、現時越中銀行取締役、第四十七銀行監査、富山縣織物工場、富山製瓶各取締役、小川温泉の監査役たり、令閨ツヤ子は富山縣人三鍋三郎右衛門君の四女にして其間に三男三女あり

〔現住〕富山市豊川町

内山松世君

實業家

君は富山縣士族小池春香君の長男にして、元治元年二月を以て生る、先代年彦君の養子なり、現時富山縣農工銀行頭取、富山銀行、富山電氣軌道株式會社の取締役たり、令閨たか子との間に季友君外二男三女あり、長女むら子は同縣人柏原津左衛門二男與次郎君に、二女あて子は東京府人松井甚四郎君に、三女すが子は同縣人藤岡萬藏君に、四女さや子は富山縣人伊藤與義君に嫁し、養妹ツビ子は同縣人金子貫三君に、二男元二君は同縣

〔現住〕富山縣婦負郡百塚村

内山昇君

實業家

君は長野縣人内山吉兵衛君の男にして文久二年正月を以て生る、先代兄環君の養嗣子なり、現時安曇銀行、取、安曇電氣、信濃鐵道、信濃興業株式會社各取締役たり、夫人やす子は同縣人市川恭藏君の長女にして其間に一男二女あり、養子正雄君と長女きみ子との間には數人の子女あり、養妹も、子は其君正次君と共に分家し、養父環君、養母みつ子共に分家し養弟内山正治君の家籍に入れり

〔現住〕長野縣北安曇郡會染村

内山敬三郎君

實業家

君は神奈川縣人内山市平君の二男にして、文久三年八月を以て生る、三菱商法講習所を出で

英人バラーの塾に學ぶ、衆議院議員に當選する事二回、現時は横須賀商業銀行、横須賀貯蓄銀行、戸塚銀行各頭取、相武電氣社長、養老貯蓄銀行、花蓮港興業、東京火災保險、東亞ベイント製造金港信託、愛川電氣、戰友共濟生命保險各取締役たり夫人キヨ子との間に哲君外一男二女あり、哲君は米國紐約商業學校出身にして戸塚銀行の監査役をなし、夫人テル子との間に數人の子女を挙げ、長女フミ子は、兵庫縣人吉川貞壽君長男岩太郎君に、三女ツヤ子は神奈川縣人佐野惠三郎君に嫁し、二男丈君は分家せり

〔現住〕神奈川縣鎌倉戸塚町
〔電話〕三三

瓜生外吉君

正三位勳一等功二級男爵
豫備海軍大將

君は石川縣士族瓜生傳治君の弟にして分家せり、安政四年正月を以て生る、明治五年海軍兵

學寮に學び後米國に留學す、明治十四年海軍中尉に任じ、大正元年海軍大將に陞進す、其間浪速副長、横須賀鎮守府海兵團長、佛國公使館附、赤城、扶桑、松島、八島各艦長、常備艦隊、第二艦隊各司令官、横須賀鎮守府司令長官等歴補し、今日に至る、日露戰役に際し仁川沖の戰に偉功を奏し功二級金鷄勳章を賜ひ明治四十年特に華族に列し男爵を授けらる、家族は夫人しげ子長男剛君、同夫人秀子、外義男君、勇君あり、長女千代子は愛媛縣人士族山下芳太郎君に、二女しのぶは廣島縣人峠延吉君に、三女榮枝は大阪府士族森作太郎二男恪君に嫁せり

〔現住〕神奈川縣足柄下郡小田原町天神山

瓜生長右衛門君

筑紫礦業株式會社取締役

君は福岡縣人瓜生平五郎君の長男にして、安政四年四月を以て生る、現時筑紫礦業株式會社

の取締役たり、令閨ハル子は同縣人麻生孫四郎君の長女にして其間に三女あり、長女ヒサ子は養子貞一君を迎へて其間に満君を挙げ、二女ヤエ子は福岡縣人井上徳三郎弟秀實君に、養子ヒロ子は同縣人中野竹次郎長男慶太郎君に嫁し、同スミノは同縣人坂口三夫君の養子となれり

〔現住〕福岡縣嘉穂郡飯塚町

瓜生泰君

資産家

君は福岡縣士族寺澤勘之助君の弟にして、安政二年正月を以て生る、先代寅君の養子なり、夙に大阪開成所、大學南校、東京大學に學ぶ、明治八年鑛山研究の爲め英國に留學す、曩に工學大學校助教に任ぜらる、又半田鑛山技師長、松岡銀山、尾小屋鑛山各鑛山長、三菱合資會社尾去澤、佐渡各鑛山長、同社鑛山部副長たり、令閨ツタ子は鹿兒島縣士族前田青莎君の姉にして、其間に四男三女あり、長

男通君は滋賀縣人伊庭貞剛君の四女敏子を娶りて聰君を挙げ、長女鳥子は男爵小畑大太郎君に三女マツ子は東京府人永松照載弟四郎君に嫁せり

〔現住〕東京市芝區二本榎町三
〔電話〕高輪一四五五

内丸最一郎君

正五位勳四等工學士
東京帝國大學教授

君は福岡縣人内丸民平君の長男にして、明治十年九月を以て生る、同三十五年東京帝國大學工學大學を卒業す、後同工學大學講師、同助教等に歴任し今日に至る、曩に機械工學研究の爲め歐米に私費にて留學す、令閨タケ子は神奈川縣人岩田武彌太郎君の長女にして其間に、一男四女あり、妹ジツ子は福岡縣人吉田林藏長男一二三君に、同チク子は大分縣人久次米展二君に同シチ子は東京府人重松安三長男甲子三君に嫁し、弟保治君は大阪府人今西林三郎君の養子と

なれり

〔現住〕東京府北豊島郡東鴨町上
駒込九〇〔電話〕小石川九八〇

卜部八右衛門君

江井ヶ島酒造株式会社常務

君は兵庫縣人卜部八右衛門君の長男にして明治十四年四月を以て生る、現時江井ヶ島酒造株式会社常務取締役たり、令聞きく子は大阪府人久保田萬助君の五女にして其間に義太郎君あり姉みち子は其夫君新一君と、伯母まち子は其夫君豊太郎君に從ひ子を伴ひ、伯父兵吉君は其夫人与共に各分家し、同權治郎君は大阪府人井上てい子の養子となり、同宗太郎君は兵庫縣人田口政五郎君の養嗣子となれり

〔現住〕兵庫縣明石郡大久保村
〔電話〕江井ヶ島八

漆昌巖君

勳三等 實業家 大井町々長

君は三重縣加藤武右衛門君の二男にして嘉永三年正月を以て

生る、芝増上寺學寮、各京大學

に學ぶ、北品川宿法禪寺住職となる、後株式會社品川製氷商會重役に擧げらる、明治三十五年以來衆議院議員に當選する事六回、現時は大井銀行取締役、小笠原水産株式會社代表、鹽釜製氷各取締役、品川白煉瓦、京濱運河各監査役たり、又現に府下大井町々長なり庶子女雅子は東京府人加藤惣左衛門二男昌賢君を迎へて二紀子、二佐子、富三君錦子、巖君を擧ぐ、巖君は東京府人若林藤太郎君の養子となれり

〔現住〕東京府住原郡品川町北品川宿八二〔電話〕高輪一七四

卜部清兵衛君

二見銀行監査役

君は兵庫縣人卜部清兵衛君の長男にして、文久元年六月を以て生る、曾て西灘酒造株式會社の取締役たり、夫人すゑ子は同縣人上西中次郎君の四女にして其間に實郎君、外二男三女あり長男實郎君は、妻はつ子との間

に久子を擧げ、長女ちゑ子は兵庫縣人卜部しか子の養子となり

二女ふき子は同縣人中圓尾善左衛門二男義三君に、三女しづ子は東京府人水野重元君に、四女アイ子は大阪府人種野榮三郎君に嫁し、姉しか子は分家せり

〔現住〕兵庫縣明石郡大久保村

太秦 供康君

從三位勳三等功四級男爵
貴族院議員

當家は藤原鎌足の末裔櫻井供親の創立する所なり、供親南都興福寺中藏尊院の住職たり、明治元年復飾して堂上の列に加へられ太秦と稱す、

君實は故堀河親賀君の三男にして子爵堀河護磨君の叔父たり慶應二年十月を以て生る、先代供親君の養子なり、明治十七年男爵を授けられ、同二十一年陸軍歩兵少尉に任じ同三十七年同少佐に陞る、其間元帥副官、衛戍總督府副官、歩兵第四十九聯隊大隊長、皇族附武官、陸軍省

出仕に歷補す、貴族院議員に當選する事三回なり、令聞信子は子爵山井兼武君の叔母にして、其間に康光君、登美子、美枝子あり、〔現住〕東京府豊多摩郡澁谷町中澁谷四二七

浦井鏡一郎君

正四位勳三等
第四高等學校教授

君は東京士族浦井信君の長男にして明治元年八月を以て生る同二十七年東京帝國大學文科大學史學科を卒業す、曩に第四高等學校教授たり、令聞する子は東京府人菅沼文治郎君の妹にして、其間に文雄君、武雄君、八十子、忠雄君、ユキ子あり、長女ユキ子は石川縣人西野順太郎君に嫁せり

〔現住〕金澤市堅町

浦家 淑君

銀行重役

君は福岡縣人古賀文次君の長男にして慶應三年十一月を以て生る、先代宇七君の養子なり、

現時三池銀行、池端銀行各取締役たり、夫人ツヤ子は福岡縣士族内山田直作君の三女にして、其間に久雄君あり、久雄君は、同縣人中川松太郎君の妹シヅエ子を娶りて、其間にヒサ子、信一君あり、養叔母ヤス子は福岡縣人宇野清太郎君に嫁し、同サト子は分家せり

〔現住〕福岡縣三池郡江浦村



白井大翼君

大安生命保險株式會社
専務取締役

君は千葉縣の人にして千松武雄君の令兄、入りて白井家を嗣ぐ、明治十八年二月を以て生れ學歴順を追ふて進み、大正二年東京帝國大學法科大學獨法科を

卒業し、直ちに大安生命保險株式會社の創立を計劃し、之が設立成るや自ら取締役として専ら經營の任に當り大に機才を發揮する處あり、遂に今日の盛況を見るに到れり、同社は現在資本金壹百萬圓を以て社況益々隆盛發展し、今や斯界に好評噴々たるものあり、同社はその創立の趣旨に鑑み常に穩健着實進主義を以て經營し、從つて世間に多大の信用を得るに到り創立して日尙淺きに拘らず今日既に堅實の基礎を確立するに到れり、之君の才腕の然らしむる處に據るものにして、君は其經營に就き多大の蘊蓄を傾注し、縦横の機力を發展擴張に揮ひたる結果に外ならずと云ふべし、君亦會社の成功の爲めに、全力を盡さる、傍ら法政大學の講師として保險學の講座を擔當せらる蓋し篤學、達識と云ふべし、而も君は趣味とし短歌を能くせられ、其玉篇は主として雜誌霸王樹に發表せらる斯界の耆宿橋田東聲

君と共に新進歌人として令名あり、家族は養母ヨシ子(明治六年二月生神奈川縣人木村利兵衛君五女)令聞ミチ子(明治二十三年十一月生先代儀兵衛君の長女)長男淳三君(大正四年三月生)次男滋君(大正八年八月生)あり

〔現住〕東京府下大井町一一七五
〔電話〕高輪二六二二

浦邊 襄夫君

實業家

君は千葉縣人菰田貞藏君の二男にして明治四年六月を以て生る、先代喜平君の養子なり、明治三十年早稻田大學政治科を卒業す、現に明治製菓株式會社社長、ホルネオ護謨株式會社常務取締役、共同生命保險株式會社専務取締役、由多加商會、土地興業、東京動産火災保險、浦邊商事、兩毛紡績各取締役、戰友共濟生命保險、東機械ナット、大德汽船、東京興業信託株式會社各監査役たり、夫人いち子は養父喜平君の長女にして其間に田

内野辰次郎君

從四位勳一等功三級衆議院議員

君は福岡縣人内野喜太郎君の弟にして明治元年八月を以て生る、同二十四年陸軍歩兵小尉に任じ大正八年陸軍中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し、後士官學校生徒隊中隊附、戸山學校教官、陸軍大學校兵學教官、近衛師團參謀長、教育總監部第一課長兼陸軍大學校兵學教官、陸軍審査部議員、歩兵第四十旅團長、第七師團長等に歷補し今日に至る、令聞路久子は千葉縣士族水口清長君の女にして其間に遊才君、松代子、功三君あり

〔現住〕門市

浦中友次郎君

實業家

君は愛媛縣人菊池宗太郎君の二男にして明治五年七月を以て

生る、先代要次郎君の養子なり
日本大學を卒業し、現時は八幡
濱銀行、第二十九銀行各監査役
伊豫鹽業株式會社専務、宇和水
電株式會社取締役たり、夫人ソ
ノエ子との間に子なく、養子尙
君あり、養父要次郎君は養母シ
ユン子を伴ひて分家せり

〔現任〕愛媛縣西宇和郡八幡濱町



宇佐美勝夫君

從三位勳二等東京府知事

君は山形の人宇佐美勝作君の
二男にして、明治二年五月十二
日を以て生る、明治二十九年七
月法科大學を卒業して直ちに内
務省に入り、同年文官高等試験
に登第し、同三十年四月徳島縣
參事官に任せらる、三十二年京

都府參事官に轉じ、翌年五月内
務書記官に進み宗教局第二課長
となる、四十年六月同省參事官
を兼任し、次いで大臣官房文書
課長を兼勤す、三十九年日露戰
役の際、功ありしにより勳五等
に叙し、瑞寶章を授けらる、四
十一年一躍富山縣知事に任じ、
次いで統監府參事官、朝鮮總督
府内務部長官、同濟生院長、同
土木局長等に歴任し、大正十年
五月東京府知事に任せられ以て
現時に至る

〔現任〕東京市芝公園東京府知事
官舎 (電話)高輪四〇九二

上野清九郎君

砂糖貿易商

凡そ文明の進歩の程度は砂糖
の消費量の多少に依りて決定せ
らると、されば歐米各文明國の
砂糖使用高は實に巨額のものに
して、又世界重用商品たるは世
人の悉知する處たり、然も如斯
世界的商品なるを以て相場の變
動も從つて多く、況して、これ

が貿易に従事するには卓越せる
頭腦と、非凡なる手腕とを有す
るに有すんば、能はざる所なり
上野清九郎君は福井縣の人なり
明治二十七年十一月を以て生る
幼にして聰明、夙に志を貿易業
に立て、研究する處あり、偶々
大正二年實兄上野清作氏、大阪
に砂糖貿易業を開始するに逢ふ
君奇貨措くべしとなし、直ちに
同店に入り令兄を助けて、業務
に精勵す、天稟の英才、忽ち此
處に現はれ、事業次第に隆盛に
趣き業績日に上る、同店が今日
の發展を見るに至りしは、清作
氏の力量、手腕に依る事勿論な
りと雖も、然も、令弟清九郎君
の如き敏腕家と、兄弟相輔けて
奮闘努力せし賜なりと云ふを得
べし君大阪にありて店務を見る
事正に八年、全く斯界の事情に
通曉し、大正九年東京に於ける
上野清作氏の出張所を繼承し、
獨力經營して、益々其手腕を揮
ひ以て今日の繁榮を見るに至れ
り、夫人との間に一子あり一家

上原豊吉君

共同精米所取締役

君は東京府人栗田茂兵衛君の
二男にして、安政元年十月を以
つて生る、先代金次郎君の養子
なり、現時共同精米株式會社の
取締役、澁澤倉庫の監査役たり
夫人ナミ子との間に三雄君外八
女あり、長女マズ子は東京府人
佐々木與一君に、二女セイ子は
三重縣土族森谷秀三郎君に、三
女ノブ子は宮崎縣人川越茂君に
四女みつ子は東京府人橋爪源吾
君に、五女愛子は神奈川縣人青
木都之輔君に、妹ヒサ子は神奈
川縣人小島米次郎君に嫁せり

〔現任〕東京市麻布區谷町五四
〔電話〕豊芝二四九

上原米太良君

日本石鹼工業株式會社取締役

君は滋賀縣人上原新兵衛君の

〔電話〕高輪一一六〇

浦山律君

セルロイドメリヤス製造業

君は長野縣人中山半太夫君の
弟にして慶應元年十一月を以て
生る先代律君の養子にして前名
を彌吉と稱せり、浦山セルロイ
ド株式會社の取締役たり、尙メ
リヤス製造業を營む、夫人たか
子との間に一哉君外三女あり、
長女秀實子は新潟縣人内藤政次
君に嫁せり

〔現任〕大阪府西成郡豊崎町南濱
二〇九 (電話)北一六六七

浦田徳太郎君

運送業

君は福岡縣人浦田熊藏君の長
男にして明治十二年九月を以て
生る、運送業を營み九州製鐵株
式會社の取締役たり、令閨リョ
ウ子との間に徳治君、ハツ子、
ハル子、クニ子、マツヨ子、マ
サヨ子、榮君、フミ子、綾子あ
り〔現任〕福岡市海岸通二ノ二

長男にして明治元年五月を以て
生る、石鹼製造業に従事す、令
閨こま子との間に四男一女あり
長男新一君は夫人すゝ子を娶り
妹ふさ子は滋賀縣人前川與三郎
君に嫁し、二男芳太郎君は同縣
人島崎のふ子の養子となり、妹
わゑ子は其夫末治郎君と共に子
を伴ひて分家せり

〔現任〕横濱市岡野町一一

〔電話〕本局一一三九

上原菊之助君

從四位勳四等 第四高等學校教授

君は岐阜縣人上原清三君の長
男にして明治四年八月を以て生
る、同三十年帝國大學文科大學
史學科を卒業し、後大學院に入
る、曩に陸軍教授たり、夫人惠
津子との間に道一君外、三男二
女あり、妹れい子は岐阜縣人細
江泰平君に、同あい子は同縣人
柿下倭六雄君に嫁せり

〔現任〕金澤市池田町三番町



上田市治郎君

日本製麻株式會社支配人

空拳、赤手、よく今日の要職
を贏ち得て、然も尙前途に幾多
の望を屬せらるゝ、天稟の才に
よるは勿論なれども亦君が努力
奮闘の結果なりと云はざるを得
ず、君は滋賀縣の人なり、明治
十一年十二月十五日、伊香郡伊
香具村大字飯浦六百六十二番地
に呱呱の聲を擧ぐ、岸田伊之助
君の第三子なり、幼にして上田
家の養嗣子となる、郷里に於て
小學の科程を終へ次で補習教育
を受け、更に、土地の儒僧旭洞
貫氏に就き漢數學を學び、大に
得る處あり、君は夙に大志を抱
き僻陬の地亦た何事をか成し得

んやと、明治二十八年十八歳の
時大津市なる近江麻糸紡織會社
に入り、製麻の技術を研究し又
製品販賣會計事務を執掌す、同
社が日本製麻株式會社と改稱せ
らるゝも尙諸般の業務を掌握し
て經營の要訣を知得したり、同
四十年同社が更に帝國製麻と改
稱せらるゝや會計課長の要位に
任せられ大正二年北海道札幌支
店長に榮轉す、然るに同社の先
輩宮内二朔氏、夙に同社が斯界
獨占の弊あを看取し新に會社創
立を畫す君は宮内氏の信任特に
深かりしかば、招きに応じ、札
幌支店長を辭し、其創立を補佐
す、大正三年二月日本製麻株式
會社の創立と共に入りて理事と
なり、經理部長に任じ、更に支
配人の職要に就く、これ一つに
君が努力の賜と云ふべし、今や
君その縦横の手腕を揮ひ、社業
益々隆盛に趣きつゝあり、夫人
みよ子は越前刀根村上山家の人
なり二男二女を有す

〔現任〕東京市芝區二本榎西町二

〔電話〕10110



上野他七郎君

中央報徳會幹事

入りては英育の事業に没頭し出で、は、救世の大業に心血を注ぐ、又偉なりと云ふべし、君は石川縣の人、明治十年四月七日、金澤市に呱呱の聲を擧ぐ、同二十四年三月同縣金澤小學校を卒業し、同二十五年四月笈を負ひて上京し、郁文館中學校に入學す、同二十九年三月更に私立國民英學會に入る、同三十年一月日刊「世界之日本」に入社し編輯の任に當りしも不幸同年十月、同社解散に相遇し、その手腕を揮ふ暇もなく退社の止むなきに至れり、翌年一月私立名

古屋英和學校の職員に任じ、傍ら同校に於て勉學する所あり、明治三十二年十月留岡幸助氏の家庭學校創立に際し、聘せられて同校に赴任、不良少年感化事業に従事す、同三十四年十月京都同志社神學校に入學し、同三十八年六月優秀の成績を以て、同校を卒業し、同年七月再び家庭學校に入り幹事に就任す、同四十年四月同校を辭し、同年六月中央報徳會に入りて同會機關雜誌「新民」の編輯に従事す、大正三年中央報徳會幹事に擧げられ、爾來今日に至る、又大正十年一月全國町村長會創立の業に參與し、同會主事を兼ね本年四月同會參事に就任す、君は讀書に趣味を有し、常に内外の書籍を耽讀し、又寫眞の術に巧にして、見る可きもの頗る多しと云ふ、令閨を百合子と云ひ長男一雄君は目下青山學院二學年生從なり

浦木清十郎君 木炭業 君は和歌山縣人木村松三郎君の弟にして慶應元年十月を以て生る、先代清十郎君の養子なり前名を安吉と稱せり、那智銀行第一化學工業株式會社の各取締役たり、夫人せき子は養父清十郎君の二女にして其間に松代子あり、養子茂芳君と松代子との間に斐子、みわ子あり

海原清平君

正六位 衆議院議員

勤務する事多年、床次氏が鐵道院總裁となるや、君 躍して其秘書官となる、誠に異數の拔擢と云ふべし、君よく秘書の重任を果し、益々床次氏の信任を得て、氏が内務大臣の時も亦その秘書官に任じ、名秘書官の名聲高し、大正九年以來衆議院議員に當選する事二回、嘗て政友會にありし時、その院內幹事たり君の敏捷は筆の名に於て知らる而も君對談極めて圓轉滑達、愛すべきものあり、夫人ヤエ子は和歌山縣の人、泰本千代吉君の長女にして、淑徳の譽れ高し、男保君、長女文子、二女玉子、二男元君及養妹アヤ子あり、頗る圓滿の家庭をなす

植竹顯二君

元上毛モスリン株式會社 機械課長

由來工場生産業の能率増減の如何は、從業者の能、不能に依

るは勿論なりと雖も亦、工場設備の如何はその生産能力に非常の影響をなすは、争ふ可らざる所なり、されば、各工場主は争ふて、工場の完備を望む、工場建設の業も亦難い哉、植竹顯二君は、よくこの難事業を處理して違漏なし、君は上州長協差の本場前橋市の人にして、明治二



生方太吉君

實業家

十二年二月を以て生る、夙に機械工學に志し、大阪高等工業學校機械科に入り、専心勉學、明治四十三年優秀の成績を以て同科を卒業し、毛斯綸紡織株式會社、安治川鐵工場の各技師に任じ、大正九年七月上毛モスリン株式會社機械課長に擧げられ、専ら工場建設の業務に従事し、多年の蘊蓄を傾注して、工場設

備の完璧を期す、君天資聰明、頭腦衆に優れ、その設計になる工場、設備、誠に見るべきもの多し、特に千葉縣東葛飾郡中山町に於ける、上毛モスリン中山工場の如きは、君が設計監督により新設せられたるものにして最新の智識と、優秀の技術とは相俟つて、理想的工場を建設し實に模範的工場とも稱するを得べく、正に關東に於て其雄を誇るに足る、大正十三年九月職を辭し今や閑地に悠々自適、研鑽に耽けりつゝあり、君未だ春秋に富む衆人至屬する所多し、令閨との間に二女を有し、家庭亦圓滿なり

上原有三君

實業家

君は新潟縣人中野平彌君の三男にして明治八年九月を以て生る、現時兩新鐵道專務、新潟水電、新潟紡績株式會社各取締役たり、夫人ハナ子との間に堅次君、セン子、フン子、フサ子、貞子、ユキ子、廉三君、悌三君、彦六郎君、虎雄君、喜八郎君あり、長女セツ子と、養子威三君との間に誠一郎君あり

上原鹿造君

辯護士

君は大分縣士族岡本英太郎君の養子にして慶應三年十二月を

宇都宮太郎君

從三位勳二等功三級軍事參事官

以て生る、實家上原家を再興す明治二十五年東京專門學校法律科を卒業し辯護士試験に合格す曩に日本辯護士協會理事、東京辯護士會副會長に推され、又衆議院議員に擧げらる、現時ホルネオ護謄株式會社の常務、京成電氣軌道、日本電化取締役、南洋護謄、萬歲生命保險、多摩鐵道株式會社各監査役に於て、又特許辨理士なり、令閨豊子は東京府士族鳩山一郎君の養姉にして其間に昇君、雛子、武夫君、勇夫君、四郎君あり、四郎君は東京府人長谷川本孝君の養子となれり

業、參謀本部出仕、大本營陸軍參謀、參謀本部第三部員、英國大使館附、參謀本部附、陸軍大學校教官、歩兵第一聯隊長、參謀本部第二部長、第七、第四各師團長、朝鮮軍司令官等に歴補し今日に至る、令閨スマ子は男爵鍋島陸郎君の令姉にして其間に徳馬君、フク子、鶴彦君、富子、峯子、虎雄君、日出子、鐵馬君あり、長女フク子は男爵村木雅美君養子雅枝君に嫁せり

〔現住〕東京市外豊多摩郡澁谷町下澁谷一四五七

宇都宮政市君

護士東京市會議員下谷區會議員
王子電氣軌道株式會社監査役

由來帝都法曹界英後の士乏しからず而も一度法廷に立てば該博の辯を以て論旨の徹底を期し市政に參與しては拮据勉克く其職責に忠實なる、宇都宮政市君の如きは稀れなり、君は愛媛縣の入宇都宮半治郎君の長子にして明治十年二月を以て生れ、



四十一年十一月家督を継ぎ戸主となる、辯護士を業とし、帝都法曹界に於いて蘊蓄才腕共に卓越し、令名噴々たるものあり、夙に市政に參與し至誠以て事に衝り、其功績又尠からず、現に東京市會議員、下谷區會議員に選ばれ、帝都復興に直面せる多忙なる市政に與り益々其政治的

機才を發揮し、愈々其盛名を博しつゝあり、君又實業界に於て敏腕あり、現時は王子電氣軌道株式會社監査役並に筑波鐵道株式會社、宇和島鐵道株式會社等の重役を兼ね、卓勵風發、法曹界、政治界、實業界と雄飛翱翔得意の地境にあり、君資性英俊にして謹直なり其職に従ふや忠實誠常己を忘るゝが如し、

上原勇作君

從二位勳一等功三級子爵
陸軍大將元帥

其今日高名ある眞に故なきにあらざるなり、萱堂ワサ子は嘉永五年一月の生にして阿部大三郎氏の令妹なり、又夫人シマ子は明治十五年九月の生にして村山仁兵衛氏の長女なり、一男あり明治三十八年十二月の生にして孝君と稱し、一家和氣霽然たり

〔現住〕東京市下谷區北稻荷町五一
〔電話〕淺草六二一四

君は宮崎縣士族龍岡棲山君の二男にして安政三年十一月を以て生る、先代尙實君の養子なり明治十二年陸軍工兵少尉に任じ大正四年陸軍大將に累進す、其間陸軍士官學校教官、參謀本部第五部長、工兵監、第七、第三各師團長、教育總監等に歴補し又陸軍大臣に親任せらる、現に元帥の稱號を賜り、元帥府に列し、尙參謀總長、鐵道會議々長たり、日露戰役の功によりて、

上田平一君

實業家

男爵に、大正十年子爵に陞せらる、令閨横子は侯爵野津鎮之助君の令妹にして其間に七之助君勇次郎君、愛子、尙子、しづ子あり、長女愛子は熊本縣人大塚惟精君に、二女尙子は大阪府人大林義雄君に嫁せり

〔現住〕東京市外大井町鹿島谷二九八
〔電話〕高輪三二四〇

君は島根縣士族原倉右衛門君の孫にして明治五年九月を以て生る、先代利右衛門君の養子なり、明治二十五年東京法學院を卒業し、現時は島根縣農工銀行常務、島根縣家庭興業株式會社の監査役たり、夫人アサ子は同縣人士族高城權八君の孫にして其間にミサホ子あり

〔現住〕松江市奥谷町

の之部



野村宗十郎君

東京築地活版製造所事務取締役
社長

君は長崎縣の人にして服部東一郎君の長子として安政四年五月を以て生る、野村金吉君に請はれ其養子となり家督を繼ぐ、幼にして英悟聰明、明治元年故本木昌造翁の設立に係る長崎新町の新街私塾に入りて學ぶ本木翁は我國の活版技術の始祖なり、君また修學の傍ら活版技術を習得せり、同五年弱冠にして大阪に到り六年大阪開成學校へ入學し、九年上京して東京大學豫備門に入學し刻苦勉勵學大に

進み出藍の譽れありしが同十一年不幸半途にして病痾に襲はれ静養累月に及び終に退學の止むなきに到る、快癒して後十二年十二月大藏省銀行局に出仕し同十九年同省主計局に轉勤す敏腕を以て省内に聞え成績頗る觀るべきものありしが、偶悟る所あり退官して二十二年六月東京築地活版所の聘に應じ其事業に従ひ、勤勉儉儉を抜き選ばれて副支配人に擧げらる、尋で支配人に進み、更に四十年故名村泰藏君の後を繼ぎ一躍専務取締役社長に推薦せられ爾來大いに同社の發展に盡力して今日に至る、同社創立當時に在りては其設備完全ならずして細微たる一小會社に過ぎざりしかば君の苦心たるや實に想像の外にして、君は百折屈せず専心一意業況の挽回に盡りし事業の進歩改良を謀りたれば累次其經營適中し擴張更

に擴張を重ねること數回に及び四十年月島に一大分工場を設立し活字の鑄造より各種の印刷及印刷機械の製造を開始し、其製品は全國に之を供給するのみならず遠く海外に輸出するの盛況を呈するに至れり、君又新開用の活字を屢々改良新成せしめ遂に今日好評を博しつゝあるポイント式活字を創始したり而して更に印刷事業の研究をなし海外より斯業の參考書を集め其發展に全勢力を傾注しつゝあり、博覽會の開催せらるゝ毎に内外を問はず其製品は常に最高の賞を受け築地活版所の名聲は斯界に於ける新者として推重せらるゝもの故なきにあらず君又東京に於て博覽會の開催のあるや屢々審査員を命ぜらる、明治三十年文部省國語調査の囑託員となり、大正四年御大禮記念章を拜受せり又大正五年二月には多年の功により特旨を以て藍綬褒章を賜はる、君資性堅忍其本業を守り一意専心之に従事し他業に

關與することなし、而も温容威ありて猛からず、能く衆を馭して名利を厭ひ着實を主となす、單に斯界に限らず實に實業界の重寶たる蓋し偶然にあらずと謂ふべし

君は種々なる趣味を有せらるるも多くは印刷の研究と旅行にあり内地は殆ど君の足跡の印せざるなく遠く支那は南方香港迄も巡遊せりと、數十年間相州海邊の別荘に閑を休養することを無上の樂しみとせらる、家族は令閨トモ子(佐賀縣士族松尾儀助三女明治六年七月生)、長男雅夫君(明治廿九年十二月生)、次男茂君(亡服部家相續者明治三十三年三月生)、三男達三君(明治四十二年八月生)、四男武夫君(亡松尾一郎相續者明治四十五年七月生)等あり

〔現住〕東京市外下澁谷五二三

乃木元智君

正五位勳六等、伯爵
後備陸軍騎兵中尉

君は山口縣長府町の人、明治十三年一月を以て生る、故子爵毛利元敏君の二男にして、子爵毛利元雄君の弟、男爵福原邦樹君の兄たり、後一家を創立して乃木氏と稱す。大正四年九月特に伯爵を授けらる、夙に陸軍に入り、騎兵中尉たり、夫人喜久子は子爵牧野忠篤君の令姪にして男爵彦君及長女淑子の二子あり

〔現住〕山口縣豊浦郡長府町

野原半三郎君

伊那細紡績株式會社取締役
飯田倉庫株式會社監査役

君は野原半三郎君の長男にして、明治九年七月を以て生る。

前名を正夫と云ひしも、父君を襲名して半三郎と稱す。夫人かと子との間に男達也君二女菊子あり。弟大輔君は其妻鋭子と共に分家し、妹イッ子は長野縣人

熊谷半七君の長男貞雄君に、同タヅ子は同池上伴吾君に嫁す。

〔現住〕長野縣下伊那郡飯田町

野呂此次郎君

青森商業銀行支配人

君は青森縣士族野呂此母君の長男にして、明治五年六月を以て生る、現に株式會社青森商業銀行の支配人たり、男辰雄君の外に長女まつ子、次女せつ子三女キミエ子四女ふじ子五女つゆ子あり、令姉多つ子は同縣人篠原善次郎君に、同たつ子は同西山正吉君に嫁し、同こと子は成田眞定君方に入家し令甥潔君は分家せり

〔現住〕青森市寺町

野呂駿三君

酒造業 濃飛農工銀行取締役

君は先代萬次郎君の養子にして、岐阜縣人菅井九三君の三男なり、慶應元年六月を以て生る前名を五郎三と稱す、曾て東美銀行頭取たり、又衆議院議員に

當選する事二回、現時濃飛農工銀行取締役、木曾興業株式會社中央製絲株式會社の監査役たり

夫人きん子との間に一男三女あり、長男を敏夫君と呼び、長女きぬ子は岐阜縣人山田正吉君に二女つね子は同縣人間李右衛門君の第四郎君に嫁す、三女を千鶴子と云ふ。

〔現住〕岐阜縣可兒郡御嵩町

〔電話〕一番

野原七雄君

多額納稅者、大垣銀行取締役

君は岐阜縣の人野原七郎君の長男にして、明治十七年十二月を以て生る。明治四十一年明治大學を卒業し、祖父の業たる農耕に従事す。大地主にして現に岐阜縣多額納稅者たり。夫人は同縣人岡崎碌郎君の二女なり。男を龍雄と云ひ、二女百合子三女富子あり

〔現住〕岐阜縣揖斐郡池田村

野原種次郎君

猪名川水力電氣株式會社取締役

君は兵庫縣の人、明治五年五月を以て生る、野原幸七君の長男にして、現時猪名川水力電氣株式會社の取締役たり、母君をじう子と云ふ、夫人むめ子は森本藤作君の妹なり、男稔君の夫人は同縣人山内新太郎君の三女たり、長女とう子は大阪の人中井文雄君に令妹みつ子は兵庫縣人宮崎大吉君に嫁す。尙愛孫博彦君あり。

〔現住〕兵庫縣川邊郡東谷村

野橋作兵衛君

縮緬商、竹橋洋行取締役

君は先代作兵衛君の養子にして、前名を源三郎と云ふ、滋賀縣人岸本權三郎君の二男にして慶應二年九月を以て生る、先代の業をつぎ縮緬商を營む、現に竹橋洋行、東洋ラミー織布株式會社、峰山組運送店の各取締役たり、夫人は養父作兵衛君の長

女にして、フチ子と云ふ、長男

を作太郎君と云ひ、大阪市浦野濱夫君の長女ユキ子を妻とす、長女クリ子は京都府人高田久五郎君に嫁す、家族は尙四男宗治郎君、五男徳三郎君、孫トミ子同輝三君、同靖二郎君、同喜三郎君あり

〔現住〕京都市上京區兩替町三條北入ル

〔電話〕長中三四〇〇番

野上菊太郎君

工學士、野上工業所長

君は大分縣人野上翠造君の二男にして、明治八年九月を以て生る、明治三十六年東京帝國大學工學科大學電氣學科を卒業し工學士たり、卒業後宇都宮電燈株式會社技師長、住友別子鑛業所電氣係長、大阪才賀電機商會技師部長を歴任す、大正三年電氣事業視察の爲め歐米を巡遊し大正四年歸朝するや自ら野上工業所を創立し、専ら水火力電氣機械器具の販賣、電氣土木建築設計請負に従事す、夫人加代子と

の間に男秋太郎君、清二郎君、陽三郎君、長女フチ子あり

〔現住〕大阪市東區北濱町三ノ四七

〔電話〕本二〇〇九番三一四〇番七〇九番

野田龍三郎君

諫早銀行頭取

君は明治卅四年早稻田大學政治科を卒業す、現時諫早銀行頭取、長崎縣農工銀行取締役たり、長崎縣人野田六助君の長男にして、明治九年十二月を以て生る、母君チヲ子は長崎縣士族中山甚平君の三女にして、夫人タカ子は同縣士族橋本重幸君の令妹なり、令姉キヨ子は長崎縣士族中村長八郎君に、令妹ヒデ子は同七島壽一君に、同リキ子は佐賀縣士族原龍橋君に嫁す、

〔現住〕長崎縣北高來郡小野村

野々村金五郎君

川崎銀行常務取締役、
龜町銀行取締役

君は明治二年五月十六日豊後

國梓築に生る、野々村正忠君の三男なり、十二歳にして其叔父なる當時若手縣知事島惟精氏に伴はれ盛岡に到り、同地中學校に學び、業了へて東京に出で、東京英語學校を卒業せり、後偶叔父の死に會し、其れより君は實業界に出で世路の艱難に遇し自ら生活の爲めに苦闘せざるべからざる境遇に陥りぬ、而も君は志遠大にして氣力亦不撓、入りて朝野新聞、中央新聞の記者となり操觚界に活動し、傍ら精勵獨學に餘念なかりしが、偶井上侯山縣公等の知る處となり井上侯の推薦に依りて朝鮮學部顧問官に任じ、渡韓して同國師範學校及小學校の基礎を築き其他教科書を編纂する等同國教育の爲めに蘊蓄を傾け貢獻する處頗る大なりき時に君年僅かに二十有六歳なりき以て君の常備凡介の徒にあらざることを知るに足る、幾何もなくして歸朝して大阪藤田組の招聘に應じ入りて頭取藤田傳三郎氏の秘書役とな

り其機才の大なるを認められたり、曾て臺灣に往きて同組の爲に瑞芳金山創業の基礎に盡力し事終りて藤田住友共同事業なる樟腦業の状況を視察して歸阪せり、後北濱銀行の創立成るや君推されて藤田組を代表し、同行秘書役支配人となり更に同行京都支店長を兼ね、其後原敬氏の同行頭取となるや君亦支配人として同氏を補け大に其英腕を揮ひ事業發展に努力し令名を擧げたり、明治三十五年五月日本興業銀行の設立せらる、や、君總裁添田壽一博士の拔擢する所となり、轉じて同行營業主任となり精勵恪勤五ヶ年に及びたりしが同三十九年南滿洲鐵道株式會社の創立せらる、や山縣公の推輓に依り總裁後藤新平子の拔擢する所となり同會社理事となり、要務専ら財政、外交の方面を擔當なし博大なる學識才腕を發揮して得意の壇場に飛躍踴躍し、其間ボーマス條約に依る長春引繼全權委員として露國の

委員ヒルコフ伯との間に圓滿なる協定を遂げ又吉林線借款契約協定委員として其任に當る大正元年の春莫斯科に開催の西比利經由萬國鐵道會議に我全權委員として出席し、其重職を全うし事終るや其機を以て遍く歐米各國を視察せるが大正二年君の不在中滿鐵總裁中村是公氏の辭任に次いで全重役の辭職せるに當り君亦歸任間もなく辭職せり、歸京後閑地にありて財政經濟社會其他一般の學究的研究に耽り居たるが、大正九年に到り株式會社川崎銀行頭取川崎八郎右衛門氏の招聘に應じ、同行の常務取締役として其任に就き兼ねて川崎家關係の一切の業務を總覽しつゝあり蓋し川崎家好材を得たりと云ふべし、現時は前記重職にある外東京銀行集會所監事、麴町銀行取締役等を兼務し傍ら十數年來開發の社長として彼の『教育時論』の紙上に罕觀椽大の筆を執らるゝは普く世人の知る所なり君人と爲り英邁に

して氣宇瀟大、而も謹嚴華實博學宏才、我實業界罕れに見る大器たり、趣味としては戶外運動に於けるテニス、ゴルフ等に嗜みあるが其多くは讀書三昧に耽けるを最も樂しむとせらる其聲望の高き蓋し偶然に非らず、夫人順子(四十八歳)は故貴族院議員秋月新太郎氏の次女にして貞淑内助の譽あり、その間に養嗣子享君(三十八歳法學士にして目下岐阜縣理事官)同妻静子(廿八歳前遞信大臣箕浦勝人氏の二女)及孫二男三女並に次男恒夫君(十七歳目下日本中學在學中あり)尙令兄日本銀行監事野々村正義君及島郁太郎君あり

〔現住〕東京市外上落合四七二
〔電話〕牛込六九五

能美輝一君

〔現住〕東京市外上落合四七二
〔電話〕牛込六九五

郷に學を修め、進んで上京し早稲田大學商科に入り、大に學識を磨き明治四十三年良成績を以て業を卒ゆ、同年大阪に到り堀田商會輸入部に入り、其手腕技術を發揮し社務に盡力する處ありしが幾何もなく同支配人に推され更に神戸カーン商會の總支配人を兼ねて輸出入一般の知識を増殖し經驗を重ねたり、感ずる所あり大正五年同社を去り、大正六年一月獨力を以て能美商會を設立し大阪及神戸に營業所を設け鐵材、機械、木材、雜穀、肥料其他雜貨一般の輸出入業を開始し大に奮闘する處ありしが君の堅實なる營業振りは急ち内外の信望を蒐め、開業後四年にして取扱年額平均千三百



萬圓に及び、從つて紐育、上海及青島に出張所を設くるに至れり、同九年財界大恐慌ありたる際、之が影響を受け倒産するもの無數なりしが、君の隆々たる事業は益々堅實を加へ聊かも之が影響を蒙ることなかりき、以て君の理財に博識なると更に機を見るに敏なることは賞するに餘りありと謂ふべきなり、前記營業所の外東京に出張所を新設せしが、最近の主要なる取扱品は木材及電氣等に關する復興材料多し、大正九年神戸に極東通商株式會社(資本金一百萬圓)を設立し自ら之が専務取締役として其の鬼才を發揮し名愈々昂れり、君資性瀟達にして穎敏、頭腦明晰にして機を見るに敏、而も終始一貫獨自を以て立つ天性の機才は隨所に顯れ、徹頭徹尾獨立自營主義を以て活躍し、其の實家たる百萬の資産家なりと雖も且一指だも之に染めたることなし、其經營振りたる常に一流會社と伍して大いに輸贏

を争ふ其膽略と識見とは斯界に比倫を見ず内地に於ては總て一流會社と折衝する處多きも主として歐米人と取引をなし、而も歐米人に遜色なき人格識見を有し嘗て米人數名を使用して日東青年の氣概を擧げたることあり、左れば君の聲名は管に本土内に限らず外人の間に賞揚されつゝあり、君尙春秋あり而も天性の俊才は壯年にして已に此の成功を收む、實に偉なりと謂ふべし、君の如き真に日本實業界の至寶と謂ふべきなり、君は趣味として劇務に携りつゝも閑あれば常に運動、音樂に親しまる家族は嚴父を首めとして母堂、令閨外三男一女あり

〔現住〕東京市麻布區本村町一四六

野中幸右衛門君

高知商業會議所議員

君は高知縣の人にして坂本恒吉君の弟にして野中家に入る、慶應元年正月を以て生る、現時

前記要職にある外土佐銀行取締役、高知製絲所專務取締役、土佐電氣鐵道株式會社、白洋汽船株式會社、土佐曹達株式會社、土佐絲織紡績株式會社取締役、日本高速度鋼株式會社監査役たり、家族は令閨松子、長男常三郎君、二男幸雄君、三男正衛君、四男幸治君あり、長女敏子は其夫轍君に従ひ分家し、二女伊久子は高知縣人坂本松之助君の死跡を相續せり

〔現住〕高知市本町筋

野田忠廣君

〔現住〕高知市本町筋

君は靜岡縣人野田忠善君の長男にして慶應三年十二月を以て生る。而して明治二十四年東京帝國大學醫科大學を卒業し第四高等學校教授、痘苗製造所長、内務技師、臨時檢疫事務官、鹿兒島病院長等を歴任して現に内務技師兼農商務技師にして又醫務課長及び中央衛生會委員たり。曩に歐洲に視察の爲め差遣

せらる。勳功により従三位勳三等に叙せらる。夫人綾子は和歌山縣人小杉恒太郎君の長女にして養子忠雄君ある、東京府人若井金作君の二男たり。猶ほ令妹てつ子は靜岡縣人小泉隆一郎君に嫁せり

〔現住〕東京市四谷區仲町三ノ三

野田常吉君

合資會社野田商店代表社員

君は愛知縣人磯輪源七君の三男にして慶應二年九月を以て生る、先代かな子の養子にして代々木材商を業とせらる、君現時愛知木材株式會社及び名古屋無盡株式會社の取締役に於て又合資會社野田商店の代表社員たり、夫人あいは同縣人石川長十君の三女にして君との間に三男四女あり、長男永助君は同縣人磯村文次郎君に長女八重子は同縣人磯村けい子に各々養子となれり、猶ほ、男常助君、重藏君、女こう子、壽江子、勝子等あり

野田卯太郎君

〔現住〕名古屋市中區上堀川町一三
〔電話〕本局一〇五五

君は福岡縣人野田伊七君の長男にして嘉永六年十一月を以て生る。先代森右衛門君の養子にして夙に漢學を修め、造詣又淺からず、後實業に志して各種の事業を計畫し、貨殖の道を講ずると共に地方公共の事業に盡力し、明治三十一年第五回の總選舉に當りて福岡縣より選出せられて衆議院議員となりてより以降毎回當選して今日に至る、君又實業界に盡瘁する事頗る大にして曩きには三池土木株式會社取締役、福岡縣農工銀行取締役、九州製油株式會社取締役、東洋拓殖株式會社設立委員、同監事、同副總裁、滿洲製麻株式會社取締役等の職にありき、又先年原内閣及び高橋内閣の時に當りては遞信大臣として君の手腕を存分に發揮せられて國家に貢獻す

るところ少なからず、目下は政友會副總裁として總裁高橋是清君を助けて同會の重鎮たり、長男俊作君は法學士にして男爵古市公威君の二女静子を娶りて一家をなし、現に代議士たり猶ほ四郎太君、秀助君あり

社及び株式會社三幸商會に關係してその専務たり、君不幸にして夫人を早く失ひ、後に長男義正君及び二男武夫君、長女操子あり

君は宮城縣人野田齊治君の二男にして明治十四年五月を以て生る、代々農業を業として南郷全村に股する廣大なる田畠を有して南郷は云ふに及ばず遠田郡隨一の豪農たり、然るにも拘らず君は隣人に對するの禮頗る厚くして今藤藤樹の名ありとて隣人敬仰の的たり、夫人かつ代は同縣人齋藤慶七郎君の女にして四男二女を生む、男を讓君、基衛君直衛君と云ひ、女をたよ子といふ

十七年日露の役に際しては第四軍司令官として出征し其の功や大、功一級金鷲勳章を賜ふ、之より先明治十七年子爵に叙せられしが同三十九年天皇日露役の功を嘉して元帥の稱號を賜ひ併せて侯爵に陞さる、君は道貫君の三男にして明治十六年七月を以て生る、同三十七年陸軍砲兵少尉に任じ大正九年に至りて少佐に陞る、曩には陸軍士官學校教官たりしが目下は野砲兵第一聯隊附なり、夫人は子は東京府人末弘直方君の女にしてその間に三女ありて美智子、眞佐子、佐恵子といふ

野田啓太郎君

三幸商會専務取締役

君は三重縣人野田耕平君の長男にして慶應二年六月を以て生る、性來海上生活を好みて明治二十一年遂に東京商船學校を卒業し直ちに日本郵船會社に入り海上に生活を營む事多年遂に船長となれり、此の時に當りて君深く考ふる所あり、斷然海員生活より退きて實業界に入りて製造業を思ひ立ち自ら野田測器調正所なるものを起してその代表社員となれり、君此處に於て計器に對する興味少なからず湧きぬ、目下は大坂布谷計器株式會

野田吉兵衛君

旭貿易株式會社取締役

君は大坂府人野田吉兵衛君の長男にして明治二十四年四月を以て生れ前名を廣三郎君と稱す、大正二年に至りて神戸高等商業學校を卒業し爾後専ら製産業に興味を持ち深く研究する所あり、遂に製紙業を營みしが事業は着々と發展して遂に今日の大をなすに至れり、君又旭貿易株式會社、高雄炭礦株式會社、大神中央土地株式會社等に取締役たり、夫人喜見子は大阪府人加納由兵衛君の二女にしてその間に一男あり好太郎君といふ

野田眞一君

農業

君は宮城縣人野田齊治君の二男にして明治十四年五月を以て生る、代々農業を業として南郷全村に股する廣大なる田畠を有して南郷は云ふに及ばず遠田郡隨一の豪農たり、然るにも拘らず君は隣人に對するの禮頗る厚くして今藤藤樹の名ありとて隣人敬仰の的たり、夫人かつ代は同縣人齋藤慶七郎君の女にして四男二女を生む、男を讓君、基衛君直衛君と云ひ、女をたよ子といふ

野田眞一君

農業

君は宮城縣人野田齊治君の二男にして明治十四年五月を以て生る、代々農業を業として南郷全村に股する廣大なる田畠を有して南郷は云ふに及ばず遠田郡隨一の豪農たり、然るにも拘らず君は隣人に對するの禮頗る厚くして今藤藤樹の名ありとて隣人敬仰の的たり、夫人かつ代は同縣人齋藤慶七郎君の女にして四男二女を生む、男を讓君、基衛君直衛君と云ひ、女をたよ子といふ

野津鎮之助君

侯爵、陸軍砲兵少佐

當家は先代野津道貫君より家名順に擧る、即ち道貫君は明治五年陸軍大佐に任せられ同二十七年日清之役起るや所々に奮戦して偉功を立て同二十八年遂に陸軍大將に昇任し次いで同三

野中 清君

朝鮮銀行總裁

君は福岡縣人野中勝良君の二男にして明治五年八月を以て生る、明治三十一年東京帝國大學法科大學を卒業してより専ら官界に志し同年高等文官試験に及

第し爾後横濱稅關事務官、稅關監視官兼稅關事務官等を歴任し一躍して大藏省參事官となり、更に書記官、神戸稅關長となり大正七年遂に專賣局長官となりしが君の志まだ半ばにも達せず。斯くて君の手腕は益々冴へ實業界に志し朝鮮銀行總裁となり今日に至る曩に和蘭、白耳義兩國へ差遣せられし事あり。夫人なみ子との間に三男三女ありて、文君、宏君、誠君及び治子、和子といふ

人うら子は埼玉縣人原照胤君の二女にして一男あり徹也君といふ。養子英昭君ありその夫人紀伊子との間に二男ありて隆一君及び英二君といふ

〔現住〕大坂市北區堂島濱通二ノ一四

大學法科大學英法科を卒業し同三十四年に至り、郵便事業研究の爲め瑞西國に留學を命せられたり。歸朝後は専ら郵便關係部内を廻り、宇都宮郵便局長を初めとし熊本、廣島等の郵便局長に歴任せらる、之より官界を退きて専ら實業界に入り現に東洋木材防腐株式會社に専務として、阪神土地信託株式會社に取締役として又阪神電氣鐵道株式會社には監查役として其の怪腕を振ひつゝあり。夫人こと子は北海道人鎌田政明君の令妹にして君との間に三男あり、長君を勝君、二男を巖君、三男を勇君といふ

野村 一郎君

實業家

君は山口縣人野村致知君の長男にして明治元年十一月を以て生る。同二十八年に至り東京帝國大學工科大学を卒業し直ちに官界に入りて臺灣總督府技師、同臨時工部技師、同土木部營繕課長等を歴任せしが深く顧みて實業界にその進路を見出し斷然官界を退きて目下はヤマトプロック建材株式會社取締役、本溪湖信託株式會社取締役、株式會社守隨製作所各取締役、日本水道鑿井株式會社監查役たり。夫人フサコは山口縣人谷恭介君の長女にしてその間に二男四女あり男を宏君、次郎君と云ひ女を茂子、多嘉子及び美根子といふ

野村徳七君

大坂株式取引所仲買人

君は大坂府人野村淨功君の長男にして明治十一年八月を以て生る。前名を信之助と稱し大坂府多額納稅者にして大坂株式取引所仲買人の筆頭たり。又大坂野村銀行の取締役に任じ福島紡績株式會社、大阪運河株式會社、泉尾土地株式會社等の取締役たり猶ほ日華紡績株式會社の監查役たり。夫人きく子は大阪府人山田治兵衛君の令妹にして君との間に二男あり、義太郎君及び節雄君といふ

野村理三郎君

兵庫縣武庫郡西宮町

君は青森縣人野村長松君の長男にして明治元年十月を以て生る。先代理三郎君の養嗣子にして前名を理藏と稱す。目下大湊

野中廣助君

羽生銀行頭取

君は埼玉縣人野中平助君の令弟にして慶應三年三月を以て生る。現時株式會社羽生銀行の頭取として今日の基礎を作り、埼玉縣製紙株式會社には取締役として専ら製紙業の發達を計り、荒谷製絲株式會社及北武鐵道株式會社には夫々監查役たり。夫

〔現住〕東京府下中澁谷七七七
〔電話〕青山一〇〇四

野村 徳君

東洋木材防腐株式會社専務取締役

君は鹿兒島縣人野村傳左衛門君の三男にして明治三年十一月を以て生る。同二十八年に帝國

野村理三郎君

大湊興業株式會社監查役

君は青森縣人野村長松君の長男にして明治元年十月を以て生る。先代理三郎君の養嗣子にして前名を理藏と稱す。目下大湊

興業株式會社及び大湊電燈株式會社の監査役たり。夫人ふものは養父三郎君の長女にしてその間に一男三女あり、長男を凌作君と云ひ、長女を貞子といふ三女かね子は廣島縣人三上瀧藏君長男英雄君に、令妹ふちるは東京府人熊澤繁次郎君長男甫三君に嫁せり

〔現任〕青森縣下北郡大湊村

野村理兵衛君

野村銀行代表社員

君は富山縣人野村衛君の長男にして安政二年二月を以て生る。目下株式會社磯波銀行の取締役にして又合名會社野村銀行の代表社員たり。夫人をよか子と云ひ富山縣人八谷五良兵衛君の長女なり、而して三男淳君は其の夫人秋子と共に分家し、六男圭介君は富山縣人松野外五郎君の二女みゆきを娶れり。長女みよ子は同縣人谷口豊平君養子理作君に、二女きくいは同縣人荒木又平君養弟友吉君に、三女

房子は同縣人松野辰治君に夫々嫁せり

〔現任〕富山縣東礪波郡城端町

野村治三郎君

野村銀行頭取、衆議院議員

君は青森縣人野村吉次郎君の長男にして明治十年十月を以て生れ、前名を常太郎と稱す。大正四年以來衆議院議員に當選する事三回にして縣下有数の素卦家として牧畜業に非常なる興味を感じ目下競馬場迄も自ら起してその獎勵に奔走しつゝあり。目下株式會社上北銀行及び合資會社野村銀行の夫々頭取にして又株式會社青森縣農工銀行、同五戸銀行、野邊地電氣株式會社等の取締役たり。君に四男、二女ありて長男を市三郎君、二男を勉四郎君、三男を用五郎君、四男を誠陸君と云ひ、長女をてつ子、二女をさだ子といふ

〔現任〕青森縣上北郡野邊地町

子は同縣人野村桂之助君の養子となれり

〔現任〕茨城縣新治郡土浦村

野村喜六君

衆議院議員、辯護士

君は富山縣人野村政次郎君の令弟にして明治六年八月を以て越中國婦負郡鶴坂村に生る。前名を安次郎と稱し中央大學を卒業して間もなく判事に任じ、次いで辯護士となり、縣會議員、富山辯護士會長、鐵道會議々員、臨時治水調査會委員等を歴任せられる此間衆議院議員に當選する事前後五回に及ぶ。勳功により正七位勳四等に叙せらる。夫人を愛子といふ。同縣人前田則邦君の四女にして一男あり、敬六君といふ

〔現任〕富山市總曲輪

野村太助君

土浦農商銀行專務取締役

君は茨城縣人野村太三郎君の長男にして明治十一年四月を以て生る。前名を錦之助と稱し目下株式會社土浦農商銀行專務取締役たり。夫人花子は茨城縣人花塚仁兵衛君の令妹にして君との間に二男五女ありて、長男を留郎君、二男を敬次君といひ、二女をとよ子、三女をみつ子、五女をあい子といふ。長女てる

野村龍太郎君

東京地下鐵道株式會社々長
工學博士

君は岐阜縣人野村煥君の長男にして安政六年正月を以て生る。東京大學理學部土木工學科を卒業し爾後鐵道院技師、同技監、同副總裁、帝國鐵道協會副會長、南滿洲鐵道株式會社々長等を歴任せられて目下東京地下鐵道株式會社々長としてその奥儀を究めし學理を盡し傾倒して我國嚆矢の地下鐵道の布設に従事しつゝあり。勳功により正三位勳二等に叙せられ錦鷄間祇候たり。夫人龜久衛は東京府人山田元義君の長女にして君との間に二男三女ありて、長男駿吉君は神戸高等商業學校を出で現時三井物産會社紐育支店に在勤せらる、その夫人増子は東京府人松方正作君の長女たり。二男を陸雄君と云ひ、三女を美恵子といふ。美恵子は東京府人五代龍作君長男友邦君に嫁せり。

〔現任〕東京市赤坂區新坂町三五

野村洋三君

美術工藝品商

君は岐阜縣人野村兵作君の長男にして明治三年正月を以て生る。サムライ商會と稱して専ら外人を顧客とする美術工藝品商を營む。猶は横濱商業會議所議員にして大木美術合資會社の代表社員たり。夫人道子は神奈川縣人川邊儀三郎君の令妹にしてその間に一男四女ありて、男を洋一郎君と云ひ、女を富貴子、多賀子及び富美子といふ。而して父君兵作君は母堂ひろ子及令弟貫一君並びに兵夫君を伴ひ分家せらる。

〔現任〕横濱市本町一ノ二〇

野村力藏君

宇佐參宮鐵道株式會社々長

君は大分縣人村岡健藏君の二男にして明治三年八月を以て生る。即ち先代ステ子の養嗣子たり。自ら宇佐參宮鐵道株式會社

て生る。先代ミテ子の家に入る。前名を幸吉と稱し、目下大分縣多額納稅者にして株式會社共同野村銀行の頭取にして又株式會社大分縣農工銀行の取締役たり。長女ミヲ子は同縣人野村力藏君に嫁し、二女モテ子は其の夫君虎市君に従ひ子女と共に分家せらる。養子市夫君は同縣人野村力藏君の長男にして福岡縣人渡邊久次君の長女トメ子を娶れり

〔現任〕大分縣西國東郡高田町

野村久多祐君

野村合名會社代表社員

君は兵庫縣人野村又右衛門君の長男にして萬延元年九月を以て生る。目下野村合名會社代表社員たり。夫人かめ子は同縣人伊藤長平君の長女にしてその間に四男あり。長男を榮太郎君と云ひ、目下野村材木株式會社の社長にして又野村合名會社の社員たり。その夫人秀子との間に二男二女ありて、米一君、英二

〔現任〕高知縣高知市通町

野村益三君

子爵、貴族院議員

當家は舊山口藩士先代野村靖

野村禮治郎君

共同野村銀行頭取

君は大分縣人彌登百太郎君の令兄にして嘉永元年十一月を以

君より家名を揚ぐ。靖君は明治九年出仕宮内權大丞になり、爾後遞信次官、内務大臣、遞信大臣、樞密顧問官等に歴任し、明治二十年華族に列し、子爵を授けらる。君は靖君の長男にして入江貫一君の實兄として明治八年三月を以て生る。東京帝國大學農科大學農學撰科を修りて、次いで獨乙に留學する事多年、歸朝して明治三十八年和歌山縣立粉河中學校教諭に任せられ、爾後愛知縣立第五中學校、神奈川縣立第四中學校等の教諭に歴任せらる。現に教科書調査委員にして又帝國シヤンパン株式會社の取締役及び日出生生命保險株式會社の監査役たり。而して貴族院議員に當選する事前後二回にして勤功により特に正四位勳四等に叙さる。夫人を壽美子と云ひ鹿兒島縣人毛利市兵衛君の長女にして君との間に三男四女あり。長男を親共君、二男を親雄君、三男を親正君といひ、長女を寛子、四女を代枝子とい

ふ。君に姉妹ありて令姉久子は子爵本野盛一君の父君一郎君に、令妹冬子は山口縣人妻木栗造君に、同初子は豫備海軍大佐松岡靜雄君に夫々嫁せり
〔現任〕東京市赤坂區氷川町四九

野村淳治君

法學博士、帝國大學教授

君は石川縣人野村宗貞君の長男にして明治九年六月を以て生る。同三十三年に至りて東京帝國大學法科大學を卒業し、次いで大學院を卒へ間もなく高等文官試験に合格せらる。東京帝國大學法科大學助教授となり又國際法研究の爲め獨佛兩國に多年留學せらる。現に東京帝國大學教授にして勤功を嘉して特に從四位勳四等に叙せらる
〔現任〕神奈川縣鎌倉郡鎌倉町材木座

野村元五郎君

大阪野村銀行取締役社長

君は大阪府人野村徳七君の令

弟にして明治二十年十月を以て生る。大阪高等商業學校を卒業し、目下株式會社大阪野村銀行取締役社長、大東物産株式會社取締役、南洋護謨殖殖株式會社並びに株式會社野村商店監査役等たり。夫人夏子は同府人加賀正太郎君の令妹にして君との間に一男二女ありて、長男を博君と云ひ、長女を喜美子、二女を晶子といふ
〔現任〕大阪市東區上本町八ノ二
二五〔電話〕南五八三

野村素介君

貴族院議員、男爵

君は舊山口藩士有地行任君の二男にして天保十三年五月を以て生る。先代正名君の養子にして幼名を範輔と稱し鹽谷岩陰の有備館に學び後藩臺明倫館の舎長に擧げられる。明治元年山口藩參政兼公議人となり同二年山口藩權大參事に任じ、海外視察仰付られ、歸朝後、茨城縣參事、文部大丞、教部大丞、大督學、

文部大書記官、元老院大書記官、議官等に歴任し、又亞細亞大博覽會組織取調委員、第三回内國勸業博覽會審査官、第四回同會評議員等を仰付られ。現に維新史料編纂會委員にして從二位勳一等錦鷄間祇候に叙せらる。會て明治二十三年貴族院議員に勅任せられ。而して同三十三年男爵を授けらる。書を能くして素軒と號せらる。夫人スミ子は山口縣人伊藤市左衛門君の二女にして君との間に一男三女ありて長男を素一君と云ひ、正五位勳四等功五級陸軍歩兵少佐にして目下奈良聯隊區司令部々員たり。その夫人錫子との間に二男二女ありて男を晋城君、修通君と云ひ、女を真代子、修代子といふ。二女クリ子は男爵勝田二郎君の父君太郎君に、三女律子は山口縣人大河戸好一君の令弟宗治君に嫁せり
〔現任〕東京府荏原郡大崎町上大崎長者九二八二
〔電話〕高輪一七七〇

野内四郎七君

二十三銀行監査役

君は大分縣人小田董藏君の長男にして嘉永三年四月を以て生る。先代尙信君の養子なり。現時株式會社大分貯蓄銀行取締役及び株式會社二十三銀行監査役たり。夫人シス子は分縣人植木宇平君の二女にしてその間に三男三女あり。長男寛方君は同縣人南精一君の四女トミ子を娶り、その間に一男一女ありて光治良及びサワ子といふ。二男重五郎君は其の夫人マサ子と共に子女を伴ひ、三男小三郎君は其の夫人幾久子と共に夫々分家せり。然して長女ロク子は夫君恕助君に從ひ、三女ハル子は夫君諄一君に從ひ子女を携へて分家せらる。猶ほ二女ヤス子は同縣人橋本勳君に嫁せり
〔現任〕大分市大分町

野々村喜藏君

三十八銀行專務取締役

君は兵庫縣人野々村柱七君の長男にして慶應元年五月を以て生る。曩には三十八銀行取締役兼支配人たりしが目下は紅屋コークス株式會社に監査役として又株式會社三十八銀行の專務たり。夫人とく子は兵庫縣人黒田仲七君の令妹にしてその間に五男四女ありて男を吉次郎君、寅雄君、亥之二君及び五郎君といひ、女を時子、千代子及び正子といふ。二男亥之二君は兵庫縣人朝山吉之助君の養子となれり
〔現任〕姫路市西神屋町
〔電話〕三三

野々村久次郎君

無限責任野々村銀行主

君は岐阜縣人野々村佐太郎君の男にして弘化三年五月を以て生る。先代叔父佐兵衛君の養子にして現時無限責任野々村銀行主たり。岐阜縣多額納税者にし

野々村政也君

鴻池家理事

君は鳥取縣人野々村伊一郎君の長男にして安政二年六月を以て生る。明治十一年に大阪師範學校を卒業し爾後滋賀兵庫各縣師範學校教諭、日本銀行検査役、同株式局長等を歴任し今は鴻池家の理事にして又株式會社鴻池銀行の常任監査役たり。夫

野々山喜右衛門君

第八十五銀行監査役

君は埼玉縣人野々山喜兵衛君の長男にして慶應元年六月を以て生る。現時株式會社第八十五銀行監査役、關東製藥株式會社武藏水電株式會社、武藏製粉株式會社各取締役、日本美術株式會社監査役たり。夫人さと子は東京府人加藤長三郎君の二女にしてその間に一男ありて喜一郎君といふ。その夫人喜代子は埼玉縣人中里治君の令孫にしてそ

の間に二女あり、富美子及び君
子といふ。猶ほ養子利義君あり
茨城縣人中山嘉傳次君の二男に
してその夫人を嘉江といふ
〔現任〕埼玉縣入間郡川越町

野口小吉君

北ノ王金山株式會社監査役

君は北海道人野口徳三郎君の
長男にして慶應三年十月を以て
生る。現時北海木材株式會社、
北海水力電氣株式會社、共成株
式會社各取締役、北ノ王金山株
式會社監査役たり。夫人テル子
は北海道人春藤末藏君の長女に
してその間に七男七女ありて、
男を小治郎君、誠吉君、源太郎
君、小太郎君、勉君、徳雄君と
云ひ、女を京子及び嘉代子とい
ふ

〔現任〕小樽區奥澤町

〔電話〕一〇八八

野口保次君

大日本特許肥料株式會社常務取締役

君は千葉縣人野口良二君の三

男にして明治十五年八月を以て
生る。和佛法律學校を卒業し會
て東京府農工銀行秘書役兼庶務
課長たりしが今は大日本特許肥
料株式會社常務及び株式會社巴
工業所取締役たり。夫人よし子
は千葉縣人小出重次郎君の長女
にしてその間に一女ありて惠美
子といふ。猶ほ君に甥東馬君及
び貫之君あり、令兄良明君は其
の夫人とく子及びその子女を伴
ひ分家し姪とみ子は千葉縣人丸
龜吉二君二男竹次郎君に、同三
重子は同縣人江澤義夫君に夫々
嫁せり

〔現任〕東京市麻布區霞町五

秋田製紙株式會社監査役

野口銀平君

君は秋田縣人野口銀平君の長

男にして慶應元年八月を以て
生る。前名を熊吉と稱し船舶業
を營み又株式會社秋田銀行及
び野口汽船株式會社取締役並び
に秋田製紙株式會社監査役た
り。夫人をハツ子といひ秋田縣

野口雄三郎君

醫學博士 福岡縣立若松病院院長

君は佐賀縣人野口雅雄君の三
男にして明治十四年十一月を以
て生る。而して同三十三年東京
帝國大學醫學科大學を卒業し、大
正二年醫學博士の學位を受け、
現時福岡縣立若松病院院長兼醫長
たり。夫人を千代子と云ひ、福
岡縣人大隈壯太郎君の長女にし
てその間に一男一女ありて、男
を利麿君と云ひ、女をアサヒと
いふ。猶ほ甥に隆君、雅次君あ
りて、姪にノブ子、マツ子、ハ

ル子等あり
〔現任〕福岡縣若松市山手通三丁
目
野口正吉君
羽村銀行事務取締役

君は東京府人野口藤兵衛君の

二男にして嘉永五年十一月を以
て生る。現時株式會社羽村銀行
の事務にして又株式會社五日市
銀行の取締役たり。夫人を千代
子と云ひ東京府人戸田太郎右衛
門君の二女にして君との間に五
男五女ありて、長男正壽君は東
京府人島田六助君の二女ス、子
を娶りてその間に男正博君、正
次君、正和君及び女美保子あり。
三男平治君は同府人鈴木嘉津と
結婚し、五男正雄君は分家し、
長女フク子は東京府人中村啓助
君長男伊作君に、二女トヨ子は
同府人新井由松君に、四女登美
子は神奈川縣人古谷善太郎君長
男耕作君に、五女ウメ子は東京
府人岩崎清八君長男清重君に夫
々嫁せり

〔現任〕東京市西多摩郡菅生村

野間譽雄君

農商務商品陳列館長

君は愛媛縣人野間文作君の四
男にして明治六年四月を以て生
る。同三十二年に東京帝國大學
工科大學應用化學科を卒業し、
爾後税關鑑定官、大藏省鑑定官、
特許局審査官、臨時産業調査局
技師兼軍需局技師等を歴任して
目下農商務技師兼特許局技師に
して商務局商品陳列館長たり。
君に二男五女ありて、男を秀雄
君及び幸雄君といひ、女を歳々、
穂季子、満恵子、静榮子といふ。
〔現任〕東京市本郷區眞砂町一六
〔電話〕小石川三一六一

野間口兼雄君

横須賀鎮守府司令長官 海軍大將

君は鹿兒島縣人野間口用輔君
の三男にして慶應二年二月を以
て生る。先代覺左衛門君の養子
にして明治十九年海軍兵學校を
卒業し同二十一年海軍少尉に任

野澤源次郎君

野澤組 貿易商

君は東京府人野澤卯之吉君の
長男にして元治元年五月を以て
生る。野澤組と稱して貿易商を
營み、猶ほ東洋紙布株式會社取
締役たり。夫人なか子は静岡縣

野澤俊次郎君

北海道帝國大學附屬水産專門部
教授

君は静岡縣人野澤子太郎君の
二男にして慶應元年八月を以て
生る。先代和三郎君の養子にし
て明治十八年札幌農學校を卒業
し、爾後北海道農技師、札幌農
學校教授、東北帝國大學農科大
學教授等を歴任す。明治十九年
水産漁撈科研究の爲め獨佛米等
に留學せり。現時は北海道帝國
大學附屬水産專門部教授たり
勳功により従四位勳四等に叙せ

野坂茂三郎君

中口野善銀行頭取

君は鳥取縣人野坂與八郎君の
四男にして文久三年二月を以て
生る。現時株式會社中國貯蓄銀
行頭取及び株式會社末子銀行、
山陰道電氣株式會社取締役た
り。夫人たみのは鳥取縣人村上
常三君の二女にしてその間に三
男二女ありて男を寛治君、淳藏
君及び三郎君と云ひ、女を敏子及
び嘉女子といふ。長女敏子は鳥
根縣人奥野仁兵衛君令弟政次郎
君に嫁せり
〔現任〕鳥取縣西納郡末子町

野崎伴藏君

青梅商業銀行取締役

君は東京府人野崎龜吉君の長男にして明治元年十一月を以て生る。現時株式會社青梅商業銀行の取締役に於て又株式會社多摩銀行の監査役たり。夫人キキ子は東京府人瀧島金兵衛君の三女にして君との間に三男七女ありて、男を錦十郎君、良三君及び秀男君と云ひ、女をエイ子、松子、久恵子、千枝子及び喜代子といふ。二男良三君は同府人片居木モト子の養子となれり。猶ほ君に令妹ありて、ワキ子は東京府人岡塚傳次郎君に、テイ子は同府人吉永米吉君に夫々嫁せり

〔現住〕東京市西多摩郡霞村

野崎貞義君

男爵 陸軍騎兵中尉

當家は先代正三位勳一等貞澄君より家名を揚ぐ。即ち貞澄君は明治四年陸軍大尉に任せし

爾後累進して遂に陸軍中將となり、勳功により男爵を授けられ、あり、君は即ち貞澄君の嫡孫にして明治二十六年一月を以て生る。而して同三十九年襲爵して大正六年に至りて陸軍騎兵中尉に任せらる。目下は騎兵第十八聯隊附として勤務せらる。而して家族は尙從弟直澄君、同清澄君、從妹澄子、同濱子、從弟貞春君あり、叔父善藏君は其の夫人をい子及び子を伴ひ、大叔父貞次君は其の夫人クニ子及び子を伴ひて各々分家し、猶ほ令妹八重子は鹿兒島縣人三原巖君の令弟鼎君に令姉キワ子は福島縣人芳賀榮次郎君に、再從妹梅子は福岡縣人柄木順作君長男嘉郎君に嫁し、叔父貞麿君は東京府人若井やす子の養子となれり

〔現住〕東京市四谷區西信濃町八

野崎彦左衛門君

靜岡銀行頭取

君は靜岡縣人野崎彦左衛門君の長男にして明治五年八月を以

て生る。前名を鍊造と稱す。現時靜岡商業會議所議員にして又株式會社靜岡銀行頭取並びに日本糊膠株式會社監査役たり。夫人直子、男爵九鬼隆治君の令姉にして君との間に四男五女ありて男を實君、壽君、山嶺君と云ひ、女を福子、惠子、露子、昌子、田鶴子といふ。而して令弟一君は其の夫人松子及子女と共に分家し、令妹縫江及び同ゆう子、八重子は分家して令弟一君の家籍に入り、更に令妹ゑん子は愛知縣人武山勘七君に、同よし子は靜岡縣人蛭海文平君に、同さく子は大阪府人野村利兵衛君長男利三郎君に、同徳子は靜岡縣人尾崎元次郎君に、同すゑ子は同縣人松田昌正に、同壽美子は同縣人伊藤薫君に夫々嫁せり

〔現住〕靜岡市安倍町

野溝傳一郎君

南信毎日新聞社長

君は長野縣人野溝傳君の長男

にして明治十年三月を以て生る。現時社團法人尙志社の理事にして又株式會社南信新聞社を起して自らその社長たり。大正九年衆議院議員に當選せられたり。夫人まするは長野縣人小林勘一郎君の三女にして君との間に一男四女ありて男を保君と云ひ、女を敏子、和子及び清子といふ。君に姉妹ありて、令姉は長野縣人六波羅惣徳君長男英治君に、令妹ふん子は同縣人松島庄太郎君長男謙一君に、同さい子は同縣人小川博賢君に嫁せり

〔現住〕長野縣上伊那郡東春近村

野尻岩次郎君

嵯峨村木株式會社社長

君は京都府人野尻彦七君の長男にして安政五年三月を以て生る。當家は延暦年間以來御柳使の家にして君は又漢詩に長じて廣瀬淡窓君の門下なり。酒造業を營みて又株式會社中立貯金銀行取締役に、嵯峨村木株式會社々

長たり、夫人小房は京都府人岡本金藏君の長女にして君との間に一男五女ありて男を俊藏君と云ひ、女を貞子、春枝、すき子、季雄子、秋江といふ、俊藏君は滋賀縣人新田徳丸君の長女岸乃を娶りてその間に一男上總君あり

〔現住〕京都市北桑田郡山國町

野島國次郎君

中國製鐵株式會社社長

君は廣島縣人野島庸三君の三男にして明治元年七月を以て生る、中國製鐵株式會社社長、東城製鐵株式會社及び太田川製鐵株式會社代表社員、山陽製鐵株式會社常務、山縣製鐵所(合資會社)代表社員等たり、夫人シダ子は廣島縣人伊達源吾君の長女にしてその間に一男四女ありて長男を彌太郎君と云ひ、三女をたみ子、四女をこ子といふ、長女としは岡山縣人大守卓爾君に、二女ます子は同縣人山田準君二男璋君に夫々嫁せり、

〔現住〕廣島縣山縣郡山廻村

野元綱明君

海軍中將

君は鹿兒島縣人伊集院兼吉君の三男にして安政五年二月を以て生る、先代誠藏君の家を繼ぐ而して明治十四年海軍兵學校を卒業し同十六年に至りて海軍少尉に任じ同四十四年、遂に海軍中將に昇進せらる、其の間常磐、朝日各艦長、吳海兵團長、横須賀水雷團長、吳、横須賀各豫備艦隊、第一艦隊各司令官等を歴補せられて正四位勳三等功三級に叙さる、曩に明治二十五年露國に留學せらる、夫人てい子は鹿兒島縣人林小十郎君の長女にしてその間に二男五女あり、長男綱通君は大分縣人宮村登太郎君の長女ワリ子を娶りてその間に一女文子あり、而して二男を四郎君と云ひ五女を菊枝といふ、長女ノリ子は山形縣人釜屋六郎君に、二女モト子は鹿兒島縣人今村明彦君に、三女テル子

は東京府人太田質平君に、四女マサ子は大分縣人藍原有孝君に夫々嫁せり

〔現住〕東京市入新井町不入斗一四九二

〔電話〕大森三三三

能勢士岐太郎君

日本栓工株式會社取締役

君は千葉縣人能勢嘉左衛門君の長男にして安政三年四月を以て生る、東金銀行(株式會社)及び日本栓工株式會社の取締役に於て長男鬼一君はインダメタル工場(株式會社)の取締役なり、その夫人をとき子といふ、長女ちか子は千葉縣人高石彌吉君長男芳之助君に、二女多可子は同縣人服部良太郎君に、三女とし子は同縣人石野操一郎君長男芳君に、四女雄子は同縣人飯沼喜一郎君長男喜久藏君に夫々嫁せらる

〔現住〕千葉縣山武郡東金町

納富陳平君

福岡銀行取締役

君は福岡縣人納富義雄君の二男にして明治九年十二月を以て生る、同三十六年京都帝國大學法科大學政治科を卒業し、曾て北濱銀行取締役に兼支配人たりしが、今は株式會社福岡銀行の取締役に於て又木津川土地運河株式會社の監査役たり、夫人をラツユと云ひ福岡縣人田中種光君の三女にして君との間に四男一女ありて、男を義光君、久人君及び克巳君と云ひ、女をシマ子といふ

〔現住〕大阪府泉北郡高石町

野田龜喜君

從四位男爵 貴族院議員

君は熊本縣人豁通君の二男なり、明治十三年四月を以て生る、學習院高等學科を卒業し帝國大學法科大學に學ぶ、嚴父豁通君は戊辰の役に際し函館に會戦し平定するや兵部少録に任じ、後

陸軍省に出仕し、會計局長、同庶務課長、同經理課長、陸軍監督長、同會計局長、同經理局長、陸軍監督總監等に歴補し、後功を以て華族に列し男爵を授けらる、大正二年一月父君の跡を受けて男爵を襲ひ、同七年貴族院議員に選ばれ今日に至る、現に日本毛織株式會社取締役、石城耐火煉瓦株式會社、鮫川電力株式會社の監査役たり

〔現住〕東京府北豊島郡瀧の川町田端三三八八
〔電話〕小石川五五五番

野中萬太郎君

佐賀商業會議所副會頭

君は佐賀縣の士族にして野口健藏君の令弟なり、文久八年八月を以て生る、先代萬太郎君の養子なり、現時は前記の要にある他佐賀貯蓄銀行監査役、東亞化學工業株式會社監査役たり家族は母堂シト、妻シカ、及び養子光次君あり

〔現住〕佐賀市材木町

野尻三藏君

日本化粧耐火煉瓦株式會社常務取締役

君の現在は實業家なれど其過去の閱歴は純然たる志士政客なりき、君明治二十五年に於て、故ありて帝國大學法科大學を半途に退學するや爾來政治問題に注意を拂ふことを怠らず陰に陽に時勢の推移に乘り奔走する所あり、三十三年に至り、彼の故近衛篤磨公を會長とし、國民同盟會の組織せられて對外硬を標榜し天下に呼號するや、君同會に入りて、事務主任となり樞機に參して大に力を盡す所あり、次いで朝鮮協會の組織成るに及び、島津忠亮伯、前島密男等と共に大阪に到り、同志の糾合に務め、三十六年には對露硬青年會の中樞となり政府の壓迫に屈せず飽まで開戦主義を絶叫したるが如き、常に奇骨稜々として事に當り熱誠を披瀝して國事に狂奔せり、後ち朝鮮、暹羅

く之部



百濟文輔君

從五位勳六等 東京府内務部長

君は明治十六年四月を以て山口縣厚狹郡高千帆村に生る、百濟忠敬君の二男なり、明治四十年京都帝國大學法科大學法科卒業、直ちに山梨縣屬として赴任し、警部、警視、事務官補等に歴補し、尋いで大正二年關東都督府參事官に轉任し五年の星霜を殖民地行政の爲めに盡くさる大正七年産業事務官制度の設けらるゝや君亦大阪府事務官に榮轉し戦後の好況時代に於ける大阪産業界發展の爲めに大いに其英才を發揮せらる、同九年に到

く之部

るや命せられて海外市場調査の爲め支那、南洋、印度方面に出張せらる、歸朝後間もなく三重縣警察部長に轉任し翌十年群馬縣内務部長に翌十一年愛媛縣内務部長に歴任し、十二年十月關東地方大震災後の東京府産業部長として榮轉せられ帝都再興の爲め盡力する處ありしが十三年六月更に東京府内務部長に累進せらる、蓋し之れ君の爲め最も適所なりと謂ふべし君今や得意の境にあり其該博の蘊蓄を傾け大いに敏腕を振はれつゝあり、君は常に園藝趣味を持たれ閑あれば必ず之れに親しむを唯一の樂しみとせらると云ふ、家族は父忠敬君(七十二歳)母トマ子(七十一)夫人光子(三十三)長男十一郎君(十三)長女安子(十)二男忠文君(八)二女文子(六)三女三重子四女松子等あり〔現住〕東京市芝區芝公園十八號地

等に事業を企つる所ありしが、事志と違うて轆轤不遇の間にあ

り、最近に於て、遂に身を實業界に投じ新しき運命を開拓せんとするに至り、日本化粧耐火煉瓦株式會社に入り常務取締役として其經營に任すること、なれり、君は兵庫縣の人にして、舊播州姫路藩士亡野尻直氏の次男を以つて慶應元年三月に生まれ、現時奈良女子高等師範學校長野尻精一君の實弟なり年十五にして姫路中學校を卒業し、小學校に教鞭を執りしこと三年、明治十六年中志を抱いて東京に出で大學豫備門を経、法科大學に入りしが、業半ばにして退學し、上記の如く、政治界に活動を試み、更に實業界に身を投せるなり、君の兄弟は皆群に秀で令弟嚴君は陸軍の佐官にして、令妹幸枝子は前農商務次官久米金彌君の令閨たり、而して令兄は教育界に令名隆々たる人なり

〔現住〕東京市芝區鳥森町一

九鬼隆一君

樞密顧問官 男爵

君は舊攝州三田藩士星野貞幹君の二男にして嘉永五年八月を以て生る、先代隆周君の養子にして慶應義塾に學び歐洲に留學す、歸朝後大學南校監事、文部大丞、同大書記官兼大政官大書記官、文部少輔、特命全權公使(米國駐劄)圖書頭、開龍世界大博覽會副總裁、第三、第四回各内國勸業博覽會審査總長、宮中顧問官兼皇室博物館長等を歴任せらる、而して明治二十三年貴族院議員に勅任せられ同二十九

〔現住〕東京市麴町區永田町二

九鬼千代治君

大洋公司取締役

君は和歌山縣人九鬼千代治君の養子にして明治二年十一月を以て生る、前名を寅之助と稱す現時株式會社和歌山倉庫銀行監査役、明治物産株式會社、紀陽織布株式會社、株式會社太平洋公司等の取締役、南海倉庫株式會社、和歌山足袋株式會社監査役たり、夫人をたけ子と云ひ兵庫縣人沖爲太郎君の三女なり、長男を隆一君と云ひ、四男を宗光君といふ、又二女を艶子といひ三女を隆子、四女を富子、五女を澤子といふ、二男文一君は和歌山縣人中谷しげのに、三男賢三君は同縣人越本傳松君に夫々養子となり、長女マサ子は分家せり〔現住〕和歌山市、畑屋敷松ケ枝町

九鬼隆治君

子爵

當家は内大臣藤原鎌足の後裔

九鬼大隅守嘉隆の後にして、嘉隆織田、豊臣兩氏に從ひ軍功ありて長子長門守隆徳川氏に屬し、志州鳥羽五萬六千石を食む而して守隆の三男式部少輔隆季丹波綾部一萬九千五百石に移され、後十世を経て正四位隆備に至り、明治十七年子爵を授けらる、君は即ち先代隆備君の長男にして子爵大田原一清君及び子爵九鬼隆輝君の從弟に當る、而して明治十九年六月を以て生れ同三十年に襲爵せらる、令姉直子は静岡縣人野崎彦左衛門君に、貞子は男爵到津公照君に夫々嫁し、叔父末徳君は子爵一柳家の當主にして同秀隆君は子爵建部家の當主たり

九鬼隆輝君

子爵 兵庫縣多額納稅者

當家は内大臣藤原鎌足十一代小一條左大臣師尹の後なり、後二十三世を経て嘉隆に至り、豊臣秀吉に從ひ軍功ありしが關ヶ

九鬼紋七君

大阪晒粉株式會社々長

君は三重縣人九鬼紋七君の長男にして慶應二年正月を以て生れ前名を徳三君と稱す、米穀肥料商を營み、傍ら左の諸會社に關係せられて縣下屈指の實業家たり、即ち株式會社四日市銀行及び四日市貯蓄銀行の取締役、大阪晒粉株式會社、北勢電氣株式會社、四日市鐵道株式會社等の社長、四日市倉庫株式會社、三重鐵道株式會社、ラサ島燐礦株式會社、朝鮮無煙炭株式會社九鬼産業株式會社、東海電線株式會社、日進工業株式會社等の取締役、東洋紡績株式會社、日本木工株式會社等の監査役たり長男徳三君あり、二女つね子は分家し、三女とみ子は三重縣人小津孝之助君に、四女くら子は兵庫縣人永田安吉君に夫々嫁せり

九鬼紋十郎君

四日市米穀取引所取締役

君は三重縣人九鬼紋七君の令弟にして明治二年十月を以て生れ、先代紋十郎君の養子たり、現時四日市々參事會員、四日市商業會議所常議員にして又株式會社四日市米穀取引所取締役、玉川水電株式會社監査役たり、夫人をきやう子と云ひ、同縣人小津與右衛門君の令姉にしてその間に男金平君及び女里子あり

九條良致君

男爵

君は故從一位大勳位公爵九條道孝君の五男にして、公爵九條道實君、男爵九條良政君及び男爵應司信熙君の從兄たり、明治十七年八月を以て生れ、同十四一年父道孝君の勳功に依り男爵を授けられ分家して一家を創む夫人武子は伯爵大谷照君の大

福吉町二

九條良政君

男爵

君は故從一位大勳位公爵九條道孝君の男にして、公爵九條道實君の令弟、男爵九條良政君の令兄及び男爵應司信熙君の從兄たり、明治十四年一月を以て生る、同三十五年に至りて父君道孝君の勳功特に大なりし故を以て特に華族に列し、男爵を授けらる、夫人玲子は伯爵庭田重行君の從姉にしてその間に四女ありて千代子、倭文子、壽枝子、多美子といふ

久原房之助君

久原合名株式會社々長

君は山口縣人久原庄三郎君の三男にして男爵藤田平郎君の從兄に當り明治二年六月を以て生る、同二十二年慶應義塾を卒業し森村組に入る、次いで藤田組に轉じ小坂鑛山經營の任に膺る

久保市三郎君

宇都宮起業株式會社監査役

君は埼玉縣人小澤喜代次郎君の令弟にして慶應三年七月を以て生れ先代三三郎君の養子となり、明治二十五年慶應義塾理財科を卒業し現時栃木縣多額納稅者にして株式會社栃木縣農工銀行并に株式會社下野新聞社の取締役に於て又宇都宮起業株式

久保猪之吉君

從四位勳三等 醫學博士 九州帝國大學教授

君は舊二本松藩士久保常保君の長男にして明治七年十二月を以て生る、同三十三年東京帝國大學醫科大學を卒業し次いで大學醫院に入る、爾來京都帝國大學醫科大學教授、九州帝國大學醫科大學教授等を歴任し、現時は從四位勳三等、高等官一等九州帝國大學教授として學識深遠博大名聲噴々たり、曾て耳鼻咽喉科研究の爲め獨逸兩國に留學せられ又第十七回萬國醫學界開催に際し渡英せられたり、大正三年に至り獨逸國柏林咽喉科學會より「フォルンス、ボンデー

久保勇君

大日本農具株式會社々長

君は東京府人久保之昌君の長男にして侯爵松方正義君の甥なり、慶應三年三月を以て生れ明治二十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し間もなく日本銀行に入りて、歐米視察を命ぜらる、歸朝後明治二十九年大隈内閣成立するや總理大臣秘書官となり、後自ら東海生命相互保險會社を創立して専務取締役に推さる、現時は羊毛製製株式會社及び大日本農具株式會社を創立せられて自らその社長となり傍ら日本水電株式會社、唐津炭礦株式會社及東京ワセリ株式會社等の監査役たり、夫人ハツ子は長崎縣人柳谷謙太郎

君の長女にして君との間に長女美代子あり、君に又弟妹ありて令弟熊彦君及び正助君は夫々分家せられ、令妹松子は海軍少將中島資明君に、同養子は東京府人井上正進君令弟銳雄君に夫々嫁せり〔現住〕東京市赤坂區青山高樹町一二

久保兵太郎君

十勝産業株式會社監査役

君は徳島縣人久保源藏君の令兄にして元治元年四月を以て生る、専修學校經濟科を専攻せられて鐵道屬、遞信省鐵道書記等に歷任せらる、煉瓦製造販賣業を營み、傍ら札幌商業會議所副會頭にして札幌軌道株式會社登別溫泉軌道株式會社、札幌工作株式會社、北海道製鋼株式會社及大正商事株式會社の夫々取締役にして又十勝産業株式會社の監査役たり、夫人絹子は福岡縣人中島武君の令妹にして君との間に五男二女ありて長男哲吾は北海道人田中昌藏君の令孫千

久保良澄君

第七高等學校造士館教授

君は佐賀縣人源法雲君の長男にして明治九年二月を以て生る舊姓を源と稱す、明治三十五年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し、現に第七高等學校造士館教授にして勳功により正四位勳四等、高等官三等に叙され勅任待遇たり、夫人知子は佐賀縣人晴氣市三郎君の令妹にして君との間に三男一女ありて、長男を澄雄君、二男を道雄君、三男を正雄君と云ひ、長女を和子といふ〔現住〕鹿兒島市長田町二七

久保九兵衛君

福井紡織株式會社取締役

君は福井縣人齋藤清兵衛君の三男にして嘉永五年三月を以て生る、先代九衛君の養子たり、福井縣多額納稅者にして株式會社福井縣農工銀行及び福井紡織株式會社の取締役たり、君に三男二女ありて長男寅君は福井縣人武田眞孝君の長女敷子を娶り二女りう子は同縣人伊吹長兵衛君に嫁せり、猶ほ二男明君及び三男閑君あり〔現住〕福井縣丹生郡三方村

久保熊彦君

鹿兒島軌道株式會社專務取締役

君は東京府人久保勇君の令弟にして、同正助君の令兄たり、明治七年九月を以て生れ、現時鹿兒島軌道株式會社の專務を初めとし、日本水電株式會社には代表社員として日本農産工業株式會社及び株式會社鹿兒島鐵工所には監査役たり、夫人濱子は

石川彌三郎君の六女たり

〔現住〕鹿兒島市荒田町

久保彦助君

函館銀行頭取

君は石川縣人久保彦助君の長男にして、元治元年九月を以て生れ、實業家平出喜三郎君の令兄なり、前名を久作と呼び小餅屋と稱して酒雜貨商を營む、又株式會社函館銀行の頭取にして株式會社千代盛商會の取締役に、夫人美幾子は石川縣人増谷平七君の長女なり、令妹くに子は同縣人泉藤藏君に、同つね子は同縣人酒谷長一郎君養弟長作君に夫々嫁し、同あさ子は分家せり〔現住〕函館市西濱町〔電話〕三三六

久保正助君

神戸瓦斯株式會社專務取締役

君は東京府人久保勇君及同熊彦君の令弟にして明治十二年二月を以て生る、同三十三年に至りて東京高等商業學校を卒業し

現時神戸瓦斯株式會社專務、尼ヶ崎瓦斯株式會社取締役、嵐山電車軌道株式會社、日本染料製造株式會社、北海炭業株式會社等の監査役たり、夫人雪子は大阪府人阿部金次郎君の令妹にして君との間に四男二女ありて、男を正一君、米次郎君、龍雄君、昌平君と云ひ、女を爲子及び孝子といふ〔現住〕神戸市西山平通七ノ一〇〔電話〕本局三〇五三

久保田豊吉君

矢上銀行常務取締役

君は島根縣人久保田權兵衛君の長男にして嘉永五年十一月を以て生る、現時株式會社矢上銀行の常務を初めとし株式會社濱田商業銀行に取締役、濱田電氣株式會社及び山陰道産業株式會社監査役たり、長女セイ子の夫人を仁七君と云ひ、その間に四男六女ありて、男を俊朗君、祿示君、來介君、縉吉君といひ、女を佐登子、弘子、豊子といふ而して仁七君の三女春江は廣島

縣人齋藤鶴五郎君の養子となり令妹ヒナ子は夫君英太郎君と共に分家せらる〔現住〕島根縣那賀郡和田村

久保田鼎君

京都 奈良各帝室博物館長

君は舊豊前中津藩士久保田安兵衛君の長男にして安政二年三月を以て生る、文部權小録より東京職工學校幹事、東京帝室博物館主事、東京美術學校幹事兼臨時博覽會事務長、東京美術學校教授、同校長心得、同校長等に歷任せられ、現時は京都兼奈良各帝室博物館長として正四位勳三等、高等官三等に叙さる、夫人いと子は群馬縣人保岡己太郎君の令妹なり、養子猛夫君及び同公孝君あり、養子藤子は福岡縣人木幡泰清君長男啓藏君に嫁せり〔現住〕奈良市漢國町

久保田外治君

保全銀行頭取

君は長野縣人久保田儀左衛門

君の長男にして文久三年正月を以て生る、目下株式會社保全銀行の頭取にして又株式會社永續銀行の監査役たり、夫人きん子は長野縣人稻垣正直君の令妹にしてその間に四男六女ありて、長男美壽雄君は熊本縣人緒方終次郎君の長女登美子を娶れり、二男を次郎君と云ひ、四男を幸雄君といふ、女を百合子、福子、淺子、高子といひ、長女庸子は長野縣人和田五右衛門君長男精一君に、二女悦子は同縣人葦澤蘆雄君長男孫左衛門君に夫々嫁せり〔現住〕長野縣小縣郡豊里

久保田權四郎君

鐵工業 久保田鐵工所主

君は廣島縣人大出茂平君の令弟にして明治三年十月を以て生る、先代藤四郎君の養子たり、鐵工業を營み、久保田鐵工所と稱す、又關西製鐵株式會社取締役たり、夫人きみ子は大阪府人金田次郎吉君の二男にして君との間に二男五女ありて、長男靜



久保田政周君

東洋拓殖株式會社總裁

官界の英才、實業界の敏腕家隨所に其多能を示して多々益々辯するの概あるものは君に非ずや、蓋し當代稀有の人物なり、君は北海道の人久保田政舉君の長男にして明治四年五月二日を以て東京市下谷區竹町に生る、同二十七年十一月家督を相續せり、幼より學業に志し暇めて才幹自ら群を抜く、尙かに期する

所あり、北溟を去つて一飛東京に出で精勵怠らず學業大に進み乃ち明治二十五年東京帝國大學法科に入り、同二十八年卒業して法學士の稱號を得たり、始めより官界に投じて驥足を伸さんと期待せるを以て、一度官途に就くや精勵以て其事務に當り、寸暇を以て餘念なく、吏腕大に上長に識られて進境亦著るしく各般の事務官と爲り、能吏才吏の名は到る處に籍甚す、即ち内務省を始めて岐阜縣參事官、福島縣警部長、静岡縣警部長、山口縣警部長、高知縣書記官、内務書記官等に歴任し、更らに累進して栃木縣知事に任せられ鋭意縣治に力めて治績甚だ舉り良二千石の稱を專にし縣民悉く悅服す、三十九年南滿洲鐵道株式會社の創立するや、總裁後藤新平子に拔擢せられて在官の儘同社理事に擧げられ、其事業經營の樞機に參與し、至難なる創業の事務に當り總裁を佐けて能く其快腕を揮ひ企畫する所頗る

多く周密なる思慮は同社永遠の策凡て遺算なく主として地方行政の事務を掌り市街經營に、學校に病院に各種附屬事業を起して沿線に於ける日支兩民の利便を計り、大に同社の發展に力めて成績逐年好果を示し、或は關東都府警察事務の囑託を受け租借地並に鐵道沿線各地保安の實を擧ぐる等君が對策尤も見るべきものあり、同社の柱礎として重きを全滿洲に成し聲望隆々たるものありき、然るに中央政界の政變は巫峽の雲雨と一般、其旦夕を測るべからずして、昨は園侯台閣に立ち、今は桂公夫れに代るに及むで其都度官僚の東依西托する者、頻々たるに拘らず、幸に君は波瀾の震撼を免かれ理事として奮闘せしが明治四十一年歐米諸國を漫遊して四十二年歸朝す四十五年職を辭したるが幾許もなく再び官界に立ち三重縣知事となり尋で内務省に入り土木局長の要職に就き鐵道院理事を兼ね専ら其任に盡し

陸井幸平君

東京株式取引所一般取引員
坂井屋株式會社代表取締役

つゝありたるが、後更に轉じて東京府知事たるに至れり、官魂吏腕、共に群を抽んづるものあるに非んば、豈猝かに這般の運命に接觸するを得べけんや、大正三年第二次大隈内閣の成立するや内務大臣大浦兼武を佐けて次官となり、大に功績を顯したる後冠を掛けて野に下り閑地に就かんとせしが偶々横濱市長に推舉され其任に就き治績大に擧り名市長の名を擅にしたり、後始らく閑地にありて自適する處ありたるが大正十三年十一月宮尾舜治氏の後を承け東洋殖産株式會社總裁に就き今や再び巨腕を揮はれつゝあり又偉なりと謂ふべし夫人フジ子は山口縣士族高山則通氏の二女お茶水高等女學校の出身なり又令姉咲子は學界に噴々たる男爵濱尾新氏、同しん子は工學博士會根達藏氏同なかりは東京府士族工學博士長谷川芳之助氏の各夫人なり

君は愛知縣の人にして明治十四年十二月二十三日を以て知多郡小鈴谷村坂井に生る、童時既に秀雋にして郷黨の間に注目せらる、夙に郷校に學を修め、後上京して東京高等商業學校に入り、研學孜孜没頭せしが同三十七年四月好成绩を以て卒業し尋で専攻科に入り更に大に研鑽を積み同三十九年四月を以て卒業し、商學士の稱號を受けたる、翌四十年に至り合資會社陸井商店の業務擔當社員となり、専ら米穀肥料の直輸入並に雜貨の直輸出業に従ひ、其蘊蓄を傾け敏腕を揮ひたるが、大正五年株式會社に投じ有價證券現物専門の賣買業を開始し縦横の奇才を發揮して、斯界の虚實に活躍し、爾來一戦を経る毎に手腕益々敏活を加ふ、次で同八年坂井屋株式會社を創業して代表取締役とな

倉知誠夫君

越後服店事務取締役

り、同十年三月東京株式取引所一般取引員となり、勇往邁進、電光影裏變幻の妙を極め、益々業況隆盛を極むるに至る、君資性伶俐にして頭腦極めて明晰、數理に明、宜なり怒濤を駛らす輪贏界に於て常に進一進、社礎を鞏め、信望を高むるもの豈偶然ならず、株界將來の重鎮たる當に吾人のみの期待に非ず、趣味を問はず、「一に商賣、二に商賣」と云ふ商賣道樂の名ある又故なしと云ふべし而も閑あれば讀書を好み常に新刊の經濟書を愛讀するを唯一の樂しみとせると、斯界稀なる人材と云ふべし令聞かつ子(愛知縣人夏目仲助君の長女にして三十九才)との間に長男太郎君(二十才山形高等學校在學)長女久子(十八才府立第三高等女學校在學)外二男五女あり(現住)東京市芝區白金三光町二七三(電話)高輪六九五

君は奇才縱橫、頓智湧くが如く而も精悍の氣は物に接し事に觸れて、倍々横溢、初一念を貫徹せずんば寸歩と雖も轉退せざるを見聞しては轉た敬嘆に堪へざるものあり、君は石川縣金澤の人、慶應三年三月を以て生る幼にして穎悟奇才に富む、夙に郷賢に學び慧雋を以て稱さる後上京して慶應義塾理財科に入り明治二十三年を以て同大學部を卒業するや獨立自尊の教に従ひ渡米の志を立て、策を案出し、護謨仕掛の玩具上り蝶數萬個を仕入れ之を携へて米國に航し、半解の語を振つて街頭に賣れり然るに事豫期に適ひ頗る好評を博し僅に一ヶ月にして三千弗の利益を得たり、是に於て君は雄躍直ちに桑港に馳り市外に一户を構へ、米人二名を聘し共に資本を合して竹細工の店舗を開きたるに、是亦利潤甚だ多し、遂

に單身獨立經營するを得るに至れり、斯くて君は米國に永住して商業に従事せんと期したりしが、明治二十七年父君の訃報に接し、業を擲ち、萬斛の恨を懷きて歸朝せり、後同二十八年明治火災保險株式會社に入りて京都支店長に擧げられしが、村井商會の株式組織成るや轉じて其商業部長となり大に奮闘努力村井商會の發展に寄與せるもの頗る多かりき、後煙草專賣法の實施と共に村井商會の解散を見るに當り、君は村井家を去り朝鮮に赴き倉知商會を興し英米煙草會社の一手販賣を引受けたるも自己の利益と母國の利害と衝突するの甚だしきものあるが爲め斷然此業を廢止せり、歸京後共同火災保險株式會社の計畫に參與し創立後村井氏側を代表して取締役兼支配人となれり、同社今日盛況を見るに至れるは君の功の大なるに依るものなり、同四十二年村井氏に隨つて歐米を巡視し、歸朝後同志の爲めに圖る

處甚だ多し、同四十四年同社の常務取締役となり爾來拮据經營努力せし結果今や同社は我國五大火災保險會社の一として其名聲信用を中外に馳するに至りき君又火災保險協定問題に對し、火災保險界を代表して之が立案の委員たりき、大正七年七月共同火災を去りて株式會社三越呉服店に入り其常務取締役となり現に專務取締役たり、君は往々として可ならざるなく、來店後發展に最善の努力を盡し、成績大に見るべきものありたるが昨年の大震火災の爲め同社は著大なる打撃を蒙り、三越倒るの噂巷間にありしが、君は直に復興に努力し、着々成績を擧げ世人をして呆然たらしめたり、今や同社は災前に異らざる盛況を見るに至り、帝都復興の一偉彩として好評噴々たり眞に君の英腕偉大なりと謂ふべし、君人と爲り、圓轉滑脱、而も友情に厚く正義の觀念に深く、趣味は盆栽及び陶器に先づ指を屈し、陶磁

器に於ては彩畫會の牛耳を把り又自邸にも各種の珍品を藏せり家族は夫人貞子を首めとして二男二女あり

〔現住〕東京市芝區三田綱町一
〔電話〕高輪一九八四



栗原彦三郎君

容貌體軀、共に魁偉にして一見豪傑の風あり、一度壇上に立てば呪々諤々の雄辯を揮ひ、雲を呼び風を起さしむるの概あるもの、是れを栗原彦三郎君なりとす、君は明治十二年三月を以て栃木縣に生る童時己に豪放磊落にして些事に拘泥せず、郷黨を壓するものあり、夙に大志を抱き學に篤く、郷校を卒ふるや、東上して青山學院に入りて學ぶ

研鑽、學殖大に積みて明治三十二年同校を卒業せり、後君は操觚界に投じ、東京慈善新報、新世界、東半球等の諸雜誌を發行し、椽大痛快なる筆を揮ふ、大正六年より中外新論社を創立し、雜誌中外新論を發行し、政界社會の事を論じて斯界の雄を以て高評あり、爾來經營其宜敷を得て今日の發展を見るに至る君は夙に政治家に志し、黨籍を憲政會に置き、同會院外團の團將として會内の重きに任じ天下に盛名を擧ぐ、今春の總選舉に際し郷里栃木縣下に於て逐鹿場裡に立ち、馬を陣頭に立て、南船北馬奮闘努力を試みたるが、機未だ君に至らず敗を招くに至りたるも必ずや次期の戦には卷土重來の勢を以て贏を征すべく期して疑はざる處なり、君亦事業界に於て大に其敏腕を揮ひ、既に日本輕銀株式會社、北海漁業株式會社、北日本興業株式會社を設立し、之が重役として活躍せらる、君資性豪宕磊落にし

て豪傑の風あり、而も頭腦明晰機を視るに敏なり、君の今日天下に名をなす眞に故なきに非ず又大器たるを失はざるなり、趣味として蘭樹を愛し、蘭樹を秘藏すること東洋第一なりと自認し、又蘭に對する造詣頗る深きものあり又刀劍に興味あり自ら作りて自ら鍛ふ、尤物ありと書は草雲書伯に就きて南畫を研究し、竹を描くこと最も巧なり君の趣味凡て世に高評あり家族は夫人梅子の外二女あり長女を養子と呼び次女を道子と云ふ

〔現住〕東京市赤坂區米川町二八
〔電話〕青山五八三六

久保田讓君

君は兵庫縣人久保田周輔君の長男にして弘化四年五月を以て生る、明治二年以降文部權中録同大書記官、文部大臣等に歴任し現時は樞密顧問官にして又臨時教育委員會々長たり、明治二十七年貴族院議員に勅任せられ

久保田庄左衛門君

日出土地株式會社々長

君は京都府人久保田正平君の二男にして明治二年六月を以て生る、前名を幸次郎と稱す、藥種商を營みて速効散本舖たり、又京都市會議員にして株式會社商工貯金銀行監査役、日出土地株式會社々長、京都工商株式會社監査役たり、夫人しげ子は京都府人上田勳兵衛君の令妹にして君との間に二男一女ありて、男を正君、幸次君と云ひ、女を

綾子といふ、令妹せい子は京都府人大藏重右衛門君長男重太郎君に嫁せり

〔現住〕京都市下京郡西洞院通五條下ル
〔電話〕園下六一九

久保田全君

金澤電氣瓦斯株式會社取締役

君は石川縣人久保田群右衛門君の長男にして弘化二年七月を以て生る、曾て日本製箔株式會社取締役たりしが目下は金澤電氣瓦斯株式會社取締役たり、豪農として近隣に鳴る、夫人鎮子は石川縣人桐山與太郎君の令姉にして君との間に五男一女あり長男可全君は同縣人高辻良太郎君の令妹元子を娶り君との間に全俊君、芳子、登茂子、三枝あり、二男正雄君は東京府人田崎信治君の長女文子を娶り君との間に章子及び幸子あり、三男四朗君は同縣人渡邊裕次君の養子となり、長女久尾子は同縣人山崎延吉君に嫁せり、猶ほ四男乙男君及び五男眞一君あり

〔現住〕金澤市長町一

久良知重治君

炭礦商船株式會社事務取締役

君は福岡縣人久良知政市君の長男にして明治十三年六月を以て生る、現時炭礦商船株式會社事務、九州製革株式會社代表社員、藏内礦業株式會社并に九州運炭株式會社取締役たり、長男重基君、長女治子及び養子妙子あり、令姉ゆき子は福岡縣人藏内安太郎君に、同ゆり子は熊本縣人古賀有文君に夫々嫁せり

久良知重彦君

久良知礦業株式會社代表社員

君は福岡縣人久良知利久藏君の長男にして明治十四年三月を以て生る、現時久良知礦業株式會社の代表社員を初めとし宇島窯業株式會社に取締役、日邦礦業株式會社に監査役たり、夫人房子は山口縣人山田重作君の長男にして君との間に一男五女あり

りて、男を將雄君といひ、女を富美子、久子、信子、八重子及び壽慧子といふ

〔現住〕福岡縣田川郡後藤寺町

久我金三郎君

日本亞鉛礦株式會社事務取締役

君は大阪府人久我金次郎君の長男にして明治八年十二月を以て生る、現時日本亞鉛礦株式會社事務取締役社長を初めとし、亞鉛電解礦業株式會社、四國生糸株式會社、東洋サンドペーパー株式會社、勝光山窯業株式會社取締役及び花屋敷土地株式會社并に八木造酒株式會社監査役たり、夫人可代子は岡山縣人太田梨一郎君の令姉にして君との間に男寅之助君あり、

〔現住〕大阪市南區天王寺堂ヶ芝町五六七九ノ二
〔電話〕園南三五八七

久野春之助君

下關鐵工場監査役

君は山口縣人久野勝藏君の養子にして明治十四年八月を以て生れ、現時關門汽船株式會社、下關商事株式會社、東亞電機株式會社、株式會社永興工場等の取締役に於て又株式會社下關鐵工所及び株式會社下關米取引所の監査役として活躍せらる、夫人かね子は東京府人湯淺庄吉君の長男にし君との間に六男二女ありて、長男を保君、二男を忠吉君、三男を四郎君、四男を五郎君、六男を勝文君と云ひ、長女を峰子、二女を雪子といふ

久々津米造君

小樽信託株式會社取締役

君は福井縣人久々津次郎兵衛君の長男にして安政四年十月を以て生る、海產物商を營みて又小樽商業會議所常議員として小樽信託株式會社に取締役にたり、

夫人サツ子は福井縣人酒井安兵衛君の四女にして君との間に二女ありて女子及び久子といふ、養子太壽君は北海道人渡邊三太郎君の三男にして長女女子との間に四男一女ありて、庫二君、米吉君、義郎君及び壽榮子といふ、又養子喜善君は福島縣人穴澤與次郎君の三男にして二女久子との間に二女ありて喜久子及び康子といふ〔現住〕小樽市色内町〔電話〕八二二三

久米伊豫太郎君

東洋耐火煉瓦株式會社監査役
君は埼玉縣人久米清作君の長男にして慶應二年十月を以て生る、曾て日本耐火煉瓦株式會社之日出生命保險株式會社、津田沼漁業株式會社、東京瓦斯コークス株式會社等の取締役たりしが今は日本食糧株式會社、東北興業株式會社、東海鉛管株式會社各取締役、東洋耐火煉瓦株式會社、太陽製帽株式會社各監査役たり、夫人リヤウ子は山口縣

久米民之助君

久米合名會社代表者

君は群馬縣人久米權十郎君の長男にして文久元年八月を以て生る、明治十七年工部大學を卒業し、皇居御造營事務局御用掛工部大學校教授等に歴任して大倉組に入り間もなく高砂護謄株式會社取締役となり次いで歐米各國を巡遊視察せり現時日之出生命保險株式會社、新高製氷株式會社、都電化株式會社等の取締役にして又久米合名會社代表者たり實に二重橋は君の設計築造にかゝりしものなり、又衆議院議員に當選する事前後四回な

久米桂一郎君

東京美術學校教授

君は佐賀縣人久米邦武君の長男にして慶應二年八月を以て生る、曾て巴里に遊びて繪畫を専攻せられ、歸朝後東京美術學校教授、東京高等商業學校教授等を歴任せられて目下東京美術學校に教授として教鞭を執られつつあり、夫人栗子は東京府人小野保知君の四女にしてその間に女晴子あり、猶ほ父君は文學博士久米邦武君其人なり〔現住〕東京府荏原郡大崎町上大崎六三一〔電話〕高輪二五一〇

久米田新太郎君

鹿兒島鐵業株式會社長

君は鹿兒島縣人久米田喜兵衛君の長男にして明治三年八月を以て生る、目下鹿兒島縣起業株式會社、薩摩水産株式會社、鹿兒島鐵業株式會社等の社長、鹿兒島灣内汽船株式會社専務、鹿兒島製氷株式會社、薩摩製糸株式會社、鹿兒島土地興業株式會社、日之出鋼業株式會社、大隅鐵道株式會社等の取締役たり、夫人節子は鹿兒島縣人坂元新兵衛君の長女にして君との間に六男三女ありて、男を新藏君、己代治君、徳志君及び辰己君といひ、女を光子及び秀子といふ、長女秀子は鹿兒島縣人吉田眞六君に嫁せり〔現住〕鹿兒島市沙見町

久次米定助君

農表花産商

君は大阪府人久次米定助君の長男にして明治六年七月を以て

工藤一記君

宮中顧問官

君は大分縣人飯倉九郎太君の三男にして嘉永六年七月を以て生る、先代祐壽君の養子にして學習院教授兼幹事、爵位局主事、帝室會計審査官、同局主事、宮内事務官等を歴任せられて目下宮中顧問官たり、勳功により正四位、勳三等に叙さる、夫人ラシ子は祖父工君の五女にして君との間に四男四女あり、長男不二郎君の夫人をチカ子と云ひ、二男健次郎君の夫人を水棹子といふ、四男を隼人君と云ひ、三男克己君は大分縣人飯倉常盤の養子となり、長女ナヲ子は大分縣人相倉忠越君長男良太郎君に三女満子は東京府人小倉俊良君に、四女田鶴子は福岡縣人田北義鎮君に夫々嫁せらる

工藤房次郎君

依田銀行常務取締役

君は長野縣人工藤勝助君の二男にして文久元年九月を以て生る、現時株式會社依田銀行の常務にして又九子鐵道株式會社監査役たり、夫人とよ子は長崎縣人岩崎義質君の長女にして君との間に四男一女ありて、男を直哉君、得三君及び庸助君と云ひ女を峯子といふ〔現住〕長野縣小縣郡九子村

工藤善助君

丸子鐵道株式會社長

君は長野縣人工藤傳五郎君の二男にして安政元年一月を以て生る、曾て株式會社依田銀行の頭取たりしが、目下は九子鐵道株式會社の社長を初めとし、信濃絹糸紡績株式會社、上田蠶種株式會社等の取締役に於て又信濃電氣株式會社の監査役たり、君曩に衆議院議員に選ばるゝ事二回にして勳功により勳四等に

生る、前名を定治郎と稱し明治二十六年大阪高等商業學校を卒業し現時農表花産商を營み、又株式會社阿波商業銀行取締役たり、夫人淺子は大阪府人小森香之助君の令姉にしてその間に二男四女あり、男を定一郎君定治君と云ひ女を高子、歌子、澤子及び末子といふ

〔現住〕大阪市南區鰻谷仲之町一〔電話〕南四九五

久須美秀三郎君

越後鐵道株式會社長

君は新潟縣人久須美毅堂君の長男にして嘉永三年三月を以て生る、目下株式會社長岡銀行の取締役、越後鐵道株式會社長日本石油株式會社取締役等たり夫人をケイ子と云ひ、新潟縣人澁谷權之助君の四女にして君との間に二男五女ありて、長男を東馬君と云ひ、二男賢介君は新潟縣人本間彌平治君の死跡相繼人となり、二女君子は福井縣人大館源太郎君に、三女レン子は

東京府人山田昌邦君の長男進君に、四女トミ子は東京府人長郷泰輔君二男有泰君に嫁し、五女セキ子は新潟縣人久須美功君の養子となれり〔現住〕新潟縣三島郡島田村

工藤源助君

德島蠶種株式會社取締役

君は德島縣人工藤和喜太君の二男にして安政六年九月を以て生る、前名を源介と稱し、現時德島縣多額納稅者にして德島蠶種株式會社取締役たり、夫人初子は同縣人川眞田徳三郎君の令姉にして君との間に三男あり長男を儀市郎君と云ひて一男顯太郎君あり、三男義一君はその夫人年子と共に子女を伴ひて分家し、令弟忠介君も亦その夫いと子と共に子女を携へて分家せり、而して各妹キク子は同縣人川眞田徳三郎君令弟佐馬次郎君に嫁せり〔現住〕德島縣麻植郡西尾村

叙せらる、夫人たち子は同縣人
工藤柳助君の令妹にして君との
間に三男四女あり、長男倫君は
同縣人小林製袋太郎君の令妹け
ん子を娶り、四女乃婦子は養子
信幸君の夫人となり、二女まさ
子は東京府人工藤誠一君に、三
女ふじ子は長野縣人小田切安治
郎君に夫々嫁せり、而して二男
房全君は同縣人小山久右衛門君
の養子となれり、猶ほ三男利助
君あり〔現住〕長野縣小縣郡九子
町

忽那惟次郎君

川俣絹布製練株式會社々長

君は愛媛縣人忽那次郎太君の
二男にして元治元年四月を以て
生る、絹物商を營み傍ら川俣絹
布製練株式會社々長及川俣電氣
株式會社取締役たり、夫人トヲ
子は同縣人奥田又右衛門君の令
妹にしてその間に三男二女あり
次男作平君は分家し、養子諦二
君は長女ノブ子と共に其の子を
伴ひて分家せり、猶ほ三男賢三

君及び養子貞子、小香等あり

〔現住〕横濱市眞砂町一ノ七

喰田勇八君

肥後農工銀行監査役

君は熊本縣人喰田才次郎君の
長男にして萬延元年二月を以て
生る、現時熊本商業會議所常議
員にして株式會社熊本銀行の取
締役、株式會社肥後農工銀行の
監査役、日韓殖産株式會社事務
等たり、夫人ヲトメは熊本縣人
横溝藤市君の長女にして君との
間に一男二女ありて長男を爲雄
君と云ひ、同妻アサエは熊本縣
人鈴田辰人君の令姉にしてその
間に女信子あり、長女ヤエコは
山形縣人長橋熊次郎君に嫁せり
猶ほ女比佐子あり〔現住〕熊本市
平取本町

黒岩岩太郎君

津久見鑛業株式會社々長

君は大分縣人黒岩安五郎君の
長男にして明治十三年三月を以
て生る、現時株式會社津組銀行

の監査役、津久見鑛業株式會社
々長、津久見耐火煉瓦株式會社
及び黒岩商事株式會社の取締役
大分電氣工業株式會社の監査役
たり夫人マセ子は同縣人中津留
喜代治君の長女にしてその間に
一男五女ありて、男を安雄君と
云ひ、長女を初枝、二女を千代
子、三女を美代子、四女を里子
五女を榮子といふ、君の令弟玉
五郎君はその夫人久子及子女を
伴ひ、金八君はその夫人チヅ子
を伴ひて夫々分家せり

〔現住〕大分縣北海部郡津組村

黒岩常平君

日州銀行監査役

君は宮崎縣人黒岩常次郎君の
長男にして明治八年十二月を以
て生る、現時株式會社日州銀行
の監査役、都城電氣株式會社取
締役、北諸縣郡製糸株式會社
の監査役たり、夫人キミエは同
縣人瀬戸山國太郎君の長女にし
てその間に七男二女あり、男
を常衛君、明君、勇平君、常吉

黒板勝美君

文學博士 史料編纂官兼東京
帝國大學教授

君は長崎縣人黒板要平君の長
男にして明治七年九月を以て生
る、同二十九年東京帝國大學文
科大學國史科を卒業し大學院に
入る、次いで學術研究の爲め歐
洲に留學せらる、爾來東京帝國
大學文科大學講師、同大學助教
授兼史料編纂官等に歷任せられ
現時史料編纂官兼東京帝國大學
教授にして勤功により従四位勳
四等高等官二等に叙せらる、夫
人喜代子は東京府人水野權之助
君の長女にして君との間に三男
五女ありて、男を庚一君、揆君
壬生夫君と云ひ、女を冬至子、
燈子及び康子といふ

〔現住〕東京市豊多摩郡澁谷町中
澁谷五三三

黒板傳作君

北陸鐵道株式會社々長

君は文學博士黒板勝美君の令
弟にして明治九年六月を以て生
れ電機業を營み傍ら北陸鐵道株
株式會社々長、月島機械株式會社
専務、大村灣眞珠株式會社、株
株式會社大島製鋼所、鹿町炭礦株
株式會社、株式會社黒板礦業所、
東京電氣製煉株式會社、東洋黒
鉛滿庵株式會社、東亞電機株式
會社、佐世保輕便鐵道株式會社
愛知耐火煉瓦株式會社各取締役
株式會社東京造船所、臺灣商事
株式會社、富士製鋼株式會社各
監査役たり、夫人咲子は鳥取縣
人井上皎君の令妹にして君との
間に一男二女ありて、男を俊策
君と云ひ、女を稻子及び正子と
いふ〔現住〕東京市牛込區新小川
町二ノ二

黒石辨一君

黒石商店代表社員

君は山口縣人黒石卯三郎君の
令弟にして明治十五年十一月を
以て生る、代々綿布商を營みて
又合名會社黒石商店の代表社員
東洋工業株式會社、名古屋紡績
株式會社、金物燃糸織物株式會
社等の夫々取締役たり、夫人い
と子は愛知縣人成田宗三郎君の
二女にして君との間に二男三女
あり、男を耕三君及び亮平君と
云ひ、女を重子、テル子及びた
ま子といふ〔現住〕名古屋市中區
大津町二ノ八九〔電話〕東六五〇
二

黒岡帶刀君

貴族院議員

君は舊鹿兒島藩士黒岡久直君
の長男にして嘉永四年八月を以
て生る、東京海軍操練所に於て
修學し、次いで英國及び佛國に
留學を命ぜらる、而して明治六
年に至りて海軍少尉補に任せら

れ、同三十六年海軍中將に累進
す、其の間東、清輝、龍驤、比
叡等の諸艦乗組員海軍省軍務局
海軍兵學校等に勤務、太政官權
少書記官、英國公使館附兼務、
特別御用取調掛、軍事部第五課
長、同第四課長兼第三課長兼造
船會議々員、參謀本部海軍部第
三局長、横須賀鎮守府參謀長、
筑波、浪速等の各艦長、臺灣總督
府海軍參謀長等に歷任し、西南、
日清の各戰役に從軍し、曾て威
仁親王殿下に隨行して英國へ又
伊藤特派全權大使に隨行して清
國へ差遣せられたり、而して明
治三十六年貴族院議員に勅任せ
らる、勤功により従三位勳二等
に叙さる、長男を忠雄君といふ
正七位勳六等、海軍大尉にして
その夫人市子は男爵島津忠夫君
の令妹なり、猶ほ三女富喜子及
び長女せい子ありて、せい子は
東京府人伊地知壯熊君に嫁せり
〔現住〕神奈川縣鎌倉郡鎌倉町

黒川幹太郎君

貴族院議員 男爵

當家は先代通軌君より家名を
揚ぐ、通軌君は明治六年陸軍大
佐に任せられ、同十八年中將に
進み、同二十年男爵を授けらる
君は通軌君の長男にして明治五
年七月を以て生る、同三十六年
に至りて襲爵せらる、東京帝國
大學農科大學實科を卒業し、次
いで營林技手に任じ、爾來帝室
林野管理局技手、同技師等に歷
任せられ、大正七年貴族院議員
に選ばる、夫人カツヤは香川縣
人琴陵光熙君の令妹なり、また
養子秀雄君あり、黒川迪幸君の
長男たり〔現住〕東京府豊多摩郡
大久保町西大久保四九八

黒川庄次郎君

東京土地株式會社事務取締役

君は東京府人秋田庄次郎君
長男にして安政四年六月を以て
生る、先々代の養子たり、現時
東京土地株式會社の専務、西山

石油株式會社の取締役、株式會社東京株式取引所監査役たり、長男新次君は現に東京土地株式會社の主事にしてその夫人あさ子との間に三男ありて、新君、廣二君、武君と云ふ、猶ほ男兼三郎君あり〔現住〕東京市麴町區飯田町二ノ五一

黒川新次郎君

日本郵船株式會社副社長

君は山形縣人成田正近君の三男にして明治八年七月を以て生る、亡兄陽太郎君の養子にして青山學院高等科を卒業して日本郵船會社に入り、同社外航課主事、同社參事兼神戸支店長等を歴任して現に日本郵船株式會社副社長たり、曩に講和會議隨員被仰付られ勳功により勳五等に叙さる、夫人かね子は兵庫縣人石川申一郎君の長女にしてその間に七男一女ありて、男を正雄君、信雄君、清雄君、澄雄君、博君、忠雄君及び義雄君といひ女を千賀子といふ〔現住〕神戸市

下山平通八ノ三七

黒金泰藏君

前衆議院議員

君は山形縣人黒金泰乘君の長男にして慶應三年七月を以て生る、明治二十九年東京帝國大學法科大學を卒業し、爾來警視廳警視、山口、栃木各縣警察部長北海道事務官、群馬、山口、大分各縣知事、函館市長等を歴任せられ、大正九年衆議院議員に當選せらる、勳功により正四位勳四等に叙せらる、夫人ゑん子は愛知縣人酒井強三君の令妹にして、養子厚美君に四男あり、長男を泰美君、二男を泰正君、三男を泰三君、四男を泰辰君といふ〔現住〕東京市本郷區駒込淺嘉町七〇〔電話〕小石川七八七

黒田龍吉君

佐賀醫科株式會社社長

君は佐賀縣人黒田平八君の長男にして明治四年六月を以て生る、現時佐賀醫科株式會社社長

及び株式會社佐賀米穀取引所理事たり、夫人富美子は佐賀縣人原文碩君の二女にして君との間に七男二女ありて、男を純一君、敬三君、謹四郎君、仁伍君、文雄君及び吉男君といひ、女を照子及び若子といふ、又君に弟妹ありて、令弟三治君は三菱造船所技師にして愛知縣人原田鈞太郎君長女貞子を娶りて、その間に二女あり、光子及び伸子といふ、同豊作君は三菱美唄炭坑病院婦人科部長にして令妹ちか子は東京女子高等師範學校教授たり、猶ほ令妹きよ子は同縣人牟田健治君養子郁政君に同敏子は東京府人草野正雄君の令弟直夫君に夫々嫁せり〔現住〕佐賀市松原町

黒田長和君

貴族院議員 男爵

君は從三位勳三等黒田長知君の男にして侯爵黒田長成君の令弟、子爵黒田長敬君の令兄に當る、明治十四年一月を以て生れ幼名を峰太郎と稱す、而して同二十九年に至り絶家黒田高政宗家を再興し華族に列し男爵を授けらる、學習院高等學科を卒業し、東京帝國大學法科大學にて修學し、次いで英國劍橋大學に學ぶ事數年にして明治三十二年東宮職出仕仰付らる、貴族院議員に當選する事實に二回なり、勳功により從四位勳二等に叙さる、夫人久子は子爵毛利高範君

黒田爲助君

山東實業株式會社監査役

君は愛知縣人黒田勘治君の三男にして安政六年九月を以て生る、現時伊藤綿業株式會社取締役及び山東實業株式會社監査役

黒田重兵衛君

静岡農工銀行監査役

君は静岡縣人足立清次郎君の三男にして文久二年九月を以て生る、先代重兵衛君の養嗣子にして前名を孝造といふ、現時株式會社下田銀行の取締役及び株式會社静岡農工銀行の監査役たり、夫人はち子は静岡縣人仁田大八郎君の叔母にして君との間に一男一女ありて長男敬君は同縣人緒明圭造君の長女千代子を娶りて一女八千代あり、女を道子といふ、猶ほ養子富子は静岡縣人小川基君に嫁せり

黒田英雄君

從四位勳三等主税局長 醸造試験所長

君は岡山縣人黒田一道君の長男にして明治十二年九月を以て生る、同三十八年に至り東京帝國大學法科大學を卒業し、同年高等文官試験に合格し、爾後大藏省參事官兼大藏大臣秘書官、

熊谷直道君

大倉組土木技師

君は仙臺の人にして明治九年四月を以て生る、幼時秀傳の評あり、夙に郷黨に學を修め、後上京して東京帝國大學工科大学



大藏省銀行局長等を歴任し現時主税局長兼醸造試験所長にして從四位勳三等に叙さる、夫人みさきは東京府人杉浦讓三君の長女にして君との間に四男二女ありて、男を一雄君、雄三君、妻雄君と云ひ、女を美津子及び千萬子といふ、令弟琢磨君は東京府人丹治恒二君の令姉久子を娶りて、その間に元君、不二子、瑞子等あり、〔現住〕東京市駒込區追分町二八〔電話〕小石川四八〇〇

の長女にして君との間に一男一女ありて、男を長義君といひ、女を定子といふ〔現住〕東京市赤坂區福吉町一

黒田長成君

貴族院副議長 侯爵

當家は左大臣源雅信の後裔佐々木秀義の曾孫京極近江守の後氏信の男佐渡守滿信の二男左衛門宗清の後なり、而して宗清近江國黒田に住せしを以て爾來黒田を以て姓とす、夫より數世を経て官兵衛孝高に至る、孝高材武ありて秀吉に仕へ、其の子長政亦武勇あり、後徳川氏に従ひ福岡の城主となり五十二萬石を領す、夫より十一代を経て長知君に至る、長知君は即ち七卿落の際五卿を擁護し維新の大業を開くに際し偉功ありき、朝廷即ち其の功を賞して一萬石を賜ふ實に君は長知君の長子にして慶應三年五月を以て生れ、幼名を桃次郎又は幸千代と稱す、明治十七年侯爵を授けらる、曩に英

に入り土木工學科を研究するこ
と熱誠同學に擡んで、好成绩を
挙げ明治三十三年同科を卒業し
直ちに内務省に入り技師を拜命
して、大阪淀川改修工事に従事
勤勉大いに蘊蓄を傾けて職に奉
じ同三十九年毛馬間門の設計並
に工事を完成し、大に其の英才
を現したり、同年官を辭して株
式會社大倉組に入り支那に出張
し同國漢口、九江、北京、上海等
の各地に在勤し、漢口に於ける
日本租界埋立工事並に道路下水
及び楊子江岸護岸工事、日本領
事館及び中支派遣隊の兵營の築
造、江西省に於ける南潯鐵路工
事、北京に於ける北京双橋大無
保鐵塔の諸工事を竣成したり其
間大正五年同社在籍の儘、漢治
萍煤鐵公司の招聘に應じ同公司
大冶製鐵所の土木部長に就職し
同所の水道、鐵道、器械、發電
鑄鐵等の諸工場、鑛石及石炭貯
藏品等の各種鐵筋コンクリート
構造物の設計及築造に従事し、
同七年工事完成と同時に同社を

退て、大正十二年三月歸朝し東
京本社勤務となり爾來今日に至
る、趣味として寫眞銃獵、ゴル
フ等に造詣あり、夫人との間に
一男あり〔現住〕東京市麻布區弁
町七

黒田善太郎君

材木商

君は徳島縣人黒田善太郎君の
長男にして明治二十一年四月を
以て生る、前名を三郎と稱し、早
稲田大學商科を卒業し、材木商
を營みて目下、日本グリース製
造株式會社及び關東機械ナット
株式會社の監査役たり、夫人芳
枝子は埼玉縣人渡邊湜二君の女
にして君との間に一男二女あり
て男を善秋君といひ、女を喜實
子及び壽子といふ、令妹美津子
は東京府人橋本直一君長男直正
君に、同愛子は群馬縣人生明市
太郎君に夫々嫁せり〔現住〕東京
市深川區鶴歩町一

黒柳久太郎君

岡崎自動車株式會社監査役

君は愛知縣人蜂須賀淺吉君の
令兄にして明治十三年七月を以
て生れ、黒柳なみゑの養子とな
れり、現時帝國織布株式會社、
三河製粉株式會社、帝國紡績株
式會社等の取締役に於て又岡崎
自動車株式會社の監査役たり、
養子章君は愛知縣人蜂須賀淺吉
君の甥にして又養女ちか子あり
〔現住〕岡崎市松本町

黒澤利重君

第十九銀行常務取締役

君は長野縣人黒澤鷹次郎君の
長男にして同嘉四藏君、同陸之
助君の甥に當る、明治十九年十
月を以て生る、現時株式會社第
十九銀行の常務にして又諏訪倉
庫株式會社の取締役たり、夫人
重子は長野縣人住田多造君の長
女にして君との間に一男二女あ
りて、男を浩一君といひ、女を
せつ子及びきよ子といふ、令姉

やす子はその夫君剛君との間に
五男二女を生み、男を次郎君、
米太君、三郎君、四郎君、壽雄
君と云ひ、女をくめ子、たま子
と云ふ〔現住〕長野縣南佐久郡穂
積村

黒澤陸之助君

南佐久銀行頭取

君は長野縣人黒澤利左衛門君
の四男にして同嘉四藏君の令弟
同利重君の叔に當る、文久元年
五月を以て生る、現時株式會社
南佐久銀行の頭取にして又佐久
鐵道株式會社の取締役たり、夫
人たか子は慶應三年三月の出生
にして、その間に七男三女あり
て、長男富次郎君は同縣人瀧澤
義高君の令妹茂生子を娶り、三
男午作君は分家し、長女久子は
長野縣人白田澄君に嫁せらる、
猶ほ男徳三郎君、六助君、捨松
君及び女八重子、久乃あり
〔現住〕長野縣南佐久郡穂積村

黒住成章君

衆議院議員 辯護士

君は岡 縣人黒住秀治君の長
男にして明治八年十二月を以て
生れ前名を佐平治と稱す、法政
大學を卒業し會て、司法官補た
り現時は函館區會議員、同區常
設委員、函館辯護士會長等に舉
げられ、又壽都鐵道株式會社の
監査役、日魯漁業株式會社及函
館水電株式會社の取締役に於て
株式會社函館銀行の法律顧問た
り衆議院議員に當選する事前後
二回なり、夫人仲子は北海道人
大和佐次郎君の三女にして君と
の間に一男一女あり、男を眞雄
と云ひ、女を不二子といふ
〔現住〕函館市壽町〔電話〕二九

國友 鼎君

長崎醫科大學教授 醫學博士
事務代理

君は大分縣人岩田直記君の令
弟にして明治十年一月を以て生
る、即ち先代キヌの養子なり、



工富 准君

東京市電氣局理事
運輸課長

君は東京の人、明治十四年の
出生なり、幼にして聰明、群童
と異る、長じて東京帝國大學工
科大學に入り、同三十八年拔群
の成績を以て機械科を卒業し、
直ちに鐵道技師に任じ、金澤、
新橋、甲府等の運輸事務所長に
歴補し、精勤する處あり、大正
七年、鐵道事業研究の爲め歐米
に留學し、具さに斯業を研鑽す
大正八年末目出度歸朝し、東京
鐵道局に入り運輸課長の職に就
き、その蘊蓄を傾けて、業績大
いに擧る、大正十三年九月大道
良太氏入りて東京市電氣局長と

なるや君亦拔擢せられて電氣局
理事の要職に任じ運輸課長、車
輛課長及び工場長を兼ね、從五
位勳五等勳任官たり、君は斯界
に焔博なる智識と、多大の經驗
とを有す、市民運輸交通上改善
せらるゝもの多々あらむと、衆
囑望す。

〔現住〕東京市赤坂區青山南町
五ノ二五
〔電話〕青山三一九〇

黒瀬有一君

松田汽船株式會社監査役

君は岐阜縣人黒瀬第章君の四
男にして明治十五年十月を以て
生る、現時株式會社信貴造船所
オゾン化學工業株式會社、株
式會社關西商會等の取締役にし
て又松田汽船株式會社の監査役
たり、夫人市子は栃木縣人榎山
勝次郎君の令姉にして其の間
に一男市藏君あり、而して令兄
千尋君は福岡縣人今井萬藏君の

黒須陶一郎君

栃木縣農工銀行監査役

君は栃木縣人森玄亮君の二男
にして安政二年十月を以て生る
先代雄五郎君の養子にして現時
株式會社上三川銀行の取締役及
株式會社栃木縣農工銀行の監査
役たり、夫人ちう子は養父雄五
郎君の二女にして君との間に四
男三女あり、二男泰造君は栃木
縣人伊澤龍次郎君の長女久子を
娶り、その間に一男四女あり、
男を藤介君、女を富子、信子、
絹子義子といふ、二女孝子は栃
木縣人佐山榮一君に、三女節子
は同縣人大貫茂重郎君令孫吉治
君に夫々嫁せらる、猶ほ男哲四
郎君、周作君、禎吉君等あり
〔現住〕栃木縣河内郡本郷村

明治三十三年第五高等學校醫學部卒業し、間もなく解剖學、組織學及び胎生學研究の爲め米國に留學する事數年にして、歸朝後京都帝國大學醫學科大學の助手、長崎醫學專門學校生徒監督等を歴任して現時長崎醫科大學教授大學長事務代理たり從四位勳四等高等官二等に叙さる、夫人ミト子は長崎縣人江上定次郎君の長女にして三女二男ありて男を昇君及び隆君と云ひ、女を秀子、光子及び松子といふ

〔現任〕長崎市馬町四八

國武金太郎君

國武合名會社支配人

君は久留米緋の大問屋國武喜次郎君の長男にして明治七年十月を以て生る、現時國武特許合名會社の代表社員にして又國武合名會社の支配人たり、猶ほ久留米緋同業組合長たり、夫人クマ子は福岡縣人飯田甚吉君の長女にして一女あり、菊枝といふ、養子史郎君は菊枝の夫君に

國司直行君

男爵 別格官幣社豐榮神社宮司

當家は舊山口藩主毛利侯に仕へ代々祿五千六百石を領して先代純行君に至る、君は純行君の長男にして明治十一年六月を以て生る、而して同三十三年華族に列し男爵を授けらる、現時別格官幣社豐榮神社宮司として從四位勳六等に叙せらる、夫人リコは山口縣人中島與九郎君の四女にして其の間に二女あり、長女を瓢子と云ひ、二女を都子といふ〔現任〕山口縣古敷郡上宇野合村

國重政亮君

朝鮮勸業株式會社社長

君は山口縣人國重長左衛門君の長男にして慶應元年十一月を以て生れ慶應義塾を卒業後山口縣會議員、防長銀行常務取締役等に擧げられしが目下は朝鮮勸業株式會社社長及び開城電氣株式會社、萩製紙株式會社取締役

してその間に年子及び道世あり而して令弟源作君はその夫人愛子と共に分家せらる

生る、先代圓三郎君の養子なり明治三十一年東京帝國大學理科大學醫學科を卒業し間もなく歐米に航して斯界を研究する事多年、歸朝後東京高等師範學校講師となり次いで教授となる、夫人秀野は養父圓三郎君の二女なり〔現任〕東京市小石川區大塚坂下町一一〇

國谷誠之助君

小倉製紙所取締役技師長

君は福岡縣人國谷重威君の長男にして文久元年八月を以て生る、曾て印刷局技師たりしが現時は株式會社小倉製紙所取締役技師長たり、夫人楨子は東京府人田中儀平君の長女にして養子陽太郎君あり、令弟七郎君は富山縣人船木喜平君の二女瀧子を娶りてその間に一男二女あり男を祐一君と云ひ、女を智恵子及び隆子といふ〔現任〕福岡縣企救郡宇中島小倉製紙所社宅

國枝元治君

東京高等師範學校教授 理學博士

君は東京府人國枝紋次郎君の長男にして明治六年八月を以て

國枝謹君

香里園土地建物株式會社社長

君は岐阜縣人國枝靜也君の長男にして明治七年五月を以て生る、同二十六年に至り、慶應義塾を卒業し現時株式會社大阪農工銀行常務、香里園土地建物株式會社社長、東洋造船工業株式會社取締役等たり、夫人美代子は滋賀縣人淺見又藏君の令妹にして其の間に七女ありて、君子、數子、千鶴子、田鶴子、由紀子、美佐子蘭子といふ、然して令弟博君はその夫人芳子と共に分家せらる、即ち博君は國枝工務所長にして又日下柱管株式

たり、又衆議院議員に當選する事二回なり、夫人美代子は山口縣人伊藤利三郎君の二女にして其の間 五男六女ありて、男を孝君、誠君、小五郎君と云ひ、女を靜子、淑子、末子、節子と云ふ、猶ほ二女貞子は同縣人早川法二君に嫁し、四男敬四郎君は令弟豐君の養子となれり

延枝あり、養子幹太郎君は東京地方裁判所判事にしてその夫人絢子との間に一男知孝君あり、猶ほ養子富代は長崎縣人岩永榮太郎君令弟秀三郎君に嫁せり

窪田靜太郎君

行政裁判所々長 法學博士

君は舊岡山藩士窪田善之君の長男にして慶應元年九月を以て生る、明治二十四年東京帝國大學法科大學を卒業し、爾來内務省試補、佐賀縣參事官、徳島、兵庫各縣及び内務省參事官、臨時檢疫局事務官、農商務事務官内務省衛生局長、行政裁判所評定官等を歴任せられて現時行政裁判所長たり、勳功により從三位勳一等に叙せらる、夫人金子は岡山縣人赤堀道綱君の長女にして君との間に二女政子及び

り、夫人芳子は東京府人徳川篤守君の長女にして其の間に一男二女ありて、男を綱紀君と云ひ、女を幸子、美知子といふ

朽木綱貞君

陸軍火工廠長 工學博士

當家は式部卿敦實親王の子左大臣源雅信の裔なり、世々江州朽木に住し之を姓とす、民部少輔植網慶安二年常陸土浦の城主となり寛文九年丹羽福知山に移城し封邑三萬二千石を領す、夫より十二世を経て爲綱君に至る、君は即ち爲綱君の二男にして明治八年十二月を以て生る、而して同十七年子爵を授けらる、同三十年陸軍砲兵少尉に任じ、大正十年少將に陞進す、曾て陸軍科學研究所第二課長たりしが今は從三位勳三等に叙せられ、工學博士にして陸軍火工廠長た

國澤新兵衛君

工學博士

君は高知縣人國澤四郎右衛門君の三男にして元治元年十一月を以て生る、明治二十二年帝國大學工科大學を卒業し、爾來遞信省鐵道技師、遞信技師、鐵道技師、南滿洲鐵道株式會社理事、同副總裁、同理事長等を歴任せらる、大正九年衆議院議員に當選せらる、夫人清子は分縣人野尻邦基君の二女にして其の間に三男二女ありて、男を新太郎君、滿次郎君、陸郎君と云ひ、女を富美子及び貴美子といふ、長女富美子は三重縣人日登藤夫君長男雅章君に、二女貴美子は茨城縣人近藤常明君長男常尚君に夫々嫁せり〔現任〕東京市豊多摩郡大久保百人町二七〇

栗原八郎君

西部黨業株式會社代表社員

君は長崎縣人栗原種芳君の二男にして明治二十二年二月を以て生る、現時西部黨業株式會社の代表社員を初め、株式會社長崎縣煉瓦共同販賣部及び西肥黨業株式會社の取締役、肥前煉瓦株式會社の監査役たり、夫人明子は佐賀縣人綿屋利市君の長女にして其の間に二男ありて、一郎君、得次君といふ、猶ほ令妹民子は佐賀縣人長崎助一君に嫁せり〔現任〕佐世保市港町

栗原桑吉君

東洋化學肥料株式會社社長

君は東京府人栗原布久松君の長男にして明治九年十一月を以

て生る、米穀委託買業を営み
て東京商業會議所議員たり、又
東洋化學肥料株式會社社長、日
本製菓株式會社、相生無盡株式
會社各取締役、東洋製粉株式會
社、土浦製粉株式會社各監査役
たり、夫人まさ子は静岡縣人田
中淺吉君の長女にして其の間
に六男二女あり、男を福太郎君
良作君、三吉君、正雄君、勇君
と云ひ、女を久子、米子とい
ふ〔現住〕東京市本所區綠町二ノ
三

栗原幸八君

栗原紡績合名會社業務執行社員

君は東京府人栗原イネ子の長
男にして明治九年三月を以て生
る、東京市會議員にして栗原紡
績合名會社業務執行社員、中外
紡績株式會社取締役、日本機械
株式會社監査役たり、母堂イネ
子は栃木縣人栗原和市君の長女
にして大正八年實業勉勵の故を
以て綠綬褒章を賜はる、又君は
曩に東京府多額納稅者たり、夫

人梅子は同縣人久保行作君の四
女にして君との間に一男一女あ
りて男を勝一君と云ひ、女美子
は養子實夫君の夫人たり
〔現住〕東京市本所區柳島横川町
一一

栗原實也君

尾鷲索道株式會社社長

君は三重縣人栗原信兵衛君の
長男にして嘉永六年四月を以て
生る、現時尾鷲銀行〔株式會社〕
專務、尾鷲索道株式會社社長、
尾鷲電氣株式會社取締役等たり
夫人とよ子は三重縣人土井英十
郎君の長女にして君との間に一
男二女あり、長男積君は同縣人
澤野源次郎君の令孫こと子を娶
りて長女文子あり、長女數子は
同縣人濱中昇太郎君二男見三君
に嫁し、二女たみ子は絶家川崎
家を再興せり〔現住〕三重縣北牟
婁郡尾鷲町

栗原基君

第三高等學校教授

君は宮城縣人栗原長敬君の二
男にして明治九年二月を以て生
る、同三十四年東京帝國大學文
科大學英文科を卒業し、次いで
大學院に入る、爾來廣島高等師
範學校講師、同教授等を歴任せ
られて目下第三高等學校教授た
り、曩に英領香港及南洋諸島に
出張を命せられし事あり、從四
位勳五等高等官三等に叙せらる
夫人まりやは宮城縣人大阪又藏
君の再從妹にして君との間に二
男四女ありて、男を佑君及び健
君と云ひ、女を俊子、暢子、照
子、喜美子といふ〔現住〕京都市
上京區吉田白川通川端東入

栗林貞吉君

新潟縣米穀取引所理事

君は新潟縣人栗林重三郎君の
長男にして安政六年十一月を以
て生る、現時株式會社新潟貯蓄
銀行取締役、株式會社第四銀行

栗林五朔君

衆議院議員 栗澤木材乾留
株式會社社長

君は新潟縣人栗林徳太郎君の
長男にして慶應二年五月を以て
生る、而して文部省立新潟英語
學校及青義學舎、北濱義塾等に
學び、曾て室蘭町會議員、北海
道會副議長に擧げらる、衆議院
議員に當選する事二回にして、
現時栗澤木材乾留株式會社社長
北海道炭化株式會社、株式會社
登別銑鐵所各代表社員、登別温
泉軌道株式會社、株式會社栗林
商會各取締役、北海道拓殖株式

會社監査役等たり、又無限の平
野に農牧業を営みてその成績見
るべきものあり、夫人かず子は
北海道人佐藤直五郎君の令妹に
して君との間に四男二女あり、
長男徳一君は同道人高島佐彦君
の姪貞子を娶り、又男友二君、
貫三君、定四郎君及び女ムロ子
榮子あり〔現住〕室蘭常盤町
〔電話〕四五

栗尾兎之助君

高知海運株式會社監査役

君は高知縣人河野文藏君の四
男にして安政四年八月を以て生
れ、愛知縣人栗尾益太郎君の養
嗣子となる、高知商業會議所議
員にして高知金融無盡株式會社
土陽汽船株式會社各取締役、高
知海運株式會社監査役たり、夫
人良子は養父益太郎君の長女に
して養子佐市君あり、長女京子
の夫君にしてその間に六男三女
あり、長男を彦太郎君、三男を
高明君、四男を鶴吉君、五男を
龜之助君、六男を彌三郎君と云

ひ、長女を静子、二女を花子、
三女を雪子といふ〔現住〕高知市
種崎町

栗岡利吉君

長崎縣多額納稅者

君は滋賀縣人藤野甚四郎君の
二男にして慶應元年三月を以て
生れ、前名を與惣吉と稱す、長
崎縣多額納稅者にして長崎商業
會議所議員たり、又長崎陶器株
式會社、山下コークス株式會社
第一化學工業株式會社、長崎製
鐵株式會社、東亞タルク製造株
式會社各取締役たり、夫人を茂
子と云ひ、君との間に六男四女
あり、男を利雄君、資雄君、
榮君、豊夫君と云ひ、女を善美
子、善恵子及び富美子といふ、
六男忠雄君は長崎縣人藤野榮次
郎君の養子となり、長女茂登子
は廣島縣人加藤顯一君令弟義夫
君に嫁せり
〔現住〕長崎市西濱町四二

栗田直八郎君

朝香宮々務監督

君は三重縣人栗田雄記君の長
男にして萬延元年十二月を以て
生る、明治十九年陸軍士官學校
を卒業し、同二十五年陸軍大學
校を卒業す、而して同十九年陸
軍歩兵少尉に任じ、爾後歩兵第
十旅團副官、參謀本部第二部員
陸軍大學校兵學教官、參謀本部
々員、陸軍經理學校教官、第一
軍參謀、同參謀副長、第六師團
參謀長、參謀本部副官兼皇族附
武官、第一師團司令部附兼皇族
附武官、歩兵第四十二聯隊長、
同三十五、近衛歩兵第二各旅團
長、第十四師團團長等を歴補して
大正四年陸軍中將に昇進し現時
朝香宮々務監督兼久邇宮々務監
督たり、曩に明治三十三年軍事
研究の爲め獨乙駐在を命せらる
勳功により正三位勳一等功二級
に叙さる、夫人ふじ子は三重縣
人田邊重徳君の三女にして君と
の間に一男三女ありて、男を茂

栗山寛一君

大江ビルディング株式會社專務

君は和歌山縣人美山吉右衛門
君の三男にして元治元年一月を
以て生る、先代治保君の養子に
して前名を勘三郎と稱す、現時
大江ビルディング株式會社の專務
にして又日出紡織株式會社及び
内外除蟲菊株式會社の夫々取締
役たり、夫人をスミ子と云ひ、
和歌山縣人栗山長兵衛君の令妹
なり、養子捨三君は和歌山縣人
栗山長兵衛君の四男にして九州
帝國大學助教たり、同隆造君
は其の夫人みつえ及び子供と共に
分家せらる〔現住〕大阪市南區天
王寺烏ヶ辻町五六九九ノ一
〔電話〕南四三三五

栗本勇之助君

大阪製鐵株式會社專務取締役

君は大阪府人栗本半三郎君の

二男にして明治八年八月を以て生る、明治三十一年に至り東京帝國大學法科大學英法科を卒業す、曩には合資會社栗本鐵工場社長、能勢電氣軌道株式會社及關西鐵工株式會社各取締役たりしが現時大阪商業會議所常議員にして、大阪製鐵株式會社專務取締役及び網島土地株式會社監査役たり、夫人秀子は和歌山縣人、納川瞭三君の三女にして、令兄徳三郎君は分家せらる

〔現住〕大阪市西區西長堀南通五ノ三 (電話) 新町一二九九、一八九九

栗本東明君

大森病院長 醫學博士

君は山形縣人栗本良意君の四男にして栗本雷勝君の養兄に當り、嘉永六年十月を以て生る、明治十七年東京帝國大學醫科大學を卒業し、次いで獨佛に留學して研究する事多年にして歸朝後岡山縣長崎縣各醫學科一等教諭、第五高等中學校教諭等を

歴任せられしが、後自ら大森病院を起してその院長たり、猶ほ明治生命保險株式會社醫務顧問たり、又曩に狂犬病治療の功により前露國皇帝より神聖アンナ第三等勳章を賜はる、夫人久米子は群馬縣人速水堅曹君の二女にして、君との間に一男菊一君あり (現住) 東京市牛込區船河原町一三

花山院親家君

貴族院議員 侯爵 從三位勳三等

當家は藤原道長の嫡孫師實の二男家忠の後胤なり、其邸花山院法皇の皇居跡なりしを以て花山院を姓とし、代々大臣大將の顯職を占め侯爵忠遠君に至る、君實は子爵堀河護麿君及び男爵南岩倉具成君の令弟にして、明治十一年十二月を以て生れ先代忠遠君の養子にして前記の外大日本製菓株式會社の取締役たり (現住) 神奈川縣鎌倉郡鎌倉町四〇七

桑原竹治郎君

吾妻軌道株式會社社長

君は群馬縣人青柳嘉源重君の二男にして萬延元年八月を以て生る、先代重郎君の養子にして、曩に吾妻温泉馬車軌道株式會社社長たりしが、現時は吾妻銀行(株式會社)及び吾妻貯蓄銀行(株式會社)の夫々頭取にして又吾妻軌道株式會社の社長たり猶ほ代々質商を營む、夫人とみ子との間に三男二女あり、長男を雄一郎君と云ひ、群馬縣人小林善之助の長女節子を娶りて一女けい子あり、二男を盛次君三男を治三郎君と云ひ、二女をこう子、三女をちか子といふ、長女もん子は群馬縣人町田歸一君に養妹もと子は同縣人柳田阿三郎君に夫々嫁せり (現住) 群馬縣吾妻郡中三條町 (電話) 三一

桑原莊吉君

河野ゴム工業株式會社社長

君は岐阜縣人桑原庄右衛門君

の長男にして同賢鏡君の令兄たり、文久元年六月を以て生る、岐阜縣立醫學科に學びて明治十八年海軍小軍醫に任じ、同四十四年海軍々醫總監に果進す、其の間淺間、龍驤、千代田、龍田各軍醫長、横須賀、佐世保各海軍病院副長、兼看護術練習所長、旅順、吳各海軍病院長兼吳鎮守府軍醫長等を歴任せられて正四位勳三等功四級に叙せられ、海軍々醫中將となり後備役に編入され實業界に入り日本カルシウム泉株式會社及河野ゴム工業株式會社社長、大正鑛林業株式會社及東京測量器製作株式會社取締役たり、曩に視察の爲め英佛獨各國を巡遊す、夫人すう子は岐阜縣人大塚庄三郎君の四女にして君との間に三男四女あり長男を博隆君と云ひ、三男を季隆君といふ、長女菊美子は法學士高田貞三郎君に、二女波子は東京府人工學士千葉利智君に、三女秀子は香川縣人醫學士吉田準一郎君に、四女芳子は福島縣

人鈴木覺左衛門君四男法學士佐平君に夫々嫁せり (現住) 東京府豊多摩郡澁谷町下澁谷二四九

桑原七兵衛君

鐵業銀行頭取 金物問屋

君は東京府人吉野作右衛門君の二男にして嘉永元年五月を以て生る、先代七兵衛君の養子にして越後屋と稱して金物商を營み、又株式會社鐵業銀行の頭取東京鐵業株式會社の取締役たり四男を康之助君といひ、その夫人照子は滋賀縣人坊野宗兵衛君の令妹にして、長男元次君及び長女壽美子あり、三男倍之助君は東京府人淺井くに子の夫君となり、五男徳之助君は同府人吉村仁三郎君の養子となれり、長女多美子は同府人河合半兵衛君に、二女喜代子は田中榮次郎君長男榮藏君に夫々嫁せり

〔現住〕東京市日本橋區小傳馬町二ノ八

桑原隆藏君

京都帝國大學教授 文學博士

君は福井縣人桑原一郎君の令弟にして明治三年十二月を以て生る、而して同二十九年東京帝國大學文科大學漢學科を卒業し間もなく獨乙に留學せらる、現時正四位勳二等高等官一等に叙せられて京都帝國大學文科大學教授たり、夫人しん子は打它辨次郎君の二女にして君との間に一男一女あり、男を男夫君、女を瑞枝といふ (現住) 京都市上京區岡崎入江町五

桑原善吉君

十六銀行取締役

君は岐阜縣人林次郎兵衛君の二男にして安政五年八月を以て生る、先代善吉君の養子にして岐阜縣多額納稅者たり、現時株式會社岐阜貯蓄銀行、同十六銀行及岐阜電氣株式會社の各取締役たり、夫人たね子は愛知縣人柴田四郎兵衛君の長女にして

養子眞一君あり (現住) 岐阜市玉井町 (電話) 四六九

桑田透一君

東洋捕鯨會社取締役兼支配人

君は廣島縣人桑田虎之助君の二男にして明治七年十一月を以て生る、同三十五年東京專門學校政治經濟科を卒業し、爾後廣島縣廳、臺灣總督府、農商務省東京、大阪、廣島各地商業會議所日本貿易協會、燐寸聯合會等の囑託として南清商工業視察の爲め清國各地に歴遊せらる後東洋協會々報太平洋に執筆し爾來マニユファクチャーエス保險會社主事、大阪毎日新聞社東京支局經濟主任、大日本捕鯨株式會社支配人、東洋捕鯨株式會社關西營業部主事等に歴任せられ奮勵努力好く職務に精通し上下の信頼厚し、目下東洋捕鯨株式會社取締役兼支配人として帝國ゼラチン株式會社取締役として活躍せらる、夫人八重子は元三井物産會社重役水野常吉君の長女なり

桑田熊藏君

法學博士 鳥取縣多額納稅者

君は鳥取縣人桑田藤十郎君の長男にして明治元年十一月を以て生る、同二十六年東京帝國大學法科大學を卒業し、露國に漫遊する事數年にして歸朝後東京帝國大學法科大學講師、文部省參政官等を歴任せらる、又前後二回貴族院議員に互選せられて正五位勳三等に叙せらる、鳥取縣多額納稅者にして夫人たつ子は東京府人小島東十郎君の長女たり、四男八女ありて、長男一夫は海軍中將川島令次郎君、長女正子を娶りて一男一女をなす、菊郎君及び峯子なり、二男を榮次郎君、三男を三樹男君、四男を十郎君、五男を欣吉君と云ひ、五女を佳江、六女を二葉七女を彌代、八女を時枝といふ、然して長女民野は夫君直治君と

共に其の子女を伴ひて分家し、四女千枝子は富山縣人河合藤吉君長男長成君に嫁せらる
〔現住〕鳥取縣東伯郡倉吉町

桑田喜四郎君

九大株式會社代表社員

君は廣島縣人桑田喜四郎君の長男にして明治四年八月を以て生る、前名を常太郎と稱し現時株式會社備後銀行監査役、九大株式會社代表社員、九大染料株式會社取締役たり、夫人イシ子は市川吉右衛門君の二女にして長女君枝あり、猶ほ養子昌一君は父君喜四郎君の六男にして廣島縣人松本喜一君の四女俊世を娶りてその間に一男一女あり、甚六君及薫子といふ

〔現住〕廣島縣廣品郡出口町

〔電話〕四四四

桑田彦三郎君

福山瓦斯株式會社監査役

君は廣島縣人桑田三郎助君の長男にして明治元年十一月を以

て生る、曾て西備輕便鐵道株式會社取締役たりしが現時は株式會社桑田銀行取締役及び福井瓦斯株式會社監査役たり、猶ほ廣島縣多額納税者にして夫人キヨノは同縣人石井庄右衛門君の三女たり、三男二女ありて、男を武治郎君、公太郎君及び義郎君と云ひ、女を榮、富江といふ

桑山鐵男君

逓信省簡易保險局長

君は愛媛縣人桑山吉輝君の長男にして明治十四年十一月を以て生る、同三十九年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し、高等文官試験に合格す、爾來逓信事務官、京都郵便局監理課長、逓信省參事官兼逓信書記官兼逓信監察官、逓信大臣秘書官、大臣官房文書課長等を歴任せられ從四位勳三等高等官一等に叙され、現時逓信省簡易保險局長たり。夫人民子は鹿兒島縣人森三木君の長女にして君との間に二男あり、孝男君照彦君といふ

〔現住〕東京府荏原郡入新井新井宿子母澤九七六

〔電話〕高輪一〇六

桑木或雄君

九州帝國大學教授 理學博士

君は石川縣人桑木愛信君の二男にして明治十一年九月を以て生る、文學博士桑木嚴翼君の令弟なり、明治三十二年東京帝國大學理科大學を卒業し、更に大學院に入りて理論物理學を専攻せらる、同三十九年に至りて歐

桑木嚴翼君

東京帝國大學教授 文學博士

君は東京府人桑木愛信君の長

會富勇三郎君

〔現住〕長野縣小縣郡鹽尻村

君は福岡縣人會富胤厚君の二男にして嘉永六年七月を以て生る、明治九年司法省法科學校を卒業し、爾來司法省參事官、同民刑局長、同參事官、大審院檢事、東京控訴院檢事、韓國司法次官、統監府司法廳長官兼參事、朝鮮總督府司法部長官、與官、朝鮮總督府司法部長官、法制局長官、内大臣秘書官長事務取扱等を歴任せられ大正三年貴族院議員に勅選せらる、勳功により從二位勳一等に叙され、現時皇室會計審査局長官兼樞密顧問官、宗秩寮御用掛等たり、夫人延子は東京府人廣澤弘信君の長女にして君との間に二男あり、鈞君、隆君といふ

〔現住〕東京市赤坂區丹後町一

〔電話〕高輪四七五八

を卒業し、明治四十三年殿掌となり、爾來明治天皇大喪使。同桃山陵奉仕等の祭官、掌典、照憲皇太后大喪使、同桃山東陵奉仕等の祭官副長、陵墓監等に歴任せられ、大正八年貴族院議員に選ばれ、正四位に叙さる猶ほ令弟允雄君、彰雄君、末雄君あり〔現住〕京都市上京區衣棚榎木町下ル今樂屋町三一五

吳秀三君

東京府松澤病院院長 醫學博士

君は故統計學者吳文聰君の令弟にして故理學博士菊地大鏡君の從兄弟に當る、慶應元年十二月を以て生る、明治二十三年帝國大學醫科大學を卒業し、同三十九年に至りて東京帝國大學醫科大學助教授となり、次いで同大學教授に陞り、東京巢鴨病院長を兼ね、曾て精神病學研究の爲め獨逸兩國に留學せられ又曩に日本神經學會、神經病者慈善救護會を創立して主幹及び委員たりき、正四位勳二等に叙せら

沓掛正一君

長野縣農工銀行監査役

君は長野縣人沓掛權右衛門君の長男にして明治七年十一月を以て生る、上田商業會議所議員にして又株式會社社長野縣農工銀行監査役たり、夫人令子は石田啓一君の長女にして君との間に二男二女あり、男を健一君、敏行君と云ふ、女をゆう子、みゑ子といふ、又令妹秀子は同縣人松田牧太郎君に、同かし子は同縣人小松修君に夫々嫁せらる

勸修寺經雄君

貴族院議員 伯爵

當家は内大臣藤原鎌足公の七代贈正一位太政大臣藤原良門の子贈太政大臣正二位高藤の後なり、高藤初めて勸修寺と稱す、夫より十四世權中納言經俊を経二十五代顯允君に至る、顯允君は軍籍に入りて西南役及び二十七八年の役に軍功あり、明治十七年伯爵を授けらる、君は顯允君の長男にして明治十五年四月を以て生る、東京高等農學校

倉地治三郎君

合各會社倉地商店代表社員

君は愛知縣人倉地久兵衛君の二男にして明治三年六月を以て生る、製絲機業を営みて、合名會社倉地商店の代表社員及び愛知殖産株式會社の監査役たり、夫人むめのは同縣人宇野金右衛門君の二女にして君との間に五男一女あり、男を慎一郎君、佐一郎君、友二郎君、文一郎君、清一郎君といひ、女を富子といふ、令弟倉三郎はその夫人はつゝと共に子女を伴ひて分家し、令妹くに子は同縣人倉地治右衛門君養嗣子仁藏君に嫁せり、猶ほ令弟淺次郎君は同縣人稻垣新一郎君の令姉たま子を娶りてその間に四女ありて、さかゝる、久子、清子あり

〔現住〕名古屋市中區末廣町一ノ八八〔電話〕園本局七六六

倉知鐵吉君

貴族院議員 中日實業株式會社副總裁

君は東京府人倉知行徳君の長男にして明治三年十二月を以て生る、帝國大學法科大學を卒業し、明治二十七年内務省に任じ爾來外務省參事官、公使館書記官(獨逸在勤)、農商務書記官、統監府書記官、日本專管居留地經營事務監督官、横須賀捕獲審檢所評定官、政務局長、外務次官、大喪使事務官等に歴任し、其の間帝國議會に於ける政府委員たる事八回にして又諸種の委員に擧げられ、猶ほ特命により清韓兩國へ、第二回平和會議開設に付委員隨員として和蘭へ孰れも差遣せらる、大正二年貴族院議員に勅任せられ正四位勳二等に叙さる、且つ錦鶏間祇候に補はる、現時は官界を全く退きて専ら實業界に入り中日實業株式會社副總裁、金澤紡績株式會社、東洋製鐵株式會社、東洋鹽

倉田龜吉君

千代田炭礦株式會社社長

君は東京府人小坂駒吉君の長男にして慶應元年八月を以て生る、先代直次郎君の養子にして明治三十年東京帝國大學工科大學採礦冶金科を卒業し現時千代田炭礦株式會社社長、磐城炭礦株式會社常務、茨城採炭株式會社取締役等たり、夫人りう子は東京府人原田文子の令妹にして君との間に七男三女あり、男を龜之助君、三郎君、亨君、博君、武君、瀧雄君と云ひ、女を澄子、英子、康子といふ、二男俊次郎君は東京府人小坂政吉君の死跡を相續せらる〔現住〕東京市京橋區明石河岸二

倉田金三郎君

倉田商事株式會社代表社員

君は東京府人倉田茂三郎君の長男にして明治六年十月を以て生る、倉田商事株式會社代表社員

倉持長吉君

東京實業鐵道株式會社監査役

君は茨城縣人諏訪太郎君の次弟にして明治八年七月を以て生る、前名を鼎と稱す、豊田廣と稱し教育玩具商を營み、猶ほ東鐵株式會社取締役及東京實業鐵道株式會社監査役たり、夫人ちやう子は亡倉持長吉君の長女にして其の間に二男三女あり、長男を誠一君、二男を守二君と云ひ、長女を和歌子、三女を貞子といふ〔現住〕東京市日本橋區馬喰町一ノ一三

熊谷岱藏君

東北帝國大學教授 醫學博士

君は長野縣人熊谷陸藏君の長男にして明治十三年七月を以て生る、同三十九年東京帝國大學醫學科大學を卒業し、間もなく獨逸に留學す、爾來東北帝國大學醫學專門部教授、同附屬醫院第二内科醫長、東北帝國大學醫科



草場九十九君

東京府會議員 工學士 特許辯理士

君は夙に福岡中學修徳館を卒業し第三高等學校工學部機械學科に入學し、明治三十一年七月業を卒へ、直ちに熊本第五高等學校工學部講師の命を拜し、同三十四年大に決する所あり東上し、シルバールボール商會の支配人となり、外國特許商標事件に對し大に感ずる處あり、明治三十九年進んで特許辯理士の試験に應じ、首席を以て及第し、爾後獨立其業務に従事せるなり、曩に東京市麻布區會副議長として非凡の手腕を揮ひ區民の推重措かざるものあり、現に東京府會議員たり、君事に衝るや誠實

員、東京鐵力製造株式會社、株式會社八光商會、東京セルロイド工業株式會社、株式會社朝日精鋼所各取締役、永田メリヤス機械株式會社、株式會社本所鐵工所各監査役等たり、夫人クラ子は東京府人吉川清君の令姉にして其の間に一男金五君あり又養妹なを子は東京府人権名愛之君に嫁せり〔現住〕東京市淺草區北三筋町三〇

倉島恒太郎君

中央電氣工業株式會社社長

君は東京府人松田景修君の二男にして明治六年二月を以て生る、先代の養子となりて倉島家を繼ぐ、株式會社中央商業銀行取締役、中央電氣工業株式會社社長、土屋玩具工業株式會社取締役たり、男士女雄君及び女初子あり、二女知恵子は養母はつ子の養子となりて分家す

〔現住〕東京市淺草區駒形河岸八

大學教授兼同醫學專門部教授等
を歴任し正五位高等官二等に叙
せられ現時東北帝國大學教授同
附屬醫院長たり、夫人まつ子は
長野縣人宮坂作之助君の長女に
して其の間に三男一女あり男
を謙太郎君、謙二君、博君と云
ひ、長女を節子といふ、猶ほ令
弟直樹君は長野縣人今井五介
君二女たけ子を娶りてその間に
二女あり、英子、正子といふ
〔現住〕仙臺市北四番町
〔電話〕一五一一

熊谷直太君

司法省政務次官 衆議院議員

君は山形縣人熊谷直能君の長
男にして慶應二年七月を以て羽
前國西田川郡鶴岡町に生る、東
京帝國大學法科大學を卒業し、
判事に任じて前橋地方裁判所判
事、東京地方裁判所判事、長崎
控訴院判事、東京控訴院判事等
に歴任し、又歐米各國を視察す
る事數回の外國通たり、從四位
勳四等に叙せられ、衆議院議員

にして司法省政務次官たり、夫
人久子は廣島縣人下枝觀一郎君
の二女にして其の間に三男一女
あり、男を宣夫君、均君、伍郎
君と云ひ、女を元子といふ
〔現住〕京市麻布區本村町二〇
九 〔電話〕高輪四八六四

熊田源太郎君

加州銀行監査役 米穀肥料商

君は眞宗僧侶渥美契縁君の男
にして明治十九年八月を以て生
る、先代源太郎君の養子にして
前名を源一郎と稱し米穀肥料商
を營む、石川縣多額納税者にし
て株式會社加賀貯金銀行取締役
株式會社石川縣農工銀行、同加
州銀行各監査役、温泉電氣軌道
株式會社取締役たり、夫人みち
子は石川縣人西出孫左衛門君の
姪にして其の間に一男四女あ
り、男を卓郎君と云ひ、女を業
子、靖子、倫子、典子といふ、
〔現住〕石川縣能美郡湊村
〔電話〕美川七

藏内保房君

株式會社山川銀行頭取

君は福岡縣人藏内榮藏君の長
男にして文久三年五月を以て生
る、前名を安太郎と稱し、現時
株式會社田川銀行頭取、藏内鐵
業株式會社社長、日本電氣鐵道
株式會社代表社員、後藤寺水道
株式會社、片山鐵道株式會社、
宇島鐵道株式會社、日田鐵道株
式會社、小倉鐵道株式會社、九
州産業株式會社、宇島材木株式
會社、小倉倉庫株式會社各取締
役たり、長男を治郎兵衛君と云
ひ、二男を正次君といふ、正次
君は藏内鐵業株式會社取締役に
して東京府人宇都宮寛君長女か
よ子を娶る、猶ほ二女八重子あ
り養子セン子は福岡縣人紀成豊
八君に嫁せり〔現住〕福岡縣田川
郡添田町

隈 德三君

豫備陸軍少尉

君は舊柳川藩士隈角磨君の長

熊野幾太郎君

内外化學物産株式會社代表社員

君は大阪府人熊野幾松君の長
男にして明治十八年四月を以て

熊澤甚太郎君

甚太郎ゲルブトラング貿易商

君は愛知縣人熊澤高次郎君の
令弟にして明治七年二月を以て
生る、熊澤商店と稱し絹物商を
營み、又甚太郎ゲルブトラング
貿易商會(株式會社) 田中商店
(株式會社)各取締役、横濱精練
株式會社、横濱燃糸織物株式會
社各監査役たり、夫人カエ子は
神奈川縣人鈴木新太郎君の令妹
にして、愛知縣人宮田富士三郎
君二男甚助君を養子となす
〔現住〕横濱市山下町二七三

日下義雄君

日本蓄産株式會社取締役會長

君は福島縣人石田常雄君の長
男にして嘉永四年十二月を以て
なる、而して明治三年日下家を
創立す曾て歐洲に渡航せらる、
爾來内務權大書記、農商務大書
記官、統計課長、驛遞局長、長
崎、福島各縣知事、辯理公使等

日下部政徳君

九州製炭株式會社監査役 辯護士

君は三重縣人日下部政常君の
長男にして明治十八年五月を以
て生る、辯護士にして株式會社
御笠銀行、株式會社尾道船渠造
船所、中央物産株式會社、吉田
商事株式會社各取締役、九州製
炭株式會社監査役たり、而して

熊澤一衛君

上毛製紙株式會社取締役

君は三重縣人熊澤市兵衛君の
長男にして明治十年十一月を以
て生る、現時上毛製紙株式會社
四日市製紙株式會社、木曾興業
株式會社、樺太汽船株式會社各
取締役、四日市鐵道株式會社、
樺太工業株式會社、緑川電力株
式會社、磐城探炭株式會社、日
本フェルズ株式會社、南太平洋
興業株式會社、株式會社服部製
作所各監査役たり、夫人まさ子
は三重縣人高田隆平君の令妹に
して同右六女照子を以て養子と
なす〔現住〕三重縣三重郡河原田
村

熊野秀之助君

大阪土地建物株式會社支配人

君は京都府人熊野善助君の二
男にして元治元年八月を以て生
る、曩に堺市長に擧げられ正七
位勳六等に叙せらる、現時大日
本製藥株式會社、阪南土地建物
株式會社各取締役、大阪土地建
物株式會社支配人たり、夫人よ
り子は富山縣人宮口承勝君の長
女にして其の間に六男二女あ

令弟を仁三郎君、五郎君、六郎君と云ひ、令妹をつね子といふ、六郎君は東京府人倉島富士子の家に入れり〔現住〕福岡市大名町〔電話〕三九二

日下部四郎太君

東北帝國大學教授理學部長

君は山形縣人日下部定治君の三男にして明治八年五月を以て生る、同三十三年東京帝國大學理科大學物理學科を卒業し、更に大學院に入る、後英米獨佛の各國に留學し、歸朝後海軍技師横須賀海軍工廠造兵部々員、海軍水雷術練習所教官、東北帝國大學理科大學教授等に歴任し現時東北帝國大學教授にして理學部長たり、曩に北極地方を巡歴し又マーシャル、カロリン及びマリアナ群島等に出張せらる、大正三年帝國學士院章を受け五位勳四等に叙さる、夫人せい子は東京府人芳野世經君の二女にして君との間に三男二女あり男を文雄君、正雄君、忠雄君と

いひ、女を薫子及び操子といふ〔現住〕仙臺市中杉山通

草場猪之助君

唐津漁業株式會社監査役

君は佐賀縣人草場三右衛門君の三男にして慶應二年八月を以て生る、唐津銀行(株式會社)糸島銀行(同)北九州輕便鐵道株式會社、唐津製業株式會社、唐津電氣製鋼株式會社、唐津築港株式會社、肥前漁業株式會社各取締役、唐津魚業株式會社監査役たり、男を慎一君、六一君と云ひ、女を芳江、萩枝、君枝といひ、長女マツエは佐賀縣人藤田與兵衛君二男末太郎君に、二女藤江は東京府人栗田金太郎君令弟進君に、三女菊枝は佐賀縣人市山孝三君に夫々嫁せり

草鹿甲子太郎君

關西土地信託株式會社監査役

君は石川縣人草鹿泰仲君の長男にして元治元年九月を以て生

る、明治十五年東京外國語學校を卒業し、司法省法律學校官費生として同二十一年帝國大學法科大学を卒業し、爾來金澤、福井各裁判所判事を歴補せらる、現時日本製藥株式會社取締役、關西土地信託株式會社、株式會社博信洋行、伊藤製鐵株式會社明治電燈株式會社、兵庫電氣軌道株式會社各監査役たり、夫人イト子は兵庫縣人安藤行敬君の長女にして君との間に三男三女あり、長男任一君は石川縣人北條時敬君三女定子を娶りて直太郎君及び健次郎君をなし、二女慶子は石川縣人石川信一君に嫁せり、猶ほ三男三郎君、三女秀子、四女定子あり

草野半君

福島商業銀行頭取

君は横川榮助君の六男にして明治十年五月を以て生る、即ち福島縣人草野喜右衛門君の養兄に當る、現時株式會社福島商業銀行頭取、株式會社鈴木實業銀行取締役、福島電燈株式會社、福島紡績株式會社、管野ゴム工業株式會社、刈田水力電氣株式會社、福島人造スレート株式會社各取締役、福島製陶株式會社株式會社共同生糸荷造各監査役

草刈武八郎君

相浦銀行監査役

君は長野縣人川合小一右衛門君の二男にして嘉永六年七月を以て生る、先代太一左衛門君の

楠熊治郎君

小田原急行鐵道株式會社用地課長

君は明治七年四月を以て山梨縣東山梨郡七里村に生る、幼時より秀雋の稱あり、夙に學に就き、順を逐ふて進境を見る、後東上して日本大學に入り、法律學を専攻して大に學識を收む、卒業して直に東京明治銀行に入り精勵恪謹、上長の刮目たりしが幾許もなく庶務課長となり、愈々其の敏腕を揮ふ、後會社を退いて東京市街鐵道株式會社に入り、勤勉業務に従事することあり、後會社が東電並に外濠等を合併して東京鐵道株式會社と成り、亞いで東京市有となるに到りしが君常に繼續勤務し、後電氣局に移り、更に東京市主事として専ら運輸の業務を掌り多年の經驗と加ふるに斯界に關する博大なる學識とを發揮して業務に盡瘁したるが大正十三年二月に至り、辭職せり、尋で同年七月聘せられて小田原急行鐵道株式會社に入り用地課長として社内に重望あり今日に至る、此間交通事業に従事すること實に二十有餘年に及び、斯界に對する貢獻著大なり、君人と爲り豪氣潤達にして、信義に厚く、且て知友と絶交等のことありたることなく加ふるに襟度極めて廣潤にして仁俠に富み、公衆の爲めに己を忘るゝものあり、從つて君の義氣に感じて其偉風に浴するもの頗る多し、趣味亦大なり天下の事物皆之れ趣味ならざるはなしと、浪花節を好み、堪能にして一家をなすものあり蓋し罕觀の士なりと謂ふべし、夫人との間に一男一女あり長女を百合子(十四歳佛英和女學校在學)と稱し、長男を義基君(十歳千ヶ駄谷第三小學校在學)と呼ぶ

〔現住〕東京市外千ヶ駄ヶ谷町千ヶ谷七四四

工藤十三雄君

衆議院議員青森陸奥日日報社長

君は弘前市の人にして明治十三年を以て生る、夙に東京帝國大學法科大学に入りたるも感ずる處あり中途退學して操觚界に投じ、大に敏腕を揮はる、曾て故山縣公爵の生存中、新聞記者同人中公爵に寵を受けたるもの十指に足らざりしが、君は時事新報記者時代、既に悠々新椿山莊の門を潜り、小田原古稀庵の表玄關より、山縣老公の居室に無遠慮に出入せりと君は東京政治記者として活躍せる時代、偶々山縣老公の知寓を得たるものなるが、更に又寺内伯の寵愛をも擅にしたり、今日地方新聞界に輝々の盛名を博せる、弘前新聞の如きは實に伯の出資に依りて

創立し、經營し來れるものなり君人と爲り才機喚發、襟度廣大にして頗る敏腕家なり、曾て總選舉に際し立候補し、大に逐鹿界に活躍したるが利あらず爾來拮据地方中央の政界に大に盡す處あり、自重機運を窺ひたりしが、今大正十三年加藤新内閣の總選舉に於て首尾よく鹿を射、中央政議壇上に得意の地境を得たり、君の所屬たる本黨は今や野にあり、大に黨中人材を要す學識經驗共に備はり、地方操觚界の中心人物として噴々の聲名ある君が、新進の政治家として中央政界に立つ當に黨の内外を問はず大に將來を囑目さるゝ器局なりと謂ふべし君事業界に於ては弘前新聞の外青森陸奥日日報社を經營せり

〔現住〕東京市本郷區西片町一〇
〔電話〕小石川三二一七

× × ×

草野儀左衛門君

昌榮貯蓄銀行監査役

君は滋賀縣人草野伊右衛門君の長男にして明治十九年五月を以て生る、前名を榮三郎と稱す現時株式會社共榮銀行取締役、同昌榮貯蓄銀行監査役、株式會社黒崎電氣製作所取締役たり、夫人房子は滋賀縣人脇坂七郎君の長女にして君との間に一男三女あり、男を儀雄君といひ、女を榮子、妙子、和子といふ、猶ほ令妹せき子は滋賀縣人村上米三郎君長男善止君に嫁せり

串田萬藏君

三菱銀行株式會社取締役會長
三菱倉庫株式會社會長

君は東京府人串田孫三郎君の長男にして慶應三年二月を以て生る、帝國大學豫備門に學ぶ、而して明治二十三年米國ペンシルバニア大學財政經濟科を卒業し現時株式會社三菱銀行取締役會長合名會社三菱銀行部事務理

楠本長三郎君

府立大阪醫科大學教授醫學博士

君は長崎縣人楠本正伯君の長男にして明治四年正月を以て生る、同三十三年東京帝國大學醫科大學を卒業し、同大學病院助手、大阪高等醫學校教諭、同病院内科醫長等を歴任し、現時府立大阪醫科大學教授にして從五位勳五等に叙せらる、曩に獨逸に留學せり、夫人三重子は東京府人昌谷彰君の令妹にして君との間に六男二女あり、男を壯一君、健次君、虎三君、四郎君、五郎君と云ひ、女を菊江、八重子といふ

楠本正敏君

貴族院議員 男爵

當家は先代楠本正隆君より顯はる、正隆君は舊肥前大村藩士楠本直右衛門君の男にして、外

櫛淵浪太郎君

富岡銀行 一取

君は群馬縣人櫛淵留次郎君の長男にして嘉永五年三月を以て生る、現時株式會社富岡銀行頭取、株式會社甘樂銀行及兩毛電氣株式會社取締役たり、君に一男神吉君あり、令弟里治君は群馬縣人櫛淵彌左衛門君の養孫となり、令妹てう子は同縣人高橋熊之丞君令弟離五郎君に嫁し、尙ほ令弟勝治君は其の夫人とら子と共に分家せらる、然して令姉のい子長男陽治君とその夫人

鯨井恒太郎君

東京帝國大學教授工學博士

君は小林徳太郎君の長男にして明治十七年七月を以て生る、埼玉縣人鯨井兵五郎君の養子にして明治四十年東京帝國大學工科大學を卒業し、爾來通信技師同技師、東京帝國大學工科大学助教授兼通信技師等を歴任し、又電氣工學研究の爲め獨英米に留學し、無線電信電話に使用する電氣間隙に關する研究にて學士院賞を取く、現時東京帝國大學教授として正五位勳四等に叙せらる夫人チカ子は栃木縣人原田政七君の令妹にして君との間に二男三女あり、男を正治君、昌雄君といひ、女を幸子、春子といふ

は陋として抜く可らざる因習をなし、女子にしてよく、事業を成し、名を擧ぐる者甚だ尠し而も信賴すべき最愛の夫君に先き立たれ、三子を懐にしてよく世上の波濤と戦ひ、その遺業を繼續して益々之を隆盛に導く、久萬芳子女史の如きは蓋し稀なり、女史は福島縣の人にして、明治十八年四月三日、石城郡平町に呱呱の聲を擧ぐ、幼にして



〔現住〕東京府豊多摩郡代々幡町大字代々木山谷一四一

久萬芳子女史

大日本料理研究會々長
〔料理の友〕主幹

凡そ女子は内にありて、幼にしては親に事へ、嫁しては夫に仕へ、老ひては子に従ひ常に家庭の業にのみをこしむを以て良風となしたる、我國古來の政教

は陋として抜く可らざる因習をなし、女子にしてよく、事業を成し、名を擧ぐる者甚だ尠し而も信賴すべき最愛の夫君に先き立たれ、三子を懐にしてよく世上の波濤と戦ひ、その遺業を繼續して益々之を隆盛に導く、久萬芳子女史の如きは蓋し稀なり、女史は福島縣の人にして、明治十八年四月三日、石城郡平町に呱呱の聲を擧ぐ、幼にして

續日に擧る一男二女を有し、家庭亦頗る圓滿、世人羨望の的となりしも、不幸、大正七年夫盛幸君卒然として逝く、女史の悲嘆止む事なかりしも、その遺子を扶育し、その遺業を盛ならしむるは之れ亡夫の冥福を祈るなりと信じ、萬難を排して事に當り、よく今日の盛大を見るに至る、誠に凡庸の企及し難き處なり、今や會員非常に多數にして、雜誌の發行部數月に累加す、而も女史親しく會務を統べ、雜誌の編輯、發行等他人の助力を藉らずと、偉なりと云ふべし今其の雜誌の内容を見るに、巻頭に先づ、料理及流行品の有益美麗なる口繪を掲げ、次に料理に關する趣味として諸名士を列べ、料理研究欄と家庭欄とを設け、一つは料理に關する萬般の事柄を網羅し、一つは更に修養、趣味、實際、文藝の各項に分ち、各斯道の大家の執筆を乞ひ料理と趣味と、實益とを兼ねる家庭的好雜誌にして方今世

楠瀬幸彦君

豫備陸軍中將

君は舊高知藩士楠瀬正志君の長男にして安政五年三月を以て生る、明治十二年陸軍士官學校を卒業し、同年砲兵少尉に任じ同四十年陸軍中將に陞進す、其の間參謀本部副官、臺灣總督府

上行はるゝが如き、娛樂、文藝等に偏せざる處に本誌の眞價ありと云ふべし、長女を鏡子(十七歳)と云ひ、次女を幸子(十六歳)と呼び、長男を樂也君(十歳)と稱す、女史に仕へて共に孝なり

〔現住〕東京府住原郡上大崎中丸四四四 (電話)高輪一六九一

黒澤美德君

〔現住〕東京府住原郡上大崎中丸四四四 (電話)高輪一六九一

君は東京府人黒澤禮吉君の令弟にして明治六年一月を以て生る、現時株式會社中央商業銀行の取締、兼支配人にして又清淨瓦斯株式會社の監査役たり、夫人道子は北海道人助川貞二郎君の長女にして一男三女あり、男を正徳君といひ、女を徳子、淑子及び節子といふ

〔現住〕東京府豊多摩郡澁谷町青山北町七ノ二

黒田 清君

伯爵 正五位

當家は代々舊鹿兒島藩士にして、先々代清隆に至り頼に家名を揚ぐ、清隆夙に外務權大丞に任じ、明治七年陸軍中將となる次いで十七年に至り華族に列し伯爵を授けらる、爾來農商務大臣、遞信大臣、樞密顧問官、内閣總理大臣等に歴任し、其功渺ならず、君は即ち伯爵黒木爲楨君の三男にして、先代清仲君の養子となる、明治二十六年八月を以て生る、大正四年一月襲爵し、八年に至り、東京帝國大學法科大學政治科を卒業す

〔現住〕東京市麻布區材木町五六

や 之 部



藪田岩松君

東京建物株式會社社長 満州興業株式會社社長 長保善社理事

君は三重縣の人にして藪田重右衛門君の三男なり、安政三年一月十八日を以て生る、先代喜三君の養子となり、明治三十五年七月家督を相續す、幼年龜山藩士岡本賢三君の塾に學び、明治元年藩主の設立に係る産物會社に入り、従事すること七ヶ年同八年三重縣地租改正課に出仕し後之を辭し、同十年上京し知人の店に見習ひ、同十二年安田商店に入り、翌十三年安田銀行

や 之 部

と改稱さるゝに及び同銀行栃木支店支配人に任じ後ち本店支配人に轉じ更に同行協議役となり現在前記銀行會社事業に従事する外共濟生命保險株式會社監査役、安田銀行相談役たり、家族は長女静子(明治十七年生)は三重縣人工學士小林源松君に、次女豐子(明治十九年生)は東京府人小倉繁治君に、三女ます子(明治二十三年生)は島根縣人法學士恒松勤一君に、四女つる子は(明治二十六年生)福岡縣士族工學士森川三省君に嫁せり

〔現住〕東京市下谷區谷中坂町六二 (電話)下谷三三一

八十島誠之君

實業家

當家は先代親徳より顯る、親徳は舊宇和島藩士行藏君の二男なり、明治二十七年高等商業學校を卒業、直ちに澁澤家に入る

八木與三郎君

實業家

君は京都の人にして八木重助君の三男、慶應元年一月を以て生る、先代文之丞君の養子なり綿糸綿布商を營む、他に藤本ビルブローカー銀行監査役、八木商店社長、浪速紡織株式會社専務

〔現住〕東京市芝區白金臺町一ノ七 (電話)高輪五一〇

山本嘉兵衛君

山本 茶舗

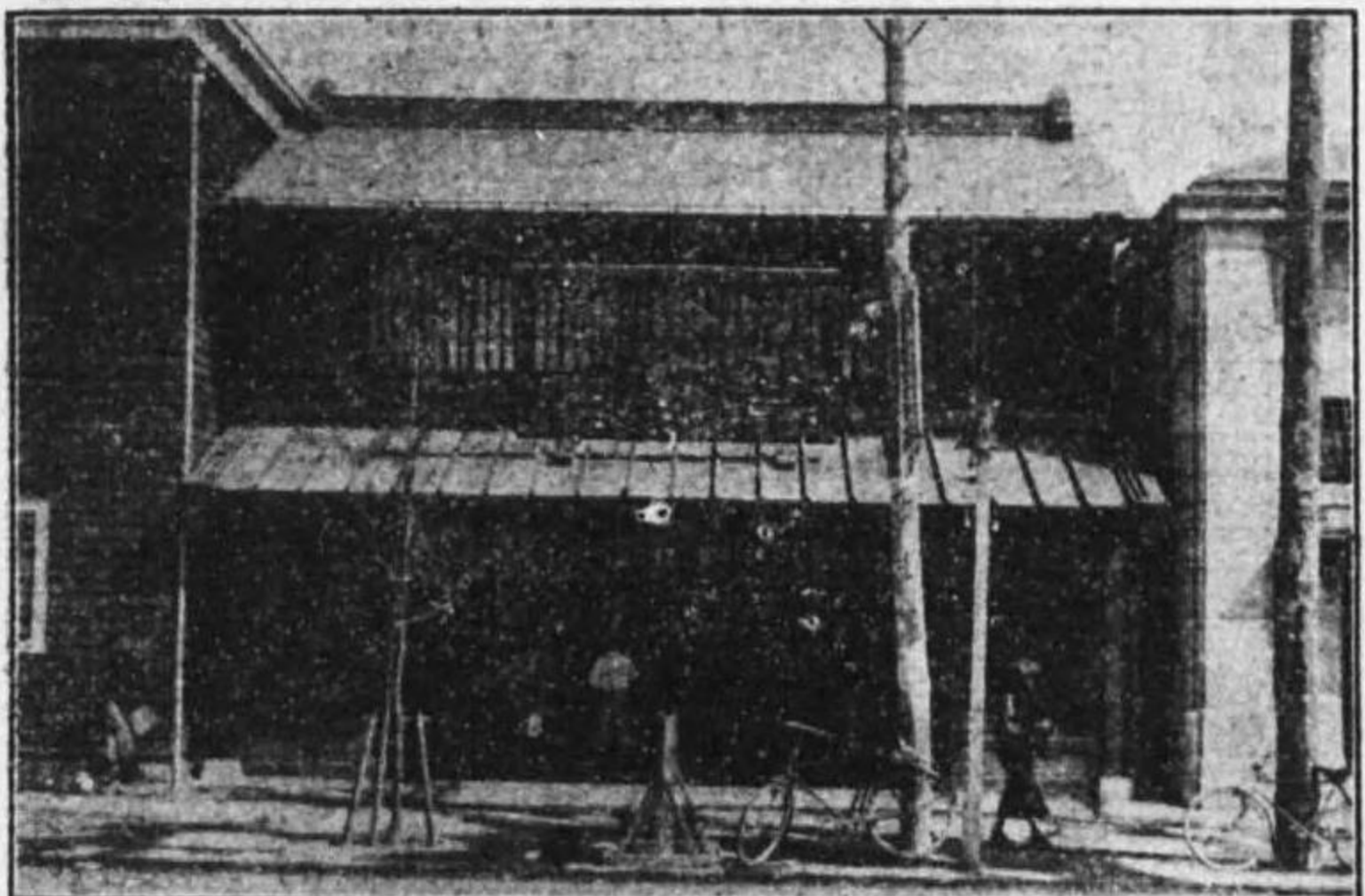
取締役、東京土地建物株式會社日本絹布株式會社、東成土地建物株式會社の取締役、明正社、ナニハビルディング、福井織物株式會社の監査役たり、家族は令閨ふさ子、長男幸吉君、二男泰吉君、三女信子あり、長女ヨシ子は山口縣士族杉相次郎長男道助君に、二女貞子は兵庫縣人淺野武雄君に嫁せり

〔現住〕大阪市東區南久太郎町二ノ三七 (電話)船場六六一五

山本家の歴史は頗る舊し只憾むらくは當時の史實甚だ乏しく茫漠として究め難きものあり、抑も同家の祖は山城國宇治郡山本村より出づ、初代(治成)曾祖父義徳が茶業の志を抱き今を去る約三百年前即ち寛永七年の歲始めて舖を京師に開き茶の製造並に販賣の業を始めたり、之れ山本家の始めなり、世々其業に従事せり、當時喫茶の風大に行はれたりと雖も其多くは堂上給

紳の間に弄はれ民衆の多き眞に喫茶の趣味を解せざるもの多きを慨し潜思焦慮之れが普及に全力を傾注せりと云ふ、徳成に至り見る處あり、元祿五年單身京を出で江戸に至り店を日本橋通り三丁目に占め諸種の困難を越め盡くして専ら斯業の擴張を計り、二世嘉兵衛君に至り前途の光明を認むるを得、事業盛大の域に就きたるを以て店舗を現時室町に移す基礎に於て全く完成し、元文三年の秋山城の國綴喜郡湯ヶ谷の人永谷宗園なるものを始めて梨蒸煎茶(所謂宇治製)なるものを發明し佳品若干斤を携へて江戸に來り、試賣を四世嘉兵衛(嘉道)に乞ふ、其品質の佳良にして其味の美なる恰も甘露の如し、四世之を發賣するや家聲大に揚り八百八街到る處、之を愛喫せざるはなかりき、之れ江戸市民が宇治茶を愛用するの濫觴なりとす、當主又吉例の記念として明治八年に至るまで年々永谷家に對し贈るに

小判二十五兩を以てし其功勞に酬ひたりと云ふ如何に當家が斯業に忠實なりしかを知るに足る五世嘉兵衛(徳潤)亦た家業に積勵し文化の初年自ら主唱となり市内同業者の者と相謀り茶問屋を設け大に斯業の發達を圖りたり現時の舊同屋なるもの即ち之なり、同六年山城國綴喜郡諸村に同八年同郡並に宇治久世の三郡に亘り、茶園を購入して茶樹を培へ大に生産の發達に全力を傾注せり同八年時の町奉行より茶問屋組合の鑑札を下附せらる同九年山城、江州の同業者相



謀り徳潤組なるものを設け斯界の爲めに盡力せり、同十三年一橋家御茶御用達を拜命すると同時に繪符提灯を下附せり、同年十二月舊幕府本丸より御茶御用達を仰せ付けられ繪提灯を下附せり、同十四年三月幕府西廣敷御茶御用達を拜命繪提灯を下附せり、文政元年六月田安家御茶御用達を拜命繪提灯を下附せり、六世嘉兵衛(徳翁)文世三年九月上野東叡山より御茶御用達を仰付かると同時に繪提灯を下附せり、天保二年山城宇治郡山本

村に茶園を購ひ製茶に従事せり同年御所御内儀へ對し御茶献上を許さる、其功に依り特に繪符提灯を賜る、同年嵯峨御所御茶御用達を拜命繪符提灯を下附せり、同三年斯業の爲め發起となり重關茶場碑を武藏國多摩郡元狹山村に建設す現時茶業の紀念碑として傳はるもの即ち之なり同六年製茶業視察の爲め山城江州地方を巡歴し得る處あり、歸途山城の國小倉村木下吉左衛門に至り自ら製茶に従事し苦心の結果、玉露を發明す、同七年國內大に僅の當主之を思ひ多くの金穀を散して之を救恤せり、同年金千圓を幕布に獻納す、同八月紀州家より御茶御用達を拜命し次で玉露を藩主に獻す、老公大に之を賞し饗宴を濱御殿に開き諸侯を招きて玉露茶の由來を披露し其賞として御庭燒青花瓶を賜はり併せて提灯を下附し非常及旅行佩刀を許さる、同年山城の國綴喜郡に弘化四年同郡大島村に茶園を求め栽培と製造と

に従事す、安政三年十月江戸大に震ひ死者算なし當主之を憐み金穀を散して大に救恤す、同五年江戸町奉行所より特に長崎系賦御用達を仰付られ、同年六月製茶凶作のため原價の騰貴を來し同業者の倒産するもの甚だ多し當主之を患ひ救恤の方法として量目の改定を主唱し幕府に請ふて之を許さる當時使用したる茶量は一斤二百匁にして之を唐量百六十匁に變更したるものなり上來簡略述したる如く山本家は我國茶業の元祖にして今日の如く茶業の發展を見るに到りしは全く山本家先祖の貢獻の賜なりと謂ふべく同家今日の盛業眞に想ふべきなり君は嘉永六年九月を以て生れ、明治元年六世山本嘉兵衛君の後を繼承し製茶販賣業に従事せり、同十年第一回内國勸業博覽會開催せらる、や濃茶玉露茶煎茶等を出し龍紋賞牌を受領す、同十四年第二回内國勸業博覽會に製茶各種出品し有功一等賞を受領す、同十

七年農商務省令に依り茶業組合の創設せらる、や日本橋區茶業組合長に推選せられ、大正三年之を辭す、同十七年茶業組合中央會議所顧問に囑託せられ、同十九年より宮内省製茶御用達被仰付、同十六年第二回製茶共進會に際し多年の功勞として農商務卿より特に功勞賞並に金十五圓を下賜せらる、同二十年東京府茶業組合聯合會議所常議員に舉げられ現任す、同二十一年茶業組合中央會議所議員に舉げらる、四十年東京勸業博覽會に出品し一等賞を受領す、四十二年東京勸業博覽會に出品し金牌を合創設せらる、や常議會及第三部長に選出せられ引繼ぎ重任を受く、同四年東京府組合聯合會議所主催製茶品評會審査員を囑託せらる、同四年東京府製茶品評會に於て金牌を受く、同四年全國製茶品評會に於て三等賞を受く、同四年明治神宮奉贊會評

議員仰付かる、同五年東京府主催製茶生産獎勵品評會審査員を囑託せらる、同六年東京府茶業組合聯合會議所主催府下製茶生産獎勵品評會審査員を囑託、同七年東京府主催府下製茶生産獎勵品評會審査員を囑託せらる、同八年四月日本赤十字社總裁宮殿下より有功章を賜る、同八年十一月紺綬褒章を下賜せらる、同八年十一月府下北多摩郡茶業組合主催製茶品評會審査員を囑託せらる、更に明治四十五年金一萬圓也を濟生會へ寄附せり、君は家業に相應しく茶の湯には極めて堪能なり、又漁釣に趣味深く更に圍碁、書畫骨董園藝等凡て嗜み多し、家族は令閨ヨシ子嗣子謙太郎君同妻藤江子あり(支店)東京市深川區東森下町二(出張所)東京市赤坂區青山南町六ノ一

君は廣島縣の人にして東京商業會議所副會頭山科禮藏君の弟分家なり、慶應二年十一月を以て生る、夙に東京法學院を卒業せり、辯護士にして尾道市會議

山元紋次郎君

鹿兒島縣多額納稅者

君は鹿兒島縣の人にして山元惣五郎君の長男なり、明治二年八月を以て生る、資産家にして同縣多額納稅者なり、家族は令閨ミネクリ子、長男總徳君、女マキ子、三男總平君、四男總明君、五男徳明君、二女マサ子、七男、總八郎君あり、六男惣智君は鹿兒島人大山權四郎君の養子となり、妹コト子は同縣人猪俣助五郎長男庸太郎君に、同トシ子は宮崎縣人兒玉淺右衛門長男靜佐君に嫁し、弟政徳君は子女を伴ひ分家せり

山科慎次郎君

辯護士 元來議院議員

君は廣島縣の人にして東京商業會議所副會頭山科禮藏君の弟分家なり、慶應二年十一月を以て生る、夙に東京法學院を卒業せり、辯護士にして尾道市會議